



UX200

取扱説明書



## 安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**

(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

## 走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方

(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

## 運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整

(主な項目：キー、ドア、シート、パワーウィンドウ)

## 運転

運転に必要な操作やアドバイス

(主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた)

## 室内装備・機能

室内装備の使い方など

(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

## お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

## 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

(主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

## 車両情報

車の仕様や好みに合わせて選べる機能の情報

(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

## さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

1

2

3

4

5

6

7

8

知つておいていただきたいこと .....	6
本書の見方 .....	9
検索のしかた .....	10
イラスト目次 .....	12

## 1 安全・安心のために

<b>1-1. 安全にお使いいただくために</b>	
運転する前に .....	24
安全なドライブのために .....	25
シートベルト .....	27
SRS エアバッグ .....	30
排気ガスに対する注意 .....	36
<b>1-2. お子さまの安全</b> .....	
お子さまを乗せるときは .....	38
チャイルドシート .....	39
<b>1-3. 盗難防止装置</b> .....	
エンジンイモビライザーシステム .....	53
オートアラーム .....	54

## 2 走行に関する情報表示

<b>2-1. 計器の見方</b> .....	
警告灯／表示灯 .....	60
計器類 (F SPORT 以外) .....	64
計器類 (F SPORT) .....	67
マルチインフォメーションディスプレイ .....	72
ヘッドアップディスプレイ .....	79
燃費画面 .....	84

## 3 運転する前に

<b>3-1. キー</b> .....	
キー .....	88
<b>3-2. デジタルキー</b> .....	
デジタルキー .....	92
<b>3-3. ドアの開閉、ロックのしかた</b> .....	
ドア .....	95

バックドア .....	100
スマートエントリー＆スタートシステム .....	113

## 3-4. シートの調整

フロントシート .....	118
リヤシート .....	119
パワーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 .....	121
ヘッドレスト .....	124

## 3-5. ハンドル位置・ミラー

ハンドル .....	127
インナーミラー .....	128
ドアミラー .....	129

## 3-6. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウィンドウ .....	131
ムーンルーフ .....	134

## 4 運転

### 4-1. 運転にあたって

運転にあたって .....	138
荷物を積むときの注意 .....	144

### 4-2. 運転のしかた

エンジン (イグニッション) スイッチ .....	146
オートマチックトランスマッision .....	150
方向指示レバー .....	154
パーキングブレーキ .....	155
ブレーキホールド .....	158
ASC (アクティブサウンドコントロール) .....	160

### 4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ .....	161
AHS (アダプティブハイビームシステム) .....	164
AHB (オートマチックハイビーム) .....	168
フォグランプスイッチ .....	170

5-1. レクサスクライメイトコンシェルジュ	278	5-2. エアコンの使い方	279
レクサスクライメイトコンシェルジュ	278	オートエアコン	279
室内灯一覧	289	ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター	286
4-4. 給油のしかた	178	5-3. 室内灯のつけ方	
給油口の開け方	178	室内灯一覧	289
4-5. 運転支援装置について	180	5-4. 収納装備	
Lexus Safety System +	180	収納装備一覧	292
PCS (プリクラッシュセーフティ)	185	ラゲージルーム内装備	295
LTA (レーントレーシングアシスト)	195	5-5. その他の室内装備の使い方	
RSA (ロードサインアシスト)	204	その他の室内装備	301
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)	207	6 お手入れのしかた	
先行車発進告知機能	219	6-1. お手入れのしかた	
ドライバー異常時対応システム	221	外装の手入れ	314
ITS Connect	226	内装の手入れ	318
Stop & Start システム	232	6-2. 簡単な点検・部品交換	
BSM (ブラインドスポットモニター)	239	ポンネット	321
PKSA (パーキングサポートアラート)	244	ガレージジャッキ	322
クリアランスソナー	245	ウォッシャー液の補充	323
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	253	タイヤについて	324
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	257	タイヤ空気圧について	332
パーキングサポートブレーキ (静止物)	262	エアコンフィルターの交換	333
パーキングサポートブレーキ (後方接近車両)	264	電子キーの電池交換	335
ドライブモードセレクトスイッチ	265	ヒューズの点検・交換	337
運転を補助する装置	267	電球 (バルブ) の交換	339
4-6. 運転のアドバイス		7 万一の場合には	
寒冷時の運転	273	7-1. まず初めに	
5 室内装備・機能		故障したときは	342
5-1. レクサスクライメイトコンシェルジュ		非常点滅灯 (ハザードランプ)	343
発炎筒		車両を緊急停止するには	344
水没・冠水したときは		7-2. 緊急時の対処法	
けん引について		フューエルポンプシャットオフシステム	347
フューエルポンプシャットオフシステム			351

警告灯がついたときは .....	<b>352</b>
警告メッセージが表示されたときは .....	<b>360</b>
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車） .....	<b>364</b>
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車） .....	<b>375</b>
パンクしたときは（ランフラットタイヤ装着車） .....	<b>381</b>
エンジンが始動できないときは .....	<b>382</b>
キーをなくしたときは .....	<b>384</b>
給油扉が開かないときは .....	<b>384</b>
電子キーが正常に働かないときは .....	<b>385</b>
バッテリーがあがつたときは .....	<b>387</b>
オーバーヒートしたときは .....	<b>391</b>
スタックしたときは .....	<b>393</b>

## 8 車両情報

### 8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） .....	<b>396</b>
------------------------------	------------

### 8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 .....	<b>400</b>
--------------------	------------

### 8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 .....	<b>412</b>
------------------	------------

## さくいん

こんなときは（症状別さくいん） .....	<b>414</b>
-----------------------	------------

車から音が鳴ったときは（音さくいん） .....	<b>416</b>
--------------------------	------------

アルファベット順さくいん .....	<b>419</b>
--------------------	------------

五十音順さくいん .....	<b>421</b>
----------------	------------

1

2

3

4

5

6

7

8

## 知っておいていただきたいこと

### 本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

### 不正改造について

- レクサスが国土交通省に届け出した部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Lexus Safety System + のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないで

ください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換  
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし  
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

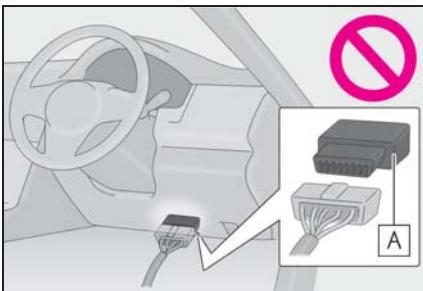
RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

### 故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター A などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがつたりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



## 車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、レクサス販売店にお問い合わせください。グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

### ● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することができます。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主

の同意）がある場合

- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

## G-Linkによるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

## イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

**注意：**EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

#### ● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
  - ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
  - ・ レクサスが訴訟で使用する場合
- ただし、レクサスは
- ・ データを車両安全性能の研究に使用することができます。
  - ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することができます。

## RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼ

す可能性があります。

- EFI コンピュータ
- Lexus Safety System +
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

## 保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

## QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

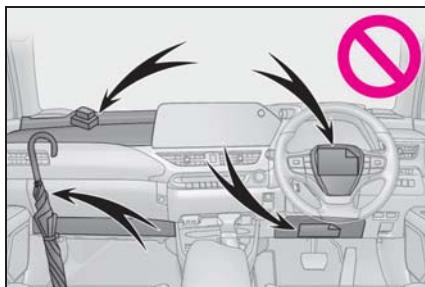
## 本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

## 本文の記号について

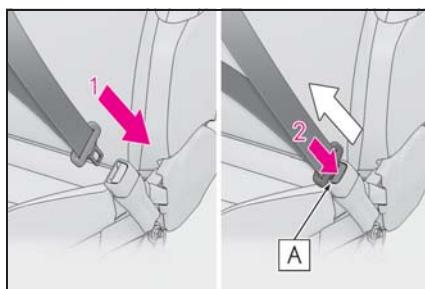
記号	意味
	警告： お守りいただかないと、 お客様自身と周囲の人々 が死亡、または重大な傷 害につながるおそれがあ ることを説明していま す。
	注意： お守りいただかないと、 車や装備品の故障や破損 につながるおそれがあ ることを説明していま す。
	操作・作業の手順を示 しています。番号の順に 従ってください。
	機能や操作方法の説明以 外で知つておいていただき たい、知つておいておくと 便利なことを説明し ています。

記号	意味
	押す、まわすなど、してい ただきたい操作を示してい ます。
	フタが開くなど、操作後の 作動を示しています。



記号	意味
	説明の対象となるもの・場 所を示しています。
	してはいけません、このよ うにしないでください、こ のようなことを起こさない でくださいという意味で す。

## イラスト上の記号について



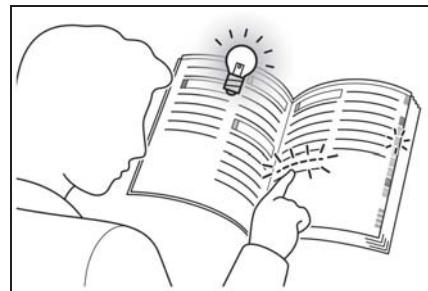
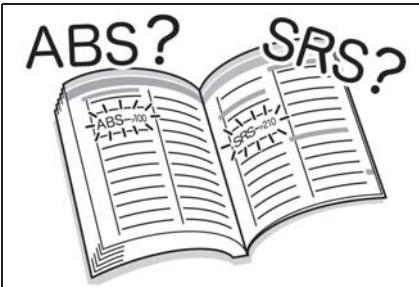
## 検索のしかた

### ■ タイトルから探す

- 目次 : →P.2

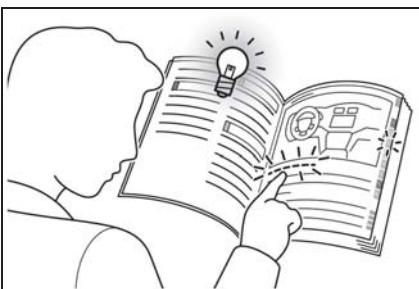
### ■ 名称から探す

- 五十音順さくいん : →P.421
- アルファベット順さくいん : →P.419



### ■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次 : →P.12



### ■ 症状や音から探す

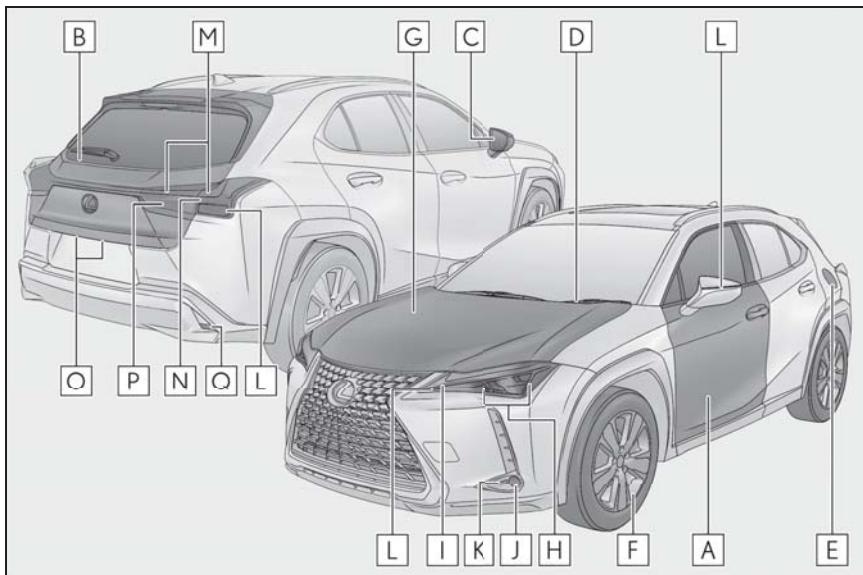
- こんなときは (症状別さくいん) : →P.414
- 車から音が鳴ったときは (音さくいん) : →P.416





# イラスト目次

## ■ 外観



ランプの形状は、グレードなどで異なります。

<b>A</b>	ドア.....	P.95
	施錠／解錠 .....	P.95, 98
	ドアガラスの開閉 .....	P.131
	メカニカルキーでの施錠／解錠 .....	P.385
	警告メッセージ .....	P.360
<b>B</b>	バックドア .....	P.100
	施錠／解錠 .....	P.101
	開け方／閉め方 .....	P.102
	パワーバックドア★ .....	P.103
	警告メッセージ .....	P.360
<b>C</b>	ドアミラー .....	P.129
	鏡面の角度調整 .....	P.129
	ミラーの格納 .....	P.130
	調整位置の登録★ .....	P.121

曇りを取る（ミラーヒーター） .....	P.280
<b>D ワイパー .....</b>	<b>P.172</b>
冬季の注意 .....	P.273
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ .....	P.283
洗車時の注意 .....	P.316
<b>E 給油口 .....</b>	<b>P.178</b>
給油方法 .....	P.178
燃料の種類・燃料タンク容量 .....	P.396
<b>F タイヤ .....</b>	<b>P.324</b>
サイズ・空気圧 .....	P.399
冬用タイヤ・タイヤチェーン .....	P.273
点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム .....	P.324
パンク時の対処 .....	P.364, 375, 381
<b>G ボンネット .....</b>	<b>P.321</b>
開け方 .....	P.321
エンジンオイル .....	P.396
オーバーヒート時の対処 .....	P.391
警告メッセージ .....	P.360

### 走行に関わる外装の電球（バルブ）

(交換要領：P.339, ワット数：P.399)

<b>H ヘッドライト .....</b>	<b>P.161</b>
<b>I 車幅灯・ディタイムランニングランプ .....</b>	<b>P.161</b>
<b>J フロントフォグランプ★ .....</b>	<b>P.170</b>
<b>K コーナリングランプ★ .....</b>	<b>P.163</b>
<b>L 方向指示灯 .....</b>	<b>P.154</b>
<b>M 尾灯 .....</b>	<b>P.161</b>
<b>N 制動灯</b>	
緊急ブレーキシグナル .....	P.268

**0** 番号灯 ..... P.161

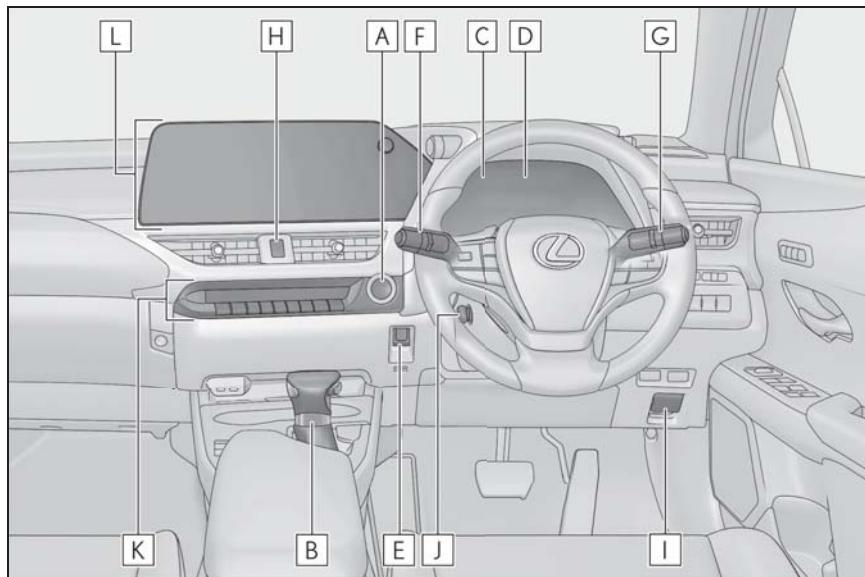
**P** リヤフォグランプ★ ..... P.170

**Q** 後退灯

シフトポジションを R にする ..... P.150

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ インストルメントパネル



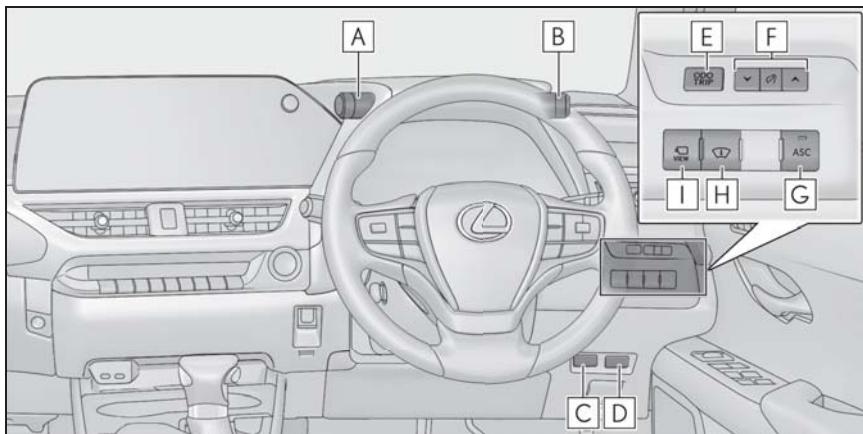
<b>A</b>	エンジンスイッチ .....	P.146
	エンジンの始動・モード切りかえ .....	P.146, 148
	エンジンの緊急停止 .....	P.344
	エンジンが始動できないときの対処 .....	P.382
	警告メッセージ .....	P.360
<b>B</b>	シフトレバー .....	P.150
	シフトポジションの切りかえ .....	P.151
	けん引時の注意 .....	P.347
	シフトレバーが動かないときの対処 .....	P.151
<b>C</b>	メーター .....	P.64, 67
	見方・明るさの調整 .....	P.64, 66, 67, 71
	警告灯／表示灯 .....	P.60
	警告灯点灯時の対処 .....	P.352
<b>D</b>	マルチインフォメーションディスプレイ .....	P.72
	表示内容 .....	P.72

警告メッセージ表示時の対処	P.360
<b>E</b> パーキングブレーキスイッチ	P.155
かける・解除する	P.155
冬季の注意	P.274
警告ブザー・警告メッセージ	P.352, 360
<b>F</b> ワイパー＆ウォッシャースイッチ（フロント）	P.172
ワイパー＆ウォッシャースイッチ（リヤ）	P.176
使い方	P.172, 176
ウォッシャー液の補充	P.323
ヘッドランプクリーナー★	P.172
警告メッセージ	P.360
<b>G</b> 方向指示レバー	P.154
ランプスイッチ	P.161
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・デイタイムランニングランプ	P.161
AHS（アダプティブハイビームシステム）★	P.164
AHB（オートマチックハイビーム）★	P.168
フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★	P.170
<b>H</b> 非常点滅灯スイッチ	P.343
<b>I</b> ボンネット解除レバー	P.321
<b>J</b> ハンドル位置調整スイッチ	P.127
調整方法	P.127
調整位置の登録★	P.121
<b>K</b> オートエアコン	P.279
操作方法	P.279
リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）..	P.280
<b>L</b> オーディオ※	
音楽を聞く※	

\* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

\* 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

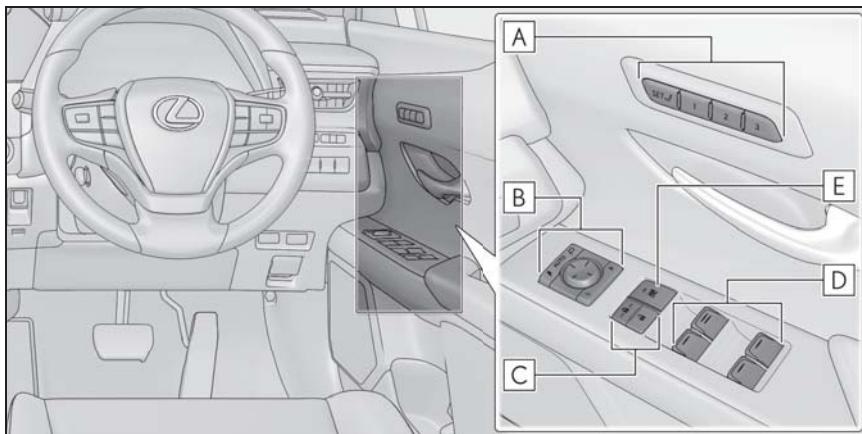
## ■スイッチ類



- |          |                                       |          |
|----------|---------------------------------------|----------|
| <b>A</b> | ドライブモードセレクトスイッチ .....                 | P.265    |
| <b>B</b> | VSC (ビークルスタビリティコントロール) OFF スイッチ ..... | P.269    |
| <b>C</b> | 給油口オープナースイッチ .....                    | P.179    |
| <b>D</b> | パワーバックドアスイッチ★ .....                   | P.103    |
| <b>E</b> | ODO TRIP スイッチ .....                   | P.66, 71 |
| <b>F</b> | インストルメントパネル照度調整スイッチ .....             | P.66, 71 |
| <b>G</b> | ASC スイッチ★ .....                       | P.160    |
| <b>H</b> | ヘッドアップディスプレイスイッチ★ .....               | P.79     |
| <b>I</b> | カメラスイッチ★※ .....                       |          |

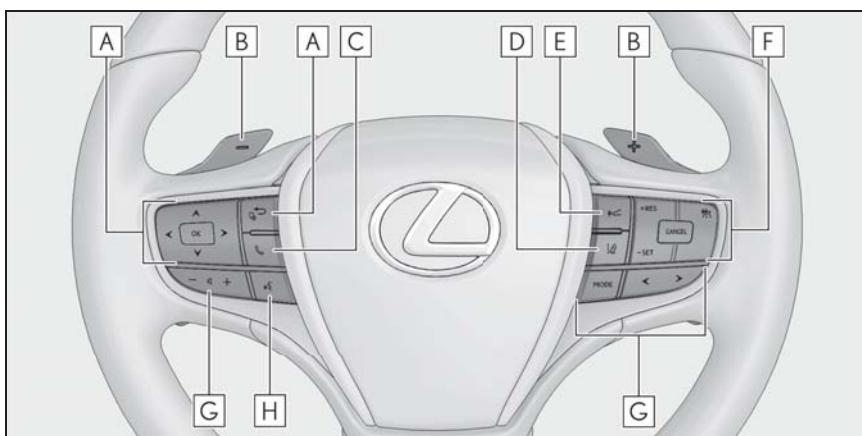
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



- A** ポジションメモリースイッチ★ ..... P.121
- B** ドアミラースイッチ ..... P.129
- C** ドアロックスイッチ ..... P.98
- D** パワーウィンドウスイッチ ..... P.131
- E** ウィンドウロックスイッチ ..... P.133

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

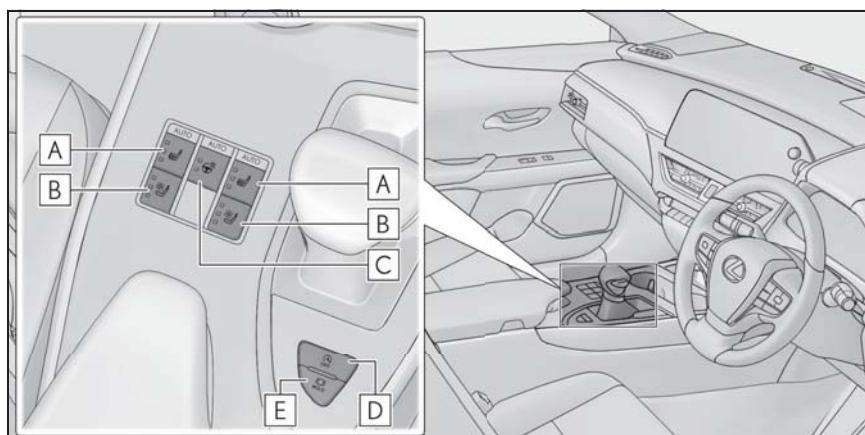


- A** メーター操作スイッチ ..... P.73
- B** パドルシフトスイッチ★ ..... P.152, 153

- C** 電話スイッチ \*
- D** LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ ..... P.195
- E** 車間距離切りかえスイッチ ..... P.212
- F** クルーズコントロールスイッチ  
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） ..... P.207
- G** オーディオスイッチ \*
- H** トーカススイッチ \*

\* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

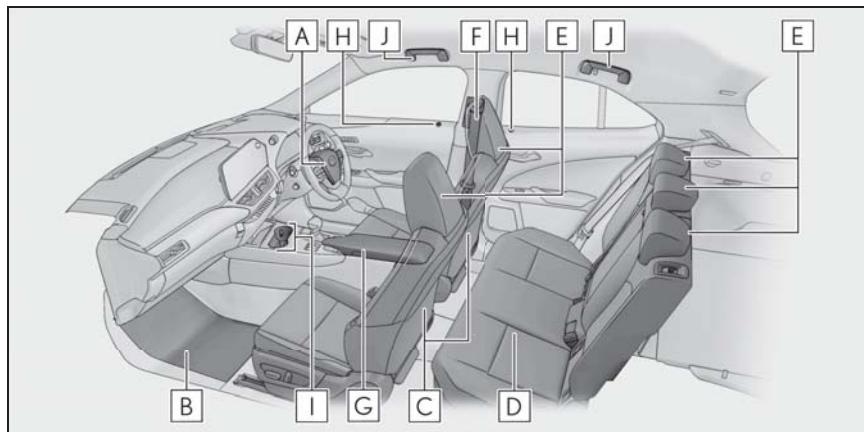
\* 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



- A** シートヒータースイッチ★ ..... P.287
- B** シートベンチレータースイッチ★ ..... P.287
- C** ステアリングヒータースイッチ★ ..... P.287
- D** Stop & Start キャンセルスイッチ ..... P.238
- E** ブレーキホールドスイッチ ..... P.158

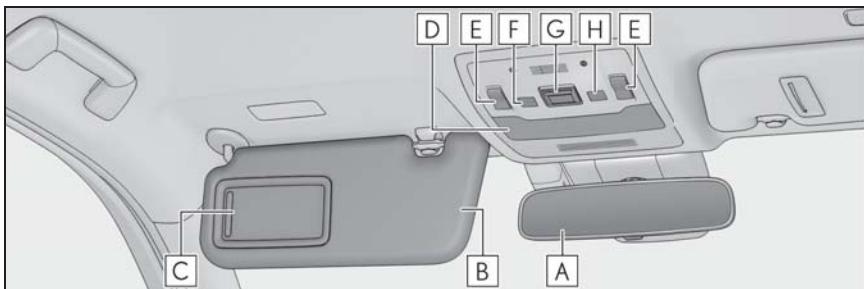
\* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ 室内



- A** SRS エアバッグ ..... P.30
- B** フロアマット ..... P.24
- C** フロントシート ..... P.118
- D** リヤシート ..... P.119
- E** ヘッドレスト ..... P.124
- F** シートベルト ..... P.27
- G** コンソールボックス ..... P.293
- H** ドアロックボタン ..... P.98
- I** カップホルダー ..... P.294
- J** アシストグリップ ..... P.310

## ■ 天井



- A** インナーミラー ..... P.128
- B** サンバイザー※1 ..... P.301
- C** バニティミラー ..... P.301
- D** インテリアランプ※2  
パーソナルランプ ..... P.290  
P.291
- E** ムーンルーフスイッチ★ ..... P.134
- F** 侵入センサー OFF スイッチ ..... P.56
- G** ヘルプネットスイッチパネル※3
- H** インテリアランプドア連動スイッチ ..... P.290

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.41)



※2 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※3 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

# 安全・安心のために

～必ずお読みください～

## 1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に .....	24
安全なドライブのために .....	25
シートベルト .....	27
SRS エアバッグ .....	30
排気ガスに対する注意 .....	36

## 1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは .....	38
チャイルドシート .....	39

## 1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム .....	53
オートアラーム .....	54

## 運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

### 点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

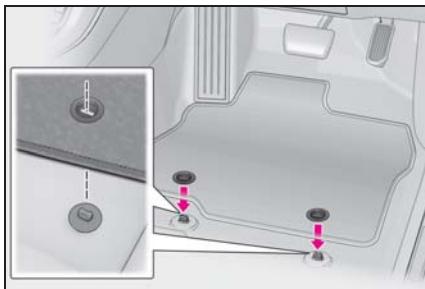
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

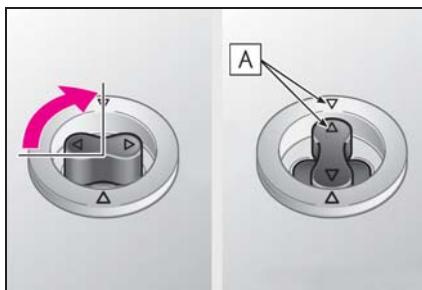
## フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



\* △マーク[A]を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

### ⚠ 警告

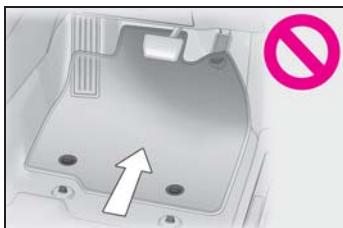
次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかない場合、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わずスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転席にフロアマットを敷くときは
- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

## ⚠ 警告

### ■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック(クリップ)で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

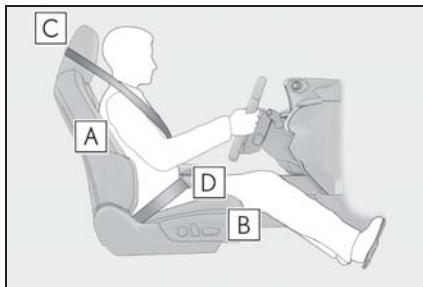


- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

## 安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

### 正しい運転姿勢をとるには



**A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する  
(→P.118)

**B** ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする  
(→P.118)

**C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする  
(→P.124)

**D** シートベルトを正しく着用する  
(→P.28)

## ⚠ 警告

- 次のことを必ずお守りください。
- お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中は運転席の調整をしないでください。  
運転を誤るおそれがあります。
  - 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。  
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドラレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
  - フロントシートの下にものを置かないでください。  
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
  - 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
  - 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
  - 飲酒運転は絶対にしないでください。  
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
  - 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。  
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

## シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。  
(→P.28)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。  
(→P.39)

## ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。  
(→P.128, 129)

## シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

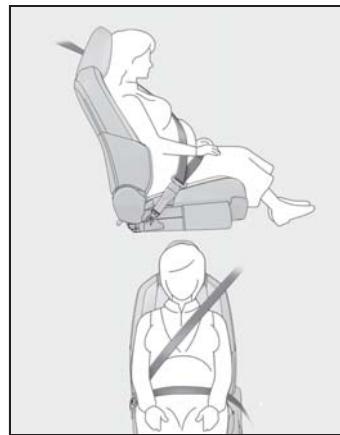
### ⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

#### ■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する  
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

#### ■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P.28）通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

#### ■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

#### ■ お子さまを乗せるとき

→P.49

#### ■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

## ⚠ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。  
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

## 正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける  
首にかかつたり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る



- ねじれがないようにする

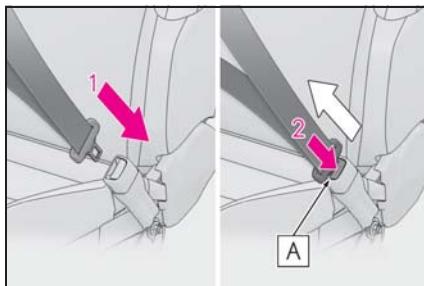
## □ 知識

### ■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持つた人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.39)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.27)

## 着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“力チッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

## □ 知識

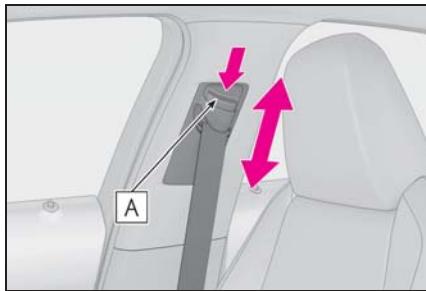
### ■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

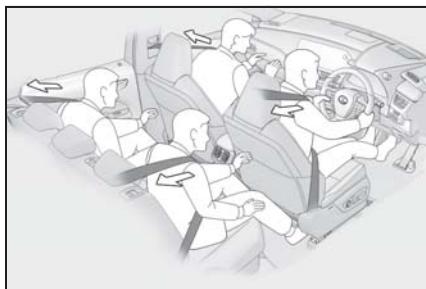
## シートベルトの高さ調節（フロント席）

解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを上下に動かして調節する

“カチッ”と音がして固定されるとここまで動かしてください。



## シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）



前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

### 知識

#### ■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度

しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

#### ■ 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

### 警告

#### ■ プリテンショナー付きシートベルトについて

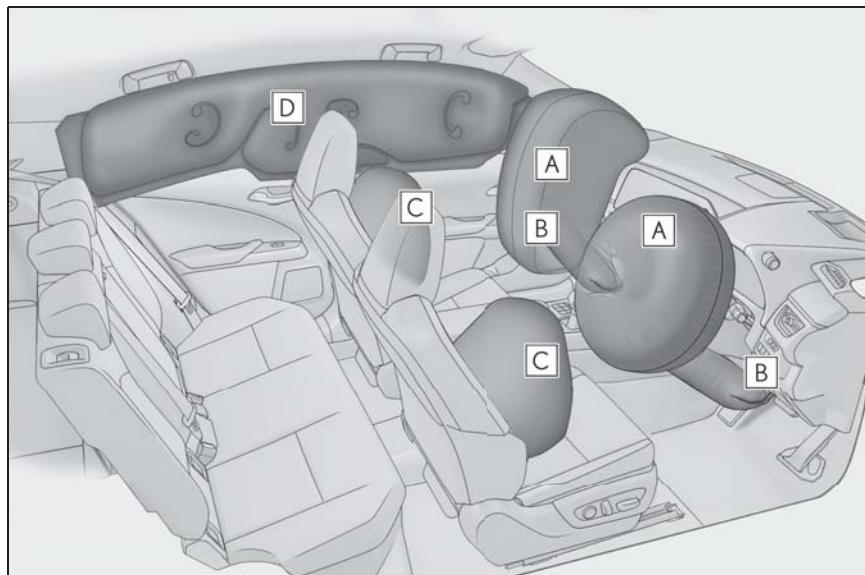
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたとき  
にふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和  
させます。

### SRS エアバッグシステム

#### ■ SRS エアバッグの配置



#### ▶ フロント SRS エアバッグ

- 【A】運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）
- 【B】SRS ニーエアバッグ（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）
- ▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ
- 【C】SRS フロントサイドエアバッグ（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）
- 【D】SRS カーテンシールドエアバッグ（フロント席とりや外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

## 知識

### ■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
  - 作動音と共に白いガスが発生します。
  - フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
  - フロントウインドウガラスが破損することがあります。
  - すべてのドアが解錠されます。  
(→P.96)
  - 自動的にブレーキと制動灯を制御します。  
(→P.267)
  - 室内灯が自動で点灯します。  
(→P.290)
  - 非常点滅灯が自動で点滅します。  
(→P.343)
  - 燃料供給を停止します。  
(→P.351)
  - G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。  
詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
  - ・ SRS エアバッグが作動した
  - ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
  - ・ 後方から強い衝撃を受けた
- SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）
- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強

さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ~ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

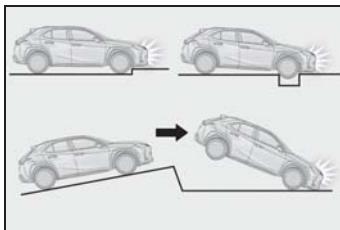
### ■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ~ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 特に衝撃が大きい場合は、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

### ■ 衝突以外で作動するとき

- 次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
  - 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

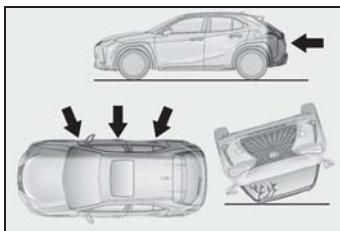
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



#### ■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

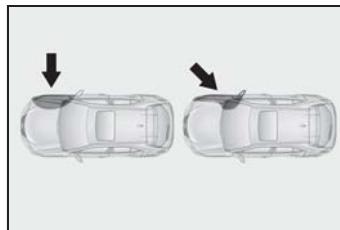
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



#### ■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

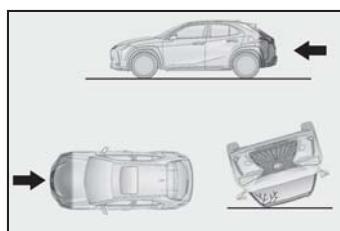
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



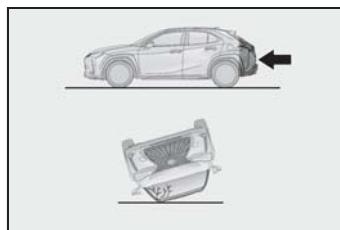
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 後方からの衝突
- 横転

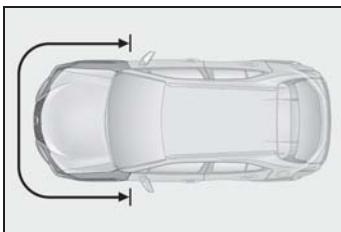


#### ■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

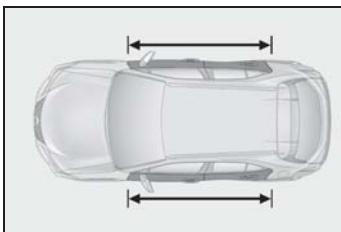
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

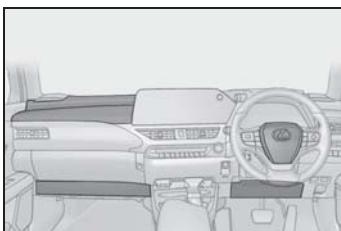
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかつたが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



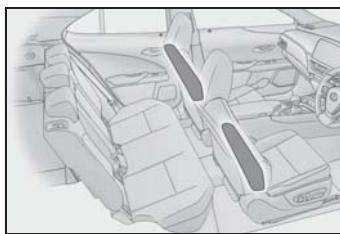
- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかつたが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



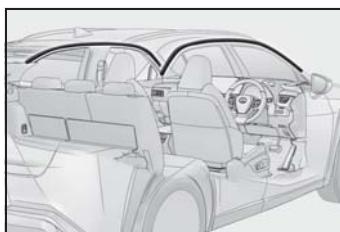
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



## ⚠ 警告

### ■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、重大な傷害によぶか、最悪の場合死ににつながるおそれがあります。

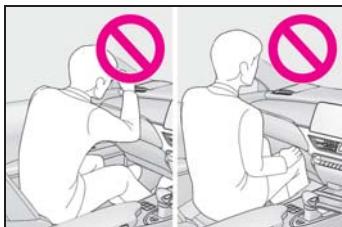
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。  
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害によぶか、最悪の場合死ににつながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートができるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

### ⚠ 警告

- お子さまがシートにしっかりと座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかりと固定してください。

お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用することをおすすめします。  
(→P.39)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

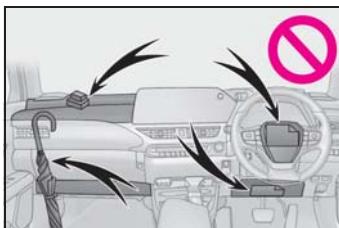
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



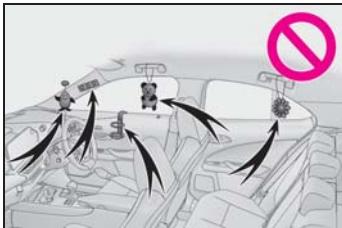
- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



## ⚠ 警告

- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

(速度制限ラベルを除く →P.365)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

### ■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。  
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け

**⚠ 警告**

- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

**排気ガスに対する注意**

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

**⚠ 警告**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素(CO)が含まれているため、次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかない場合、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■走行中の留意事項**

バックドアを閉じてください。  
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

**■駐車するとき**

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。  
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入つてこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。



## 警告

### ■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

## お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.39）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗ることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.99）・ウインドウロックスイッチ（→P.133）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まるおそれがある装備類を操作させないでください。



### ■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P.39 を参照してください。

## チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
- 取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。  
レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。  
レクサス販売店で購入することができます。

## 目次

知っておいていただきたいこと :  
P.39

チャイルドシートを使用するときは : P.40

シート位置別チャイルドシートの適合性について : P.43

チャイルドシートの取り付け方法 :  
P.47

- ・ シートベルトで固定する : P.48

- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する : P.50
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する : P.51

## 知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。



### 警告

#### ■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

## ⚠️ 警告

- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- チャイルドシートについて**

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

  - 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
  - チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。（→P.43）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
  - チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

## チャイルドシートを使用すると きは

### ■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

### ● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

### ● パワーシート装着車：クツション前端をいちばん下に下げる

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



## ⚠️ 警告

### ■ チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、重大な傷害によ  
よぶか、最悪の場合死亡につながる  
おそれがあります。

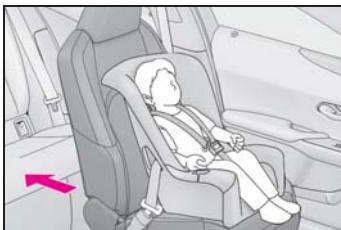
- やむを得ず 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けな  
いでください。  
うしろ向きに取り付けていると、事  
故などで助手席 SRS エアバッグがふ  
くらんだとき、重大な傷害によ  
よぶか、最悪の場合死亡につながるお  
それがあります。  
助手席側のサンバイザーに、同内容  
のラベルが貼られています。併せて  
参照してください。

**⚠ 警告**



**⚠ 警告**

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げる取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



● チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

## ⚠️ 警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

## シート位置別チャイルドシートの適合性について

### ■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.44）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.46）次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

### ■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

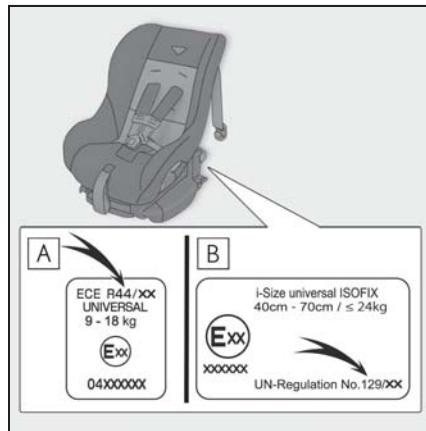
#### 1 チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44<sup>\*1</sup> または、UN

(ECE) R129<sup>\*1</sup> に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

#### A UN (ECE) R44 認可マーク<sup>\*2</sup>

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

#### B UN (ECE) R129 認可マーク<sup>\*2</sup>

対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

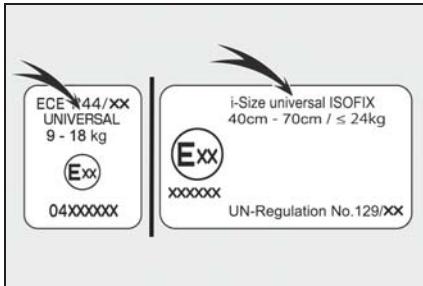
#### 2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認

頂くか、または販売業者へ確認してください。

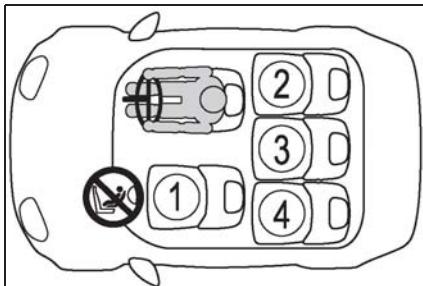
- ユニバーサル「universal (汎用)」
- セミユニバーサル「semi-universal (準汎用)」
- リストリクティッド「restricted (限定)」
- ビークルスペシフィック「vehicle specific (特定車両)」



※<sup>1</sup>UN (ECE) R44、UN (ECE) R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※<sup>2</sup>表示されているマークは、商品により異なります。

### ■ シート位置別チャイルドシートの適合性



①	※1, 2, 3	U	※4
		L	
②	※3	U	
		L	
③	※3	U	
		L	
④	※3	U	
		L	
		Child seat icon	
		Child seat icon	



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.46）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。



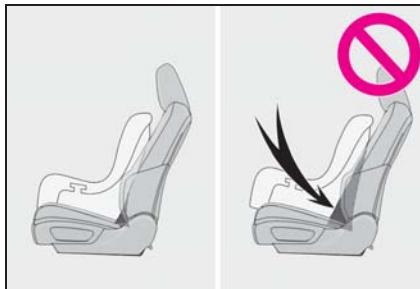
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

\*1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

\*2背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシート

との間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



\*3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

\*4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

## ■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有/無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有/無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具 (F2X/F2/F3)	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具 (B2/B3)	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。

「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にはない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

### ■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置			
		①	②	③	④
0、0+ (13kgまで)	レクサス純正 NEO G-Child baby	×	○	○	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○

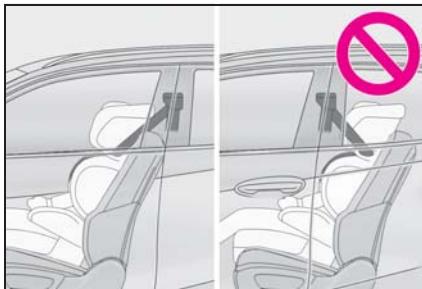
質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置			
		①	②	③	④
I (9 ~ 18kg)	レクサス純正 NEO G-Child baby	○ 前向 き のみ	○	○ 後ろ 向き のみ	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
II、III (15 ~ 36kg)	レクサス純正ジュニアシート	○	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが

背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

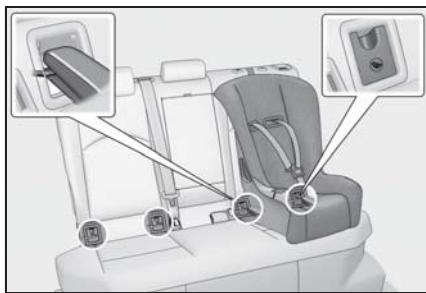
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

## チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法	ページ	
シートベルトで固定する		P.48
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.50
テザーベルトを固定する		P.51

## チャイルドシートをシートベルトで固定する

### ■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にはない）場合は、チャイルドシートメーカーが

提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。  
（→P.43, 44）

#### 1 助手席：

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.40）

#### 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正

しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.124）

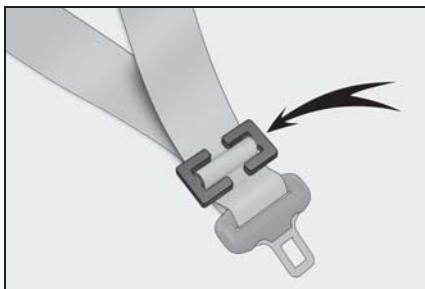
- 3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバッклルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする**

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する**

ロックングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロックングクリップ品番：73119-22010）



- 5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固**

定されていることを確認してください。（→P.49）

### ■ チャイルドシートの取りはずし

バッブルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バッブル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバッブルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。



### 警告

#### ■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一本体が首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。  
誤ってそのような状態になってしまい、バッブルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

- シートベルトのプレートとバッブルがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていなか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

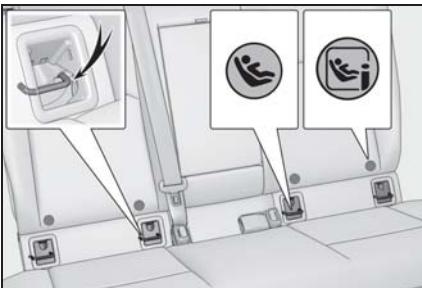
### ⚠️ 警告

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

## チャイルドシートを ISOFIX 口アアンカレッジで固定する

### ■ ISOFIX 口アアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX 口アアンカレッジが装備されています。(口アアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています)



### ■ ISOFIX 口アアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

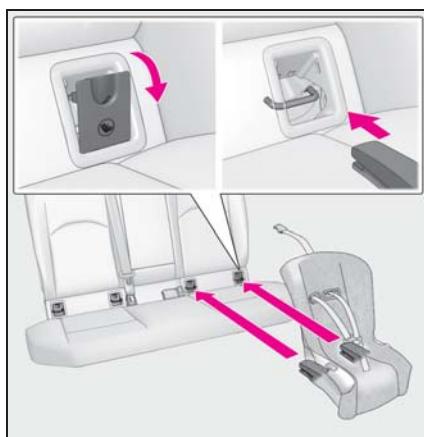
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にはない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参

照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。  
(→P.43, 44)

- 1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.124)
- 2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）を口アアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→P.49)

## ⚠ 警告

- チャイルドシートを取り付けるとき
 

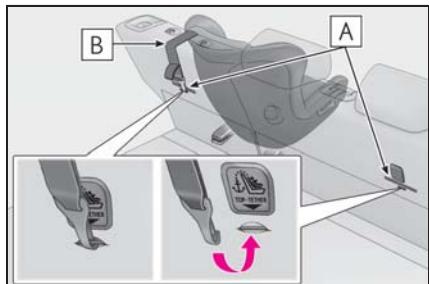
次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

  - チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
  - ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないなどを確認してください。
  - 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

## トップテザーアンカレッジを使用する

### ■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。テザーベルトを固定するときに使います。

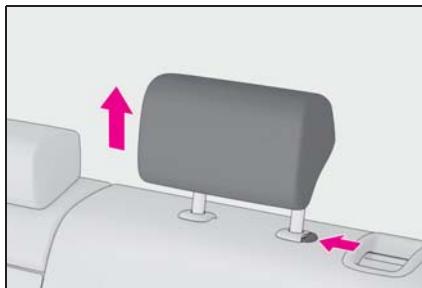


**A** トップテザーアンカレッジ  
**B** テザーベルト

### ■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

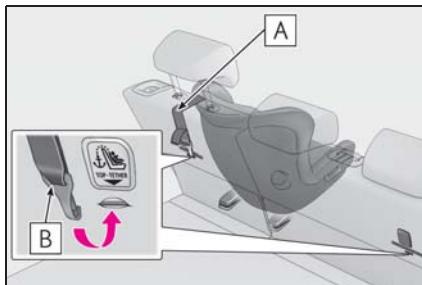
- 1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.124)



- 2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかりと固定されていることを確認します。(→P.49)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



**A** テザーベルト

**B** フック



### 警告

#### ■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、重大な傷害に  
およぶか、最悪の場合死亡につながる  
おそれがあります。

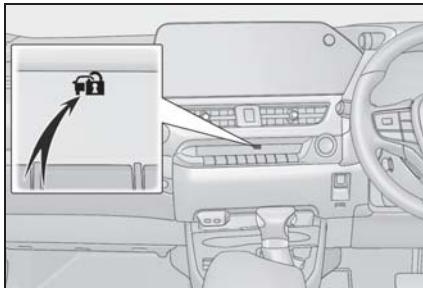
- テザーベルトがしっかりと固定されて、  
ベルトがねじれていなかないか確認して  
ください。
- テザーベルトはトップテザーアンカ  
レッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、  
シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱  
説明書をよくお読みの上、確実に取  
り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイ  
ルドシートを取り付けるときは、  
ヘッドレストを引き上げてトップテ  
ザーアンカーに固定したあとに、  
ヘッドレストを下げないでください。

## エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

### システムを作動させるには



エンジンスイッチを OFF になると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON になるとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

#### □ 知識

##### ■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

##### ■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆わ

れているとき

- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

#### ⚠ 注意

##### ■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

## オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メール、スマートフォンアプリへお知らせすることができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

### オートアラームを設定／解除／停止する

#### ■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

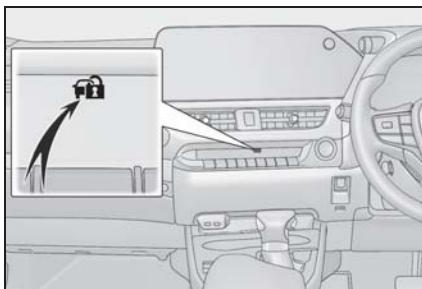
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ■ オートアラームを設定するには

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。



#### ■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- エンジンスイッチを ACC または ON にするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

#### 知識

#### ■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

#### ■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うつかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れなどを、E メールやスマートフォ

ンアプリへお知らせすることができます。

うつかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエンタリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うつかり通知機能が正しく働かないことがあります。

- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

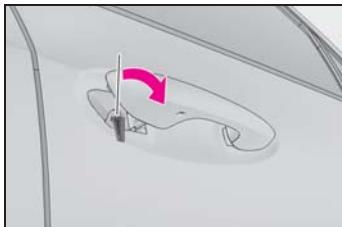
詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

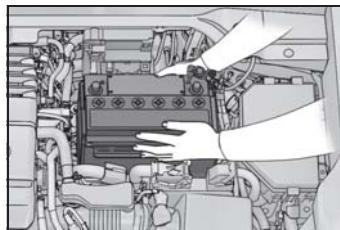
- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、バッテリーをはずしたとき  
(→P.389)



### ■ オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- バッテリーあがりなどで充電・交換したとき



注意

### ■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないことがあります。

### 侵入センサー

#### ■ 侵入センサーの検知について

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

### ■ 侵入センサーを設定するには

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。→P.54)

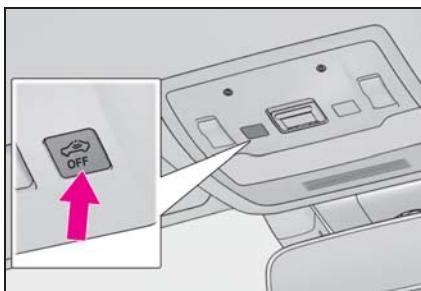
### ■ 侵入センサーを停止するには

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 侵入センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを OFF / ON にするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



#### □ 知識

### ■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、

侵入センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。

### ■ 侵入センサーについて

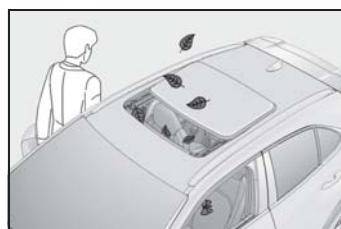
次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



● ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。

- ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
- ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
- ・ 室外の歩行者の動き

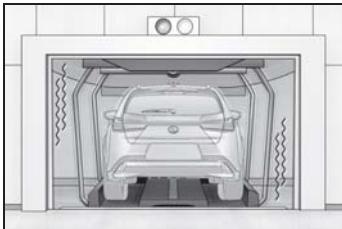


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- マスクットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にあるとき



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

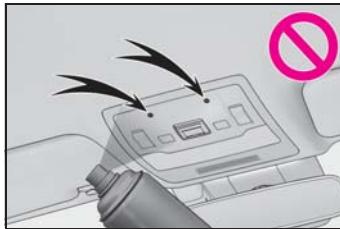


- 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

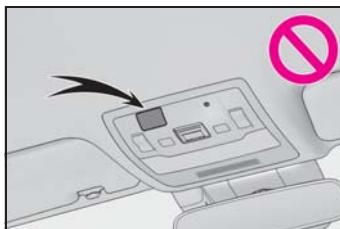
注意

- 侵入センサーを正しく作動させるために

- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。



- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

- 電子キーが車両の近くにある場合、侵入センサーの作動を停止することがあります。



## 走行に関する情報表示

## 2

## 2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯 .....	60
計器類 (F SPORT 以外) .....	64
計器類 (F SPORT) .....	67
マルチインフォメーションディスプレイ .....	72
ヘッドアップディスプレイ .....	79
燃費画面 .....	84

## 警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

### メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

- ▶ F SPORT 以外



- ▶ F SPORT



メーターの表示状態によって、一部の警告灯／表示灯の位置が異なります。

## 警告灯一覧

システム異常などを警告します。

	ブレーキ警告灯※1 (→P.352)		クリアランスソナー OFF 表示 灯※1 (→P.355)
	充電警告灯※2 (→P.352)		RCTA OFF 表示灯★※1 (→P.355)
	油圧警告灯※2 (→P.352)		PKSB OFF 表示灯※1 (→P.356)
	エンジン警告灯※1 (→P.353)		燃料残量警告灯 (→P.356)
	高水温警告灯※2 (→P.353)		運転席・助手席シートベルト 非着用警告灯 (→P.356)
	タイヤ空気圧警告灯※1 (→P.353)		リヤ席シートベルト非着用警 告灯※2 (→P.356)
	ブレーキ警告灯※1 (→P.353)		ペダル誤操作警告灯※2 (→P.357, 185)
	SRS エアバッグ／プリテン ショナー警告灯※1 (→P.354)		LTA 表示灯※2 (→P.357) (橙色)
	ABS & ブレーキアシスト警告 灯※1 (→P.354)		PCS 警告灯※1 (→P.357) (点滅または 点灯)
	パワーステアリング警告灯※1 (→P.354)	★ : グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。	
	パワーステアリング警告灯※1 (→P.354)	※1 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後または工 エンジンをかけると消灯します。点灯し ない場合や点灯したままのときはシ ステム異常のおそれがあります。 レクサス販売店で点検を受けてください。	
	Stop & Start キャンセル表示 灯※1 (→P.354)	※2 マルチインフォメーションディスプレーに表示されます。	
	スリップ表示灯※1 (→P.354)		
	パーキングブレーキ表示灯 (→P.355)		
	ブレーキホールド作動表示灯 ※1 (→P.355)		

## ■ 警告

### ■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

## 表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.154)



尾灯表示灯 (→P.161)



ハイビーム表示灯 (→P.163)



AHS 表示灯★※1 (→P.164)



オートマチックハイビーム表示灯★※1 (→P.168)



フロントフォグランプ表示灯★ (→P.170)



リヤフォグランプ表示灯★ (→P.170)



PCS 警告灯※1, 2 (→P.185)



クルーズコントロール表示灯※3 (→P.207)



レーダークルーズコントロール表示灯※3 (→P.207)



クルーズコントロールセット表示灯※3 (→P.207)



LTA 表示灯※3, 4 (→P.200)

(白色)



LTA 表示灯※3, 4 (→P.200, 185)  
(緑色)



LTA 表示灯※3, 4 (→P.200)  
(橙色点滅)



BSM ドアミラーインジケーター★※1, 5 (→P.240)



BSM 表示灯★ (→P.240)



クリアランスソナーオフ表示灯※1, 2 (→P.246)



RCTA OFF 表示灯★※1, 2 (→P.253)



PKSB OFF 表示灯※1, 2 (→P.258)



Stop & Start 表示灯※1 (→P.232)



Stop & Start キャンセル表示灯※1, 2 (→P.238)



スリップ表示灯※1 (→P.268)  
(点滅)



VSC OFF 表示灯※1, 2 (→P.269)



スマートエントリー＆スタートシステム表示灯※3 (→P.146)



パーキングブレーキ表示灯 (→P.155)



ブレーキホールドスタンバイ表示灯※1 (→P.158)



ブレーキホールド作動表示灯※1 (→P.158)



エコドライブインジケーターランプ※1, 6 (→P.75)



低温表示灯※3, 7 (→P.64, 67)



セキュリティ表示灯※8 (→P.53, 54)

	ITS Connect アイコン★※3 （→P.227）
	ITS Connect アイコン★※3 （→P.227）
	ITS Connect アイコン★※3 （→P.227）

- 走行モード表示
- ▶ F SPORT 以外

	エコドライブモード表示灯 （→P.265）
	スポーツモード表示灯 （→P.265）

- ▶ F SPORT

	カスタムモード表示灯 （→P.265）
	エコドライブモード表示灯 （→P.265）
	スポーツ S モード表示灯 （→P.265）
	スポーツ S+ モード表示灯 （→P.265）

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※<sup>1</sup> 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。  
レクサス販売店で点検を受けてください。

※<sup>2</sup> システムが OFF のときに点灯します。

※<sup>3</sup> マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※<sup>4</sup> システムの作動状態により、表示色と

点灯・点滅の状態が変化します。

※<sup>5</sup> ドアミラーに表示されます。

※<sup>6</sup> F スポーツ以外：マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

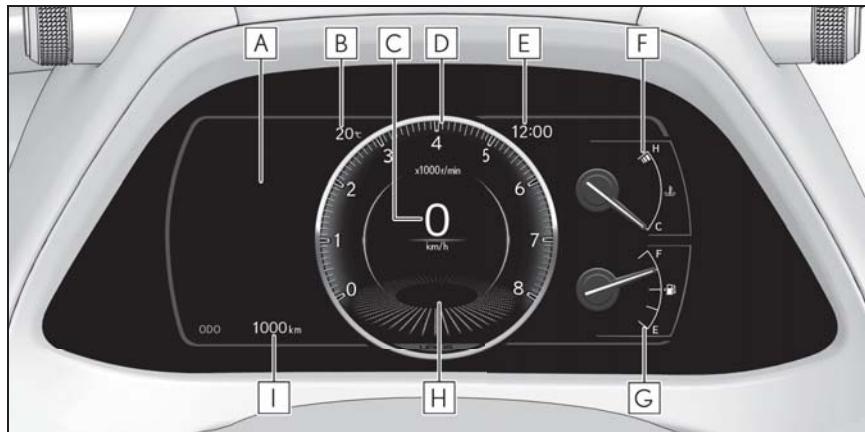
※<sup>7</sup> 外気温が約 3° C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※<sup>8</sup> センターパネルに表示されます。

## 計器類 (F SPORT 以外)

### メーターの表示について

#### ■ 計器類の位置



#### A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。( $\rightarrow$ P.72)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。( $\rightarrow$ P.360)

#### B 外気温

外気温度を  $-40^{\circ}\text{C}$  ~  $50^{\circ}\text{C}$  のあいだで表示します。外気温が約  $3^{\circ}\text{C}$  以下のときは、低温表示灯が点灯します。

#### C スピードメーター

車両の走行速度を示します。

#### D タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛部分が強調表示されます。

#### E 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

#### F 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

#### G 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。実際の燃料残量が正しく表示されない場合は、P.65 を参照してください。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ “F” 付近で給油を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

## **[H] シフトポジション・変速段表示（→P.150）**

## **[I] オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.66）**



知識

### ■ 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 ODO TRIP スイッチ（→P.66）を押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジンスイッチを OFF にする
- 4 ODO TRIP スイッチを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
- 5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

### ■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかつたり、温度表示の更新が遅くなったりすることがあります。故障ではありません。
  - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
  - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
  - “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください

い。

### ■ GPS による時計の自動調整について

システムに異常があるときは、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面に、時計の時刻調整画面が表示されることがあります。この場合、レクサス販売店で点検を受けてください。

### ■ 液晶ディスプレイについて

→P.73

### ■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの で、計器類の表示を変更できます。（→P.401）



警告

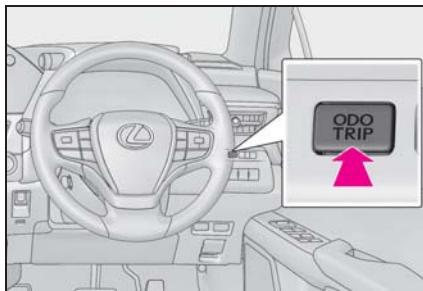
### ■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかつたと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**⚠ 注意**

- エンジンや構成部品への損傷を防ぐために
  - タコメーターの表示がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
  - 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.391）



### オドメーター／トリップメーターを切りかえるには

#### ■ 表示項目

##### ● オドメーター

走行した総距離を表示します。

##### ● トリップメーターA／トリップメーターB

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップA・トリップBの2種類で使い分けることができます。

##### ● アイドリングストップ時間

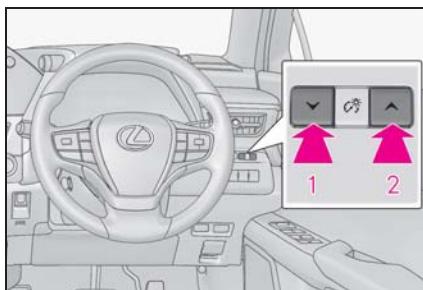
エンジン始動からのアイドリングストップ時間の合計を表示します。

#### ■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかれます。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を0にすることができます。

### インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 暗くする

2 明るくする

**□ 知識**

#### ■ インストルメントパネルの照度調整について

周囲が明るいとき（昼間など）と暗いとき（夜間など）それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

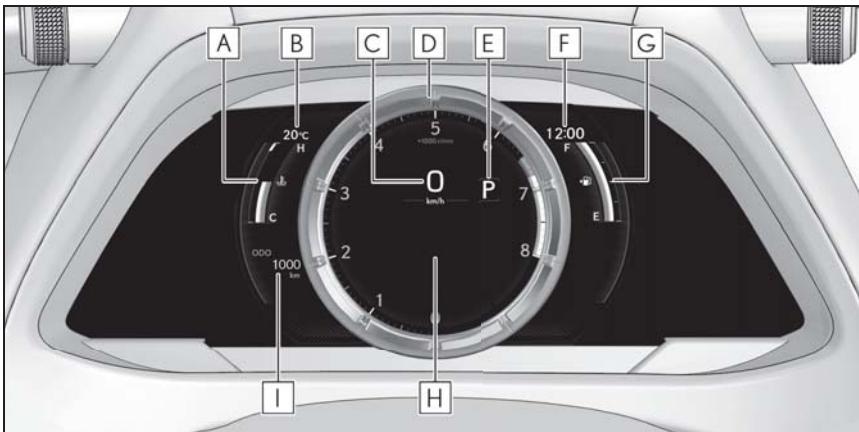
## 計器類 (F SPORT)

### メーターの表示について

#### ■ 計器類の位置

メーターリングの位置に応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。 (→P.71)

#### ▶ メーターリングが中央にあるとき



#### ■ A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

#### ■ B 外気温

外気温度を  $-40^{\circ}\text{C}$  ~  $50^{\circ}\text{C}$  のあいだで表示します。外気温が約  $3^{\circ}\text{C}$  以下のときは、低温表示灯が点灯します。

#### ■ C スピードメーター

車両の走行速度を示します。

#### ■ D タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛部分が強調表示されます。

- ・ REV インジケーター
- ・ REV ピーク

#### ■ E シフトポジション・変速段表示 (→P.150)

#### ■ F 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

### G 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。実際の燃料残量が正しく表示されない場合は、P.70 を参照してください。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ “F” 付近で給油を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

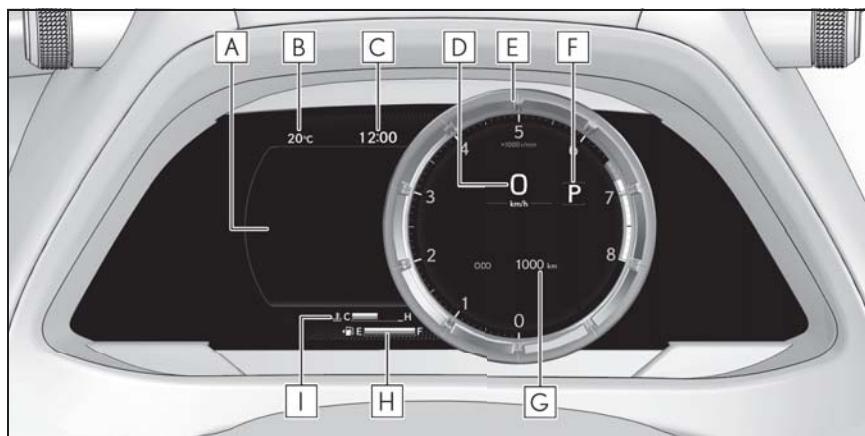
### H マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.72）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.360）

### I オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.71）

- ▶ メーター-ring が右側にあるとき



### A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.72）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.360）

### B 外気温

外気温度を  $-40^{\circ}\text{C}$  ~  $50^{\circ}\text{C}$  のあいだで表示します。外気温が約  $3^{\circ}\text{C}$  以下のときは、低温表示灯が点灯します。

### C 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

### D スピードメーター

車両の走行速度を示します。

### E タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛部分が強調表示されます。

- ・ REV インジケーター
- ・ REV ピーク

### F シフトポジション・変速段表示 (→P.150)

### G オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.71)

### H 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。実際の燃料残量が正しく表示されない場合は、P.70 を参照してください。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ “F” 付近で給油を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

### I 水温計

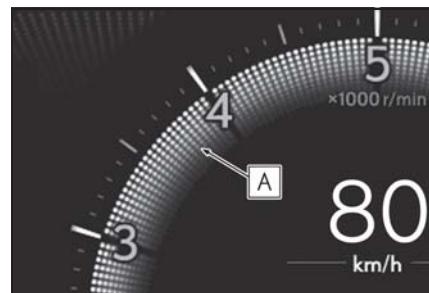
エンジン冷却水の温度を示します。

### ■ REV インジケーター

設定したエンジン回転数またはレッドゾーンに到達すると、タコメーター内にリング状のインジケーター (A) を表示します。

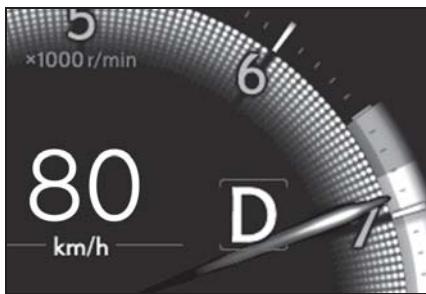
設定したエンジン回転数に到達したときはオレンジ色、レッドゾーンに到達したときは赤色で表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイの  から、表示開始するエンジン回転数を設定できます。 (→P.77)



### ■ REV ピーク

5000 r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を約 1 秒間表示します。



## □ 知識

### ■ 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 ODO TRIP スイッチ (→P.66) を押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジンスイッチを OFF にする
- 4 ODO TRIP スイッチを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
- 5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

### ■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかつたり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
  - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
  - “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください

い。

### ■ GPS による時計の自動調整について

システムに異常があるときは、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面に、時計の時刻調整画面が表示されることがあります。この場合、レクサス販売店で点検を受けてください。

### ■ 液晶ディスプレイについて

→P.73

### ■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの で、計器類の表示を変更できます。（→P.401）

## ⚠ 警告

### ■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## ⚠ 注意

### ■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの表示がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

### 注意

- 水温計のバー表示が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。→P.391)

## オドメーター／トリップメーターを切りかえるには

### ■ 表示項目

#### ● オドメーター

走行した総距離を表示します。

#### ● トリップメーター A／トリップメーター B

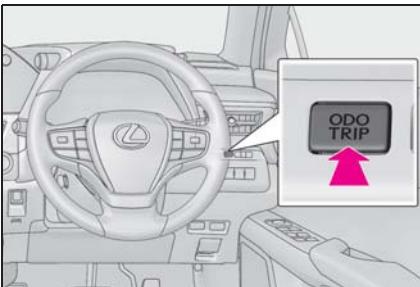
リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

#### ● アイドリングストップ時間

エンジン始動からのアイドリングストップ時間の合計を表示します。

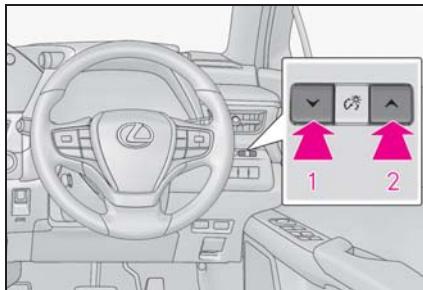
### ■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかれります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



## インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 暗くする

2 明るくする

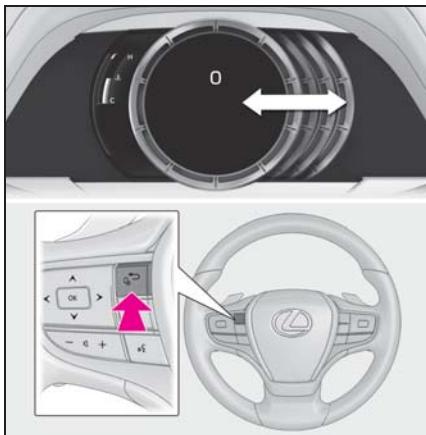
### 知識

### ■ インストルメントパネルの照度調整について

周囲が明るいとき（昼間など）と暗いとき（夜間など）それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

## メーターの表示・配置を切りかえるには

ボタンを押すごとにメーターリングが移動して表示が切りかれます。



## マルチインフォメーションディスプレイ

### ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

#### ■ ディスプレイの表示 (F SPORT以外)

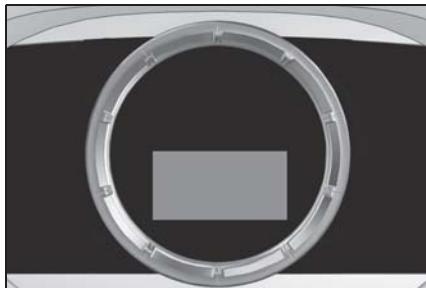
メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。



#### ■ ディスプレイの表示 (F SPORT)

► メーターリングが中央にあるとき走行に関するさまざまな情報を表示します。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。



- ▶ メーターリングが右側にあるとき  
メニューアイコンを選択し、走行に  
関するさまざまな情報を表示したり、  
車両設定を変更することができます。  
また、状況に応じて注意喚起やアド  
バイスなどを割り込み表示します。



#### ■ メニューアイコン

メーター操作スイッチ (→P.73) の

◀ または ▶ を押すとメニューアイ  
コンが表示されます。

F SPORT：メーターリングが右側にある  
ときのみ表示されます。



ドライブインフォメーショ  
ン (→P.74)



ナビゲーションシステム連  
携表示 (→P.76)



オーディオシステム連携表  
示 (→P.76)



運転支援機能情報 (→P.76)



警告メッセージ (→P.360)



設定 (→P.77)

#### □ 知識

#### ■ オープニング画面の表示について

エンジンスイッチを ACC または ON にし  
たとき、マルチインフォメーションディ  
スプレイにオープニング画面が表示され  
ます。

オープニング画面表示中は、ドライブ  
モード (→P.265) を切りかえてもメー  
ター画面の表示は切りかわりません。

オープニング表示が終了すると、そのと  
き選択されているドライブモードのメー  
ター画面が表示されます。

#### ■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示  
されることがあります。これは液晶ディ  
スプレイ特有の現象でそのまま使用して  
も問題ありません。

#### ▲ 警告

#### ■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプ  
レイを操作する時は、周囲の安全に  
十分注意してください。

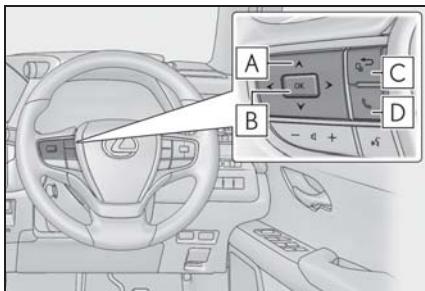
- マルチインフォメーションディスプ  
レイを見続けないでください。前方  
の歩行者、障害物などを見落とすお  
それがあり危険です。

#### ■ 低温時の画面表示について

→P.65, 70

#### 表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次  
のように操作します。



**A** < / > : メニューの切りかえ  
▲ / ▼ : 表示項目の切りかえ・  
ページ送り・カーソル移動

**B** 短押し : 決定  
長押し : リセット  
**C** メーターリング移動※・ひとつ前の画面にもどる  
**D** 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。  
ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

※ F SPORT

## ドライブインフォメーションについて

### ■ 表示項目 (F SPORT 以外)

メーター操作スイッチの < または  
▶ を押して ⓘ を選択し、▲ または  
▼ を押すことで次の項目を表示することができます。

- ドライブインフォメーション 1
- ドライブインフォメーション 2
- エコドライブインジケーター
- タイヤ空気圧

### ● 表示 OFF

### ■ 表示項目 (F SPORT)

► メーターリングが中央にあるとき  
メーター操作スイッチの ▲ または  
▼ を押すことで次の項目を表示することができます。

### ● ドライブインフォメーション 1

### ● ドライブインフォメーション 2

### ● タイヤ空気圧

### ● 表示 OFF

► メーターリングが右側にあるとき  
メーター操作スイッチの < または  
▶ を押して ⓘ を選択し、▲ または  
▼ を押すことで次の項目を表示することができます。

### ● ドライブインフォメーション 1

### ● ドライブインフォメーション 2

### ● エコドライブインジケーター

### ● G モニター

### ● タイヤ空気圧

### ● 表示 OFF

### ■ ドライブインフォメーション 1 / 2

次の項目から 1 画面につき 2 項目ずつ表示します。

表示する項目は、メニューアイコンの ⚙ から変更することができます。  
(→P.73)

表示される数値は参考として利用してください。

### ● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

## ● 平均燃費

リセット間：リセット後の平均燃費を表示※<sup>1</sup>

始動後：エンジン始動後の平均燃費を表示

給油後：給油後の平均燃費を表示

## ● 平均車速

リセット間：リセット後の平均車速を表示※<sup>1</sup>

始動後：エンジン始動後の平均車速を表示

## ● 走行時間

リセット間：リセット後の経過時間を表示※<sup>1</sup>

始動後：エンジン始動後の経過時間を表示

## ● 距離

航続可能距離：燃料残量による走行可能な距離を表示※<sup>2, 3</sup>

始動後：エンジン始動後の走行距離を表示

## ● アイドリングストップ時間

エンジン始動後のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示

## ● その他

非表示

※<sup>1</sup>リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの“OK”を長押しします。

※<sup>2</sup>運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

※<sup>3</sup>燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

## ■ Stop & Start システム情報

### ● 表示項目

- ・ 現在のアイドリングストップ時間／状態通知

エンジンスイッチを ON にしてからの合計アイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。（→P.66, 71）

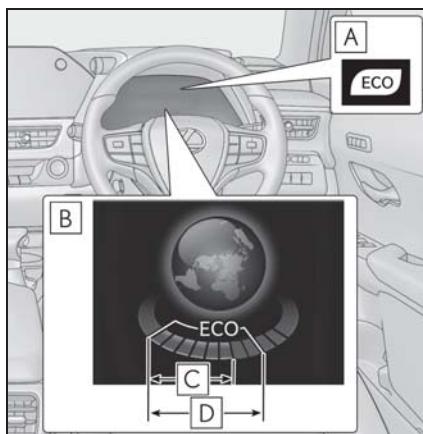
- ・ エンジン始動後のアイドリングストップ時間

### ● Stop & Start 設定

エアコンの“A/C”を ON にしているときのアイドリングストップ時間（2段階）から選択することができます。

この設定はメニューアイコンの から変更することができます。

## ■ エコドライブインジケーター



### A エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

**B エコドライブインジケーターゾーン表示**

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

**C 現状のアクセル開度**

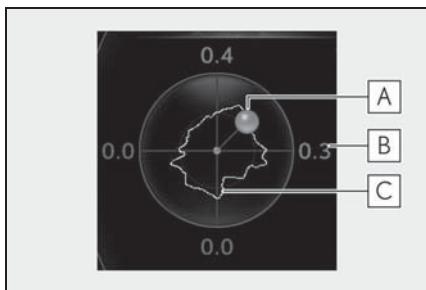
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。

このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

**D エコ運転の範囲**

**■ G モニター (F SPORT)**

車両にかかる前後左右の G (加速度) を表示します。



**A 車両にかかる G**

**B 現在の G 値 (前後左右に分解した値)**

**C 最大 G の軌跡**

路面状況・気温・車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

● 最大 G の軌跡のリセット

メーター操作スイッチの“OK”を長押しすることで、軌跡をリセットすることができます。

● ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G

値表示が橙色に変わり、2秒間保持されます。

**■ タイヤ空気圧**

→P.326

**■ 表示 OFF**

画面表示が OFF になります。



**■ エコドライブインジケーターについて**

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
  - パドルシフトスイッチ★を操作しているとき
  - 走行モードがノーマルモードまたはエコドライブモード以外のとき
  - 車速が約 100km/h 以上のとき
- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**ナビゲーションシステム連携表示について**

ナビゲーションシステムと連携して、次の情報を表示します。

● 目的地案内

● コンパス

**オーディオシステム連携表示について**

オーディオソースの選択、選曲などの操作を行うことができます。

**運転支援機能情報について**

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.195）
  - レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.207）
  - RSA（ロードサインアシスト）（→P.204）
  - ITS Connect★（→P.226）
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 警告メッセージについて

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.360）

## 設定について

### ■ 変更できる項目（メーター表示）

#### ● 言語

表示される言語を選択することができます。

#### ● 単位

燃費表示の単位を選択することができます。

#### ● 車速表示（F SPORT以外）

スピードメーターの表示を、デジタル／アナログから選択することができます。

#### ● ドライブインフォ 1／ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。（→P.74）

#### ● 割り込み表示

一部の割り込み表示される項目の表示・

非表示を、項目ごとに変更することができます。

#### ● テーマカラー

カーソルの色などを変更することができます。

#### ● REV インジケーター（F SPORT）

- REV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。
- REV インジケーター（橙色）が表示されるエンジン回転数を変更することができます。

#### ● REV ピーク（F SPORT）

REV ピークの作動・非作動を切りかえることができます。

#### ● エコドライブインジケーターランプ

エコドライブインジケーターランプの作動・非作動を切りかえることができます。

#### ● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

### ■ 変更できる項目（機能の切り替え・車両設定）

→P.400



#### ■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

## 警告

- ディスプレイの設定を変更するとき  
エンジンがかかるつた状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## 注意

- ディスプレイの設定を変更するとき  
バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかるつている状態で実施してください。

## 提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

### ■ パワーバックドア機能★の ON 切りかえ提案

パワーバックドアメインスイッチが OFF (でパワーバックドアの機能を OFF に設定しているとき) の状態で運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチを ON に変更する提案メッセージを表示します。このとき “はい” を選択すると、メインスイッチが ON に変更されます。

メインスイッチが ON に変更されてから再度パワーバックドアスイッチを操作すると、バックドアを開閉することができます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ ヘッドライト消灯提案

エンジンスイッチを OFF にしたあとにランプスイッチが  または AUTO の状態でヘッドライトを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドライトの消灯を提案するメッセージを表示します。

ランプスイッチが AUTO のとき：このとき “はい” を選択すると、ヘッドライトが消灯します。

エンジンスイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席または助手席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

### ■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき “はい” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

## 知識

### ■ カスタマイズ機能

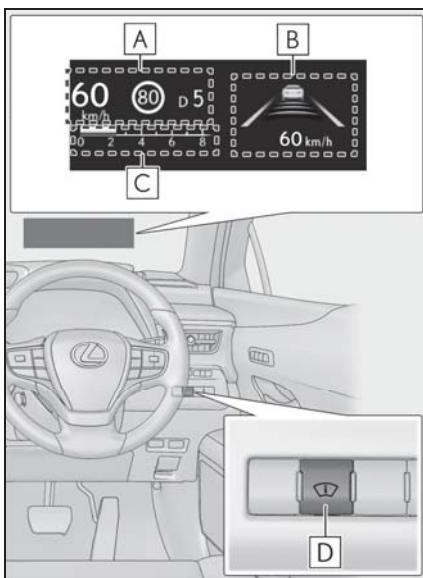
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.401）

## ヘッドアップディスプレイ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

### システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

#### A 走行状況表示エリア

次の内容が表示されます。

- ・ スピードメーター
- ・ シフトポジション・シフトレンジ表示  
(→P.150)
- ・ RSA（ロードサインアシスト）表示  
(→P.204)

#### B 運転支援システム表示エリア

(→P.82)

ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。

- ・ 交差点名
- ・ 目的地案内
- ・ レーン（車線）案内

#### C タコメーター／エコドライブインジケーター表示エリア

(→P.83)

#### D ヘッドアップディスプレイスイッチ

### 知識

#### ■ヘッドアップディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがONのとき

#### ■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

#### ■交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

#### ■レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。

#### ■外気温表示について

●次の場合、外気温が表示されます。

- ・ 外気温が約 3°C 以下のとき（この場合、外気温が約 10 秒間表示され、同

時に低温表示灯が点滅します)

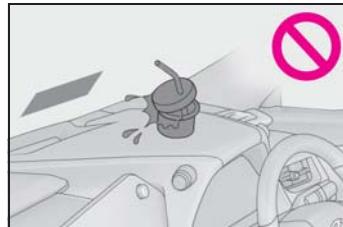
- ・オープニング画面（→P.73）が表示されたあと（外気温が約10秒間表示されます）
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかつたり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますか、故障ではありません。
- ・停車しているときや、低速走行（約20km/h以下）のとき
- ・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

### **⚠ 警告**

- ヘッドアップディスプレイを使用するときは
  - 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。  
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

### **⚠ 注意**

- ヘッドアップディスプレイ映写部について
  - 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。

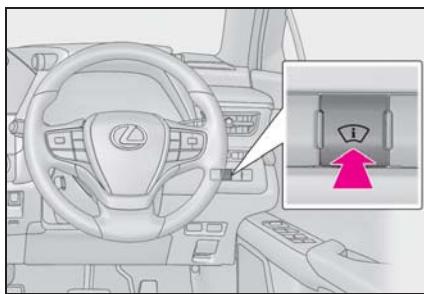


- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。  
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。  
装置が故障する原因となります。

### **ヘッドアップディスプレイの使い方**

#### ■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示切り替え

ヘッドアップディスプレイスイッチを押すと表示／非表示が切りかわります。



### ■ ヘッドアップディスプレイの設定

マルチインフォメーションディスプレイの から、次の設定を変更することができます。( $\rightarrow$ P.402)

#### ● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

#### ● タコメーター／エコドライブインジケーター※

タコメーター／エコドライブインジケーター／表示なしのいずれかから表示内容を選択することができます。

※ マルチインフォメーションディスプレイの から、“車両設定”を選択し、“HUD”を選択すると設定することができます。

#### ● 表示内容※1

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

- ・ 目的地案内
- ・ レーン表示
- ・ 運転支援システム表示※2
- ・ オーディオ表示

※1 マルチインフォメーションディスプレイの から、“車両設定”を選択し、“HUD”を選択すると設定することができます。

※2 運転支援システムを使用するときは、表示に設定してください

#### ● 表示の傾き※

表示の傾きを調整することができます。

※ マルチインフォメーションディスプレイの から、“車両設定”を選択し、“HUD”を選択すると設定することができます。



#### 知識

### ■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

#### ■ 表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

#### ■ ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整（ポジションメモリー装着車）

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。( $\rightarrow$ P.121)

#### ■ バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

## 警告

### ■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## 注意

### ■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

## 運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）(→P.195)
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）(→P.207)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

## 割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

### ■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）(→P.185)
- 先行車発進告知機能 (→P.219)
- ITS Connect★ (→P.226)
- クリアランスソナー (→P.245)
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）(→P.257)
- ブレーキオーバーライドシステム (→P.139)
- ドライバー異常時対応システム (→P.221)
- ドライブスタートコントロール (→P.143)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ アイコン

マルチインフォメーションディスプレイと連携して、次のアイコンが表示されます。

### : マスター オーナリングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。(→P.360)

### : インフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに提案サービス(→P.78)や操作アドバイスなどのメッセージが表示されているときに表示されます。

### ■ メッセージ表示

次のメッセージを表示します。

### ● 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。  
(マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容)

### ● ETCに関する通知

#### ■ オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

#### ■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのエコドライブインジケーターと同様です。詳しくは、P.75を参照してください。

2



#### ■ 割り込み表示について

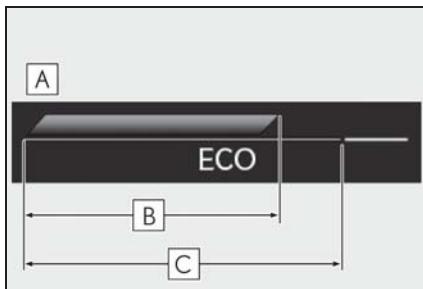
割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

### タコメーター／エコドライブインジケーター表示エリア

#### ■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

#### ■ エコドライブインジケーター



**A** エコドライブインジケーターゾーン表示

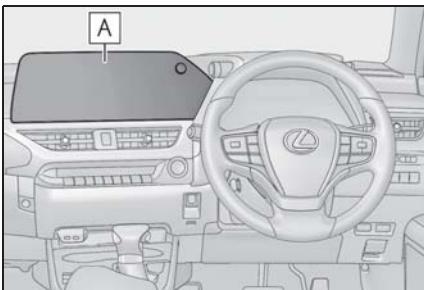
**B** 現状のアクセル開度

**C** エコ運転の範囲

## 燃費画面

燃費に関する情報をセンターディスプレイに表示します。

## システムの構成部品



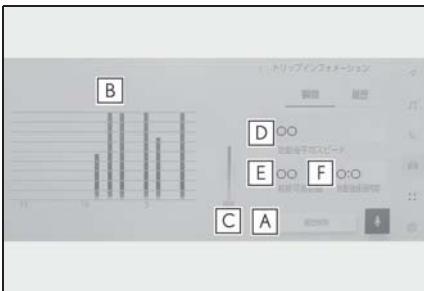
A センターディスプレイ

## 瞬間燃費画面の見方

### ■ 表示のしかた

- 1 メインメニューの を選択する
- 2 “トリップインフォメーション” を選択する
- 3 “瞬間” を選択する

### ■ 表示について



A 履歴削除

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費  
(平均燃費)

C 瞬間燃費

D エンジン始動後平均車速

E 航続可能距離

F エンジン始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

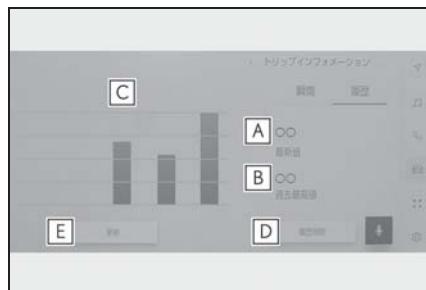
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

## 燃費履歴画面の見方

### ■ 表示のしかた

- 1 メインメニューの を選択する
- 2 “トリップインフォメーション” を選択する
- 3 “履歴” を選択する

### ■ 表示について



A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴削除

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずか

に異なる場合があります。

## 知識

### ■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で “更新” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

### ■ 燃費データをリセットするには

“履歴削除” を選択すると、燃費データがリセットされます。

### ■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。



## 3-1. キー

キー .....	<b>88</b>
----------	-----------

## 3-2. デジタルキー

デジタルキー .....	<b>92</b>
--------------	-----------

## 3-3. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア .....	<b>95</b>
----------	-----------

バックドア .....	<b>100</b>
-------------	------------

スマートエントリー＆スタートシス	
------------------	--

テム .....	<b>113</b>
----------	------------

## 3-4. シートの調整

フロントシート .....	<b>118</b>
---------------	------------

リヤシート .....	<b>119</b>
-------------	------------

パワーイージーアクセスシステム／	
------------------	--

ポジションメモリー／メモリー	
----------------	--

コール機能 .....	<b>121</b>
-------------	------------

ヘッドレスト .....	<b>124</b>
--------------	------------

## 3-5. ハンドル位置・ミラー

ハンドル .....	<b>127</b>
------------	------------

インナーミラー .....	<b>128</b>
---------------	------------

ドアミラー .....	<b>129</b>
-------------	------------

3-6. ドアガラス・ムーンルーフの開  
閉

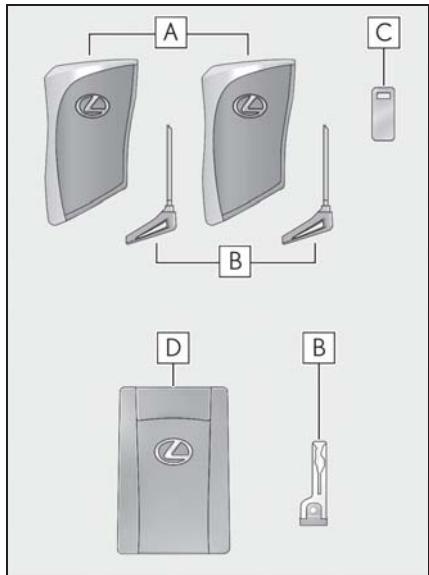
パワーウィンドウ .....	<b>131</b>
----------------	------------

ムーンルーフ .....	<b>134</b>
--------------	------------

## キー

### キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



#### A 電子キー

- スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.113)
- ワイヤレス機能の作動

#### B メカニカルキー

#### C キーナンバープレート

#### D カードキー★

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.113)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

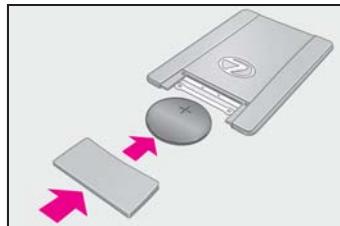
#### □ 知識

#### ■ カードキー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の+極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



●カードキーは防水です。

#### ■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすことがあります。

#### ■ 電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は1～2年です。(カードキーの電池は1～1年半程度で消耗します)

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。(→P.114)

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.335)

- ・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
  - ・作動範囲が狭くなった
  - ・電子キーのLEDが点灯しない
- 電池はお客様自身で交換することができます（→P.335）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、レクサス販売店での交換をおすすめします。
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
- ・TV
  - ・パソコン
  - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
  - ・電気スタンド
  - ・電磁調理器

### ■電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用下さい。



#### ■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたまま曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗つたりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない

#### ■電池の交換方法

→P.335

#### ■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

#### ■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

**⚠ 注意**

■ 電子キーを紛失したときは

→P.384

■ カードキー★の取り扱いについて

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。

水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

● 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。

無理にこじ開けようとすると、曲がつたり傷を付けたりするおそれがあります。

● 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

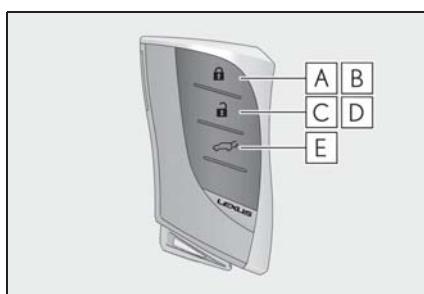
● 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

● 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

- ・ 小銭や鍵などの硬いものと一緒に携帯したとき
- ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
- ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

## ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が装備されています。



**A** 全ドアを施錠する (→P.95)

**B** ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※ (→P.95)

**C** 全ドアを解錠する (→P.95)

**D** ドアガラスとムーンルーフ★を開く※ (→P.95)

**E** パワーバックドア★を開閉する (→P.103)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定が必要です。

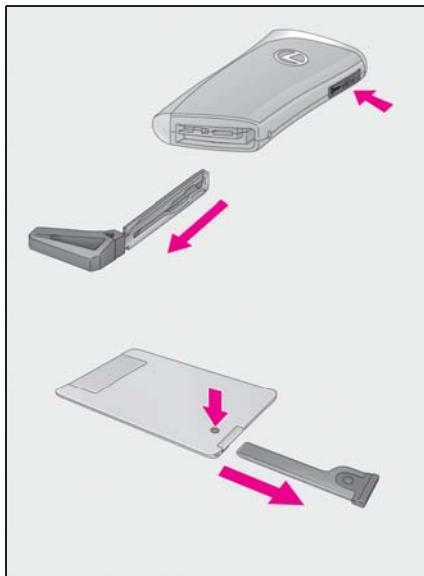
## メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかけて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは、メカニカルキーが必要になります。

(→P.385)



### □ 知識

#### ■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠(→P.293)します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

#### ■ メカニカルキーを紛失したとき

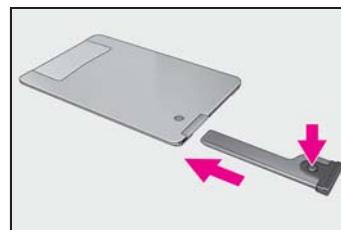
→P.384

## ■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

## ■ カードキー★について

- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などで解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。
- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ⚠ 注意

#### ■ カードキー★の取り扱いについて

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

## デジタルキー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL : [https://toyota.jp/digital\\_key/](https://toyota.jp/digital_key/)

QR コード：



□ 知識

### ■ QR コード

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

### ■ フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/enopensource/dkey/toyota/>

### ■ デジタルキーの取り扱い

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

## デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、G-Link に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はレクサス販売店でのみ行なうことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客様のご負担となります。すべてのスマートフォンでの使用を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

## デジタルキーの注意事項

- デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります（詳細は、[https://toyota.jp/digital\\_key/](https://toyota.jp/digital_key/) をご確認ください）。そのため、電子キーを常に携行することを推奨いたします。

- ・ スマートフォンが故障した場合
- ・ スマートフォンとサーバーが通信できない場合
- ・ スマートフォンのバッテリー残量が無くなつた場合
- ・ システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合
- スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。

● デジタルキーは、スマートエントリー＆スタートシステムに関するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。

● デジタルキーでは、ドアハンドルにふれたり握ったりしてドアを施錠／解錠することはできません。（ワイヤレスで施錠／解錠することはできます）

● 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）

● お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

● 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動的に接続されません。その場合は、デジタルキーの接続が手動操作に変わることがあります。

● サーバーメンテナンス期間は一定期間サービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーはご利用いただけます。

● デジタルキーアプリを有効にしたスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やエンジンの始動などが可能になるため、スマートフォンの置き忘れや盗難などには特にご注意ください。

万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、ただちにレクサスオーナーズデスク、レクサス販売店にご相談ください。

さい。

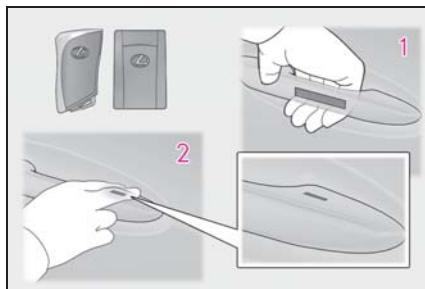
- 点検や修理などでレクサス販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。

## ドア

### 車外から解錠／施錠するには

#### ■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



#### 1 フロント席のハンドルを握って解錠する

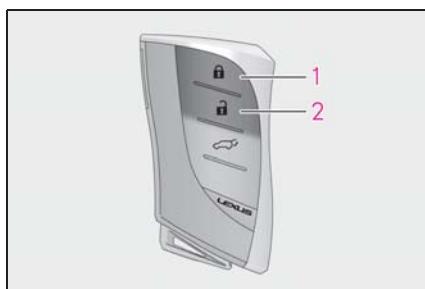
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後3秒間は解錠できません。

#### 2 フロント席のドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

#### ■ ワイヤレス機能を使用する



#### 1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ

★が閉まります。※

#### 2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ  
★が開きます。※

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定が必要です。

## 知識

#### ■ 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチをOFFにする

2 オートアラームの侵入センサーを停止する

(操作中のオートアラーム誤作動防止：→P.56)

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに ボタンと同時に、

または のいずれかを約5秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと5秒以上間隔をあけてから手順3を行ってください)

マルチインフォ メーションディス プレイ表示／ブ ザー音	解錠できるドア
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
車外：“ピピッ” (3回) 車内：“ポーン” (1回)	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
	運転席または助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
車外：“ピピッ” (2回) 車内：“ポーン” (1回)	

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいつたんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます) オートアラームが作動し警報が鳴つてしまつときは、作動を停止する操作を行ってください。( $\rightarrow$ P.54)

#### ■キーを使わずに車外からフロント席を施錠するときは

- 1 ドアロックボタンを押し下げる ( $\rightarrow$ P.98)
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチが ACC または ON のときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

#### ■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

#### ■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

#### ■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかつたときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

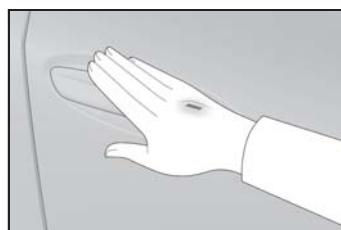
#### ■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

#### ■ドアハンドル上部のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上部のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



#### ■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。( $\rightarrow$ P.54)

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.114

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。→P.385)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。→P.335)

■バッテリーがあがつたときは

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。→P.385)

■リヤシートリマインダー機能

- リヤシートへの荷物などの置き忘れを防ぐために、次のいずれかの操作を行ったあとにエンジンスイッチをOFFになると、ブザーが鳴り、約6秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
  - ・リヤドアを開閉したあと約10分以内にエンジンを始動した
  - ・エンジンが始動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約2秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しない可能性があります。

- リヤシートリマインダーは、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断する機能です。そのため、状況によっては、リヤシートリマインダー機能が作動せず、リヤシートに荷物などを置き忘れたり、正しく作動しなくなったりする可能性があります。

- リヤシートリマインダーの作動・非作

動を切りかえることができます。  
(→P.401)

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。  
(カスタマイズ一覧: →P.402)



警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する

- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- おさまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

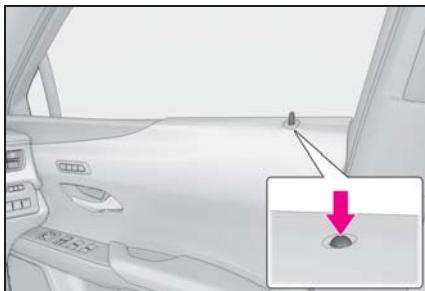
傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

### ⚠ 警告

#### ■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



#### ■ ドアハンドルを使って解錠する

##### ▶ 運転席ドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

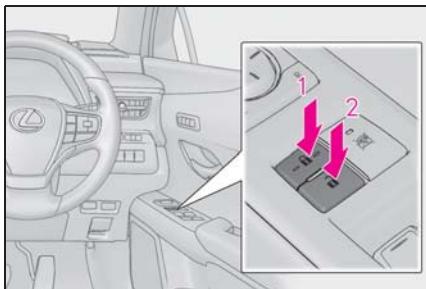
##### ▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

### 車内から施錠／解錠するには

#### ■ ドアロックスイッチを使用する

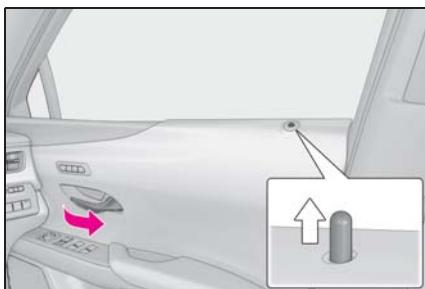


1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

#### ■ ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



### □ 知識

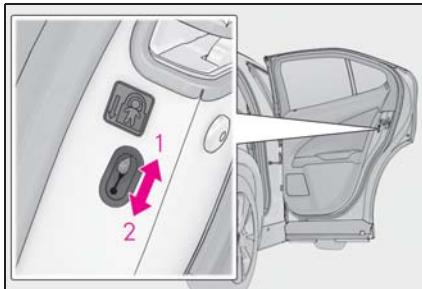
#### ■ 半ドア走行時警告ブザー

ボンネットまたはいずれかのドアが確実に閉まっていません。マルチインフォメーションディスプレイに開いているドアが表示されます。ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

ポンネットおよび全ドアを確実に閉めてください。

## チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



**1 解錠**

**2 施錠**

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

### □ 知識

#### ■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

## オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.400 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが回転中にシフトレバーを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開運動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

## バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

### !**警告**

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

#### ■走行する前に

走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

#### ■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●ラゲージルームには絶対に乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

#### ■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・腕・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

#### ■バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。

バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

## ⚠ 警告

- パワーバックドア非装着車：半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。  
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- パワーバックドア装着車：傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

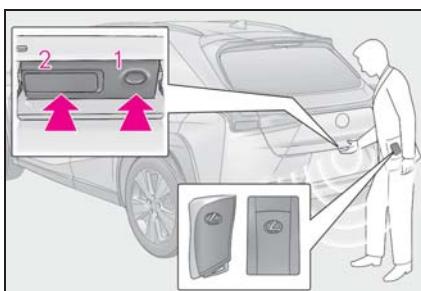
● バックドアダンバーステー（パワー バックドア非装着車）（→P.103）または、スピンドルユニット（パワー バックドア装着車）（→P.110）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンバーステー（パワー バックドア非装着車）または、スピンドルユニット（パワー バックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

## 車外から施錠／解錠するには

### ■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



#### 1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

#### 2 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

### ■ ワイヤレス機能を使用する

→P.90

## 車内から施錠／解錠するには

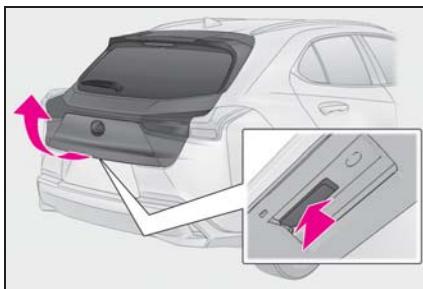
### ■ ドアロックスイッチを使用する

→P.98

## バックドアを開閉するには（パワーバックドア非装着車）

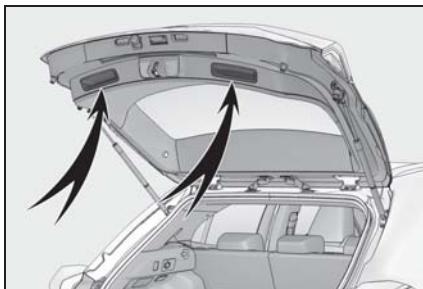
### ■ 開ける

バックドア解錠時に、バックドアオープンスイッチを押したまま、  
バックドアを持ち上げる



### ■ 閉める

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



### ■ ラゲージルームランプ

- バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

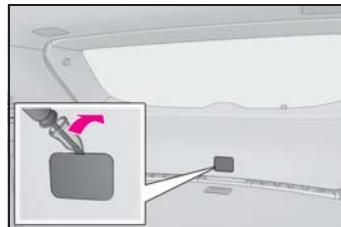
- エンジンスイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

### ■ バックドアが開かないときは

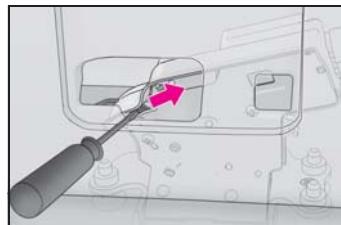
バックドアを内側から開けることができます。

#### 1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



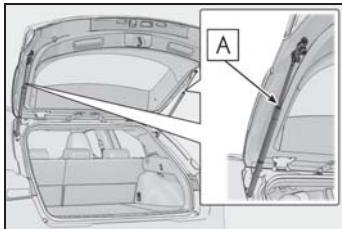
#### 2 レバーを押す



**注意**

■ ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステー**A**が取り付けられています。ダンパーステー**A**の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



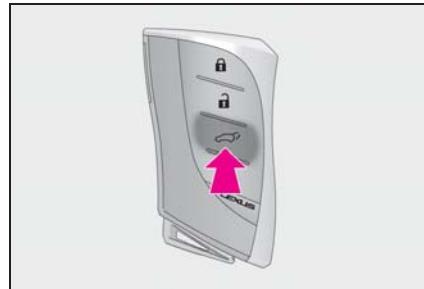
- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

### バックドアを開閉するには（パワー・バックドア装着車）

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

スイッチを約1秒押し続ける  
バックドア解錠時※に作動させることができます。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。

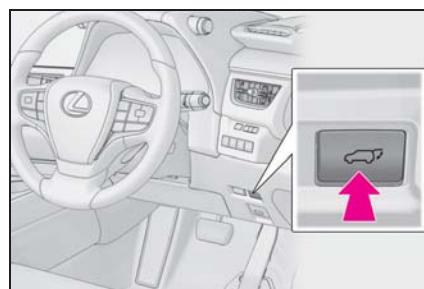


■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約1秒押し続ける  
ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約1秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



■ 車外からスイッチ操作で開閉する

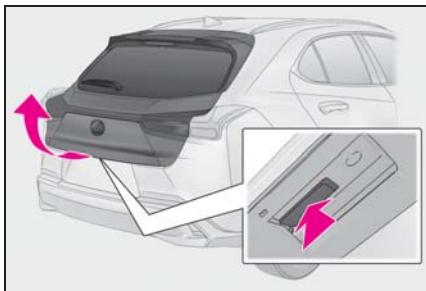
● 開ける

バックドア解錠時：バックドアオープنسイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープنسイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。



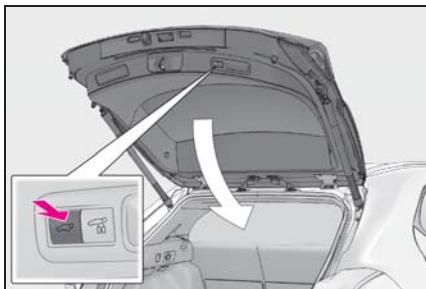
● 閉じる

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



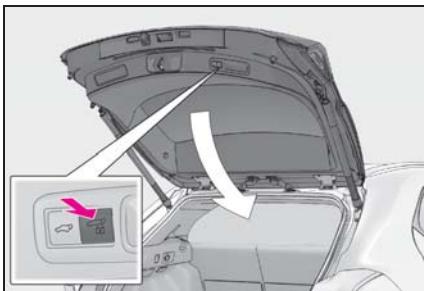
● 閉じると同時に全ドアの施錠をする（クローズ＆ロック機能）

スイッチを押す

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まるときに同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

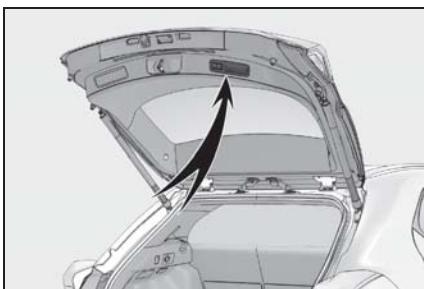
パワーバックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、バックドアは自動で閉まります。



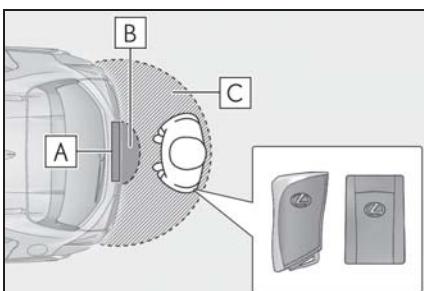
■ バックドアグリップを使用して閉じる

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げるとき、ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。



■ ハンズフリーパワーバックドアを使用して開閉する

- 1 電子キーを携帯し、スマートエンタリー＆スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約 50 ~ 70cm 離れた位置に立つ

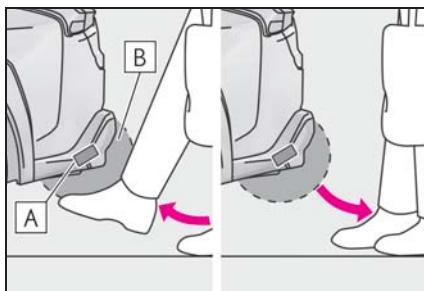


**A** キックセンサー

**B** ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

**C** スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア  
(→P.113)

- 2 足をリヤバンパーから約10cmの距離になるまで近付けて、ブザーが1回鳴ったあと足を引く
- ・足を近付けて引く動作を1秒以内に行ってください。
  - ・足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
  - ・リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
  - ・車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。
  - ・ブザーが2回鳴った場合は、再度足を近付けて引く動作を行ってください。



**A** キックセンサー

**B** ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

- 3 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後バックドアが自動で全開・全閉します。

バックドアの作動中に再度操作をすると、

作動を停止します。

## □ 知識

### ■ ラゲージルームランプ

- バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。
- エンジンスイッチがOFFの場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

### ■ パワーバックドアの作動可能条件

パワーバックドアの作動がONで、次のときに自動で開閉できます。

- バックドアが解錠されているとき、ただし次のときはバックドアが施錠されてもパワーバックドアは作動します。
- ・電子キーを携帯してバックドアオープニングスイッチを押したとき
- ・ワイヤレスリモコン使用時では、カスタマイズ機能により施錠時からでも作動できるように設定したとき

● エンジンスイッチがONのとき開作動するには、上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

- ・パーキングブレーキがかかっている
- ・ブレーキペダルを踏んでいる
- ・シフトレバーがPの位置にある

### ■ ハンズフリーパワーバックドアの作動条件

● ハンズフリーパワーバックドアの作動の設定がONのとき

- 電子キーを携帯して作動範囲内にあるとき (→P.113)

### ■ バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

エンジンスイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動し

ます。

### ■パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
- パワーバックドアの作動がOFFのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
- パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感じると、作動が停止します。

### ■予約ロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まるとき同時に施錠されます。

- 1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 パワーバックドアの自動閉作動中にスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.95）またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.90）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。挟み込み防止機能やキー閉じ込み防止機能により施錠されない場合があります。

### ■クローズ＆ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠する機能です。

自車のもう1つの電子キーを車室内に置いていない状態で次の操作をすると、パワーバックドアが閉ると同時に全ドアも施錠されます。

- 1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる

- 2 電子キーを携帯した状態で、パワーバックドア下部のスイッチ（→P.103）を短押しする

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが閉じると同時にすべてのドアが施錠したことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

### ■クローズ＆ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

- 電子キーを持った手でパワーバックドア下部のスイッチ（→P.103）を押したとき
- 地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部のスイッチ（→P.103）を押したとき

- パワーバックドア下部のスイッチ（→P.103）から離れた位置から押したとき

### ■ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

- 足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき
- リヤバンパーに足先が強くあたつたときや、一定時間触れたとき  
リヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。
- 人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

- 電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.114）
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯・鉄板の上などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波・ノイズ・金属がある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき
- リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき
- リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき  
アクセサリー用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドアの作動の設定を OFF にしてください。

#### ■ ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき
- 小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき
- リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき
- リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体を触れながら車

両を横切ったとき

- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき
- リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき
- リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業したとき
- けん引されるとき

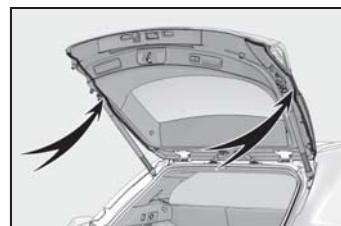
誤作動を防ぐときは、ハンズフリーパワーバックドアの作動の設定を OFF にしてください。

#### ■ バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉してください。

#### ■ 挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

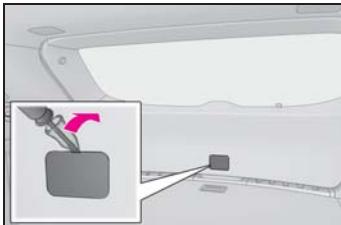


### ■ バックドアが開かないときは

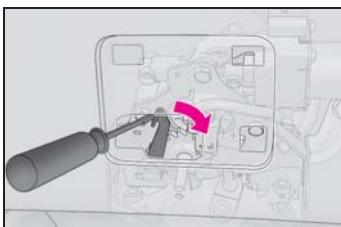
バックドアを内側から開けることができます。

#### 1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



#### 2 レバーを押す



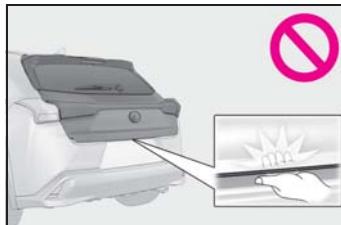
### ■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧 : →P.403)

### ■ 警告

#### ■ バックドアイージークローザーについて

- バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動がOFFのときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

#### ■ パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアの作動をOFFにすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

## 警告

- 自動開閉中に作動可能条件  
(→P.105) を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
  - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・ エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

## ■ 挟み込み防止機能

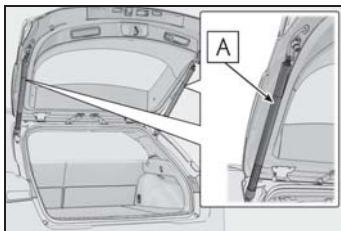
次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないとい、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
  - 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
  - 挟み込み防止機能は、挟まれるもののが形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
  - ハンズフリーパワーバックドアについて
- 次のことを必ずお守りください。お守りいただかないとい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
  - 排気管は排気ガスにより高温になります。操作するときは排気管にふれないでください。
  - リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

**!** 注意

■スピンドルユニットについて

パックドアにはパックドアを支えるためのスピンドルユニット[A]が取り付けられています。スピンドルユニット[A]の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- パックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■パックドアイージークローザーの故障を防ぐために

パックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、パックドアイージークローザーの故障の原因となります。

■パワーパックドアの故障を防ぐために

- パワーパックドアを作動させる前に、凍結によるパックドアの貼り付きがないことを確認してください。パックドアに無理な力がかかるついている状態で作動させると、故障の原因になります。

- パワーパックドアの作動中は、パックドアに無理に力をかけないでください。

- パワーパックドア左右端部のセンター(→P.107)を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ＆ロック機能について

クローズ＆ロック機能でパワーパックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーパックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

■ハンズフリーパワーパックドアについて

ハンズフリーパワーパックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

## 注意

- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける  
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、  
ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- ・ キックセンサーヤその周辺に強い衝撃を受けた
- ・ リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない
- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない

## パワーバックドアの作動を ON / OFF するには（パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイで ON / OFF の切りかえができます。（→P.72）

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押し、“車両設定”を選択し “OK” を押す
- 3 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択し “OK” を押す
- 4 メーター操作スイッチの  または  を押して “機能” を選択する

- 5 メーター操作スイッチの “OK” を押すごとに ON / OFF が切りかわる

OFF を選択して、ハンズフリーパワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、ON にしないとハンズフリーパワーバックドアの作動は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

## ハンズフリーパワーバックドアの作動を ON / OFF するには（パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイでハンズフリーパワーバックドアセンサー（キックセンサー）の ON / OFF の切りかえができます。（→P.72）

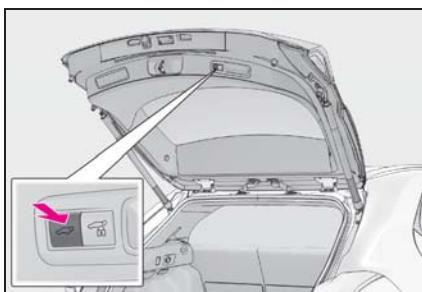
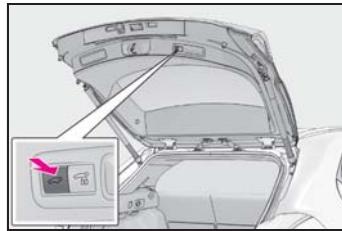
- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押し、“車両設定”を選択し “OK” を押す
- 3 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択し “OK” を押す
- 4 メーター操作スイッチの  または  を押して “キックセンサー” を選択する
- 5 メーター操作スイッチの “OK” を押すごとに ON / OFF が切りかわる

OFF を選択して、ハンズフリーパワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、ON にしないとハンズフリーパワーバックドアの作動は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

### バックドア自動開停止位置調整について（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

- 1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.103）
- 2 バックドア下部のスイッチを約2秒間押し続ける
  - ・ 設定が完了するとブザーが4回鳴ります。
  - ・ 次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。



#### □ 知識

##### ■ バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドア下部のスイッチを約7秒間押し続ける。

ブザーが4回鳴ったあと、さらに2回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。

## スマートエントリー＆スタートシステム

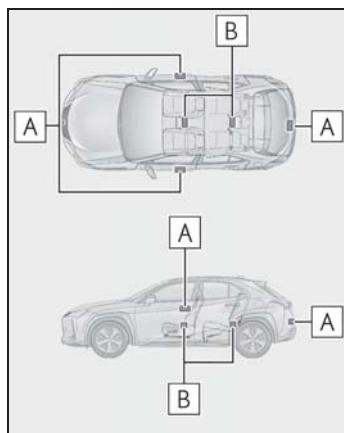
電子キー（カードキー★含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する  
(→P.95)
- バックドアを施錠・解錠する  
(→P.100)
- エンジンを始動する  
(→P.146)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 知識

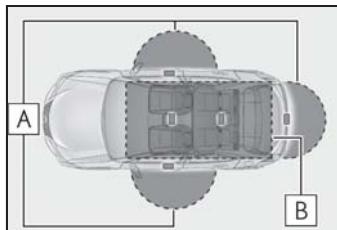
#### アンテナの位置



**A** 車外アンテナ

**B** 車室内アンテナ

#### ■作動範囲（電子キーの検知エリア）



**A** ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。  
(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

**B** エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

#### ■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。  
(→P.360)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようにになります。

- 車外から“ピー”と5秒間鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

- 車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをACCにした(ACCのとき運転席ドアを開いた)	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

### ■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

- ・車の外約2m以内に電子キーを10分以上放置した
- ・5日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかつた

- 14日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかつた場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

### ■電子キーを節電モードにするには

- 節電モードに設定すると、電子キーに

よる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーのを押しながら、を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

### ■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

### ■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処法:→P.385)

●電子キーの電池が消耗しているとき

- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・ 金属製の財布やかばん
  - ・ 小銭
  - ・ カイロ
  - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くて他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
  - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
  - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
  - ・ デジタルオーディオプレーヤー
  - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合
- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき
- ご留意いただきたいこと**
- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
  - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
  - ・ エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインス
- トルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することができます。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）
- 手袋を着用していると施錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
  - ・ キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
  - ・ キーを節電モードに設定してスマート

エントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.114）

- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、車外のブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”が表示されることがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

#### ■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.114）

#### ■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によつては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

#### ■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠ができないときは、次の方法を行ってください。
  - ・ 電子キーをドアハンドルに近づけて施錠・解錠の操作をする
  - ・ ワイヤレスリモコンを使用する

上記の方法で施錠・解錠できないときは、メカニカルキーを使って操作してください。（→P.385）

なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.54）

- エンジンの始動ができないときは、次の方法を行ってください。（→P.386）

#### ■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.403）

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.95, 100, 385）
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.386
- エンジンの停止：→P.147



## 警告

### ■ 電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.113）から約22cm以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

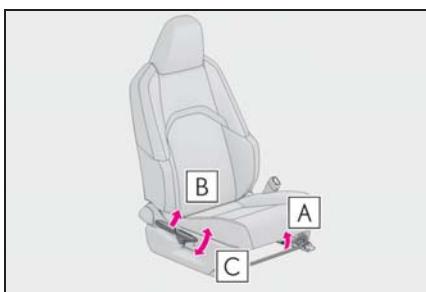
スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

## フロントシート

レバー操作もしくはスイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。（→P.25）

### 調整するには

#### ▶ マニュアルシート

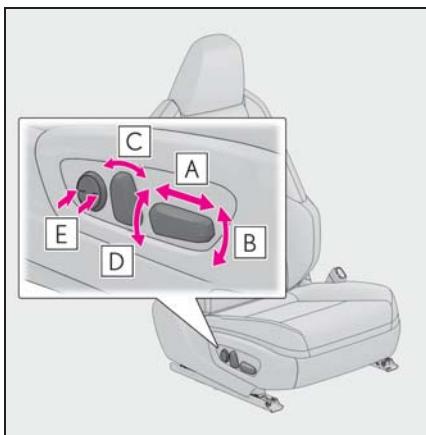


**A** 前後位置調整

**B** リクライニング調整

**C** シート全体の上下調整

#### ▶ パワーシート



**A** 前後位置調整

**B** クッション前端の上下調整

**C** リクライニング調整

**D** シート全体の上下調整

**E** 腰部調整（ランバーサポート）  
(運転席のみ)

### □ 知識

#### ■ シートを調整するときは

- 周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。

- ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。

#### ■ パワーイージーアクセスシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。  
(→P.121)

#### ■ 挟み込み防止機能（ポジションメモリー装着車）

ドライビングポジション呼び出し中、またはパワーイージーアクセスシステムの作動中に、シートの後ろに異物の挟み込みを感じると、作動が停止し前方に少し移動します。

挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

### ⚠ 警告

#### ■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

## ⚠ 警告

- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。  
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。
- リクライニング調整について
  - 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - マニュアルシート装着車は、シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

## リヤシート

レバー操作により、リヤシートの背もたれを倒すことができます。

### 背もたれを倒すには

#### ■ 操作する前に

- 1 車を安全な場所に駐車する  
しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にします。→P.155
- 2 フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する →P.118

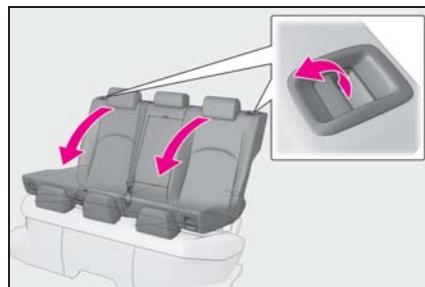
フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、リヤシートの操作時にあたる場合があります。

- 3 リヤシートのヘッドレストを下げる →P.124
- 4 リヤシートのアームレストを引き出している場合は、格納する →P.310

助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

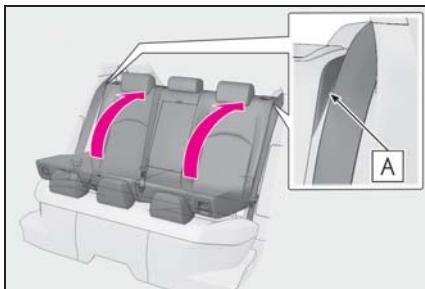
#### ■ 前に倒すときは

ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す



- 背もたれをもとにもどすときは  
シートベルトをシートベルトガイド

**A**にかけて、シートとボディのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



### ⚠ 警告

#### ■ 背もたれを前倒しするときや、前倒したあとは

次のことをお守りください。  
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

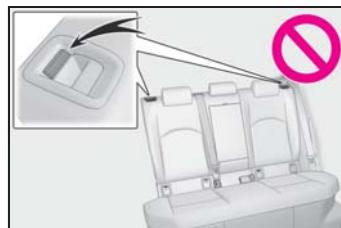
- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

#### ■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことをお守りください。  
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

## パワーアクセスシステム★/ポジションメモリー★/メモリーコール機能★

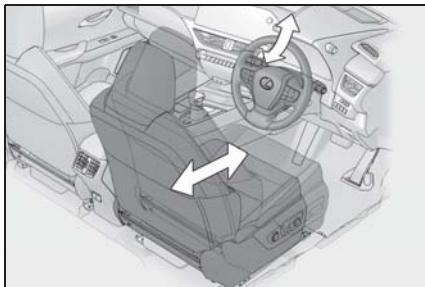
自動で運転席・ハンドルの位置・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイ★を動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

ドライビングポジションは、3パターンまで登録できます。

ドライビングポジションを電子キー（カードキー★を含む）に登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 運転席への乗り降りをしやすくするには（パワーアクセスシステム）



次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトレバーを P に入れる
- エンジンスイッチを OFF にする

### ● シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- エンジンスイッチを ACC または ON にする

### ● シートベルトを着用する

#### □ 知識

### ■ パワーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーアクセスシステムが作動しない場合があります。

### ■ カスタマイズ機能

パワーアクセスシステムによる設定を変更できます。

（カスタマイズ一覧：→P.404）

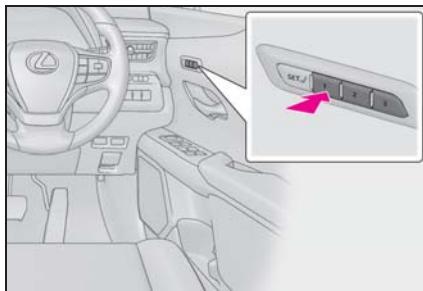
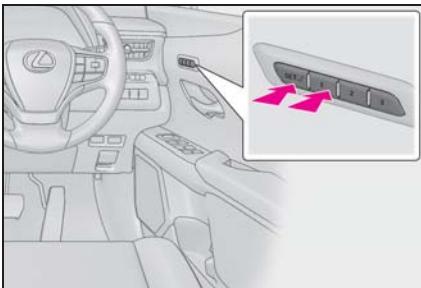
### ドライビングポジションを登録するには

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチを ON にする
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示★をお好みの位置に調整する
- 4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ~ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。



## 知識

### ■ 登録できるシート位置 (→P.118)

腰部調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

### ■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

## 警告

### ■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたつたり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

## ドライビングポジションを呼び出すには

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチを ON にする
- 3 1 ~ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

## 知識

### ■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めるとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ~ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

### ■ エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

### ■ 登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

## 電子キー（カードキー★含む）にドライビングポジションを登録／解除／呼び出しをするには（メモリーコール機能）

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ 登録方法

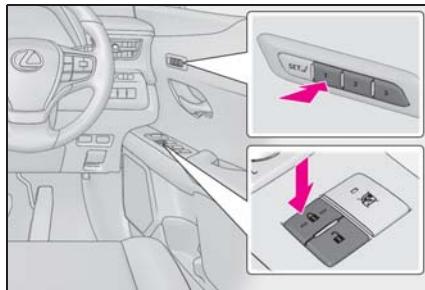
お好みのドライビングポジションをあらかじめ1~3のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをONにする
- 3 登録させたいドライビングポジション(1~3)を呼び出す
- 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。



## ■ 解除方法

- 1 解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉める

車内にキーが2つ以上あると、正確に解除できません。

- 2 エンジンスイッチをONにする
- 3 SETボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解

錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。

## ■ 呼び出し方法

- 1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエンタリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

- 2 エンジンスイッチをACCまたはONにするか、シートベルトを着用する

シート・ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★が登録したドライビングポジションに動きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## □ 知識

### ■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエンタリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボ

タンを押してください。

### ■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧 : →P.404)

## ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

### ⚠ 警告

#### ■ ヘッドレストについて

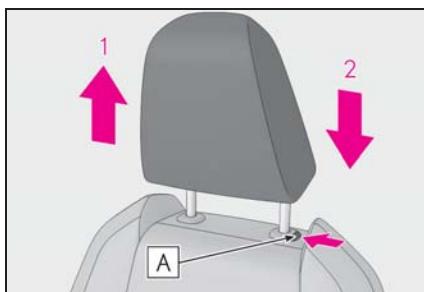
次のことをお守りください。

お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

## 上下調整するには

### ■ フロント席

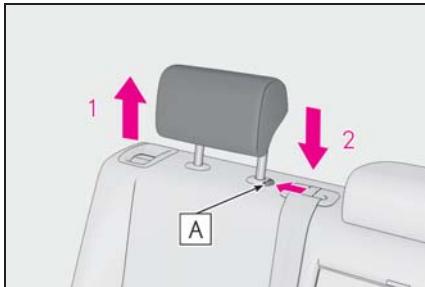


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

## ■ リヤ席



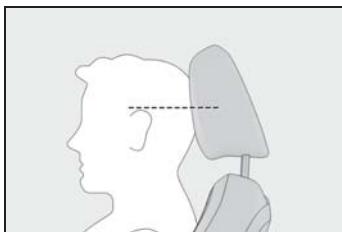
- 1 上げる**  
**2 下げる**

下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作します。

### □ 知識

#### ■ ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



#### ■ リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

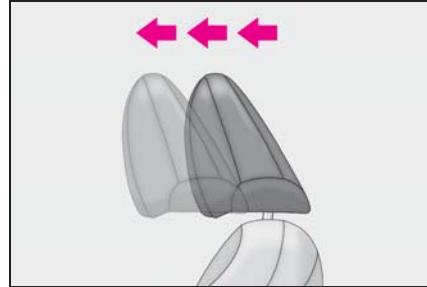
### 前後調整するには★

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

フロント席ヘッドレストの前後位置を、4段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、

いちばんうしろにもどります。

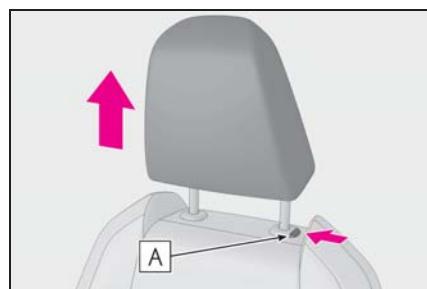


### ヘッドレストを取りはずすには

解除ボタン**A**を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。

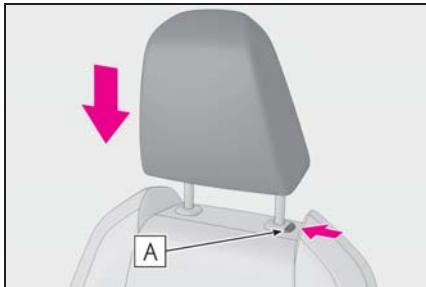
(→P.118, 119)



### ヘッドレストを取り付けるには

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

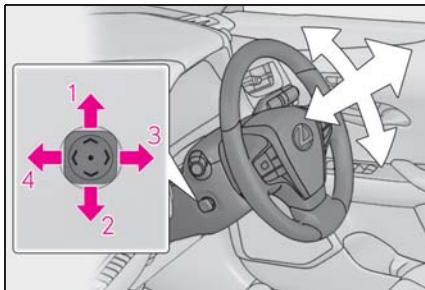
さらに下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作してください。



## ハンドル

### 調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1** 上方へ
- 2** 下方へ
- 3** 手前へ
- 4** 前方へ

#### □ 知識

#### ■ ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC、または ON のとき\*

\* 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

#### ■ ハンドル位置の自動調整★

お好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。  
(→P.121)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ■ パワーアクセスシステム★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンスイッチのモード切り替え・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハ

ンドルとシートが動きます。(→P.121)

#### ■ カスタマイズ機能

ハンドル作動の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧: →P.404)

#### ⚠ 警告

#### ■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



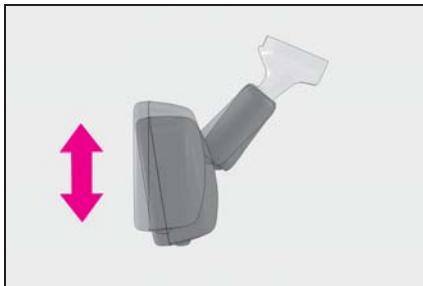
## インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

### 上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラーボディを持って、上下方向に調整する



#### 警告

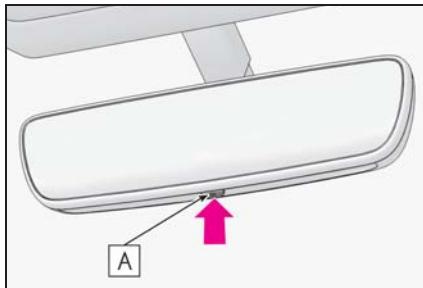
##### ■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

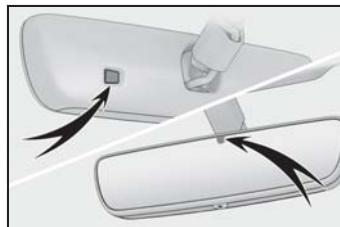
エンジンスイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

ボタンを押すと OFF になりインジケーター[A]が消灯します。



#### ■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆つたりしないでください。



## 防眩機能を使うには

後続車のヘッドライトのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON / OFF を切りかえる

ON のときはインジケーター[A]が点灯します。

## ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。



### ■ 走行中の留意事項

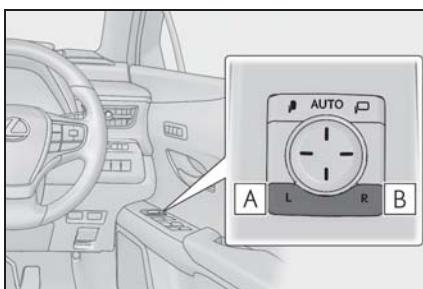
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

### 調整するには

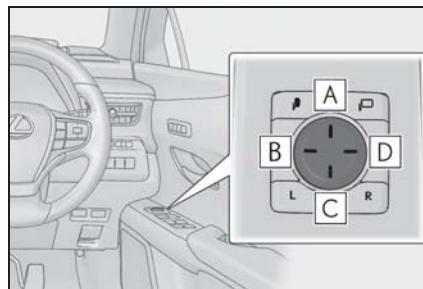
#### 1 調整するミラーを選ぶ



**A** 左

**B** 右

#### 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



**A** 上

**B** 左

**C** 下

**D** 右



### ■ 知識

#### ■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがACCまたはONのとき

#### ■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデオフッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取りることができます。( $\rightarrow$ P.280)

#### ■ 自動防眩機能

インナーミラーを自動モードにしておくと、運転席側のドアミラーも連動して防眩機能が作動します。( $\rightarrow$ P.128)

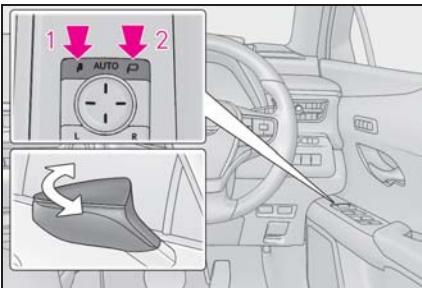
#### ■ ミラー角度の自動調整（ポジションメモリー装着車）

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（ $\rightarrow$ P.121）

### ⚠ 警告

- ミラーヒーターが作動しているとき  
ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

### ドアミラーを格納するには



#### 1 格納する

#### 2 もとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“AUTO”）にすると自動モードに切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動します。

### □ 知識

#### ■ 寒冷時に使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

#### ■ カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。  
(カスタマイズ一覧: →P.404)

### ⚠ 警告

- ミラーが動いているとき

手をふれないでください。  
手を挟んだけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

### リバース連動機能

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

#### ■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

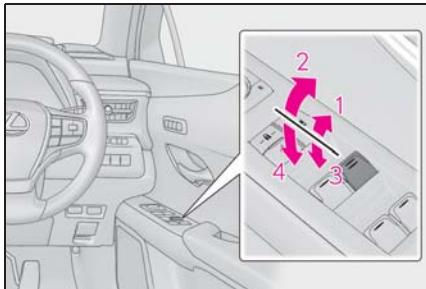
次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

## パワーウィンドウ

### ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める**
- 2 自動全閉**※
- 3 開ける**
- 4 自動全開**※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

#### □ 知識

#### ■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

#### ■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

#### ■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

#### ■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれ

ると、作動が停止します。

#### ■ ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチを ON にする**
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする**
- 3 いつたんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける**
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける**
- 5 いつたんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける**
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを開めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける**

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切ら

ない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

### ■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ (→P.386)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ (→P.95)
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.54)

※ レクサス販売店での設定が必要です。

### ■ 窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに“窓が開いています”が表示されます。

### ■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧: →P.404)

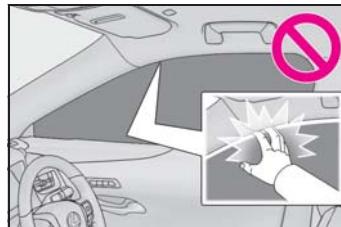


#### 警告

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ■ ドアガラスを開閉するときは

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.133)
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

## ⚠ 警告

### ■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

### ■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服など巻き込まないように注意してください。

## □ 知識

### ■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

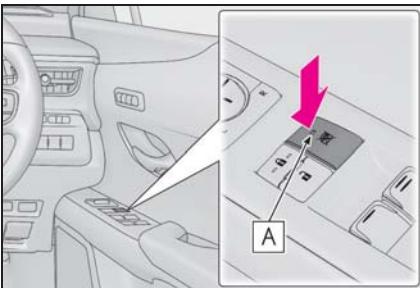
### ■ バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

## 誤操作を防止するには（ウンドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



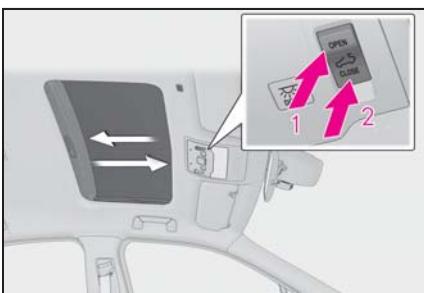
## ムーンルーフ★

★ : グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

頭上のスイッチでムーンルーフを  
開閉・チルトアップ／ダウンでき  
ます。

### ムーンルーフを操作するには

#### ■ ムーンルーフを開閉するには



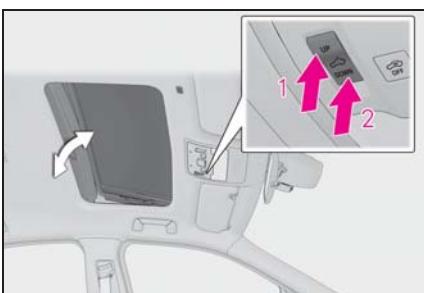
##### 1 開ける \*

チルトアップしてから開きます。

##### 2 閉める \*

\* 途中で停止するときは、ムーンルーフ  
スイッチを軽く押します。

#### ■ チルトアップ／ダウンするには



##### 1 チルトアップする \*

##### 2 チルトダウンする \*

\* 途中で停止するときは、ムーンルーフ

スイッチを軽く押します。

## 知識

### ■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

### ■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF に  
したあとでも、約 45 秒間は操作できま  
す。ただし、そのあいだに運転席ドアを  
開閉すると作動しなくなります。

### ■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチル  
トダウンするときに、ムーンルーフが異  
物の挟み込みを感知すると、作動が停止  
し少し開きます。

### ■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフ  
が開くと連動して開きます。

### ■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

● メカニカルキーでムーンルーフを開閉  
できます。\* (→P.386)

● ワイヤレスリモコンでムーンルーフを  
開閉できます。\* (→P.90)

● オートアラームがセットされていると  
きに、ドアロック連動ムーンルーフ開  
閉機能でムーンルーフを閉めると、  
オートアラームが作動することがあり  
ます。(→P.54)

\* レクサス販売店での設定変更が必要で  
す。

### ■ ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続け  
る\*

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10

秒間停止します。その後再び閉じ、全閉位置で停止します。

- 3** ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

- \* 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

#### ■ ムーンルーフが正常に動かないときは

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能が正常に動かないときは、次の手順で初期化を行ってください。

- 1** 車を停止する

- 2** スイッチの “DOWN” 側を押し続ける\*

ムーンルーフがチルトアップ位置で停止します。その後開いて閉じ、チルトアップしたあとチルトダウンして全閉位置で停止します。

- 3** ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

- \* 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても開閉操作や自動全開機能が正常に動かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

#### ■ ムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに“ムーンルーフが開いています”が表示されます。

#### ■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。( $\rightarrow$ P.404)

#### ▲ 警告

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

##### ■ ムーンルーフを開けているときは

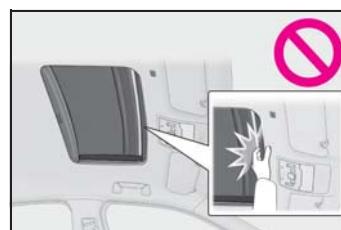
- 走行中はルーフから手や顔を出さない

- 開口部に腰かけない

##### ■ ムーンルーフを開閉するときは

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



 **警告**

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。  
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

**■ 挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

## 4-1. 運転にあたって

運転にあたって .....	138
荷物を積むときの注意 .....	144

## 4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッショ n）スイッチ .....	146
オートマチックトランスマッช i ショ n .....	150
方向指示レバー .....	154
パーキングブレーキ .....	155
ブレーキホールド .....	158
ASC（アクティブサウンドコントロール） .....	160

## 4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ .....	161
AHS（アダプティブハイビームシステム） .....	164
AHB（オートマチックハイビーム） .....	168
フォグラランプスイッチ .....	170
ワイパー＆ウォッシャー（フロント） .....	172
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） .....	176

## 4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 .....	178
---------------	-----

## 4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System + .....	180
PCS（プリクラッシュセーフティ） .....	185
LTA（レントレーシングアシスト） .....	195
RSA（ロードサインアシスト） .....	204

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） .....

207

先行車発進告知機能 .....

219

ドライバー異常時対応システム .....

221

ITS Connect .....

226

Stop & Start システム .....

232

BSM（ブラインドスポットモニター） .....

239

PKSA（パーキングサポートアラート） .....

244

クリアランスソナー .....

245

RCTA（リヤクロストラフィックアラート） .....

253

PKSB（パーキングサポートブレーキ） .....

257

パーキングサポートブレーキ（静止物） .....

262

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） .....

264

ドライブモードセレクトスイッチ .....

265

運転を補助する装置 .....

267

## 4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 .....	273
--------------	-----

## 運転にあたって

**安全運転を心がけて、手順に従つて走行してください。**

### 安全に走行するには

#### ■ エンジンを始動する

→P.146

#### ■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする  
→P.151)
- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する →P.155)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

#### ■ 停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける →P.155)

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。→P.151)

#### ■ 駐車する

- 1 車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかけて →P.155)、シフトレバーを P にする  
→P.151)
- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

#### ■ 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする →P.151)
- 2 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除して発進する

#### □ 知識

#### ■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。→P.268)

#### ■ 雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

#### ■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

- アクセルペダルを離したとき
- スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき
- エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）
  - アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
  - ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

#### ■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする



#### 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

#### ■ 発進するとき

エンジンがかかつたまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

#### ■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。  
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.344 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→P.150）

## ⚠️ 警告

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- すべりやすい路面を運転するとき**
- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。
- シフトレバーを操作するとき**
- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないとください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないとください。

トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 走行中にシフトレバーをNに入れるとき、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

● アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## ■ 繼続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

## ■ 停車するとき

● 空ぶかしをしないでください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## ⚠ 警告

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。  
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 駐車するとき**
- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。  
放置したままでは、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
  - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。

吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずシフトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけて、エンジンを停止し、施錠してください。

エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

## ■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## 警告

### ■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。  
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使いつてしまします。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

## 注意

### ■ 運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

### ■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

### ■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.364, 375, 381をご覧ください。

### ■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
  - 電装品がショートする
  - 水を吸い込んでのエンジン破損
- 万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。
- ブレーキの効き具合
  - エンジン・トランスマッision・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化



- 各ペアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

### ■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

## 急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール)

### ■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することができます。

- ・ Rに切りかえたとき ※
- ・ PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき

※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

### ■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにエンジン出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制

できない場合があります。



### ■ ドライブスタートコントロールについて

- TRCの作動を停止（→P.269）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRCの作動を停止してください。（→P.269）

- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

- 後退速度の抑制制御のON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.400）

- ・ エンジンスイッチをONにしたときは、後退速度の抑制制御は常にON（作動）になっています。
- ・ 後退速度の抑制制御をOFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

## 荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。



### 警告

#### ■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器

- スプレー缶

#### ■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかつたり、荷物が視界をさえぎつたり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

- 次の場所には荷物を積まないでください。

- ・ 運転席足元

- ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

- ・ トノカバー

- ・ インストルメントパネル

- ・ ダッシュボード

- ・ センターディスプレイの前

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

- ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

#### ■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。

- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

#### ■ ルーフレール★を使用するときは

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

- 車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

- 車両の大きさ（全長、全幅）をこえる荷物を積まないでください。

 **警告**

- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
  - ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
  - 80kg 以上の荷物を積まないでください。
- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 荷物を積むとき**

ムーンルーフ★に荷物がふれないようにしてください。お守りいただかないで傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## エンジン（イグニッショ ン）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行  
うことで、エンジンの始動または  
エンジンスイッチのモードを切り  
かえることができます。

### エンジンをかけるには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す  
(→P.155)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしつかり踏む  
マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。  
表示されないと、エンジンは始動しません。
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

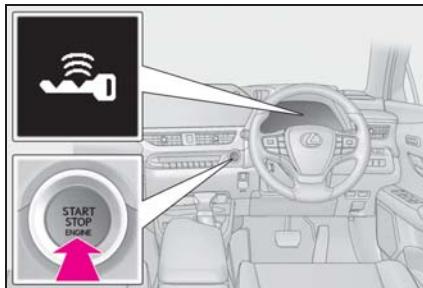
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スタートアシストが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでも

エンジンを始動できます。



### 知識

#### ■ エンジンスイッチ照明

状況に応じて、次のようにエンジンスイッチ照明が切りかわります。

- 運転席または、助手席のドアが開いているとき、もしくはエンジンスイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、エンジンスイッチ照明が遅く点滅します。
- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、エンジンスイッチ照明が速く点滅します。
- エンジンスイッチが ACC、または ON のときは、エンジンスイッチ照明が点灯します。
- エンジンが始動しないときは
  - エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。  
(→P.53) レクサス販売店へご連絡ください。
  - 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。
  - スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動していない場合があります。  
(→P.382)
  - メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー＆ス

タートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.386 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.98）はエンジンを始動できます。

#### ■ 電子キーの電池の消耗について

→P.88

#### ■ 電子キーが正常に働かないとき

→P.114

#### ■ ご留意いただきたいこと

→P.115

#### ■ 電子キーの電池交換

→P.335

#### ■ エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切り替えやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

#### ■ カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.385 を参照してください



注意

#### ■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかしないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

#### ■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

### エンジンを停止するには

4

運転

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて（→P.155）、シフトレバーを P にする（→P.151）
- 3 エンジンスイッチを押す
- 4 ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリー”や“イグニッション ON”的表示が消灯していることを確認する



警告

#### ■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

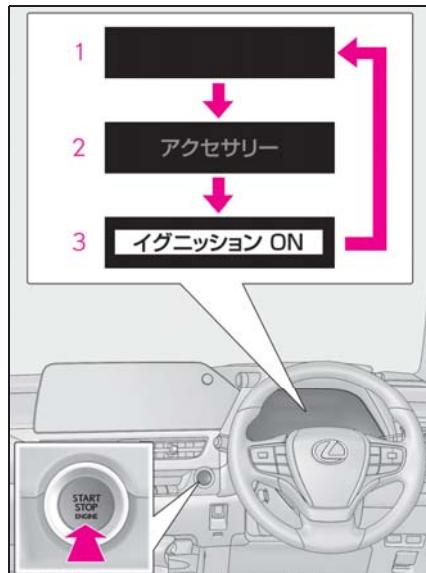
## ⚠ 警告

### ■緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。（→P.344）ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、エンジンスイッチを短く確実に押してください。

## エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



### 1 OFF\*

非常点滅灯が使用できます。

### 2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。  
メーターに“アクセサリー”が表示されます。

### 3 ON

すべての電装品が使用できます。  
メーターに“イグニッションON”が表示されます。

\* シフトレバーがP以外のときはACCになり、OFFなりません。

## □ 知識

### ■自動電源OFF機能

シフトレバーがPにあるとき、20分以上ACCか1時間以上ON（エンジンがかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。

せん。エンジンがかからっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

### 注意

#### ■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかからっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかからっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“イグニッションON”的表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になってしまいます。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチが ACC となるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

### シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF なりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに“電源を Off してください”が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に 1 回押す

- 4 マルチインフォメーションディスプレイの“電源を Off してください”的表示が消灯していることを確認する

## オートマチックトランスマッision

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

### シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	10速スポーツシーケンシャルシフトマチック モード走行 ※2 (→P.153)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。

※2 シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作して変速段を切りかえることにより、適切なエンジンブレーキ力が得られます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### □ 知識

#### ■ オートマチックトランスマッisionのフェイルセーフ制御

故障診断機能によって対象部品（シフト機能のための全てのソレノイド）の異常を検知すると、シフト機能や変速比制御の制限などのフェイルセーフを実施します。このときエンジン警告灯が点灯します。

#### ■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

#### ■ オートマチックトランスマッisionの保護制御

トランスマッisionフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに“トランスマッisionオイル 高温 安全な場所に停止してください”が表示され、自動的にシフトアップします。レクサス販売店で点検を受けてください。

#### ■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的にDポジションで走行中に走行モードをスポーツモード(→P.152)にしても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

#### ■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.143

#### ■ AI-SHIFT

● AI-SHIFTは、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切な変速段に切りかえます。

AI-SHIFTは、シフトレバーをDポジションでドライブモードセレクトスイッチをノーマルモードにしているとき自動的に作動します（シフトレバーをMポジションにすると機能が解除されます）。

● G AI-SHIFTは、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適切な変速段に切りかえます。

G AI-SHIFTは、シフトレバーをDポジションでドライブモードセレクトスイッチをスポーツモードにしていると

き自動的に作動します（ドライブモードセレクトスイッチをノーマルモードにするか、シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

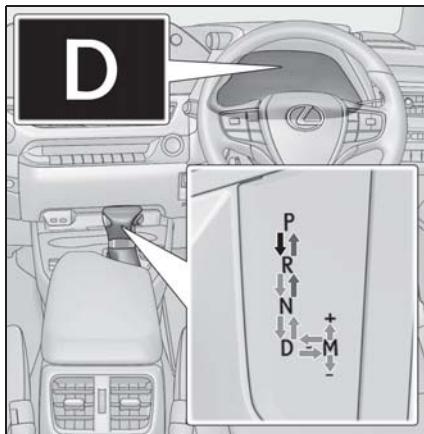
- NAVI・AI-SHIFT は、ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

## ⚠ 警告

### ■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピニングの原因になりますので注意してください。

## シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチが ON の

状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※



シフトレバーのボタンを押

しながら操作します。



シフトレバーのボタンを押

さす、そのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

\* シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。



## ■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

### ■シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

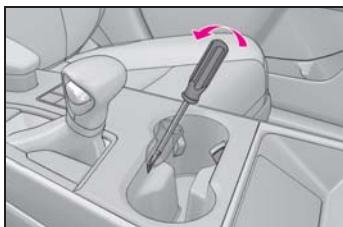
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→P.155）
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む

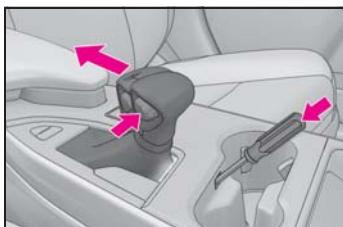
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



### 警告

#### ■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

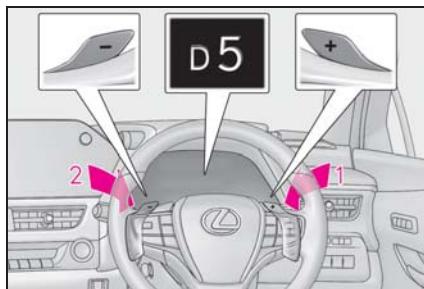
### 走行モードの選択

→P.265

#### D ポジションでレンジ選択するには（パドルシフトスイッチ装着車）

シフトレバーを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意の変速段を選択することができます。

変速段を選択することで、使用する変速段の上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえたりすることができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D10 レンジのあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “+” 側を一定時間以上保持します。



#### ■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、10 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

#### ■ D ポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレ

ンジ選択が解除されます。

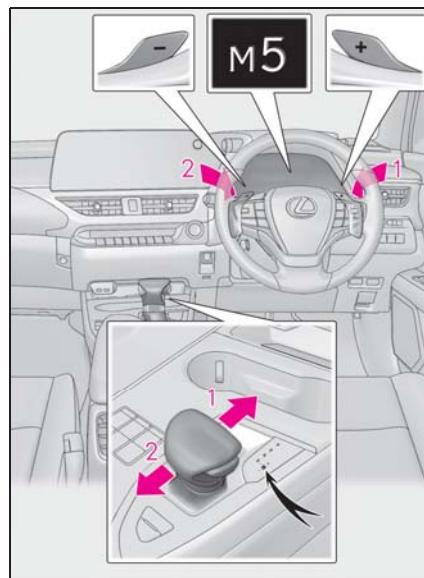
- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき
- パドルシフトスイッチの “+” 側を長押ししたとき

### ■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

## 10速スポーツシーケンシャル シフトマチックモードで変速段 を選択するには

シフトレバーを M ポジションになると、10速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★の “-” 側または “+” 側の操作で変速段を選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M10 の中で選択した変速段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。

M ポジションで走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、自動的に変速段が切りかわる場合があります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### □ 知識

#### ■ 変速段機能

- エンジンブレーキ力は、10 段階から選択が可能です。
- 変速段の数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転

数も高くなります。

### ■ M ポジションで走行中に停車したときは

- 停車すると自動的にM1にダウンシフトされます。
- 停止後走行するときはM1からの発進となります。
- 停止後はM1に固定されます。

### ■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

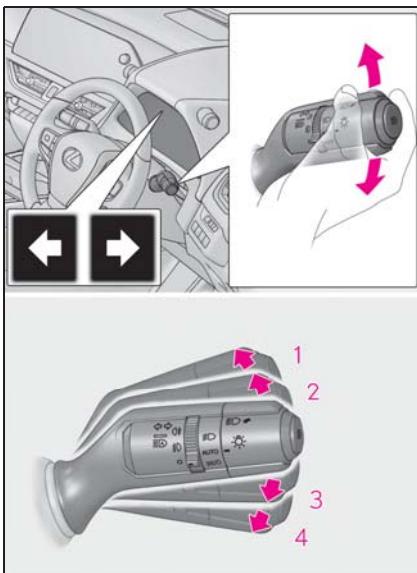
### ■ シフトレバーをMにしても、シフトポジション・変速段表示にMが表示されない、またはDが表示されるとき

システム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーをDにしているときと同じ制御になります。

## 方向指示レバー

### 操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

4 右折

### □ 知識

### ■ 作動条件

エンジンスイッチがONのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

## パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

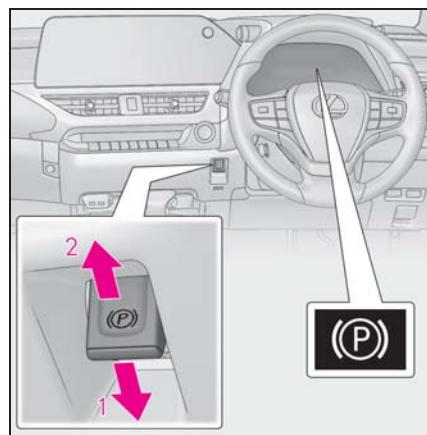
## 操作のしかた

### ■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

4

運転



- スイッチを押し、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。（→P.157）

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

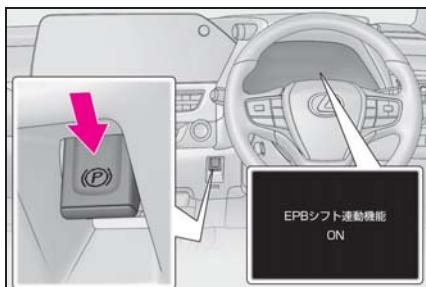
- スイッチを引き、パーキングブレーキを解除する

- ・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

### ■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける



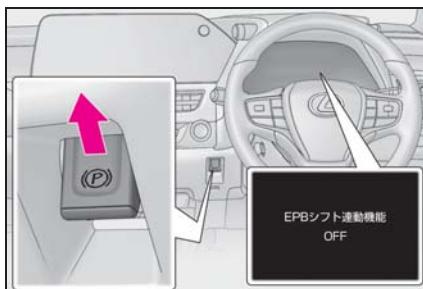
オートモードを ON になると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトレバーを P から P 以外 になると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトレバーを P 以外から P になると、パーキングブレーキがかかって、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

### ■ オートモードを OFF にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける



### □ 知識

#### ■ パーキングブレーキの作動

- エンジンスイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- エンジンスイッチが ON 以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

#### ■ パーキングブレーキ自動解除について

オートモード：

シフトレバーを P から P 以外 になると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

マニュアルモード：

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
  - 運転席シートベルトを着用しているとき
  - シフトレバーが D、M または R のとき
- マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限があります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに“EPB 動作が途中で停止しました”または“EPB 現在使用できません”と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

### ■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウーン”という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

### ■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ON以外：約15秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチをOFFにしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約15秒間点灯したままになります。異常ではありません。

### ■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードがONになります。

### ■駐車するとき

→P.138

### ■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPBがロックされています”と表示されます（車速が5km/hをこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.352

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.274



警告

### ■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

### ■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにし、車が動かないことを確認してください。

### ■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

### ■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

## ブレーキホールド

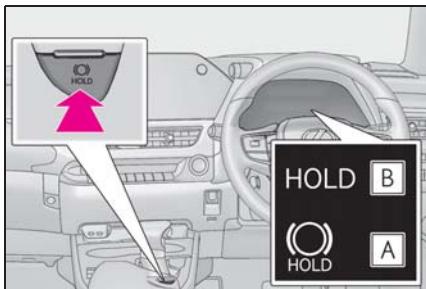
シフトレバーが D・M または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかつたまま保持されます。シフトレバーが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

### システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯

**A** が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯 **B** が点灯します。



#### □ 知識

#### ■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON できません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、「EPB 動作が途中で停止しました」や「EPB 故障 販売店で点検して

ください」が、表示されている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

#### ■ ブレーキ保持について

● ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

● ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

#### ■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。  
(→P.155)

### ■ レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスランバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

### ■ マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

### ■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

### ■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.355

### 注意

#### ■ 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF になると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

### 警告

#### ■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムでブレーキを保持できないことがあります。

#### ■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

## ASC (アクティブサウンドコントロール) ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ASC は、車室の前方から車内に向けて特殊な音を付加し、実際のエンジン音や排気音などと協調させることで、運転者が加速感やエンジンの状態を、より実感しやすくするためのシステムです。

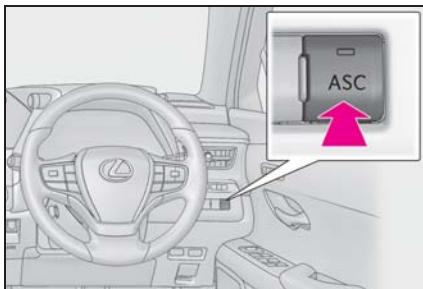
### 設定のしかた

ASC スイッチを押す

ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

走行モード（→P.265）がエコドライブモード／カスタムモード（パワートレーン制御が ECO）のときは、インジケーターが点灯していても ASC は作動しません。



#### □ 知識

#### ■ 作動条件

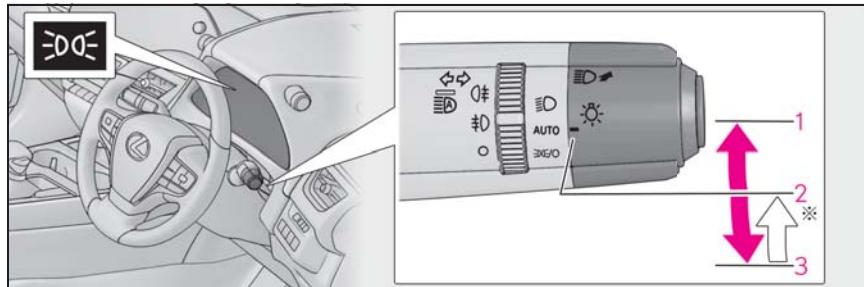
走行モード（→P.265）が、エコドライブモードまたはカスタムモード（パワートレーン制御が ECO）以外のとき

## ランプスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯・消灯できます。

### 点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



\* スイッチを **3**の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2**AUTOの位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
<b>1</b> 	ヘッドライト・スマートランプが点灯	
<b>2</b> AUTO <sup>※1</sup>	デイタイムランニングランプ (→P.162) が点灯	ヘッドライト・スマートランプ が点灯
<b>3</b>  <sup>※1</sup>	スマートランプが点灯	スマートランプが点灯 <sup>※2</sup>

上記の表のスマートランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

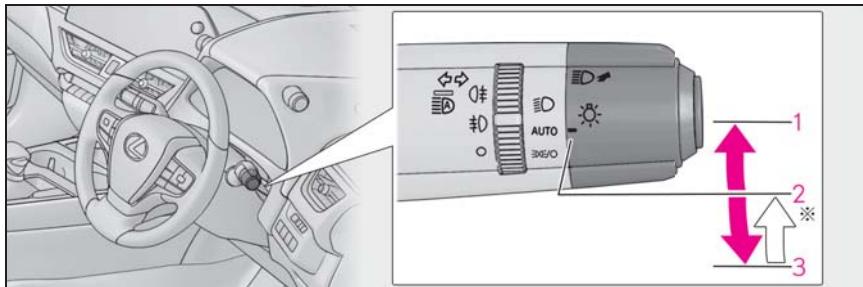
※<sup>1</sup>操作するたびに、**2**AUTOによる点灯状態と **3**による点灯状態が切りかわります。

※<sup>2</sup>停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2**AUTOによる点灯状態に切りかわります。

### 消灯のしかた

 スイッチを **3**の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1**  か **3**  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



\* スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2**  の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
<b>3</b> 	ヘッドライト・スマートランプ・デイタイムランニングランプ (→P.162) が消灯	ヘッドライト・スマートランプが消灯*

\* 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

## □ 知識

### ■ AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

### ■ デイタイムランニングランプ機能

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、デイタイムランニングランプが自動で点灯します。  
(車幅灯より明るく点灯します)

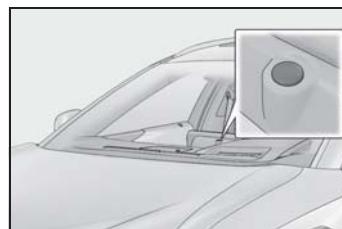
デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

### ■ 自動で点灯 / 消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドライトが自動点灯する場合があります。

### ■ ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



### ■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプス

イッチを AUTO にしてから  または

 の位置にします。

### ■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

### ■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが OFF の状態でヘッドライトまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

エンジンスイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

● ランプスイッチを操作したとき

● ドアを開閉したとき

### ■ おもてなし照明

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

### ■ ワイパー連動ヘッドライト点灯機能

日中の走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようヘッドライトが自動点灯します。

### ■ カスタマイズ機能

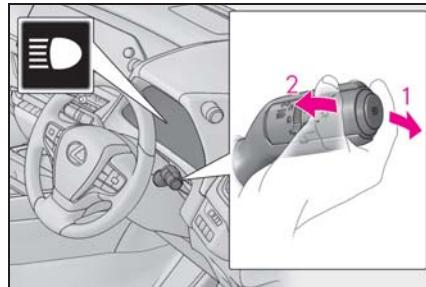
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧: →P.405)

### ■ 注意

#### ■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

### ■ ハイビームにするには



#### 1 ヘッドライト点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

#### 2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

### ■ コーナリングランプ★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドライト（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

● ハンドルを操作したとき

● 方向指示レバーを操作したとき

● シフトレバーが R のとき（左右両

側のコーナーリングランプが点灯)

### □ 知識

#### ■ コーナーリングランプ制御について

- 車速が約 30 km/h 以下のときに点灯します。ただし、約 35 km/h 以上になると消灯します。
- 点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

## AHS (アダプティブハイビームシステム) ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

### ⚠ 警告

#### ■ 安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

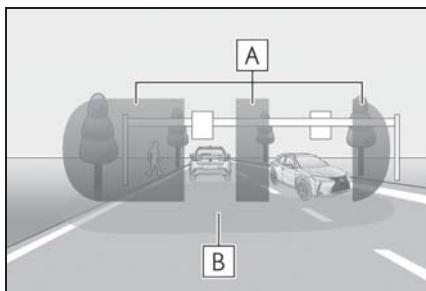
#### ■ アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

## システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。(遮光ハイビーム)

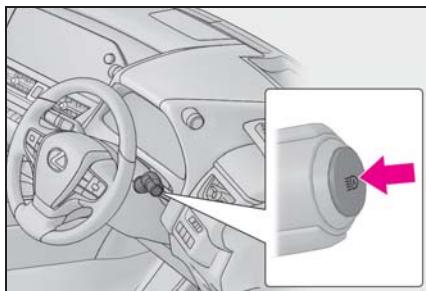
前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

**A** ハイビームで照らす範囲**B** ロービームで照らす範囲

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。
- 低速で走行しているとき、両側のコーナリングランプで車両側方を照らします。

## アダプティブハイビームシステムを使うには

- 1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

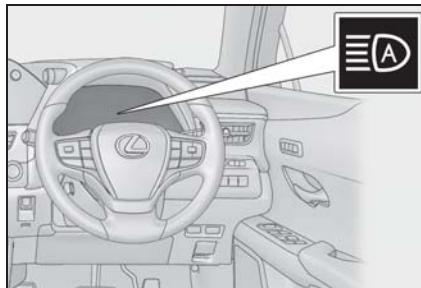


- 2 ランプスイッチをAUTOまたは

AUTOの位置にする

アダプティブハイビームシステムが作動

すると、AHS 表示灯が点灯します。



### 知識

#### ■システムの作動条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
  - ・ 車速が約 15km/h 以上 \*
  - ・ 車両前方が暗い

\* 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

- 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。

- ・ 車速が約 15km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がいる

- 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
  - ・ 車速が約 12km/h 以下
  - ・ 車両前方が明るい
  - ・ 前方車両の台数が多い

- 車速が約 3 ~ 15km/h のとき、両側のコーナリングランプが点灯します。

#### ■前方カメラの検知について

- 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
  - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき

- ・他車が前方を横切ったとき
- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
  - ・前方車両のランプの明るさ
  - ・前方車両の動きや向き
  - ・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
  - ・前方車両が二輪車のとき
  - ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
  - ・乗車人数や荷物の量
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
  - ・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
  - ・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
  - ・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
  - ・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
- ・前方カメラが極端に高温になっているとき
- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
- ・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- ・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

## ■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.405）

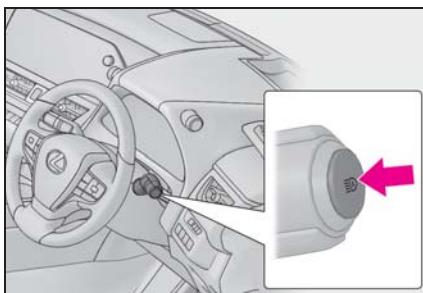
### 手動制御に切りかえるには

#### ■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度アダプティブハイビームシステムスイッチを押します。

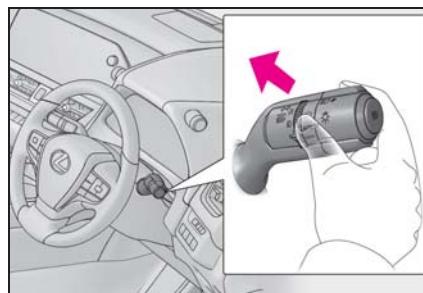


### ■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

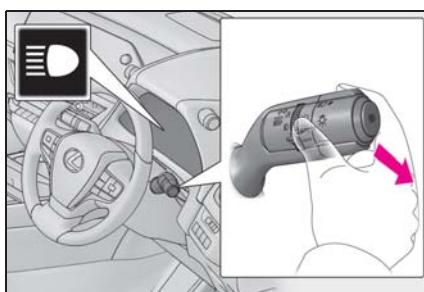
アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



### □ 知識

#### ■一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。



### ■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだは、ハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。

## AHB（オートマチックハイビーム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

### ⚠ 警告

#### ■ 安全にお使いいただくために

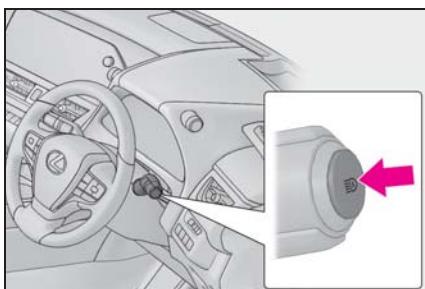
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

#### ■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

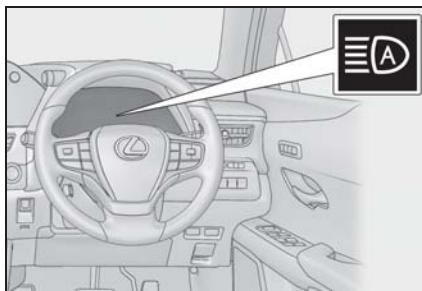
## オートマチックハイビームを使うには

### 1 オートマチックハイビームスイッチを押す



### 2 ランプスイッチをAUTOまたは AUTOの位置にする

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



### □ 知識

#### ■ ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・車速が約 30km/h 以上
- ・車両前方が暗い
- ・前方にランプを点灯した車両がいない
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・車速が約 25km/h 以下
- ・車両前方が明るい
- ・前方車両がランプを点灯している
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

#### ■ 前方カメラの検知について

- 次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- ・他車が前方を横切ったとき
- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・前方車両が無灯火のとき

- 前方車両のフォグランプにより、ハイ

ビームがロービームに切りかわる場合があります。

● 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

● 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- ・ 前方車両のランプの明るさ
- ・ 前方車両の動きや向き
- ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- ・ 前方車両が二輪車のとき
- ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・ 乗車人数や荷物の量

● ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

● 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

● 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・ 前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
- ・ 前方カメラが極端に高温になっているとき
- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき

- ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

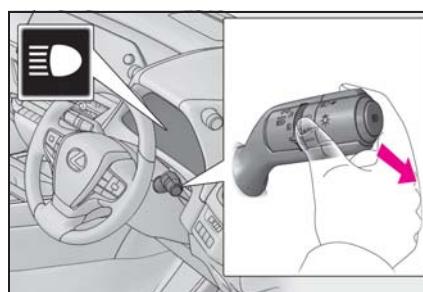
## 手動制御に切りかえるには

### ■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



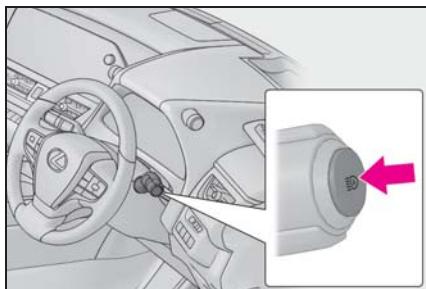
### ■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯

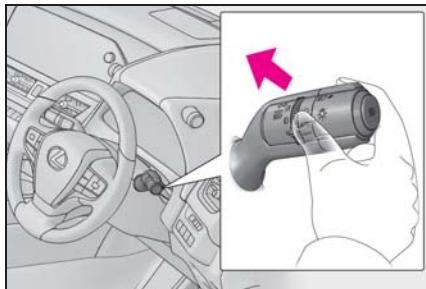
します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。



#### ■一時的なロービームへの切りかえ

レバーを引き、もとの位置にもどすレバーを引いているあいだは、ハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



#### □ 知識

#### ■一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

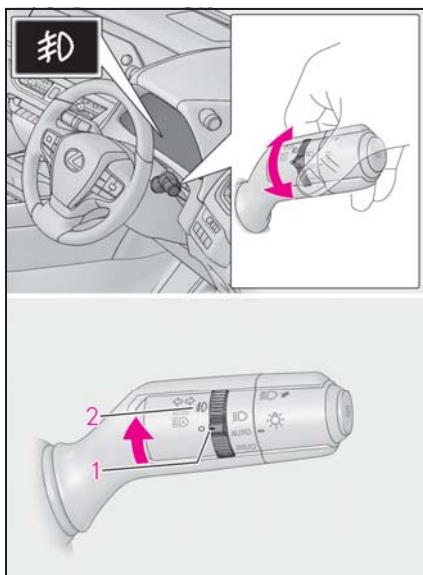
## フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプ★を、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプ★を点灯させます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 操作のしかた

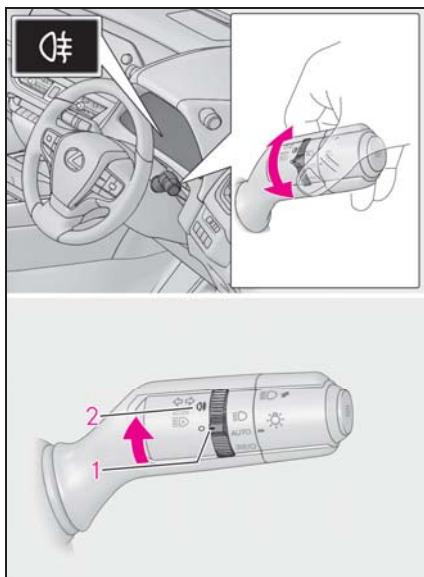
### ▶ フロントフォグランプ装着車



1 ○ 消灯する

2 禁止点灯する

## ▶ リヤフォグランプ装着車



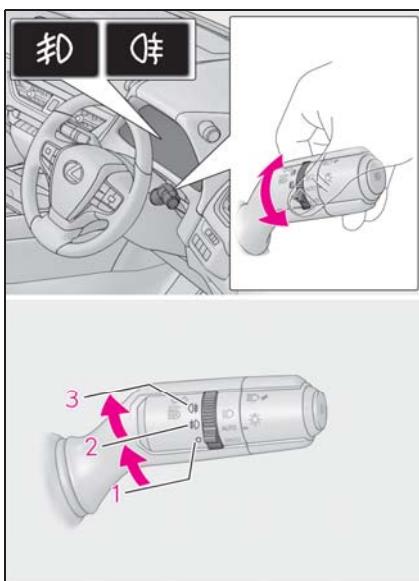
1 ○ 消灯する

2 ⚡ 点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると消灯します。

## ▶ フロント&amp;リヤフォグランプ装着車



1 ○ 消灯する

2 ⚡ フロントフォグランプを点灯する

3 ⚡ フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと ⚡ の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■ 点灯条件

## ▶ フロントフォグランプ装着車

ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

## ▶ リヤフォグランプ装着車

ヘッドライトが点灯しているときに使用できます。

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■ リヤフォグランプ★について

● リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

● 雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

## ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているときは

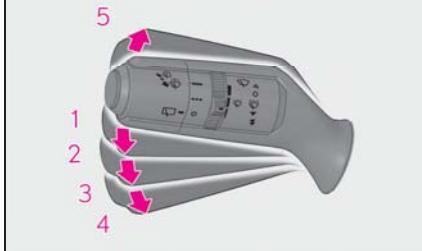
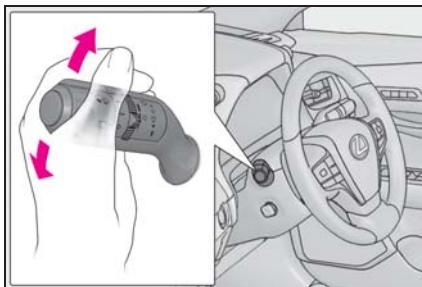
ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

## 操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー

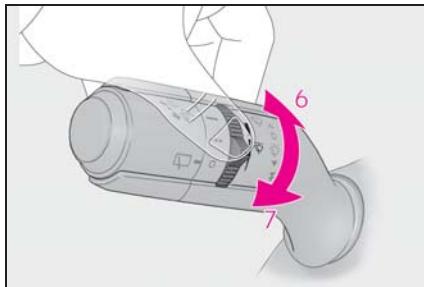


1 ○ 停止

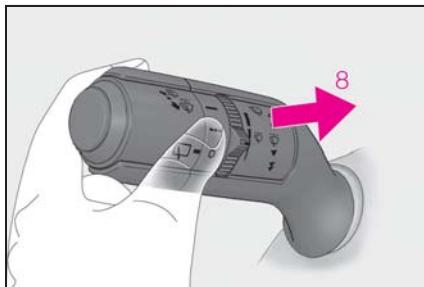
- 2  間欠作動
- 3 ▼ 低速作動
- 4 ▼ 高速作動
- 5 △ 一時作動

を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

間欠作動の時間は、車速に応じてかわります。



- 6 間欠ワイパーの作動頻度（増）
- 7 間欠ワイパーの作動頻度（減）



### 8 ウオッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

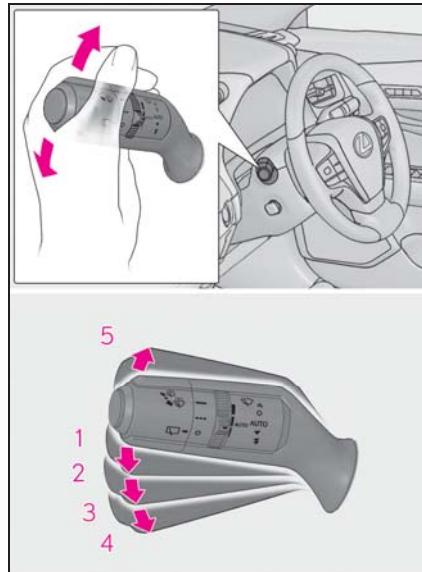
ワイパーが連動して作動します。（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。）

ヘッドランプクリーナー装着車：  
ヘッドランプが点灯しているときに5回

連続で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。

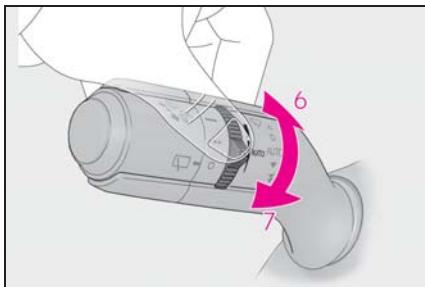
### ► 雨滴感知式ワイパー

AUTOを選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

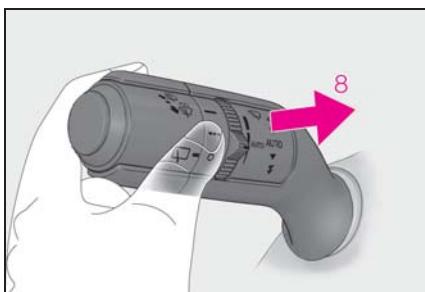


- 1 ○ 停止
- 2 AUTO AUTO モード
- 3 ▼ 低速作動
- 4 ▼ 高速作動
- 5 △ 一時作動

AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



- 6 雨滴センサーの感度調整（高）**  
**7 雨滴センサーの感度調整（低）**



- 8 ☰ ウオッシャー液を出す**  
 レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。  
 ワイパーが連動して作動します。（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。）  
 ヘッドランプクリーナー装着車：  
 ヘッドランプが点灯しているときに5回連續で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。

### □ 知識

#### ■ 作動条件

エンジンスイッチがONのとき

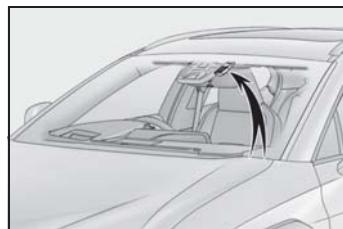
#### ■ 車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

#### ■ 雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- エンジンスイッチがONのときにワイパースイッチをAUTOにすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTOモード以外でワイパーを使用してください。

#### ■ ウオッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

#### ■ ドア開運動ワイパー停止機能

シフトレバーがPの状態でワイパーが作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

## ⚠ 警告

### ■ AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

### ■ ウオッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## ⚠ 注意

### ■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

### ■ ノズルがつまたときは

ノズルがつまたときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

### ■ バッテリーあがりを防止するために

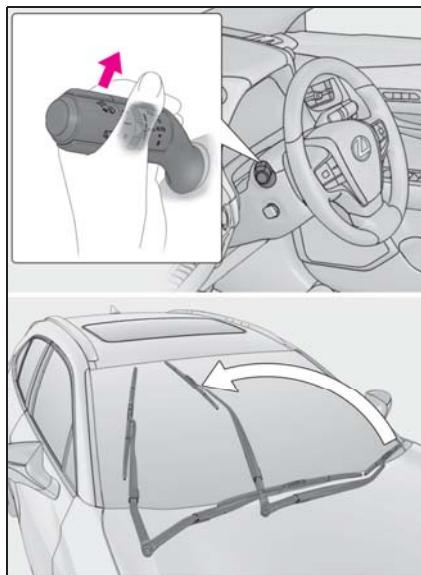
エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

### ■ サービスポジションへ切りかえる

エンジンスイッチを OFF にしたあと、約 45 秒以内にワイパースイッチを △ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



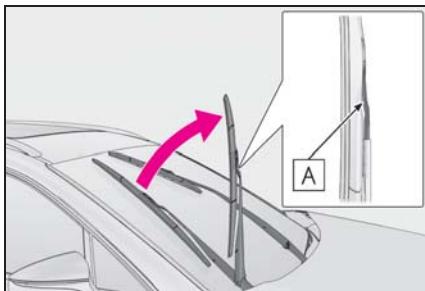
### ■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部 A を持つてガラス面から引き上げる

## ワイパーの停止位置切りかえ／ ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。

寒冷時やワイパーゴムを交換すると



### □ 知識

#### ■ ワイパーを格納位置にもどすには

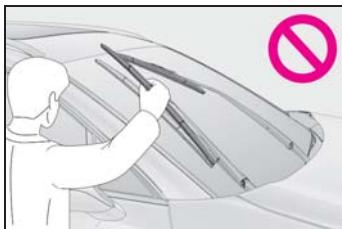
ワイパーを倒した状態でエンジンスイッチをONにし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。エンジンスイッチがOFFのときにワイパーがずれてしまっていても、作動後は正常な位置にもどります。



#### 注意

##### ■ ワイパーを立てるときは

- ワイパーがボンネット下の格納位置にあるときは、ワイパーを立てないでください。格納位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパープレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

### ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

レバー・スイッチ操作でリヤワイパーやウォッシャーを作動させることができます。

#### ⚠ 注意

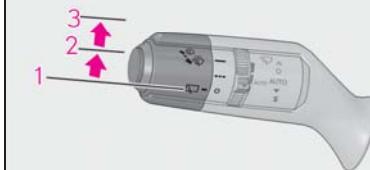
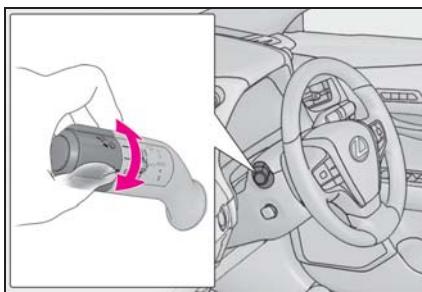
- リヤウンドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

### 操作のしかた

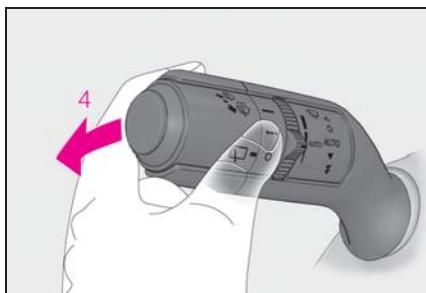
次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



1 ○ 停止

2 ---間欠作動

3 ——通常作動



#### 4 ウオッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。  
ワイパーが連動して作動します。

#### 知識

##### ■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

##### ■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのに  
ウォッシャー液が出ないときは、ノズル  
のつまりを点検してください。

##### ■ リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトレ  
バーを R に入れるとリヤワイパーが 1 回  
作動します。

##### ■ バックドア開連動リヤワイパー停止機 能

停車状態でリヤワイパーが作動している  
ときにバックドアを開けると、ワイパー  
の水しぶきが車両の近くにいる人にかかる  
のを防ぐためにワイパーの作動が停止  
します。バックドアを閉めると作動を再  
開します。※

※ レクサス販売店での設定変更が必  
要です。

##### ■ カスタマイズ機能

リバース連動機能などの設定を変更でき  
ます。(カスタマイズ一覧 : →P.406)

#### 注意

##### ■ ウオッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けな  
いでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

##### ■ ノズルがつまたときは

ノズルがつまたときはレクサス販売  
店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

##### ■ バッテリーあがりを防止するため

エンジンを停止した状態でワイパーを  
長時間作動しないでください。

## 給油口の開け方

### 給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFFにしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

### 知識

#### ■ 燃料の種類について

- 無鉛プレミアムガソリン※
  - バイオ混合ガソリン（プレミアム）
- ※ 無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。その場合、エンジン性能を十分に発揮できません。

#### ■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

### 警告

#### ■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどつたり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。  
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 噸煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 繰ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

### 注意

#### ■ 給油するとき

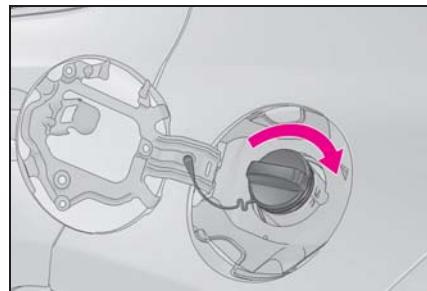
指定のガソリンを使用してください。  
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。  
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する

**⚠ 注意**

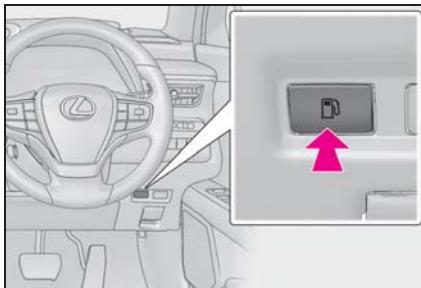
- 塗装が損傷する

\* エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの



### 給油口を開けるには

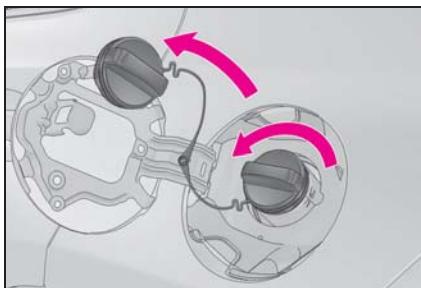
- 1 給油口オープナースイッチを押す



**⚠ 警告**

- キャップが正常に閉まらないとき  
必ずレクサス販売店へご連絡ください。  
正常に閉まらないキャップをそのまま  
使用したり、純正品以外のキャップを  
使用すると、火災などを引き起こし、  
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死  
亡につながるおそれがあります。

- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



**□ 知識**

#### ■ 給油扉が開かないとき

→P.384

### 給油口を閉めるには

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める  
手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

## Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

### 運転支援装置

- PCS (プリクラッシュセーフティ)  
→P.185
  - LTA (レーントレーシングアシスト)  
→P.195
  - AHS (アダプティブハイビームシステム) ★  
→P.164
  - AHB (オートマチックハイビーム) ★  
→P.168
  - RSA (ロードサインアシスト)  
→P.204
  - レーダークルーズコントロール  
(全車速追従機能付き)  
→P.207
  - 先行車発進告知機能  
→P.219
  - ドライバー異常時対応システム  
→P.221
- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ! 警告

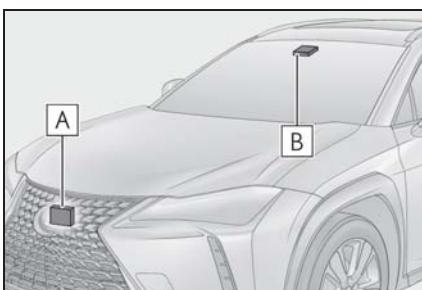
#### ■ Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

### 前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある2種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



**A** レーダー

**B** 前方カメラ

### ! 警告

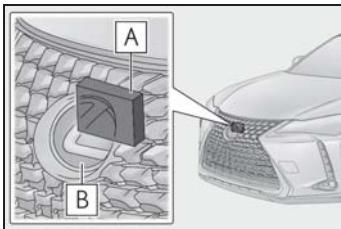
#### ■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## ⚠️ 警告

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



**A** レーダー

**B** レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼つたりしない

レーダー周辺への強い衝撃を避ける  
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

レーダーを分解しない

レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき

- フロントバンパーを交換したとき

## ■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

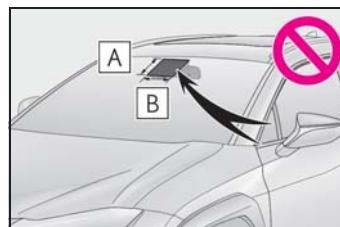
フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

- フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

- フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



**A** フロントウインドウガラス上端から  
前方カメラ下端より下約 1cm まで

**B** 約 20cm (前方カメラ中心から左右  
約 10cm)

**⚠ 警告**

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取る：→P.280）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパークリーナーを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する  
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。  
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷をつけたりしない  
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。  
レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない  
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドライトなどのランプ類を改造しない

知識

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウインドウガラスの曇りを取る：→P.280）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。 極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ポンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ポンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ レーダー向き調整中 取扱書確認ください”が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あつた場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

- ・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
- ・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき

- 車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき  
その場合には “プリクラッシュセーフティ 現在使用できません 取扱書確認ください”  
” が表示されます。

## PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.185）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティのON／OFFや、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.188）

### システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

### 機能一覧

#### ■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



#### ■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

#### ■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

#### ■ 低速時加速抑制

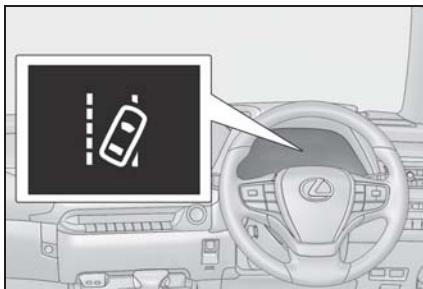
低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



#### ■ 緊急時操舵支援

衝突する可能性が高く自車線内に回

避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があつたとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。作動時には、表示灯が緑色に点灯します。

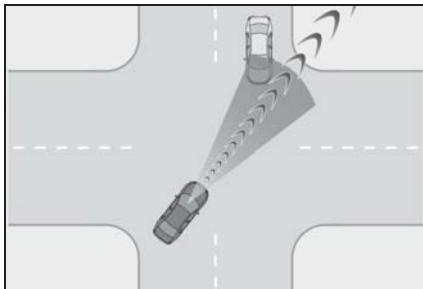


### ■ 交差点右左折支援

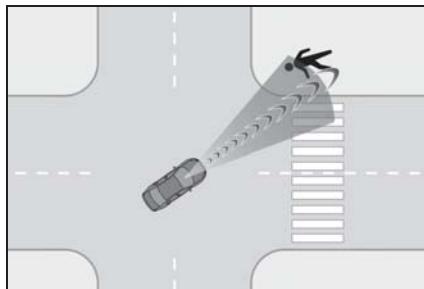
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

### ● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



### ● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



### ■ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS (→P.268) によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### **!** 警告

#### ■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## ⚠️ 警告

- プリクラッシュブレーキは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.191
- ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.193
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

## ■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

## ■ 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

## ■ 緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

- ・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
- ・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。
- ・ 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

## ⚠ 警告

### ■ プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパー やフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

## プリクラッシュセーフティの設定変更

### ■ プリクラッシュセーフティの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの (→P.72) から、プリクラッシュセーフティの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



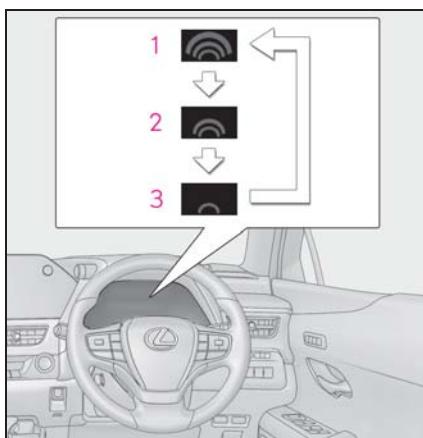
### ■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの (→P.72) から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

「遅い」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。



**1 早い**

**2 中間**

初期設定

**3 遅い**

## 知識

### ■ プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- ・ バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- ・ シフトレバーが R のとき
- ・ VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

#### ● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ~ 180km/h	約 10 ~ 180km/h
対向車両	約 10 ~ 180km/h	約 20 ~ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ~ 80km/h	約 10 ~ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ~ 180km/h	約 30 ~ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ~ 80km/h	約 30 ~ 80km/h

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ~ 180km/h	約 10 ~ 180km/h
対向車両	約 10 ~ 180km/h	約 20 ~ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ~ 80km/h	約 10 ~ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

● 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを離す
  - ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- 緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 40 ~ 80km/h	約 40 ~ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
  - ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
  - ・ ブレーキペダルを踏む
- 交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ~ 25km/h	約 30 ~ 55km/h	約 40 ~ 80km/h
歩行者	約 10 ~ 25km/h	—	約 10 ~ 25km/h

### ● 交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ~ 25km/h	約 30 ~ 45km/h	約 45 ~ 70km/h
歩行者	約 10 ~ 25km/h	—	約 10 ~ 25km/h

### ■ 作動対象の検出

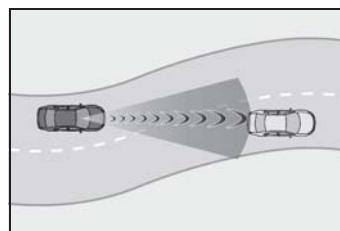
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.193）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。

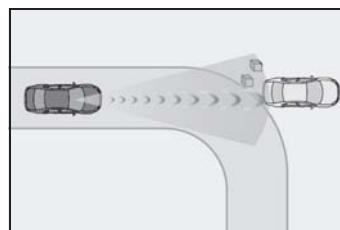


### ■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

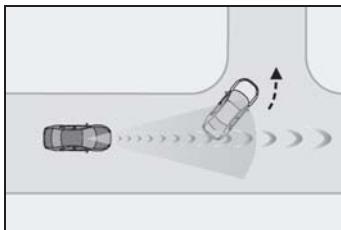
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
  - ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
  - ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
  - ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



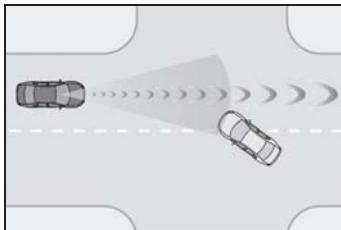
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



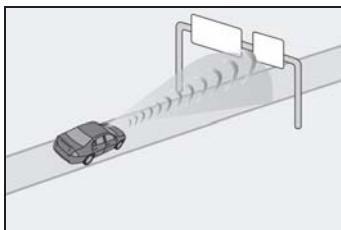
- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



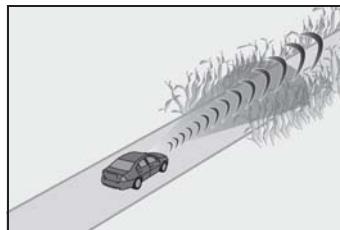
- 右左折待ちの作動対象などとそれ違うとき



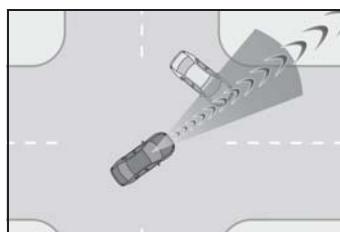
- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- 洗車機を使用するとき
- 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



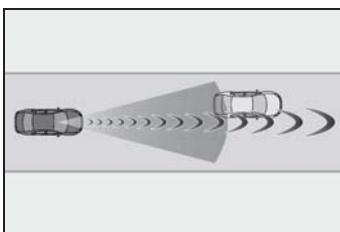
- 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- 右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
- 右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
- 右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
- 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- 右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
- 右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- 右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がぶらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸から離れているとき

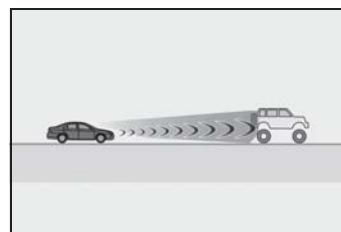


- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んでいたり、飛び出してきていたりしたとき

- ・ 自車の前方に水・雪・土ほこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドライト光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

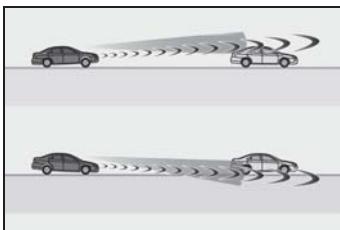


- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



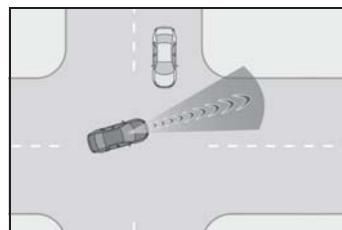
- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロン

- グスカートを着用している場合など)
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- 自車が横すべりしているとき
- 車両姿勢が変化しているとき

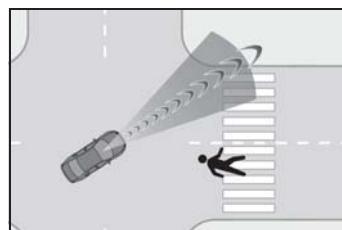


- ホイールアライメントがずれているとき
- ワイパー・ブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- 坂道を走行しているとき
- 前方センサーの向きがずれているとき
- 右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも2つ以上離れた車線を走行しているとき

- 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- 右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。

- 車線を区切る白（黄）線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど）とき
- 車線幅が狭いとき、または広いとき
- 工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
- 対象に近づきすぎたとき
- 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
- 対向車がいるとき
- VSC が作動しているとき

●例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

- ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
- 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき

- ・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- ・道路面に深いわだちがあるとき
- ・坂道を走行しているとき
- ・左右に傾きのある道路を走行しているとき

#### ■VSC を停止したとき

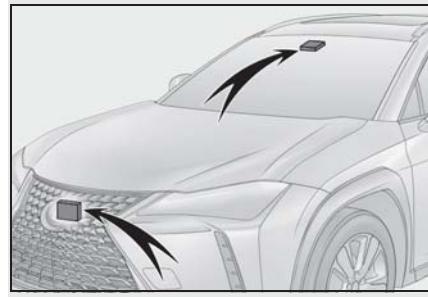
- VSC の作動を停止 ( $\rightarrow$ P.269) したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します” が表示されます。

## LTA (レーントレーシングアシスト)

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路<sup>\*</sup>からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路<sup>\*</sup>からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）( $\rightarrow$ P.207) の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路<sup>\*</sup>を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

<sup>\*</sup> アスファルトと草・土・縁石等の境界



## ⚠ 警告

### ■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

- 適切な運転操作をしなかつたり、注意を怠つたりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

### ■ LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

- 雪道を走行しているとき

- 水たまりや雨・雪・霧・砂ほこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

- 工事区間を走行しているとき

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

- 車両けん引時

### ■ LTA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼つたりしないでください。

- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

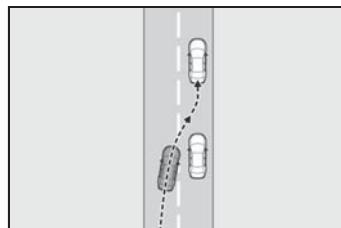
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

### ■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車追従表示中（→P.200）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）

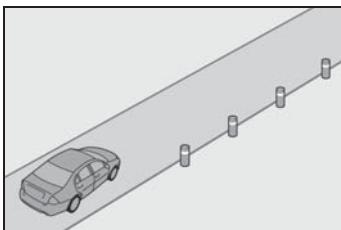


- 先行車追従表示中（→P.200）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

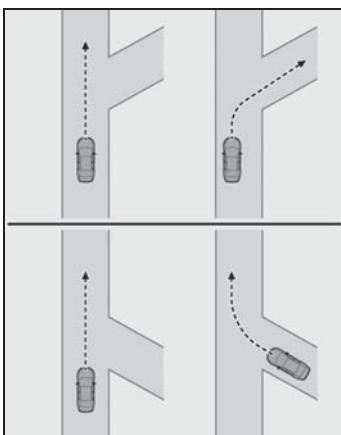
- 先行車追従表示中（→P.200）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

## ⚠️ 警告

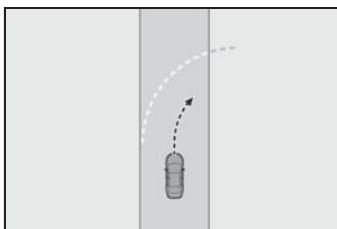
- 先行車追従表示中（→P.200）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行し、レーンをはみ出るおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



- 分岐・合流路などを走行するとき



- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあらざるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャツツアイ（道路銛）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドライト光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき

## ⚠ 警告

- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなつたとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

## LTA に含まれる機能

### ■ 車線逸脱警報機能

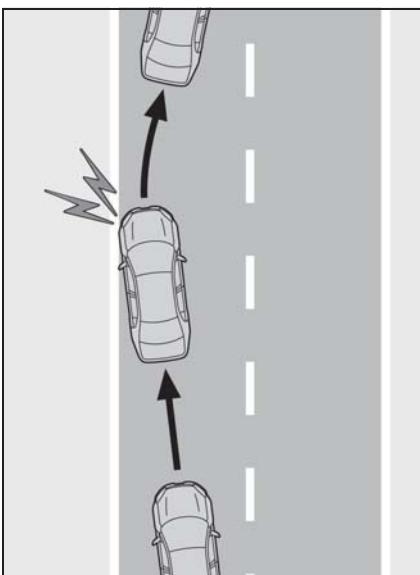
車両が車線または走路<sup>※</sup>から逸脱する可能性がある場合に、マルチイン

フォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があつたとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路<sup>※</sup>内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

<sup>※</sup> アスファルトと草・土・縁石等の境界



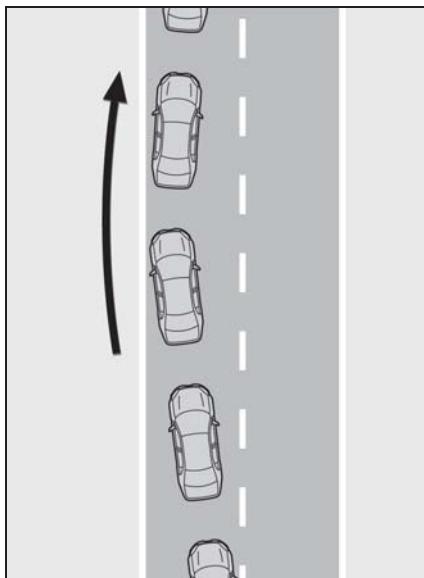
### ■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路<sup>※</sup>から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性が

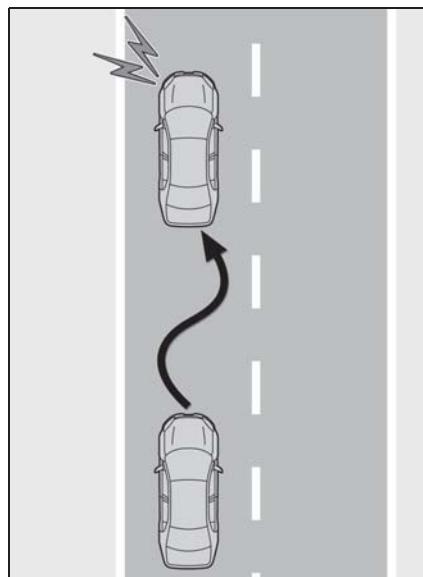
あるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

\* アスファルトと草・土・縁石等の境界



### ■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

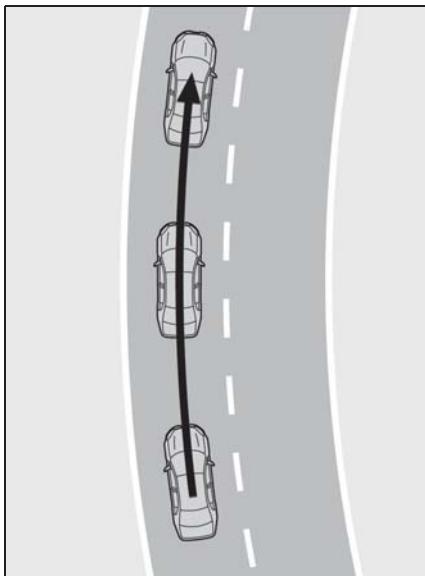


### ■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。



## 設定のしかた

### ■ 車線維持支援機能のON/OFF を変更するには

LTAスイッチを押す

スイッチを押すごとに、車線維持支援機能のON/OFFが切りかわります。

車線維持支援機能がONのとき：“LTA  
操舵支援あり センタートレースあり”  
と表示されます。

LTAをONになると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



### ■ LTAをOFFにする

LTAスイッチを長押しする

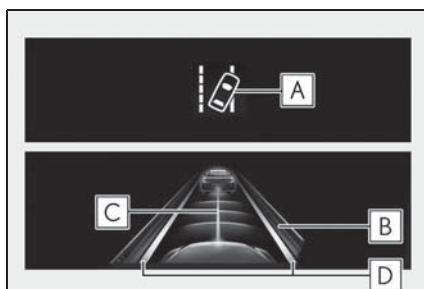
LTAがOFFされると、LTA表示灯が消灯します。

ONにするには、再度スイッチを押します。

エンジンスイッチがONになるとシステムはONになります。

ただし、車線維持支援機能は、エンジンスイッチがOFFになる前の状態が継続します。

## マルチインフォメーションディスプレイ表示



### A LTA表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

### B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

ます。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

### C 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

### D 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

### ▶ 白線表示の内側が白いとき

### ▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※<sup>2</sup>を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

### □ 知識

#### ■ 各機能の作動条件

##### ● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA を ON しているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき ※<sup>1</sup>
- ・ システムが白（黄）線または走路※<sup>2</sup>を認識しているとき（白〔黄〕線または走路※<sup>2</sup>が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.203）

※<sup>1</sup>車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※<sup>2</sup>アスファルトと草・土・縁石等の境界

##### ● 車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、



システムが白（黄）線または走路※<sup>2</sup>を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・一定以上の加減速がないとき
- ・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・TRC または VSC を OFF にしていないとき

#### ● ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・マルチインフォメーションディスプレイの  で “ふらつき検知” を “On” に設定しているとき (→P.72)
- ・車速が約 50km/h 以上のとき
- ・車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・システムの異常が検知されていないとき (→P.203)

#### ● 車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・LTA を ON にしているとき
- ・マルチインフォメーションディスプレイの  で “センタートレース” を “On” に設定しているとき (→P.72)
- ・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
- ・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
- ・車線の幅が約 3 ~ 4m のとき
- ・方向指示レバーを操作していないとき
- ・急カーブを走行していないとき
- ・システムの異常が検知されていないとき (→P.203)
- ・一定以上の加減速がないとき
- ・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ABS・VSC・TRC・PCS が作動してい

ないとき

- ・TRC または VSC を OFF にしていないとき
- ・手放し運転に対する注意喚起 (→P.203) が行われていないとき
- ・車線中央付近を走行しているとき
- ・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

#### ■ 機能の一時解除

- 作動条件 (→P.201) が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

- 車線維持支援機能作動中に、作動条件 (→P.201) が満たされなくなった場合、ハンドル振動または “ピピッ” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。また、カスタマイズ設定で “警報手段” を  に設定している場合は、ブザーの代わりにハンドル振動でお知らせします。

#### ■ 車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかつたり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかつたりすることがあります。

- これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

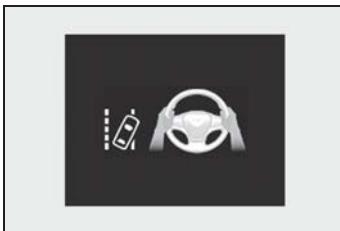
#### ■ 車線逸脱警報機能について

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

- 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。
  - BSM装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
  - 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。
- ※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

### ■ 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 車線維持支援機能作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

また、警報手段を に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

- 車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

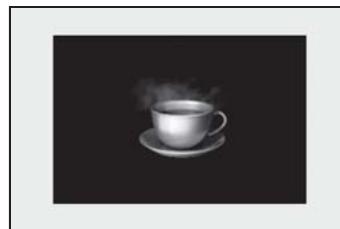
- 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

また、警報手段を に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

### ■ ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

### ■ 警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- “LTA故障 販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。  
レクサス販売店で点検を受けてください。

● “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いつたん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

● “LTA 現在の車速では使用できません”

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

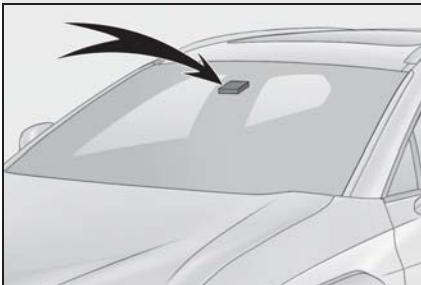
■ カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。

(カスタマイズ一覧 : →P.406)

## RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音もしくはハンドルの振動で運転者に告知します。

### ⚠ 警告

#### ■ RSAをお使いになる前に

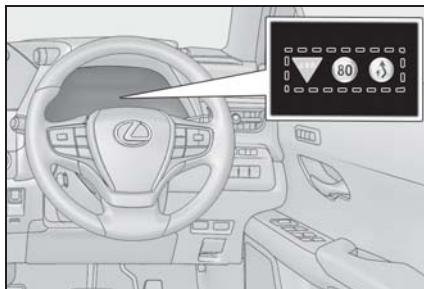
RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

## マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）に

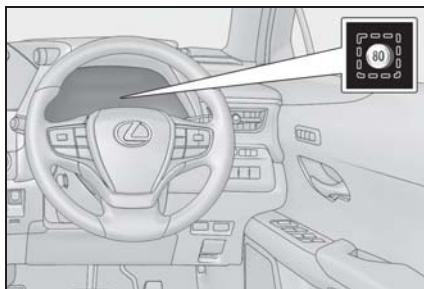
よって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- 運転支援機能情報を選択したときは、最大3つの標識を表示できます。（→P.72）



- 運転支援機能情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。

- ・ 最高速度標識
- ・ 車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

## 認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。



：最高速度



：車両進入禁止



：一時停止



：はみ出し通行禁止



：終わり \*

\* マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

## 告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やハンドル振動をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

## 知識

### ■ 設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す
- 3 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択し、“OK” を押す
- 4 メーター操作スイッチの  または  を押して “RSA” を選択し、“OK” を押す

### ■ RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

### ■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に

標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドラランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼っているとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかつたり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が

### 古いとき

- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

### ■ 速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回エンジンスイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

### ■ マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

### ■ カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧: →P.407)

## レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

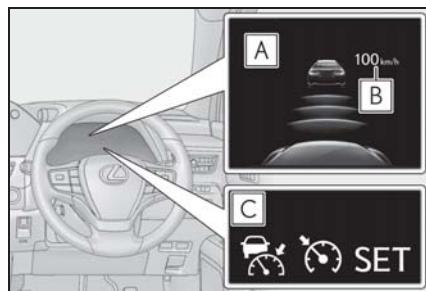
通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード (→P.210)
- 定速制御モード (→P.213)
- 通信利用型レーダークルーズコントロール (ITS Connect 装着車のみ) (→P.214)

## システムの構成部品

### ■ メーター表示

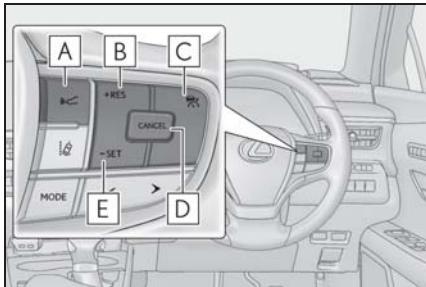


**A** マルチインフォメーションディスプレイ

**B** 設定速度

**C** 表示灯

## ■ 操作スイッチ



- A** 車間距離切りかえスイッチ
- B** “+RES” スイッチ
- C** クルーズコントロールメインスイッチ
- D** キャンセルスイッチ
- E** “-SET” スイッチ

### ⚠ 警告

#### ■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.217
- ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.218

● 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

#### ■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。  
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容  
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。  
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

## ⚠ 警告

- 運転者が判断する過程での支援内容  
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容  
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。

適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

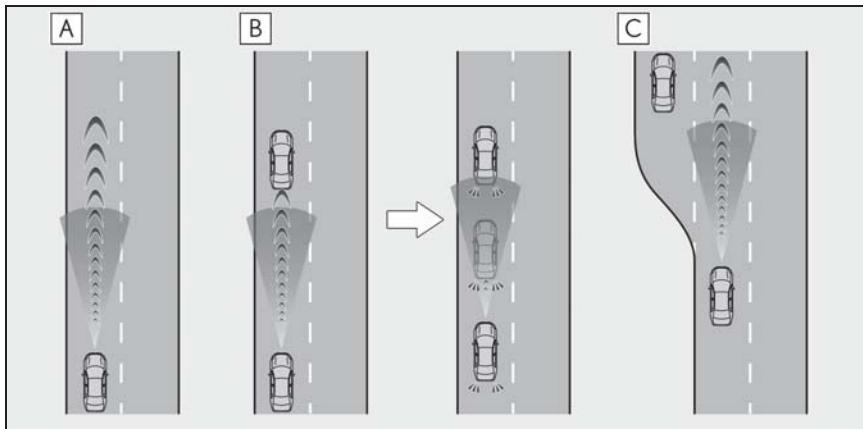
- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂  
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口

- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

## 車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約100m以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



### A 定速走行 :

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

### B 減速走行一追従走行 :

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、「+RES」スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約80km/h以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

### C 加速走行 :

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

## 速度を設定する（車間制御モード）

- 1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

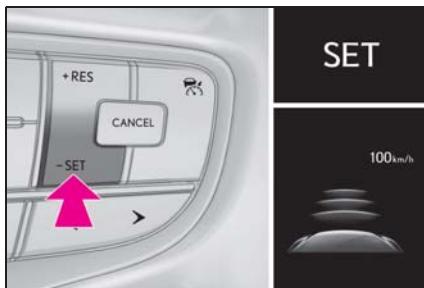
クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.213）



- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET”スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

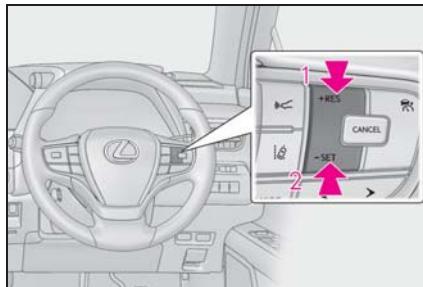
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



## 設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+RES” スイッチまたは “-SET” スイッチを押します。



- 1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

- 2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→P.213）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

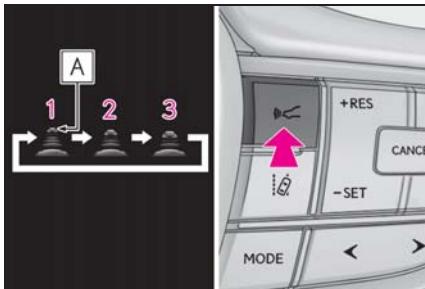
- アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

- 2 “-SET”スイッチを押す

## 車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切り替えます。



- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク**A**も表示されます。

## 車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

(車速 80km/h で走行している場合)  
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかるらず状況に応じた車間距離で停車します。

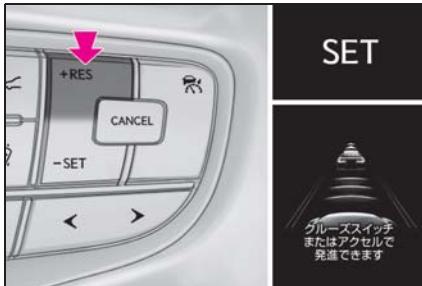
車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

## 制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

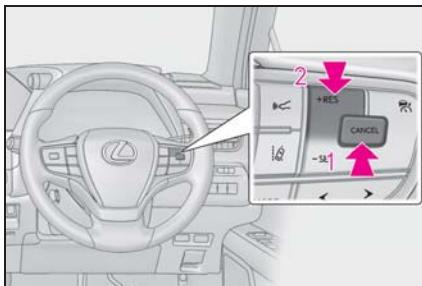
先行車の発進後、「+RES」スイッ

チを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



## 制御を解除する・復帰させる



- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

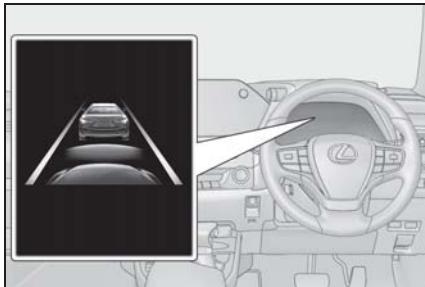
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

- 2 制御を復帰させるには、「+RES」スイッチを押す

## 接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

さい。



### ■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

## カーブ速度抑制機能

車間制御モードでの走行中、システムが必要と判断したときに車速を抑制します。

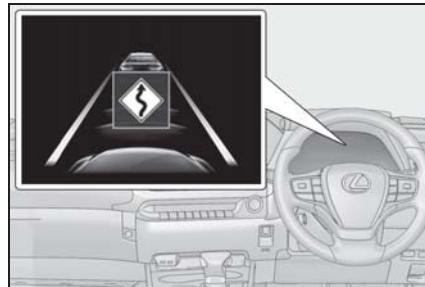
### ■ システム作動について

ハンドルをまわし始めると、車速の抑制を開始します。その後、ハンドルを戻すと車速の抑制が終了します。

状況に応じて車間制御モードの設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

### ■ システム作動時の表示



車速抑制中であることを示しています。

車速の抑制が終了すると、表示が消灯します。

### ■ カーブ速度抑制機能の設定を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの (→P.72) から、カーブ速度抑制機能の速度抑制の強弱や、ON/OFF を切りかえることができます。

“OK”を押すごとに設定が切りかれます。

## 定速制御モードでの走行

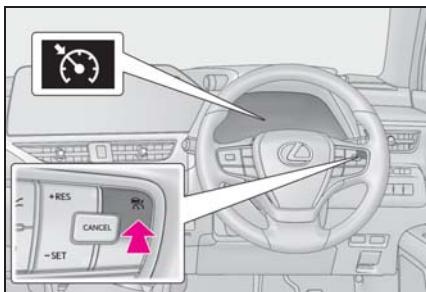
定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、ク

ルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



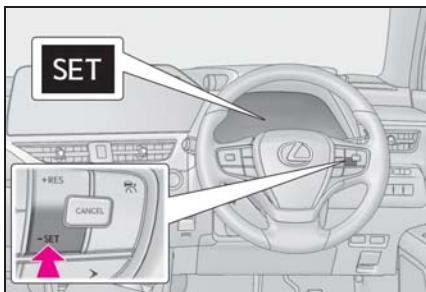
- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET”スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる  
(→P.211)

制御を解除する・復帰させる  
(→P.212)



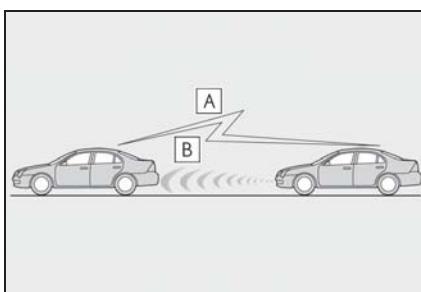
## 通信利用型レーダークルーズコントロール (ITS Connect 装着車)

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P.226 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

### ■ 情報取得



#### A 行先車との通信

加減速情報などを取得します。

#### B レーダー

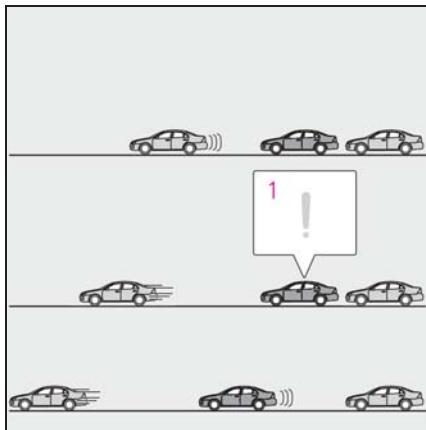
車間距離情報などを取得します。

### ■ システム作動について

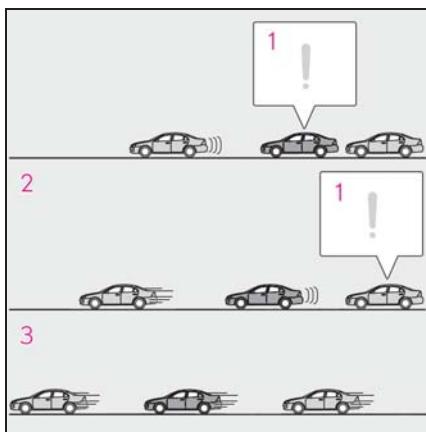
先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

### ● 車間制御モード



- 1 先行車の発進に遅れて気づく
- 通信利用型レーダークルーズコントロール

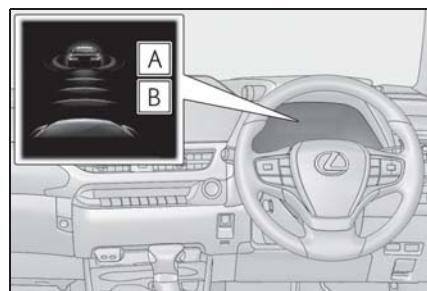


- 1 先行車の発進に素早く気づく
  - 2 スムーズな加速で追従
  - 3 短時間で渋滞解消
- 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの 画面 ( $\rightarrow$ P.72) から、通

信利用型クルーズコントロールの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

### ■ システム作動時の表示



**A** 先行車通信マーク

**B** 車間距離表示

### ■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動レベルがかわります。( $\rightarrow$ P.212)

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

### □ 知識

#### ■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。  
(ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます)

### ■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

### ■追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に “+RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約 3 秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

### ■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- VSC が作動したとき
  - TRC が一定時間作動したとき
  - TRC または VSC を OFF にしたとき
  - センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
  - 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
  - パーキングブレーキが作動したとき
  - 急坂路で制御停車したとき
  - 制御停車中に次を検出したとき
    - ・ 運転席シートベルトを着用していない
    - ・ 運転席ドアが開いた
    - ・ 車両が停止したあと約 3 分経過した
- 上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

### ■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
  - 車速が約 30km/h 未満になったとき
  - VSC が作動したとき
  - TRC が一定時間作動したとき
  - TRC または VSC を OFF にしたとき
  - 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
  - パーキングブレーキが作動したとき
- 上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。
- ### ■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況
- 次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。
- 緩やかなカーブを走行しているとき
  - アクセルペダルを操作しているとき
  - 極端に短いカーブを走行しているとき
- ### ■通信利用型レーダークルーズコントロールについて
- 本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
  - 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。
  - 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

## ■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

- 先行車との通信が途絶したとき
- センサーが先行車を誤って検知したとき
- トンネルやビル街などで、自車または先行車のGPS受信状態や通信状態が悪化しているとき
- 雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき
- 急な坂道を走行しているとき
- 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき
- 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

## ■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわつたりすることがありますが異常ではありません。

## ■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.183, 360）

## ■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速

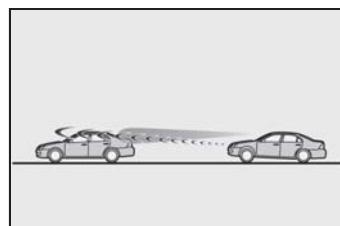
が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.212）も作動しないおそれがあります。

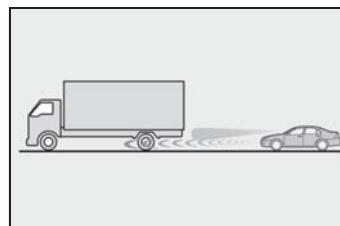
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

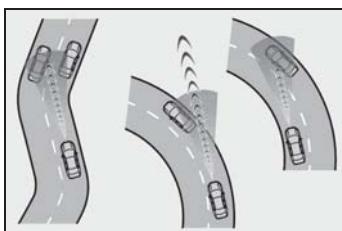


■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

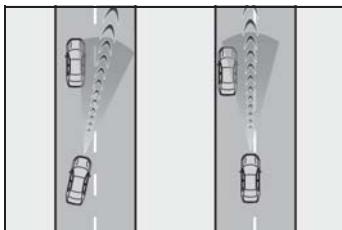
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

■ カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

- 上り坂、または下り坂のカーブを走行しているとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき

- カーブへの進入速度が過度に高いとき

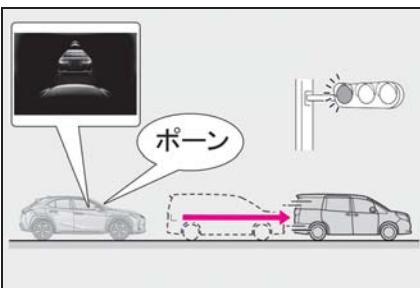
- 急なハンドル操作を行ったとき

## 先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

## 先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



### 知識

#### ■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき
- **先行車が発進していても告知しない場合があるとき**

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなつたとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- **先行車が発進していないくても告知する場合があるとき**

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車では

ないものを先行車と認識しているとき

- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ **先行車発進告知機能の設定を変更するには**

- 先行車発進告知機能の ON / OFF

システムの ON / OFF を切りかえることができます。( $\rightarrow$ P.72)

1 メーター操作スイッチの または を押して を選択する

2 メーター操作スイッチの または を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す

3 メーター操作スイッチの または を押して “先行車発進告知” を選択し、“OK” を押す

4 メーター操作スイッチの または を押して “先行車発進告知” を選択し、“OK” を押す

● **先行車発進告知機能の告知距離**

告知する距離を切りかえることができます。( $\rightarrow$ P.72)

1 メーター操作スイッチの または を押して を選択する

2 または を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す

3 または を押して “先行車発進告知” を選択し、“OK” を押す

4 または を押して “告知タイミング” を選択し、“OK” を押す

## ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、自動車専用道路（一部除く）を走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に自車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

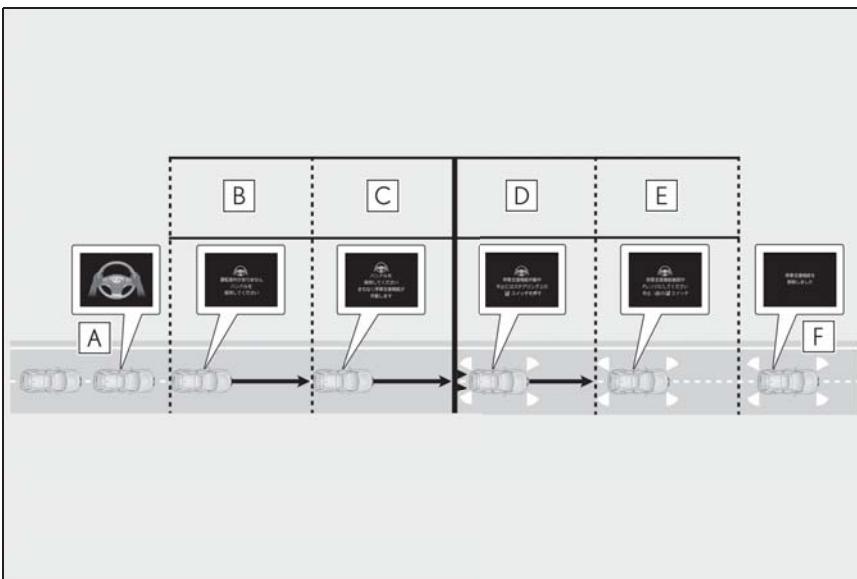
LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、周囲に警告を行いながら自車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

ドア解錠やヘルプネット<sup>※</sup> 自動接続による運転者の救命要請も行います。

<sup>※</sup> 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

### システム概要

本システムは4つの状態に分けられます。B「警告1状態」、C「警告2状態」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合にはD「減速停止制御」、E「停止保持」で自車を減速、停車させ、E「停止保持」を継続します。



A 手放し運転警告 (→P.203)

- B** 「警告 1 状態」
- C** 「警告 2 状態」
- D** 「減速停止制御」
- E** 「停止保持」
- F** 制御解除

## ⚠ 警告

### ■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- お客様自身でドライバー異常時対応システムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、停止表示板・停止表示灯および発煙筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。 (→P.342)
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

## □ 知識

### ■ システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

- 車速と前方カメラによって自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

- LTAスイッチをONし、LTA制御中
- レーダークルーズコントロールメインスイッチをONし、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御中

- 自車速が約50km/h以上

#### ■システムの作動解除条件

- B**「警告1状態」、**C**「警告2状態」、**D**「減速停止制御」作動時、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。
  - LTA制御がキャンセルされたとき（LTAスイッチを押した場合など）
  - レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）
  - 手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）
  - 自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
  - 運転者がブレーキ操作をしたとき
  - 運転者がアクセル操作をしたとき
  - ブレーキ異常検出時
  - 方向指示レバーを操作したとき
- E**「停止保持」中、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。



- ・シフトポジションをPにした状態でLTAスイッチを押したとき
- ・エンジンスイッチをONからOFFにしたとき
- ・ブレーキ異常検出時

#### ■システム作動解除時のLTA制御

下記の条件でシステム作動が解除された場合、LTA制御がキャンセルされます。

LTAを再度使用する場合は、LTAスイッチを押しLTA制御をONにしてください。

- B**「警告1状態」において、LTAスイッチを押しシステム作動を解除したとき

- C**「警告2状態」、**D**「減速停止制御」において、システム作動を解除したとき

- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）

- 手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）（**C**「警告2状態」および**D**「減速停止制御」のみ）

- 運転者がブレーキ操作をしたとき

- 運転者がアクセル操作をしたとき

- 方向指示レバーを操作したとき

#### ■警告メッセージ

LTAシステムに異常が発生した場合や、

一時使用不可となった場合、警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、ドライバー異常時対応システムが使用できなくなります。  
(→P.203)

#### ■ ドライバー異常時対応システムの留意事項

- ヘルプネット通話中は、音声が聞き取りやすいようブザー吹鳴を中止します。
- LTA 制御が継続できない場合は、システムがキャンセルされます。

### B 「警告 1 状態」

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー吹鳴（「ピッ、ピッ、・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）および LTA による制御が継続され、警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかつた場合、**C 「警告 2 状態」**に移行します。



### C 「警告 2 状態」

ブザー吹鳴（「ピッピッピッピッピッ・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意

喚起を行い、引き続き運転者の正常／異常判定を行います。このとき、ブザーを聞き取りやすくするために、オーディオがミュート（消音）※されます。LTA 制御は継続され、緩やかな減速度で車速を一定速度内（約 40km/h ~ 50km/h の間）まで減速させます。この状態で、約 30 秒以上警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかつた場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、**D 「減速停止制御」**に移行します。

※ 異常状態から復帰するまで継続します。



#### □ 知識

#### ■ 非常点滅灯（ハザードランプ）について

**C 「警告 2 状態」** 移行後に、約 10km/h 程度減速した場合、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

### D 「減速停止制御」

本制御では運転者が異常状態にあると判断し、緩やかな減速度で車両を

停車させます。車内ではブザー吹鳴（「ピッピッピッピッピッ…」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に状況を知らせ、車外ではストップランプ、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせます。車両が停車すると**E「停止保持」**に移行します。



## 知識

### ■ 非常点滅灯（ハザードランプ）について

**D「減速停止制御」**においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを2回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

## **E 「停止保持」**

車両停車後、停止保持制御により車両停車状態を保持します。ストップランプは消灯しますが、引き続き、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせ、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請を行います。

## 知識

### ■ 非常点滅灯（ハザードランプ）について

**E「停止保持」**においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。

### ■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために急救や警察へ通報を行います。

ヘルプネット通話中は音声が聞き取りやすいよう、ブザー吹鳴を停止します。

### ■ 非常点滅灯（ハザードランプ）について（制御解除後）

システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。ハザードスイッチを2回押すと、非常点滅灯が消灯します。

## ITS Connect ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

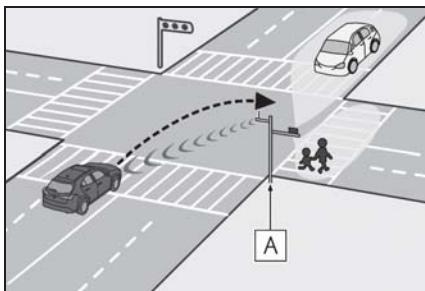
ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。



### ITS Connect の概要

#### ■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS<sup>※</sup> 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



#### A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。

※ DSSS (Driving Safety Support Systems) とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

#### ■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスマートな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P.214 を参照してください。

### □ 知識

#### ■ ITS Connect 機器に関する情報

- 本システムは、トロンフォーラム ([www.tron.org](http://www.tron.org)) の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

- 本システムは、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。

機種名：DTU-1010  
型式認定番号：10005

- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

## ■ ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



### 警告

#### ■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼つたり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかかり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.230）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

#### ■ ITS Connect について

- 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

- ・ 交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
- ・ 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

- 交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

#### ■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。

そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.228）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行つてください。

#### ■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかつたり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。



### 注意

#### ■ ITS Connect 機器取り扱いの注意

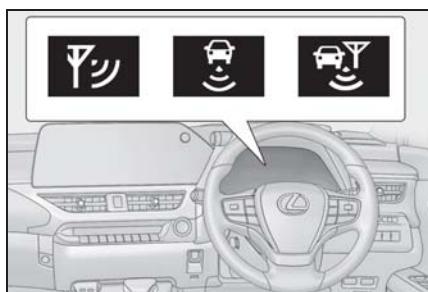
- ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

- ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

## ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディ

スプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取り得ている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

### 割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

ヘッドアップディスプレイ装着車：  
右折時注意喚起、赤信号注意喚起、  
出会い頭注意喚起はヘッドアップ  
ディスプレイにも割り込み表示しま  
す。

#### ■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装 置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させ  
て右折待ちをしているときに、対向

車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したとき、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

#### ▶ 対向車および歩行者を感知する交 差点



#### ▶ 対向車のみを感知する交差点



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交  
通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消え  
ますが、周囲に車や人がいないこ  
とを示すものではありません。

#### ■ 右折時注意喚起（通信機を搭載し た車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていな

い交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



右折注意

- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

### ■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



出会い頭注意

- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

### ■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



信号注意

### ■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかかるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかかることを表します。



### ■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。



### 通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。



### ■ 通信車両接近通知の使い方

- マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。  
ハンドルのメーター操作スイッチの **<** または **>** を押して **車** を選択し、**▲** または **▼** を押して、通知画面を表示してください。
- 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

### 知識

#### ■ 交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

#### ■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
  - ・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
  - ・ トンネルや高架下を通過しているとき

- ・エンジンを始動してから、しばらく走行するまでのあいだ
- 例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
  - ・通信を妨害する電波が発せられているとき
  - ・DSSS用路側装置の向きがかわってしまっているとき
  - ・DSSS用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
  - ・他車両の通信機が故障しているとき
- 右折時注意喚起（DSSS用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
  - ・周囲の環境や天候、DSSS用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
  - ・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
  - ・DSSS用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
  - ・DSSS用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
  - ・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
  - ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・交差点手前で一旦停止せずに通過しよ
- うとしたとき
- ・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
- ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・遅い速度で走行しているとき
  - ・停車しているとき
  - ・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
  - ・DSSS用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
  - ・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
  - ・停車していないとき
  - ・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
  - ・DSSS用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
  - ・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
  - ・立体交差付近を走行しているとき
  - ・緊急車両から受信した情報が誤っているとき
- 通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

ているとき

## 各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの  ( $\rightarrow$ P.72) で、機能の設定を変更することができます。

### ● 信号情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。

- ・赤信号注意喚起
- ・信号待ち発進準備案内

### ● 道路環境情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。

- ・右折時注意喚起
- ・出会い頭注意喚起

### ● 支援タイミング

次の機能の表示タイミングを変更することができます。

- ・右折時注意喚起
- ・出会い頭注意喚起

### ● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の作動・非作動を変更することができます。

### ● クルーズ (ITS)

通信利用型レーダークルーズコントロールの作動・非作動を変更することができます。

## Stop & Start システム

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルまたはシフトレバーの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

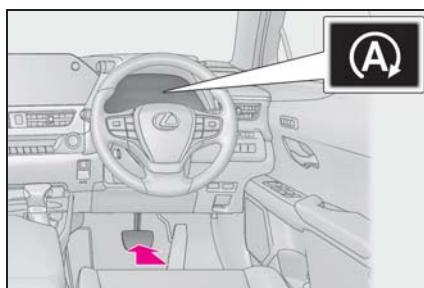
## Stop & Start システムの操作

### ■ ブレーキホールドシステムがOFFのとき

- ▶ エンジンが停止する

シフトレバーを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。



- ▶ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

### ■ ブレーキホールドシステムがONのとき

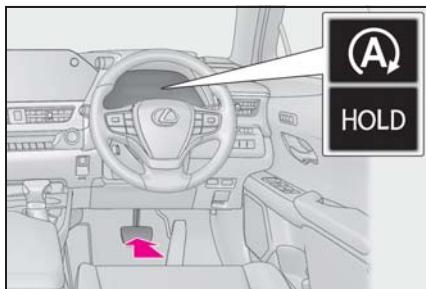
ブレーキホールドシステム作動時 ( $\rightarrow$ P.158) も、Stop & Start システムは作動します。

▶ エンジンが停止する

シフトレバーを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。

ブレーキホールドシステム作動中は、ブレーキホールド作動表示灯が点灯します。このときブレーキペダルから足を離しても、Stop & Start システムによるエンジン停止状態を継続します。



▶ エンジンが再始動する

アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。(ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません)

Stop & Start 表示灯とブレーキホールド作動表示灯が消灯します。

■ レーダークルーズコントロール  
(全車速追従機能付き) が作動しているとき

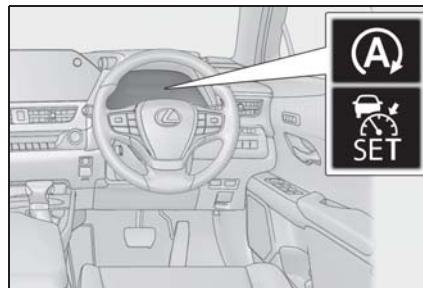
レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)による制御停車時(→P.210)も、Stop & Start システムは作動します。

▶ エンジンが停止する

レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)の車間制御モードで走行中、制御停車で車両が完全

に停止すると、エンジンが自動的に停止します。(ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します)

Stop & Start 表示灯が点灯します。



▶ エンジンが再始動する

先行車が発進すると、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

知識

■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
  - ・ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき(レーダークルーズコントロール[全車速追従機能付き]の車間制御モードの制御停車中を除く)
  - ・エンジンが十分暖まっているとき
  - ・外気温が -5°C 以上のとき
  - ・シフトレバーが D のとき
  - ・走行モード(→P.265)がノーマルモードまたはエコドライブモードのとき
  - ・フロントデフロスターイッチが OFF のとき
  - ・ボンネットが閉まっているとき
  - ・運転席シートベルトを着用しているとき
  - ・運転席ドアが閉まっているとき
  - ・アクセルペダルを踏んでいないとき

- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。
  - ・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用しているとき
  - ・ バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）※
  - ・ バッテリーが定期的な充電中のとき
  - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
  - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
  - ・ ハンドル操作をしているとき
  - ・ 渋滞などで断続的に停車し、エンジン停止時間が長くなったとき
  - ・ 標高が高いとき
  - ・ エンジン冷却水温やトランスマッショングリップ油温が低いとき、または高すぎるとき
  - ・ バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
  - ・ バッテリーを脱着した後、しばらくの期間

※ エンジン停止が行われない状態が継続する場合があります

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）
  - ・ エアコンを ON にしたとき
  - ・ 花粉除去モードを ON にしたとき
  - ・ フロントデフロスタースイッチを ON にしたとき
  - ・ ハンドルを操作したとき
  - ・ D レンジアイドリングストップ中に、シフトレバーを P・M・N・R のいずれかにしたとき
  - ・ 運転席シートベルトをはずしたとき
  - ・ 運転席ドアを開けたとき
  - ・ アクセルペダルを踏んだとき

- ・ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
- ・ 坂道などで車両が動き出したとき
- ・ 先行車発進告知機能（→P.219）により、先行車が発進したことをお知らせしたとき
- ・ 走行モード（→P.265）がノーマルモードまたはエコドライブモード以外のとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）
  - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
  - ・ エアコンを使用しているとき
  - ・ バッテリーの充電量が低下しているとき

#### ■ ブレーキホールドシステム作動時の Stop & Start システムの作動について

- Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動してもブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキホールドシステムの作動条件（→P.158）が満たされなくなるとブレーキホールドシステムは OFF になります。

このとき自動的にパーキングブレーキがかかりエンジンが自動的に再始動します。

#### ■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）による制御停車時の Stop & Start システムの作動について

Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動しても制御停車は継続します。（制御停車から追従走行に復帰させる：→P.212）

#### ■ ボンネットを開けたとき

- Stop & Start システムによるエンジン

停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→P.146）でエンジンを始動してください。

- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

### ■ Stop & Start システムについて

- 長時間停車する場合には、エンジンスイッチを OFF にし、エンジンを停止してください。
- Stop & Start システムが作動しないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意を促がします。（→P.236）
- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押すと、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→P.146）でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットやアクセサリーコンセントなどが使用できないことがあります。異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

### ■ Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

フロントデフロースタースイッチを ON にしてください。（エンジンが自動的に再始動します）：→P.279

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

### ■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて

- オート設定で空調システムを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。
- 空調の効きをより良くしたいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

### ■ Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エアコン吹き出し口から臭いが発生したときは

Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を停止してください。

### ■ エアコンがONのときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

次の操作により、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。（エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません）

- 1 メーター操作スイッチの または を押して、 を選択し “OK” を押す

- 2 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して、“車両設定”を選択し “OK”を押す
- 3 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して、Ⓐを選択し “OK”を押す
- 4 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して、“Normal”（通常）または“Long”（長め）のいずれかを選択し、“OK”を押す

#### ■ Stop & Start システム保護機能

- バッテリーの急な消費を抑えるために、オーディオを大音量で使用していると、突然音が停止することがあります。オーディオ停止を防ぐには、音量を下げて使用してください。  
止まってしまったオーディオを再開するには、いったんエンジンスイッチを OFF にし、3 秒以上たってから、再度 ACC または ON にしてください。
- バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオ（メーカー オープションのナビゲーションシステムを除く）が作動しないことがあります。この場合、いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。
- ・ エンジンスイッチを ON にし、再度エンジンスイッチを OFF にする

#### ■ バッテリーを交換するとき

→P.389

#### ■ アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→P.66, 71

#### ■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

次のとき、マルチインフォメーション

ディスプレイに Ⓢ とメッセージが表示されることがあります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

Ⓐ “ブレーキをもう少し踏んでください”

- ・ ブレーキペダルを踏む力が足りない  
→ 停車後にブレーキペダルを踏み足すと作動します。

Ⓐ “専用バッテリー非装着”

- ・ Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある  
→ Stop & Start システムが作動しません。レクサス販売店で点検を受けてください。

Ⓐ “バッテリー充電中”

- ・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある  
→ バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

・ リフレッシュ充電中の可能性がある  
(参考シーン：定期的な充電中、バッテリーを脱着したあと、しばらくの期間など)

→ 5 分～60 分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。

- ・ 長期間（60 分以上）にわたって継続的に表示される場合

→ バッテリ劣化の可能性がありますので販売店に相談してください。

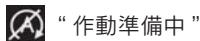
Ⓐ “アイドリングストップできません”

- ・ 一時的にアイドリングストップを禁止している

→ エンジンをしばらく作動させると作動

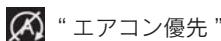
可能状態になります。

- ・ ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある
- ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にして、30 秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。



“作動準備中”

- ・ 標高が高い
- ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下した
- ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。



“エアコン優先”

- ・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している
- エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。
- ・ フロントデフロスタースイッチを ON にしている
- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき



“作動準備中”

- ・ ブレーキペダルをさらに踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした
- 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。



“エアコン優先”

- ・ エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している
- ・ フロントデフロスタースイッチを ON にした



“バッテリー充電中”

- ・ バッテリーの充電量が低下している可

能性がある

→ バッテリーの充電を優先させるため、エンジンが再始動しました。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

### ■ Stop & Start システムの警告メッセージ

システムに異常が発生したときは、警告メッセージで注意をうながします。  
(→P.360)

### ■ Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。



**警告**

#### ■ Stop & Start システムが作動しているとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。(ブレーキホールド作動中とレーダークルーズコントロール [全車速追従機能付き] の制御停車中は除く)

エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、車から離れないでください。

エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

### ⚠ 警告

- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ⚠ 注意

#### ■ Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

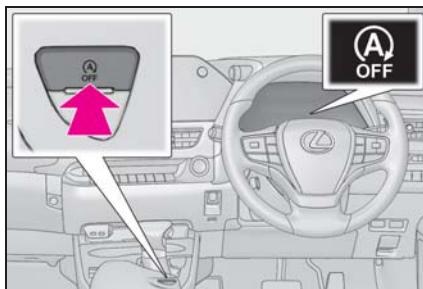
- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON のときにインテリアランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON のときにインテリアランプが点灯しないとき

### Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



### □ 知識

#### ■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動していても、一度エンジンスイッチを OFF にしてから ON にすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

#### ■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。

次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

### 坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジ

ン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますか異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりすることがありますか異常ではありません。

## BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。



### 警告

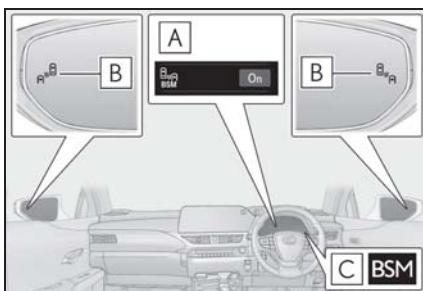
#### ■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

## システムの構成部品



### A マルチインフォメーションディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切り替えます。

### B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

### ■ 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

### ⚠ 警告

#### ■ システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

### C BSM 表示灯

ブラインドスポットモニターが ON のときに点灯します。

### □ 知識

#### ■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

#### ■ マルチインフォメーションディスプレイに“BSM 現在使用できません”が表示されたときは

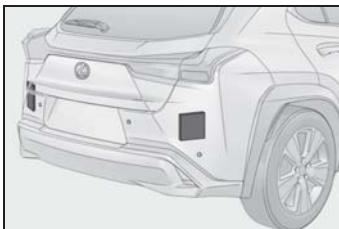
センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。  
(→P.240) センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

#### ■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧: →P.408)

## ⚠️ 警告

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく  
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.240）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM機能の作動条件（→P.243）でしばらく走行してください（目安：約10分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



- センサーヤやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなることがあります。

次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

- センサーヤやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

- センサーを分解しない

- センサーヤやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

- リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

## ブラインドスポットモニターのON／OFFを切りかえるには

メーター操作スイッチを使ってON／OFFを切りかえます。（→P.72）

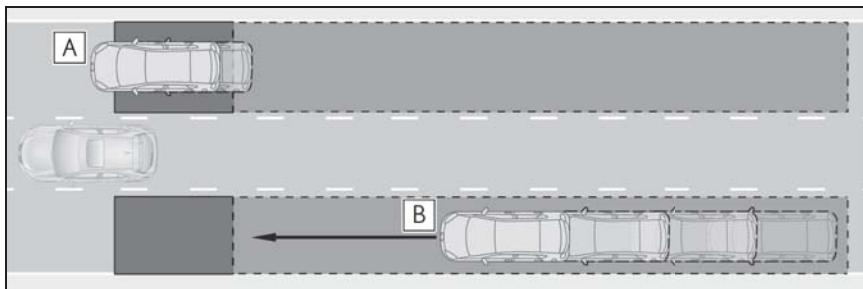
- 1** **◀** または **▶** を押して を選択する
- 2** **▲** または **▼** を押して を選択し、“OK”を押す

## ブラインドスポットモニターの作動

### ■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走

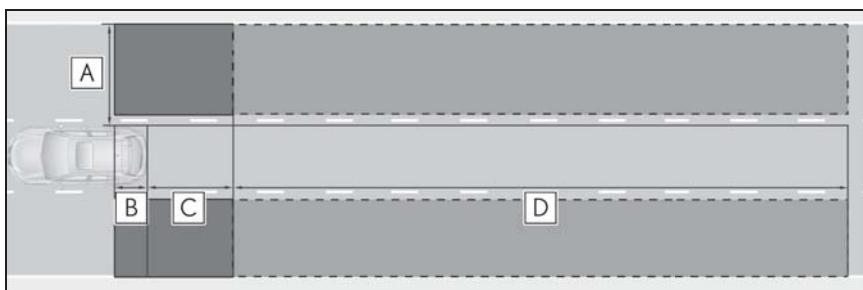
行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A** ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- B** 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

#### ■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域  
※1
- B** リヤバンパーから約 1m 前方の領域
- C** リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- D** リヤバンパーから後方約 3m ~ 60m の領域 ※2

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

## 知識

### ■ 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトレバーがR以外のとき
- 車速が約16km/h以上のとき

### ■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

### ■ システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 同じ車線を走行する後続車※
- 2つ隣の車線を走行する他車※
- 大きい速度差で自車が追い越す他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

### ■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

● 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・ センサーーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・ ブラインドスポットモニターをONにした直後

● 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- ・ センサーーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ ガードレールや壁などの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

- ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・タイヤがスリップ（空転）しているとき
- ・自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

## PKSA（パーキングサポートアラート）

PKSA（パーキングサポートアラート）は、ソナーで壁などの静止物を検知しお知らせするクリアランスソナー、レーダーで後方接近車両を検知しお知らせするRCTA（リヤクロストラフィックアラート）★機能により、駐車時に運転者に注意喚起を行います。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 駐車支援機能

### ■ クリアランスソナー

→P.245

### ■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

→P.253

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 警報ブザー

### ■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

クリアランスソナー、RCTAのブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.73）

1 ◀または▶を押して⚙を選択する

- 2 ▲または▼を押して“PKSA”を選択し、“OK”を押す
- 3 ▲または▼を押して♪を選択し、“OK”を押す

押すごとに1,2,3のあいだで音量が切りかわります。

### ■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

“OK”または♪を押すとクリアランスソナー、RCTAのブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトレバーを切りかえたとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能をOFFにしたとき
- エンジンスイッチをOFFにしたとき

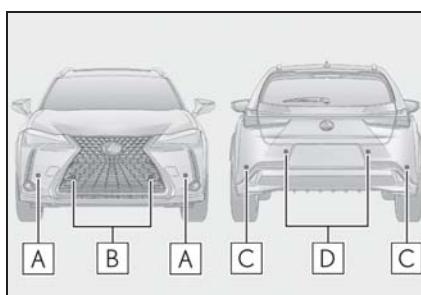
## クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ★およびセンターディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## システムの構成部品

### ■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

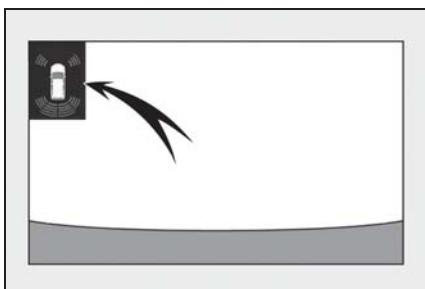
### ■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ★、またはセンターディスプレイに表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★の表示



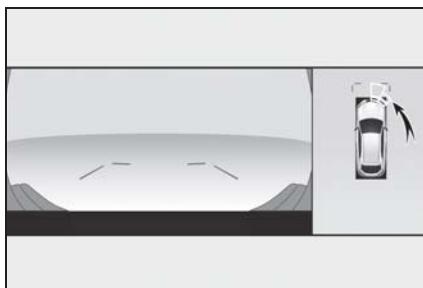
- A** フロントコーナーセンサー作動表示
- B** フロントセンターセンサー作動表示
- C** リヤコーナーセンサー作動表示
- D** リヤセンターセンサー作動表示
- センターディスプレイの表示  
作動対象を検知するとセンターディスプレイ上に自動表示されます。
- ・ シフトレバーが R のとき



- ・ シフトレバーが N、M または D のとき



作動対象を検知するとパノラミックビューモニター★画面上に自動表示されます。



★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。( $\rightarrow$ P.72)

- 1  $\blacktriangleleft$  または  $\triangleright$  を押して を選択する
- 2  $\blacktriangleup$  または  $\blacktriangledown$  を押して “PKSA” を選択し、“OK” を押す
- 3  $\blacktriangleup$  または  $\blacktriangledown$  を押して を選択し、“OK” を押す

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯 ( $\rightarrow$ P.62) が表示されます。

いったんクリアランスソナー機能を ON / OFF すると、次回エンジンを始動し

たときにも、そのままの状態が続きます。

## 警告

### ■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

### ■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。  
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷をつけたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグラランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

### ■ クリアランスソナーを OFF にすること

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあります。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき

- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

### ■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

## 知識

### ■ 作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトレバーが P 以外にあるとき

### ■ ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの  からブザー音量を変更することができます。（→P.244）

### ■ マルチインフォメーションディスプレイに“クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください”が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があつても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに“クリアランスソナー使用できません”が表示されたときは

- 大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。
- バッテリーを脱着したあとに、初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約35km/h以上の車速で5秒以上直進走行することで初期化できます。

■センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る(ブザーが鳴る)までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る(ブザーが鳴る)までに、静止物まで約30cm以内に接近するおそれがあります。

●次のような状況では、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

- ・オーディオ使用時
- ・エアコン使用時
- ・他システムのブザー音吹鳴時

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いも

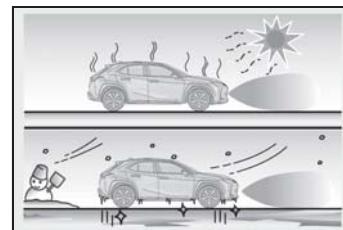
の

- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
  - 鋭角的な形のもの
  - 背の低いもの
  - 背が高く上部が張り出しているもの
- 特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき(取り除けば、正常に復帰します)
  - センサー部が凍結したとき(解ければ、正常に復帰します)
- 特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があつても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



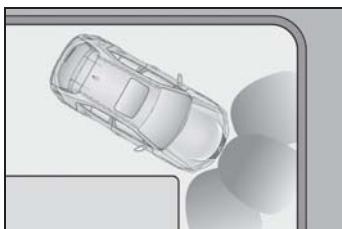
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジ音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者(例:ギャザーやフリルの多いスカートなど)
- 地面に対して垂直でないものの、車両進

行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・バンパー・プロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

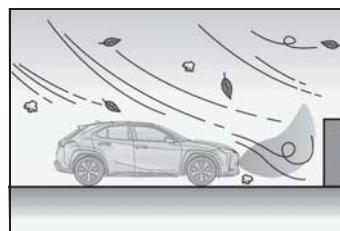
- 狹い道路を走行するとき



- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐

車場のバーなど）に向かって走行するとき

- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶつたとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



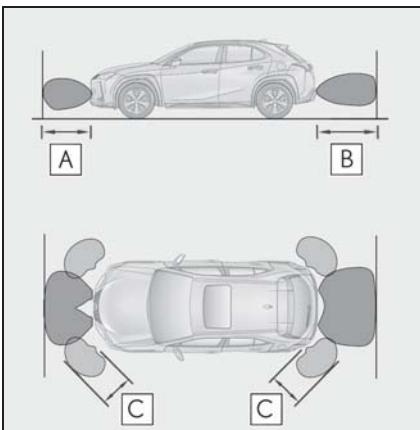
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近くいたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

## 距離表示の見方

### ■ 静止物を検知できる範囲



[A] 約 100cm

[B] 約 150cm

[C] 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

### ■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ及びセンターディスプレイ、またはヘッドアップディスプレイ★の作動表示が点灯（一部、枠が点滅）します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 静止物までのおおよその距離：150cm～60cm<sup>※</sup>（リヤセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ
		

※ 自動ミュート機能あり（→P.252）

- 静止物までのおおよその距離：100cm～60cm<sup>※</sup>（フロントセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ
		

※ 自動ミュート機能あり（→P.252）

- 静止物までのおおよその距離：60cm～45cm<sup>※</sup>

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ
		

※ 自動ミュート機能あり（→P.252）

- 静止物までのおおよその距離：45cm～30cm<sup>※</sup>

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ
		

※ 自動ミュート機能あり（→P.252）

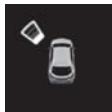
- 静止物までのおおよその距離：30cm～15cm※1

マルチインフォメーション ディスプレイ※2	センターディスプレイ※2	ヘッドアップディスプレイ
		

※1自動ミュート機能なし（→P.252）

※2点灯及び枠が遅い点滅

- 静止物までのおおよその距離：15cm以下※1

マルチインフォメーション ディスプレイ※2	センターディスプレイ※2	ヘッドアップディスプレイ
		

※1自動ミュート機能なし（→P.252）

※2点灯及び枠が早い点滅

### ■ 音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。  
静止物との距離が約30cm以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近付かない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

## RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能**はリヤバンパー内側にあるブライムドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

### 警告

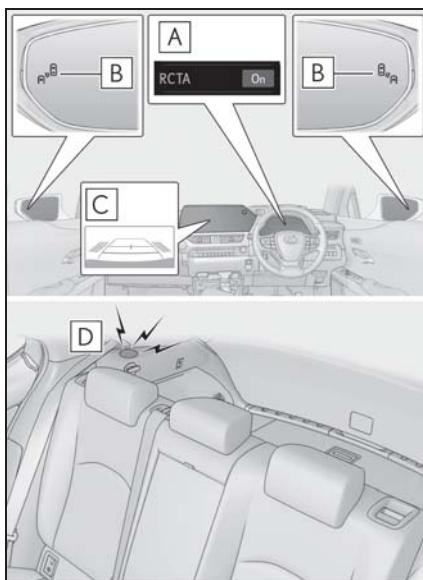
#### ■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→P.239）

#### ■ システムを正しく作動させるために

→P.240

## システムの構成部品



### A マルチインフォメーションディスプレイ

RCTA 機能の ON / OFF を切り替えます。

RCTA 機能を OFF にすると、RCTA OFF 表示灯が点灯します。

### B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

### C センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン（→P.254）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

### D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴

ります。

## 設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切り替えます。 (→P.72)

- 1 □または▶を押して を選択する
- 2 ▲または▼を押して “PKSA”を選択し、“OK”を押す
- 3 ▲または▼を押して “RCTA”を選択し、“OK”を押す

エンジンスイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

### 知識

#### ■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

#### ■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

#### ■ マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 現在使用できません” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

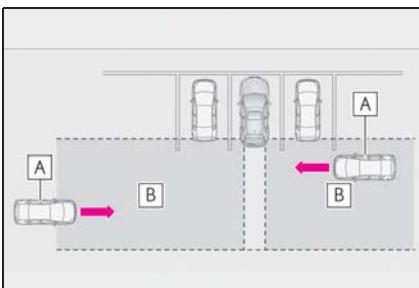
#### ■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.241

## RCTA 機能

### ■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



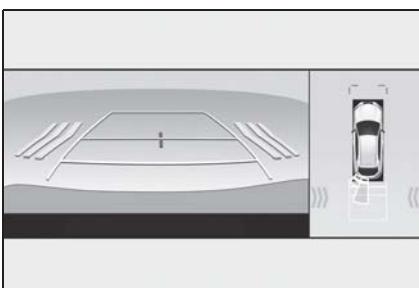
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

### ■ RCTA アイコンの表示

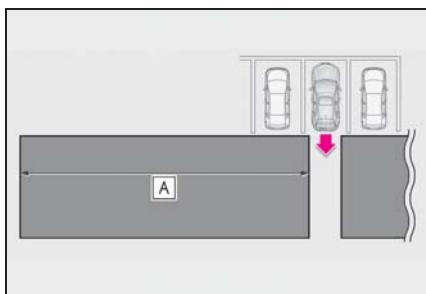
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	40m
8km/h（遅い）	5.5m

## □ 知識

### ■ 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトレバーが R のとき
- 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ~ 56km/h のあいだのとき

### ■ ブザーの音量調整について

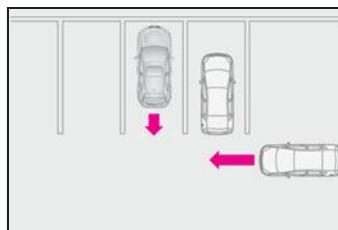
マルチインフォメーションディスプレイの からブザー音量を変更することができます。 (→P.244)

### ■ システムが検知しない車両について

次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真うしろから接近する車両

- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両

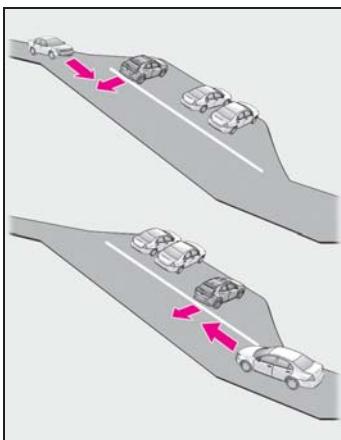


- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

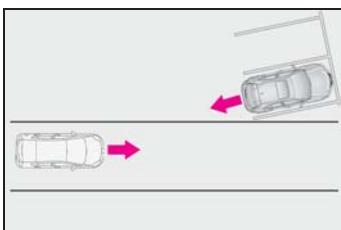
### ■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

- RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
- センサーヤやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーヤやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパー・プロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



- 斜めの駐車場から出庫するとき



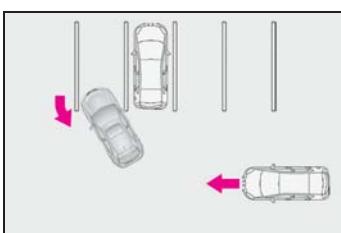
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

- 炎天下や寒冷時

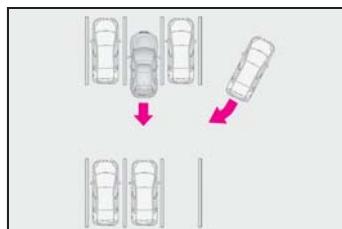
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

- 自車が旋回しているとき



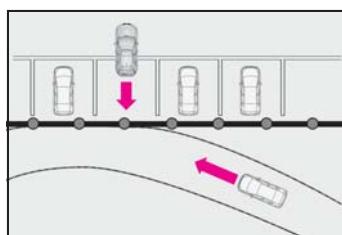
- 旋回しながら車両が近付いてきたとき



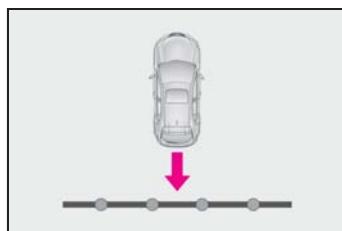
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき

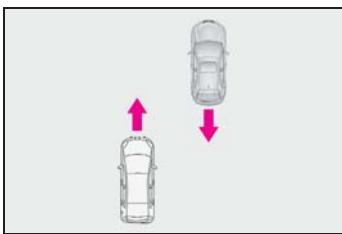


- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

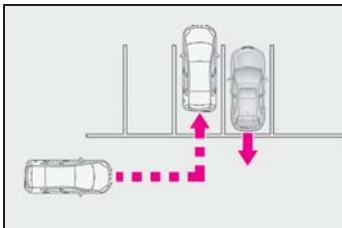


- センサー付近にけん引フック・バンパー・プロテクター・バンパートリム・サイクリルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき
- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

## PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 駐車支援機能

#### ■ パーキングサポートブレーキ（静止物）

→P.262

#### ■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

→P.264

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ⚠ 警告

#### ■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## ⚠ 警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。
- パーキングサポートブレーキを OFF にするとき
 

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

  - 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
  - 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
  - ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
  - 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

- センサー付近にけん引フック・バンパー・プロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両けん引時

## ⚠ 注意

- マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

エンジンスイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。

一定距離の走行で使用可能となります  
が、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

## 設定のしかた

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）を一括で ON /

OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。 (→P.72)

- 1 □ または ▶ を押して  を選択する
- 2 ▲ または ▼ を押して  を選択し、 “OK” を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯 (→P.62) が点灯します。

いったん PKSB システムを ON / OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

### エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、センターディスプレイ、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★にメッセージが表示されます。

エンジン出力抑制制御は状況により、加速制限御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ● エンジン出力抑制制御作動中（加速制限御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

センターディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ 加速抑制中です ”

ヘッドアップディスプレイ表示：表示なし

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

#### ● エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ ブレーキ ! ”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ ブレーキ ! ”

ヘッドアップディスプレイ表示：“ ブレーキ ! ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポン（単発音）

#### ● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ ブレーキ ! ”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ ブレーキ ! ”

ヘッドアップディスプレイ表示：“ ブレーキ ! ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポン（単発音）

#### ● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ ブレーキを踏んでください ”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください ”

アクセルが踏まれていない場合は “ ブレーキを踏んでください ” が表示されます。

ヘッドアップディスプレイ表示：“ブレーキを踏み直してください”  
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されます。

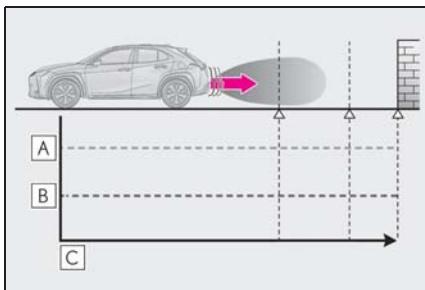
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

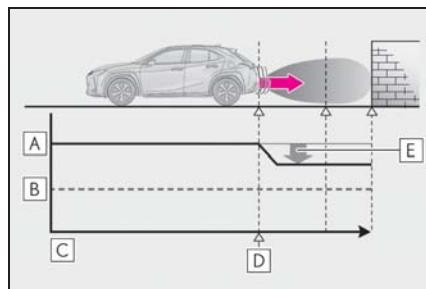
### PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：下記図2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図3）

- 図1（PKSB[パーキングサポートブレーキ]非作動時）



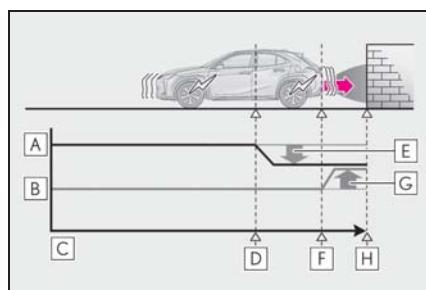
● 図2（エンジン出力抑制制御時）



● 図3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）

**A** エンジン出力  
**B** 制動力  
**C** 時間  
**D** エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）  
マルチインフォメーションディスプレイに“ブレーキ！”が表示されます。  
**E** エンジン出力を抑える

- 図3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



**A** エンジン出力  
**B** 制動力  
**C** 時間  
**D** エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）  
マルチインフォメーションディスプレイ

に“ブレーキ！”が表示されます。

**E** エンジン出力を抑える

**F** ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

**G** ブレーキ制御を上げる

**H** マルチインフォメーションディスプレイに“アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください”が表示される

## □ 知識

■ **PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは**

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■ **PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について**

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止した場合に、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON に（→P.258）するか、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。また、進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは**  
クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺に汚れが付着していることが考えられます。バンパー周辺の汚れを取り除いてください。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません”と“クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅しているときは**

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていないくとも表示が出るときはレクサス販売店で点検を受けてください。

- センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。

- 大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■ **バッテリーを脱着したときは**

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

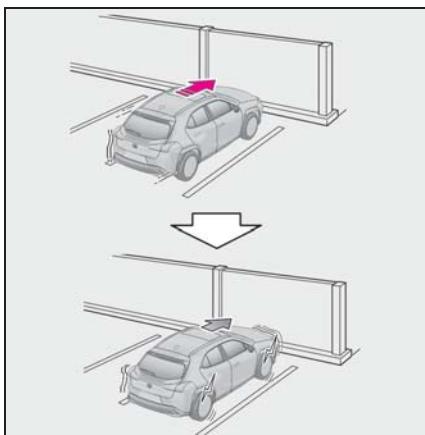
## パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

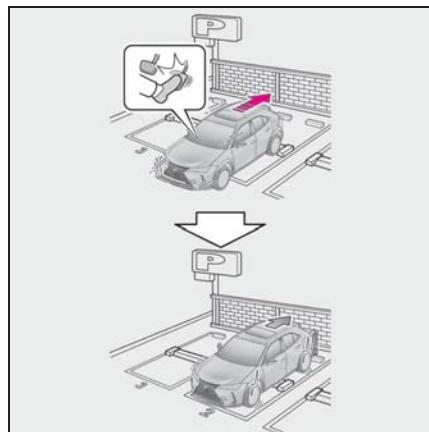
### システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

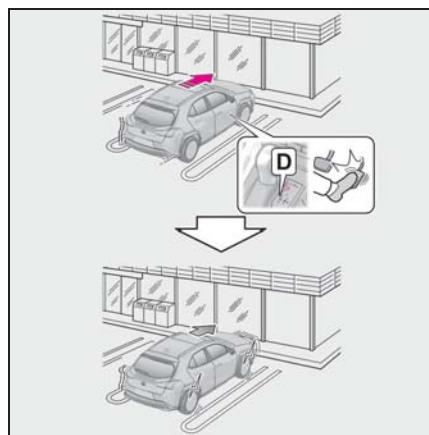
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



- アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



- 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



### センサーの種類

→P.245

#### 警告

- システムを正しく作動させるために  
→P.247

**警告**

■ 万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→P.261

■ 洗車時の注意

→P.247

**知識**

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.61, 62）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ~ 4m 先まで）
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ エンジン出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ~ 4m 先まで）

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ~ 4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.250）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.248

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.249

## パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

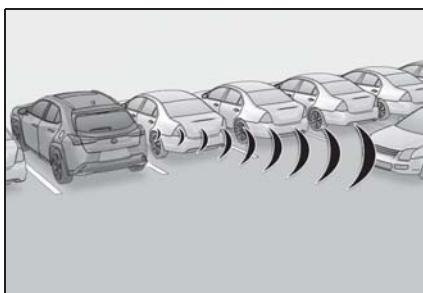
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。**

### システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



### センサーの種類

→P.240

#### ⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.240

### 知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.61, 62）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

#### ● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- ・ シフトレバーが R のとき
- ・ 接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

#### ● ブレーキ制御

- ・ エンジン出力抑制制御作動中
- ・ 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

#### ● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき

#### ● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき

とき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.254）とは異なります。そのため、RCTA が後方接近車両をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.255

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

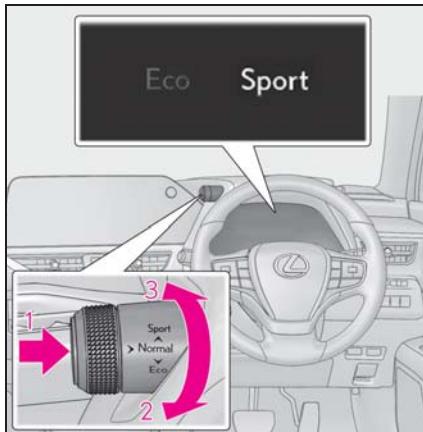
→P.256

## ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。

### 走行モードを選択するには

- ▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



#### 1 ノーマルモード

燃費性能、静肅性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

#### 2 エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを手前にまわすと、エコドライブモードに切りかわり、“Eco”表示灯が点灯します。

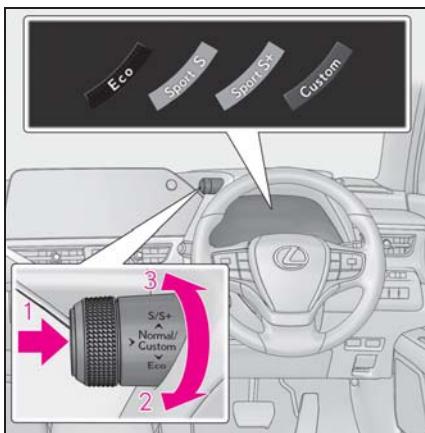
#### 3 スポーツモード

ステアリングの応答性、およびトランス

ミッショントリップとエンジンの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ モード以外のときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ モードに切りかわり、“Sport” 表示灯が点灯します。

#### ▶ NAVI・AI-AVS 装着車



#### 1 ノーマル／カスタムモード

ノーマル／カスタムモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマル／カスタムモードが切りかわります。カスタムモードのとき、“Custom” 表示灯が点灯します。

ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

##### ・ ノーマルモード

燃費性能、静肅性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

##### ・ カスタムモード

パワートレーン制御、シャシー制御またはエアコン動作の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、センターディスプレイで設定します。（→P.400）

#### 2 エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを手前にまわすと、エコドライブモードに切りかわり、“Eco” 表示灯が点灯します。

#### 3 スポーツモード

##### ・ スポーツ S モード

トランスマッショントリップとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速をしたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、“Sport S” 表示灯が点灯します。

##### ・ スポーツ S + モード

トランスマッショントリップとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより優れた安定感の確保に貢献し、スポーティーな走りを楽しむときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ S + モードに切りかわり、“Sport S +” 表示灯が点灯します。

### □ 知識

#### ■ エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- ・ エコ空調モードを OFF にする  
（→P.283）
- ・ 風量を調整する（→P.279, 282）
- ・ エコドライブモードを解除する

### ■ スポーツ／カスタムモードの自動解除

スポーツ／カスタムモードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチを ON にした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

### ■ センターディスプレイの割り込み表示

モードを切りかえるごとに、選択したモードがセンターディスプレイに表示されます。（ノーマルモードを除く）

カスタムモード時は、この画面に表示される“設定”を選択すると、ドライブモード設定画面が表示されます。

### ■ カスタマイズ機能

カスタムモードの設定を変更できます。

（カスタマイズ一覧：→P.409）

## 運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

### 運転を補助する装置について

#### ■ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

#### ■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

#### ■ VSC (ビークルスタビリティコントロール)

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

#### ■ S-VSC (ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール)

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

#### ■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRSエアバッグのセンサーが衝突を検知したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減

速させ、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

### ■ TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

### ■ アクティブコーナリングアシスト(ACA)

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむのを抑制します。

### ■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

### ■ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

### ■ NAVI・AI-AVS (AVS : アダプティブバリアブルサスペンションシステム) ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。 (→P.265)

また、ドライブモードセレクトスイッチでスポーツ S + モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。

### ■ 緊急ブレーキシグナル

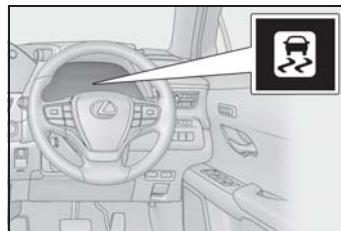
急ブレーキ時に制動灯を自動的に点

滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

## 知識

### ■ TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



### ■ TRC の停止

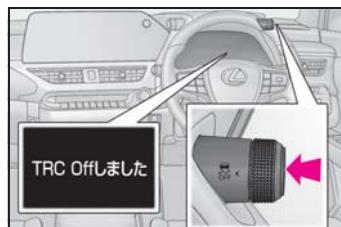
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んででもエンジンの出力が上がりらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF <スイッチを押すことで、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF <スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。

もう一度 OFF <スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



## ■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。※

もう一度 スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ ブリクラッシュブレーキアシスト・ブリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.195）

## ■ スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

## ■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

- 車両停止状態

- アクセルペダルを踏んでいない

- パーキングブレーキがかかっていない

## ■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした

- アクセルペダルを踏んだ

- パーキングブレーキをかけた

● ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

## ■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

● エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。

● 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがあります、異常ではありません。

- ・ 車体やハンドルに振動を感じる
- ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
- ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
- ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

## ■ アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

## ■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウイーン”という音）が聞こえることがあります、異常ではありません。

## ■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

## ■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以

下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止している場合) 車速が高くなったとき  
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

#### ■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

#### ■ セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

車速が約 10km/h 以上で、SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知したとき（車速が約 10km/h 未満では作動しません）

#### ■ セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のとき、自動的にセカンダリーコリジョンブレーキが解除されます。

- 車速が約 10km/h 未満になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

#### ■ NAVI・AI-AVS★の NAVI 協調機能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめショックアブリーバーの減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

#### ■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

#### ■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

#### ■ アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

- TRC・VSC が作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき、車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された
- ブレーキを踏んでいない



#### ■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーキング現象が発生したとき

#### ■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

## ⚠️ 警告

- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だみなどの悪路を走行しているとき
- TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

### ■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中すべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

### ■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

● ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

### ■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

### ■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

### ■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告****■ タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なるタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSCなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

**■ タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

## 寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

### 冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- ランフラット非装着車：冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（前2輪）を使用してください。タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.324）
- ランフラット装着車：ランフラットの冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（前2輪）を使用することをおすすめします。タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください（タイヤについて：→P.324）

### □ 知識

#### ■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う

- 前2輪に取り付ける

- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

- 取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

### ⚠ 警告

#### ■ 冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかない場合、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

#### ■ タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかない場合、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レントレーシングアシスト）を使用しない

### 注意

#### ■ タイヤチェーンの使用について

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

#### ■ タイヤを修理・交換するときは

レクサス販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。(タイヤについての詳しい説明はP.324を参照してください)

#### ■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

## 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてく

ださい。

- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

### 知識

#### ■ 寒冷地用ワイパープレードについて

● 降雪期に使用する寒冷地用ワイパープレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆っています。レクサス販売店で各車指定のプレードをお求めください。

● 高速走行時は、通常のワイパープレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

### 注意

#### ■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

## 運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

## 駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め<sup>※1</sup>をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPに

入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。( $\rightarrow$ P.155)

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと<sup>※2</sup>を確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままになると、凍結するおそれがあります。

<sup>※1</sup>輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

<sup>※2</sup>ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

4

運転

## ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。( $\rightarrow$ P.175)



## 5-1. レクサスクライメイトコンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ ..... 278

## 5-2. エアコンの使い方

オートエアコン ..... 279

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター ..... 286

## 5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 ..... 289

## 5-4. 収納装備

収納装備一覧 ..... 292

ラゲージルーム内装備 ..... 295

## 5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 ..... 301

## レクサスクライメイトコンシェルジュ

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、フロント席のシートヒーター★やベンチレーター★、ステアリングヒーター★がそれぞれ自動制御されます。各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### クライメイトコンシェルジュを使用する

1 センターディスプレイのメインメニューから  を選択する

2 “エアコン”を選択する  
オプション画面が表示されたときは、“メインエアコン”を選択します。

3 “クライメイトコンシェルジュ”を選択する

スイッチの作動表示灯が点灯し、エアコン・シートヒーター★／ベンチレーター★・ステアリングヒーター★がオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作すると、作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 各システムの作動について

#### ■ エアコン（→P.279）

運転席および助手席の設定温度を

別々に調整することができます。

#### ■ シートヒーター★／ベンチレーター★（フロント席）（→P.286）

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。

助手席のシートヒーター／ベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ■ ステアリングヒーター★（→P.286）

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### 知識

#### ■ シートヒーター／ベンチレーターの作動について

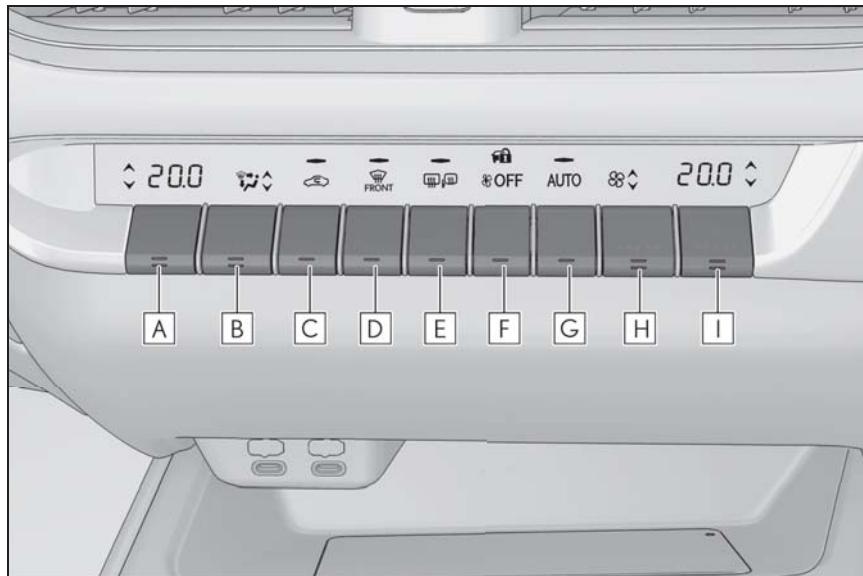
シートヒーター／ベンチレーターのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

## オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作パネルと、センターディスプレイのエアコン操作画面  
(→P.282) で操作します。

### エアコン操作スイッチについて



- A** 助手席側温度調整スイッチ
- B** 吹き出し口切りかえスイッチ
- C** 内外気切りかえスイッチ
- D** フロントデフロスタースイッチ
- E** リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒータースイッチ
- F** OFF スイッチ
- G** AUTO スイッチ
- H** 風量調整スイッチ
- I** 運転席側温度調整スイッチ

### ■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上に、下げるときは下に操作する

### ■ 風量を切りかえる

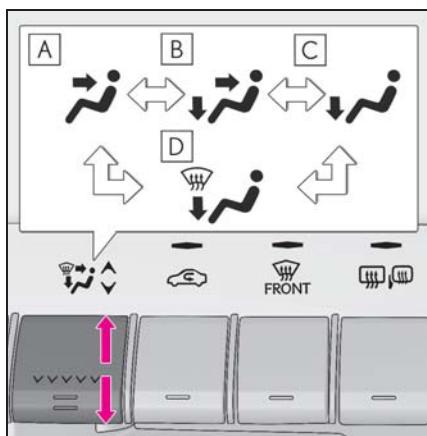
風量を増やすときは風量調整スイッチを上に、減らすときは下に操作する

OFFスイッチを押すと、ファンが止まります。

### ■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上下に操作する

スイッチを操作するたびに吹き出し口が切りかわります。



**A** 上半身に送風

**B** 上半身と足元に送風

**C** 足元に送風

**D** 足元に送風・ガラスの曇りを取る

### ■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

### ■ フロントウインドウガラスの曇りを取り

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

### ■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取りときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFFになります。

### ■ ウィンドシールドデアイサー★

→P.283

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### □ 知識

### ■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C”をONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

- “A/C”をONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

### ■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

### ■ 電子キーによるエアコン設定の記憶制御（ポジションメモリー装着車）

- 電子キーでドアを解錠してエンジンスイッチを ON になると、その電子キーに対して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。
- エンジンスイッチを OFF になると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。
- 複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。
- スマートエントリー＆スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※ ポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

### ■ エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
  - ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
  - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。

- ・ エコ空調モードを OFF にする  
(→P.283)
- ・ 風量を調整する。
- ・ エコドライブモードを解除する。  
(→P.265)

### ■ 外気温度が 0 ℃ 近くまで下がったとき

“A/C” を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

### ■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時または花粉除去モードが ON の時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

- 駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

### ■ 音声対話サービスについて

音声対話サービスを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

### ■ エアコンフィルターについて

→P.333

### ■ カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.409）

## ⚠ 警告

### ■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスターイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

### ■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

## ⚠ 注意

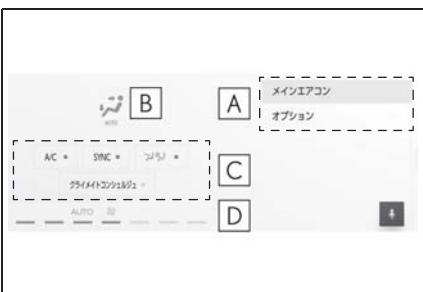
### ■ パッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

## エアコン操作画面について

### ■ エアコン操作画面

- センターディスプレイのメインメニューから  を選択する
  - “エアコン”を選択する
- オプション画面が表示されたときは、“メインエアコン”を選択します。



### A サブメニュー

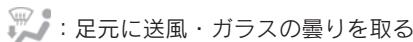
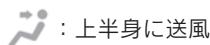
画面表示を切りかえることができます。

“メインエアコン”：エアコン操作画面を表示する

“オプション”：オプション画面を表示する

### B 吹き出し口を切りかえる

選択するたびに、吹き出し口が切りかわります。



状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

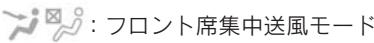
### C 各機能の ON/OFF を切りかえる

次の機能の ON/OFF を、それぞれ切りかえることができます。

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

“A/C”：冷房・除湿する

“SYNC”：運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）  
（→P.284）



（S-FLOW）を設定する（→P.285）

“クライメイトコンシェルジュ”：クライメイトコンシェルジュを作動させる  
（→P.278）

### D 風量表示

現在の風量が表示されます。

### ■ オプション画面

エアコン操作画面（→P.282）の“オプション”を選択する

次の機能の (作動) / (非作動) を切りかえることができます。



#### A エコ空調モードに設定する

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

#### B フロントウインドウガラスとワイパークリーナーの凍結を防ぐ（ウインドシールドデアイサー）★

#### C 「ナノイー X」※を作動させる

「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。

#### D 花粉を除去する（花粉除去モード）

※ 「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### □ 知識

#### ■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパークリーナーの凍結を防ぐために使用してください。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ■ エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

#### ■ 花粉除去モードについて

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

花粉除去モードは、しばらくすると自動的に OFF になります。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する、または内気循環に切りかわらない場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

#### ■ 「ナノイー X」※<sup>1</sup>について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席右側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放し出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※<sup>2</sup>。

- ファンが作動すると、自動的に「ナノイー X」が作動します※<sup>3</sup>。

- 「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を發揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

- ・ 吹き出し口が 、 または

- ・ のとき

- ・ 運転席右側の吹き出し口が開いているとき

- 「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。森林など、自然界に存在する程

度の量なので、人体に影響はありません。

- 作動中、かすかに作動音が聞こえることがあります。故障ではありません。

※<sup>1</sup>「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※<sup>2</sup>温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※<sup>3</sup>「ナノイー X」が ON のとき。  
(→P.282)

### !**警告**

#### ■ ウィンドシールドデアイサー★が作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっています。やけどをするおそれがあるので、ふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ■ 「ナノイー X」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

### !**注意**

#### ■ 「ナノイー X」の損傷を防ぐために

運転席右側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなることがあります。

## オート設定で使用する

### 1 AUTO スイッチを押す

## 2 温度を設定する

## 3 ファンを止めたいときは、OFFスイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

### 知識

#### ■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、“AUTO”をONにした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

## 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードがONになります。

- “SYNC”がONの時に、エアコン操作画面で“SYNC”を選択する
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が消灯します。

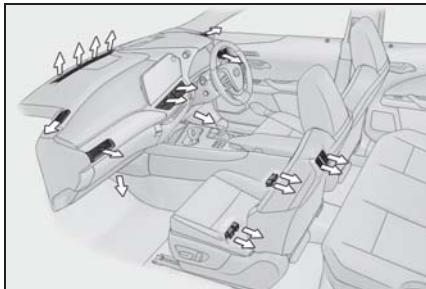
作動表示灯が消灯しているときに“SYNC”を選択すると、作動表示灯が点灯して独立モードがOFFになり、助手席の設定温度が運転席と同じ温度になります。

## 吹き出し口の配置・操作

#### ■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、

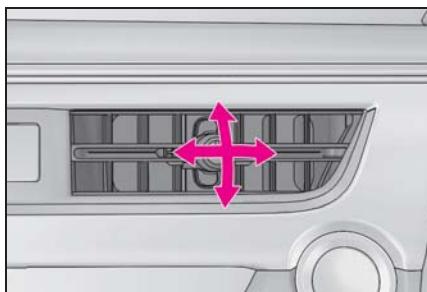
風が出る位置や風量が変化します。



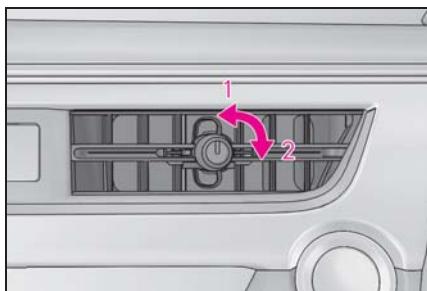
### ■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

#### ▶ フロント

##### 風向きの調整

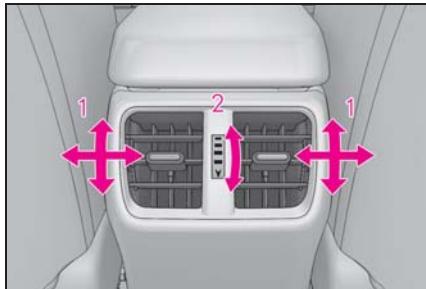


##### 吹き出し口の開閉



- 1 開ける
- 2 閉じる

#### ▶ リヤ



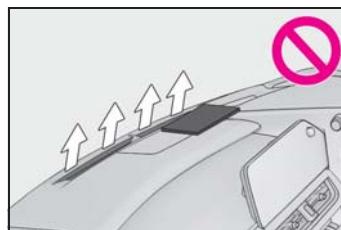
##### 1 風向きの調整

##### 2 吹き出し口の開閉

### ⚠ 警告

#### ■ フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために

吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



### ■ フロント席集中送風モード (S-FLOW)

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

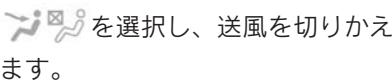
- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

● 花粉除去モードが作動していない  
作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。

### ■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

エアコン操作画面（→P.282）の



を選択し、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風



#### 知識

### ■ 送風の自動制御について

● 車室内を快適に保つために、エンジン始動直後や外気温によっては、乗員がないシートにも送風されることがあります。

● エンジン始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

### ■ 送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

### ■ 送風を自動制御にもどすには

- 1 表示灯が消灯している状態でエンジンスイッチを OFF にする。
- 2 60 分以上経過後にエンジンスイッチを ON にする。

## ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

### ● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

### ● シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。



#### 警告

### ■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方



#### 注意

### ■ シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

**!** 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために  
エンジンが停止した状態で使用しない  
でください。

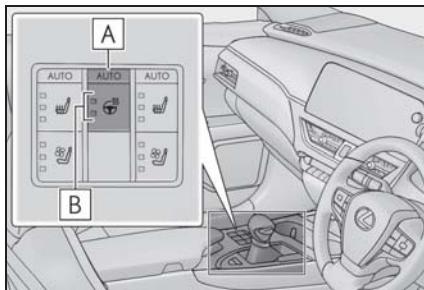
## ステアリングヒーター

システムの ON / OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO (点灯) → 強 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF (消灯)

作動中は AUTO インジケーター A 、またはレベルインジケーター B のいずれか、または両方が点灯します。



**□ 知識**

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ カスタマイズ機能

ステアリングヒーター AUTO モード時の  
温度を変更することができます。(カスタ  
マイズ一覧: →P.410)

## シートヒーター／シートベンチ レーター (フロント席)

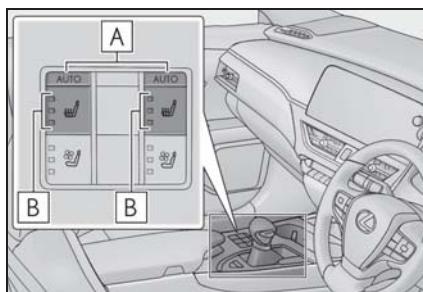
■ シートヒーター

システムの ON / OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO (点灯) → 強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は AUTO インジケーター A 、またはレベルインジケーター B のいずれか、または両方が点灯します。

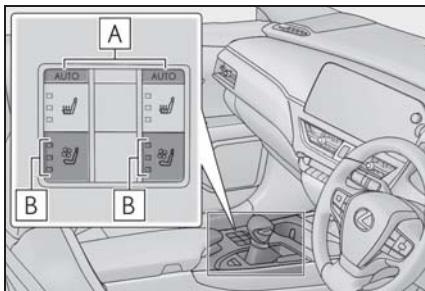


■ シートベンチレーター

システムの ON / OFF を切りかえる  
スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO (点灯) → 強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は AUTO インジケーター A 、またはレベルインジケーター B のいずれか、または両方が点灯します。



## □ 知識

### ■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

### ■ エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

### ■ カスタマイズ機能

シートヒーター／ベンチレーターのオート設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.410）

## ⚠ 警告

### ■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

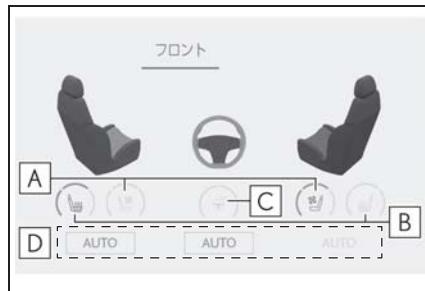
シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しない

- 毛布・クッションなどを使用しない

## 操作画面について

- 1 センターディスプレイのメインメニューから を選択する
- 2 “シート空調”を選択する



### A シートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

強（3個点灯）→中（2個点灯）→弱（1個点灯）→OFF

### B シートヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（赤）が次のように切りかわります。

強（3個点灯）→中（2個点灯）→弱（1個点灯）→OFF

### C ステアリングヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（赤）が次のように切りかわります。

強（2個点灯）→弱（1個点灯）→OFF

### D 各機能を AUTO モードに切りかえる

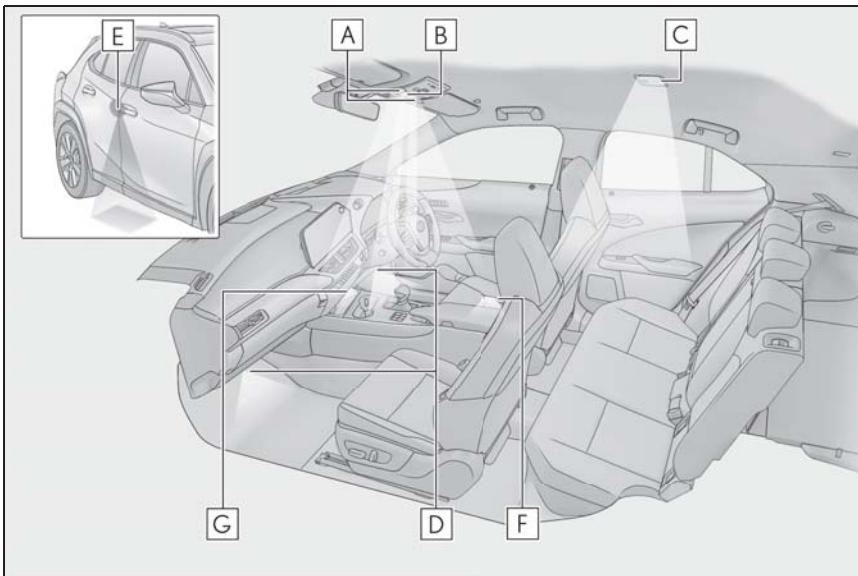
次の機能を、それぞれ AUTO モードに切りかえることができます。

AUTO モードが ON のとき、スイッチが点灯します。

- ・運転席のシートヒーター／ベンチレーター
- ・助手席のシートヒーター／ベンチレーター
- ・ステアリングヒーター

## 室内灯一覧

### 室内灯の位置



- A** パーソナルランプ (→P.291)
- B** フロントインテリアランプ (→P.290)
- C** リヤインテリアランプ (→P.290)
- D** 足元照明 ※<sup>1, 2</sup>
- E** アウトサイドドアハンドル照明
- F** ドアカーテシランプ
- G** 小物入れ照明 ※<sup>2</sup>

※<sup>1</sup>エンジンスイッチがONのとき、足元照明が常時点灯します。ただし、インストルメントパネル照度を最も暗く調整すると、足元照明が消灯します。(→P.66, 71)

※<sup>2</sup>いずれかのドアを解錠したとき点灯し、シフトレバーがP以外のときに明るさが暗くなります。

#### □ 知識

- 各部照明の自動点灯／消灯について
- 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・

ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。(イルミネーテッドエントリーシステム)

● エンジンスイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ フロントインテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しない状況について

● レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき

● 濡れた手で操作したとき

● 手袋などを装着しているとき

#### ■ 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。)

#### ■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。 (→P.410)



#### 注意

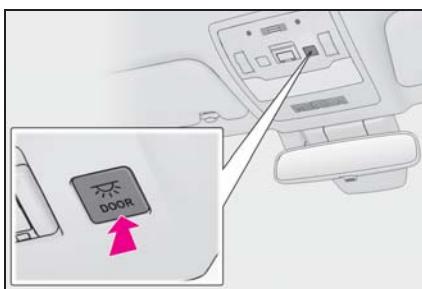
##### ■ ランプのレンズの取り外しについて

絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

##### ■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

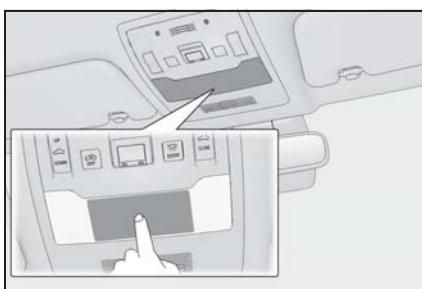


#### ■ ランプを点灯・消灯する

##### ▶ フロント

ランプを点灯・消灯する (ランプにタッチする)

ドアポジション (ドア連動) が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。



##### ▶ リヤ

ランプを点灯・消灯する

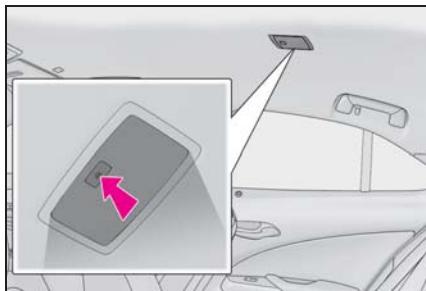
フロントインテリアランプに連動しても点灯・消灯します。

ドアポジション (ドア連動) が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

#### インテリアランプを操作するには

##### ■ ドアポジション (ドア連動) を ON にする

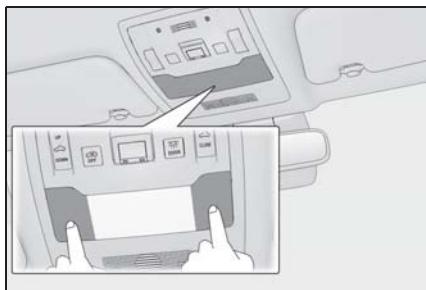
ドア連動スイッチを押す



### パーソナルランプを操作するには

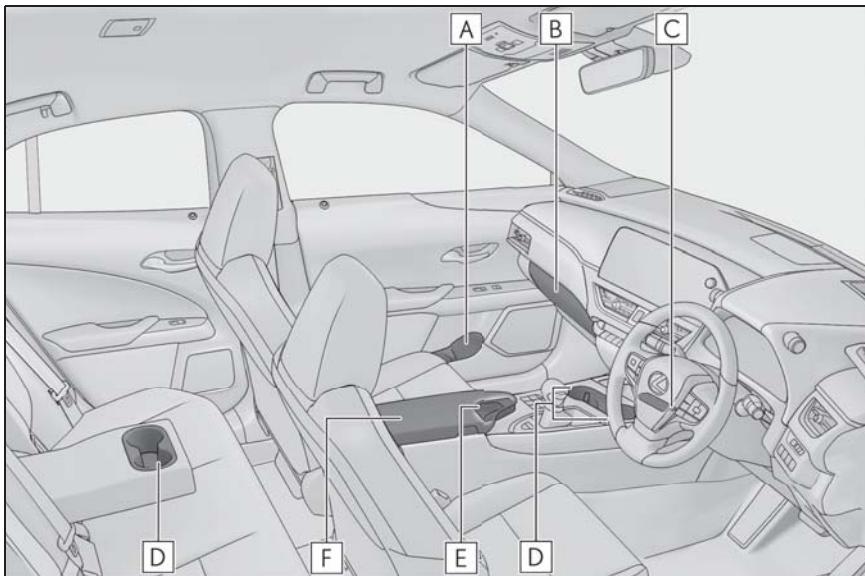
#### ■ ランプを点灯・消灯する

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



## 収納装備一覧

### 収納装備の位置



- A** ボトルホルダー (→P.294)
- B** グローブボックス (→P.293)
- C** 小物入れ／ワイヤレス充電器★ (→P.303)
- D** カップホルダー (→P.294)
- E** コインホルダー (→P.294)
- F** コンソールボックス (→P.293)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ⚠ 警告

### ■ 収納装備に放置してはいけないもの

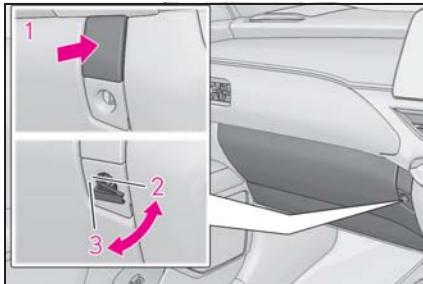
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

### ■ 収納装備を使わないときは

グローブボックスまたはコンソールボックスを必ず閉じてください。  
急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスやコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

## グローブボックスを使うには



- 1 開ける
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠

## □ 知識

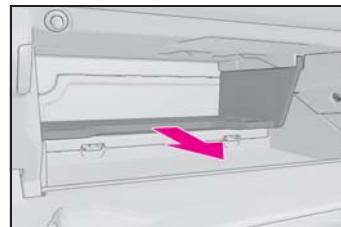
### ■ グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

### ■ 仕切り板について

グローブボックス内の仕切り板を取りはずして使用することができます。

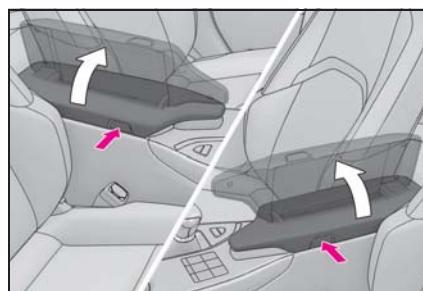
仕切り板を引き抜く



## コンソールボックスを使うには

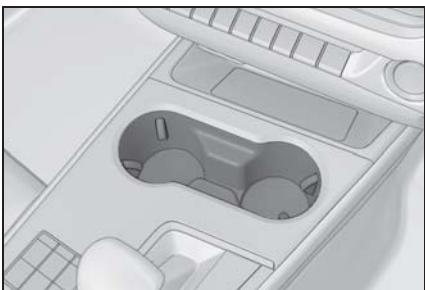
ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く

両側から開けることができます。



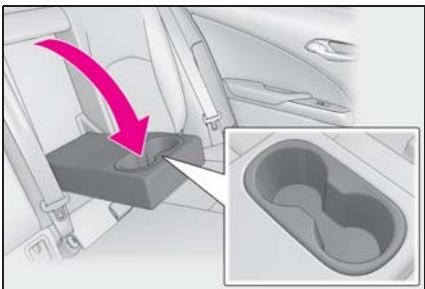
## カップホルダーを使うには

### ■ フロント



### ■ リヤ

リヤアームレストを手前に倒す



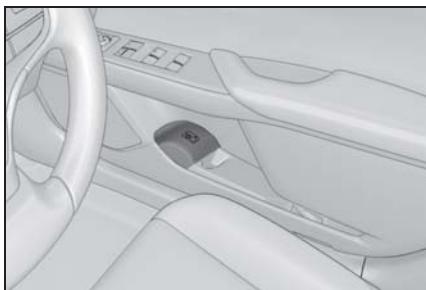
### ⚠ 警告

#### ■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

## ボトルホルダー



### □ 知識

#### ■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

### ⚠ 注意

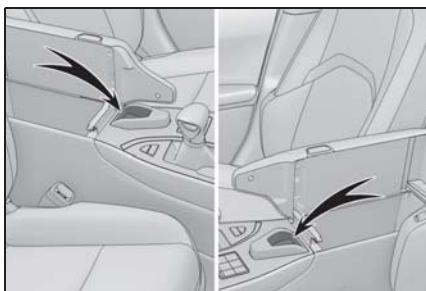
#### ■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。

ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

## コインホルダー

コンソールボックスを開ける  
(→P.293)



**⚠ 注意**

■コインホルダーについて

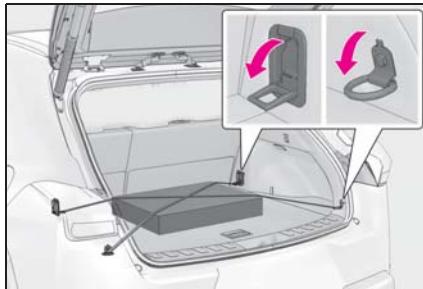
トレイの高さ以上にコインを入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあります。

**ラゲージルーム内装備**

■ デッキフックを使うには

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



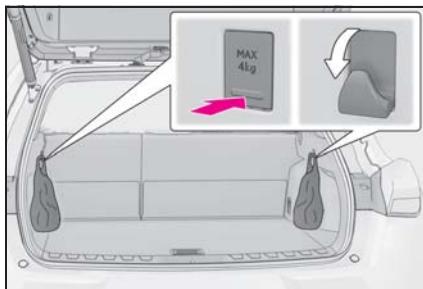
**⚠ 警告**

■ デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

**買い物フックを使うには**

下側を押してフックを起こす



**⚠ 注意**

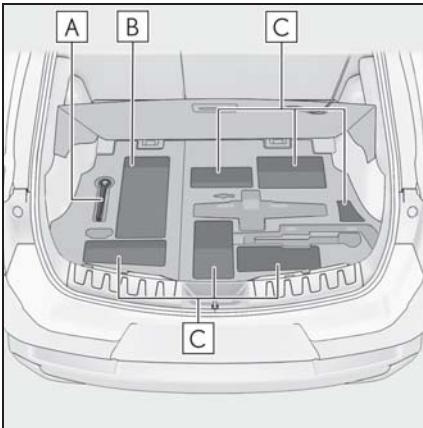
■ 買い物フックの破損を防ぐには

4kg以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

## デッキアンダートレイを使うには

デッキボードを持ち上げて留めひもで固定し（→P.297）、次のものを収納することができます。

### ▶ 応急用タイヤ非装着車



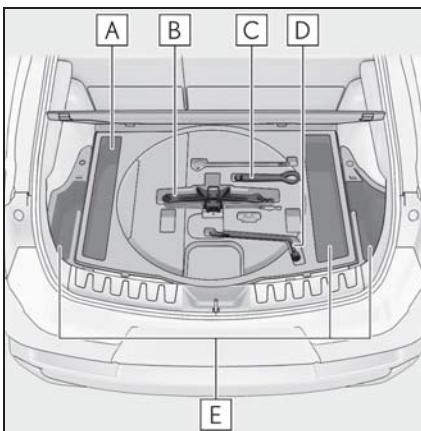
**A** けん引フック

**B** 停止表示板※

**C** 小物など

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

### ▶ 応急用タイヤ装着車



**A** 停止表示板※

**B** ジャッキ

**C** けん引フック

**D** ホイールナットレンチ

**E** 小物など

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

### □ 知識

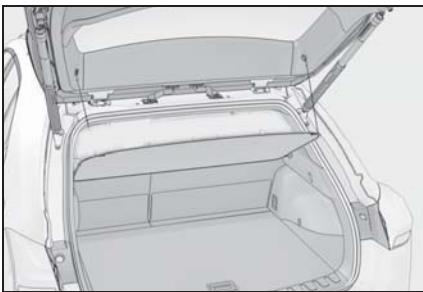
#### ■ 停止表示板について

ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

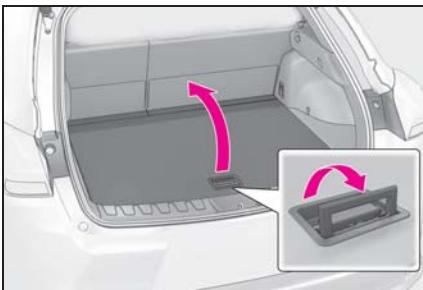
## デッキボードを開けるには

► 中央

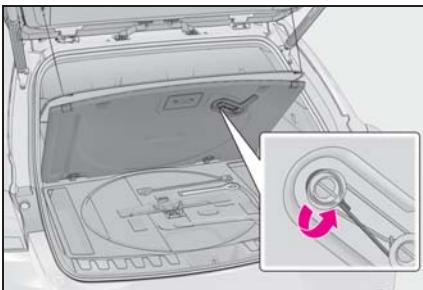
1 パックドアを開ける



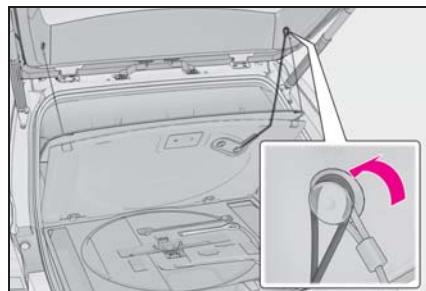
2 レバーを引き上げて、デッキボードを持ち上げる



3 裏面の留めひもをはずす

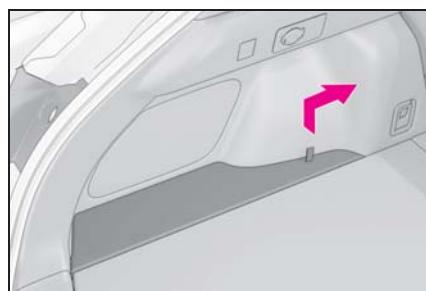


4 留めひもをパックドアにあるフックに引っかけて固定する



► サイド（応急用タイヤ装着車）

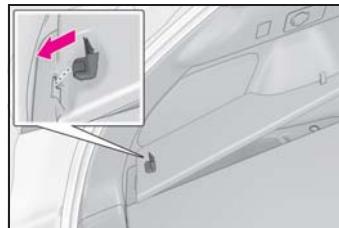
ストラップを持ってサイドデッキボードを持ち上げ、取りはずす



### ■ 知識

■ サイドデッキボードを取り付けるときは

ツメを差し込んでから取り付けて下さい。

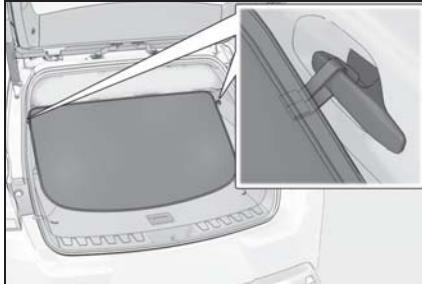


**⚠ 警告**

- デッキボードを開けたり取りはずしたときは

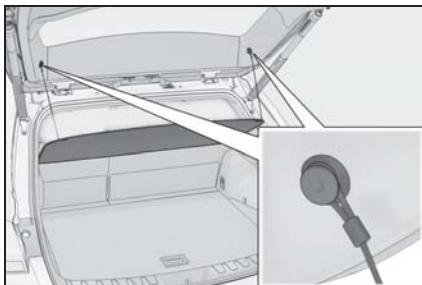
走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

取り付けてください。



**⚠ 注意**

- デッキボードの損傷を防ぐために  
バックドアを閉めるときは、デッキ  
ボードの留めひもをフックにかけたま  
まにしないでください。



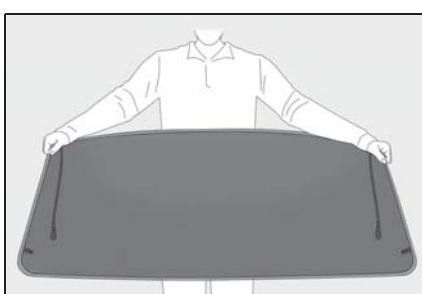
**トノカバー**

- トノカバーを取り付けるときは
- 1 袋からトノカバーを取り出す
  - 2 トノカバーをゆっくり広げる
  - 3 留めひもをトノカバーフックにか  
ける

ひもが縫い付けられている面を下にして

- トノカバーを収納するときは

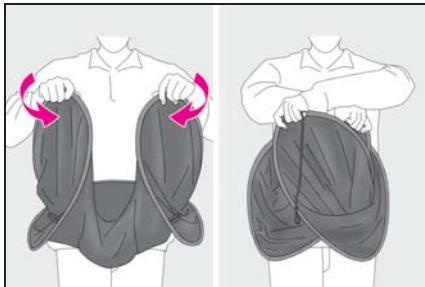
- 1 長い留めひもがある側の角を持つ



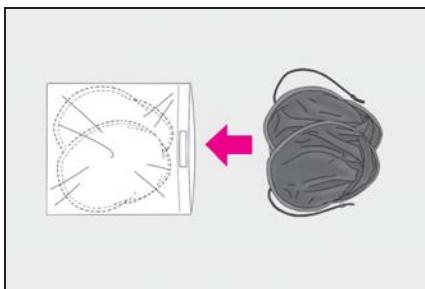
- 2 半分に曲げる



### 3 手首をひねりながらたたむ



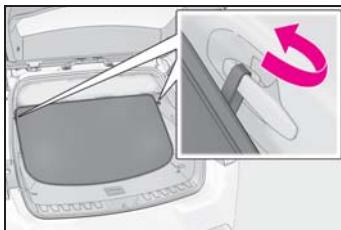
### 4 トノカバーを袋に入れる



#### □ 知識

##### ■ トノカバーを取りはずすときは

短い留めひもは、いったん手前に引いてから取りはずしてください。



#### ⚠ 警告

##### ■ トノカバーを取り出したり広げたりするときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、トノカバーが急に広がり、けがをするおそれがあります。

- 袋から取り出すときは、トノカバーの縁を手でしっかりと押さえながら、ゆっくり取り出してください。
- トノカバーを広げるときは両手でしっかりと持ってゆっくり広げてください。
- 顔の近くでトノカバーを広げないでください。
- トノカバーを広げているときに手を離さないでください。
- 近くに人がいるときはトノカバーを広げないでください。

##### ■ トノカバーを取り付けるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 視界のさまたげにならないよう、トノカバーの後端部を水平にして取り付けてください。
- 留めひもを正しく取り付けてください。

#### ⚠ 注意

##### ■ トノカバーを使用するときは

- トノカバーの上に物を置かないでください。トノカバーが変形するおそれがあります。

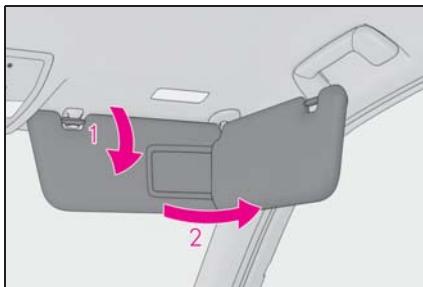
- 留めひもがはずれた状態でバックドアの開閉をしないでください。トノカバーが破損するおそれがあります。

 注意

- トノカバーフックにトノカバーと  
デッキボードの留めひも以外のもの  
を掛けないでください。フックや  
バックドアが破損するおそれがあります。

## その他の室内装備

### サンバイザーを使うには

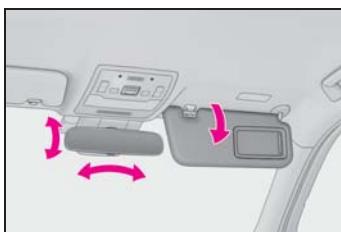


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

### 知識

#### ■ インナーミラーを調整するときは

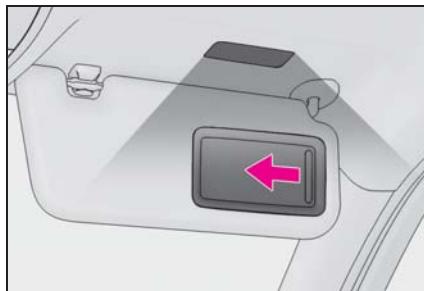
サンバイザー使用時に干渉しない範囲で、後方を十分に確認できるように調整してください。



### バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



### □ 知識

#### ■ 自動消灯について

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

### △ 注意

#### ■ バッテリーあがりを防ぐために

バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

### ■ アクセサリーソケットを使うには

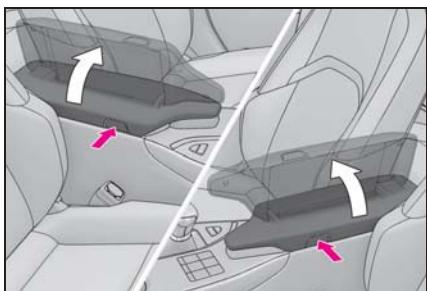
DC12 V/10 A (消費電力 120 W)  
未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120 W 未満にしてください。

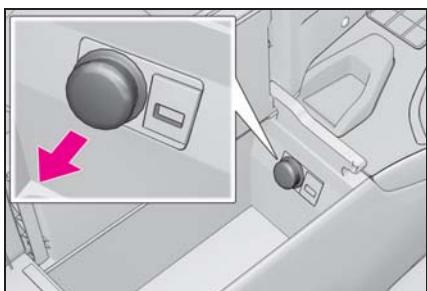
#### ▶ コンソールボックス

ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く

両側から開くことができます。

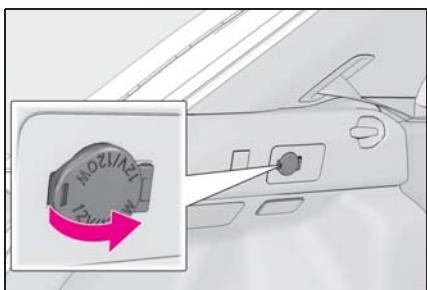


フタを開ける



▶ リヤ

フタを開ける



### □ 知識

■ アクセサリーソケットを使用するとき  
エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ エンジンスイッチを OFF にするとき  
モバイルバッテリーなどの、充電機能を  
備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、エンジンス

イッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

### ⚠ 注意

#### ■ アクセサリーソケットを使用しないときは

ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかつたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

#### ■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

#### ■ 誤作動を防ぐために

エンジンスイッチを OFF にするときは、充電機能をもつ電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、次のような誤作動を起こすことがあります。

● ドアが施錠できない

● メーターのオープニング画面が表示される

● 室内灯やインストルメントパネル照明などが点灯する

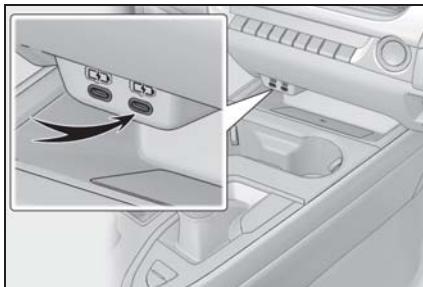
### 充電用 USB Type-C 端子

DC5 V/3 A (消費電力 15.75 W)  
の電源としてお使いください。

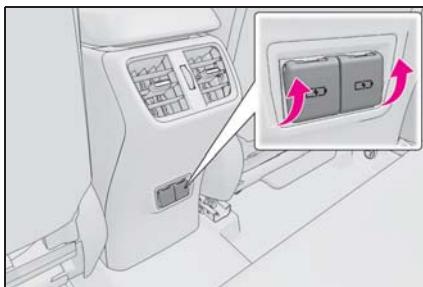
この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用USB Type-C 端子を使用するには

▶ フロント



▶ コンソール後方  
フタを開けて使用する



知識

■ 充電用 USB Type-C 端子の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ 充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5 V/3 A（消費電力 15.75 W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■ 充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- コンソール後方：充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

**ワイヤレス充電器（おくだけ充電）を使うには★**

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバ

イルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。

ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

### ■ 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の商標です。

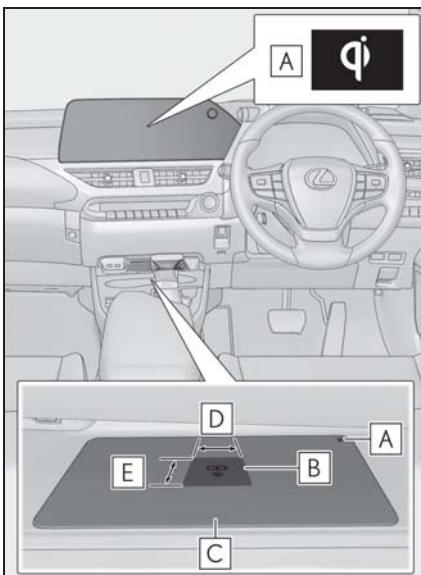


### ■ 「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



### ■ 各部の名称



**A** 作動表示灯

**B** 充電エリア\*

**C** 充電トレイ

**D** 約 7 cm

**E** 約 6 cm

\* 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、充電トレイの中央付近にある充電エリア内を移動することができます。充電エリア上で携帯機器内の充電用コイルが検出されると、その付近までワイヤレス充電器内の充電用コイルが移動し、充電を開始します。携帯機器内の充電用コイルが充電エリアからはずれた場合、充電は自動的に停止します。

また、2つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

## ■ 充電する

充電トレイに携帯機器を置く

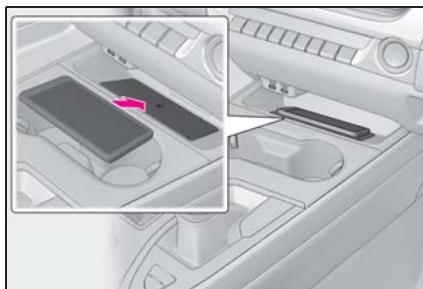
携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るよう置いてください。

携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、携帯機器の充電コイルが充電エリアの中央に来るよう置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



## ■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯		状況
充電トレイ側	センターディスプレイ側	
消灯	非表示	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	灰	待機中（充電可能状態）※1
		充電完了時 ※2
橙（点灯）	青	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
		充電中

※1 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイに置いても、加熱されることはありません。

※2 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

### ■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	センターディスプレイ側	
橙（1秒間に1回の点滅をくり返す）	灰	車両とワイヤレス充電器の通信不良 → エンジンがかかっているときは、一度エンジンを停止し、再始動してください。 エンジンスイッチがACCまたはONのときは、一度エンジンを始動してください。（→P.146）
緑（1秒間に1回の点滅をくり返す）	非表示	ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常 → エンジンがかかっているときは、一度エンジンを停止し、再始動してください。 エンジンスイッチがACCまたはONのときは、一度エンジンを始動してください。（→P.146）
緑（点灯）	青	AM放送局を自動選局している → AM放送局の自動選局が完了するのをお待ちください。また、自動選局が完了しないときは、自動選局を停止させてください。 スマートエントリー＆スタートシステムがキーの検出を行っている。 → キーの検出が完了するのをお待ちください。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	センターディスプレイ側	
橙（3回連続の点滅をくり返す）	灰	<p><b>異物検知：</b> 充電エリア内に金属製の異物があり、充電用コイルの異常過熱防止機能が働いた → 充電エリア内にある異物を取り除いてください。</p> <p><b>携帯機器のずれ：</b> 携帯機器の充電用コイルが充電エリアからはずれたことで、充電用コイルの異常過熱防止機能が働いた → 携帯機器を充電トレイから取り出し、作動表示灯が緑に戻ったことを確認して、充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、外してください。</p>
橙（4回連続の点滅をくり返す）	灰	<p>ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止 → いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。</p>

## □ 知識

### ■ 使用条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

### ■ 使用できる携帯機器について

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。
- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5 W 以下の低電力給電を対象としています。
- ただし、次の携帯機器に対しては、5 W をこえる充電に対応しています。  
・ 7.5 W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5 W 以下の充電に対応して

います。

- ・ WPC 規格の Ver1.2.4 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、10 W 以下の充電に対応しています。

### ■ 携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

### ■ 充電中の AM ラジオ放送連携機能

- 充電中、AM ラジオにノイズが入る場

合、充電の周波数を自動で切りかえてノイズを低減します。

- AMラジオを自動選局中は、充電によって発生するノイズで誤選局しないよう、一時的に充電を停止します。選局が終了すると、充電は自動的に再開します。

#### ■充電中についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなつたときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がつてから、再度、充電を行つてください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがあります。異常ではありません。

#### ■作動中の音について

エンジンスイッチを押してACCまたはONに変更したとき、および携帯機器を検出中は“ジー”や“カチッ”と作動音がしますが、異常ではありません。



#### 警告

##### ■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

##### ■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

#### ■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたつては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

#### ■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶつた状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない



## 注意

## ■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35 ℃以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれているとき
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- 折りたたみ式の携帯機器を充電エリアの外に置いたとき
- 携帯機器のカメラ部の突起が充電面より 3 mm 以上あるとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、装着したりして、あいだが 2 mm 以上となるとき

- ・ 厚みがあるケースやカバー
- ・ 充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
- ・ 厚みがあるデコレーション
- ・ 指リングやストラップなどのアクセサリー

- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・ 金属製の財布やかばん
- ・ 小銭
- ・ カイロ
- ・ CD や DVD などのメディア
- ・ 金属製のデコレーション
- ・ 金属製のケースやカバー

- 近くて電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

- 電子キーが車室内にないとき

- 2つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

### **⚠ 注意**

- 故障やデータ破損を防止するために
  - 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETCカードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
  - 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
  - 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

### ■ スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ 情報などでご確認ください。

### ■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

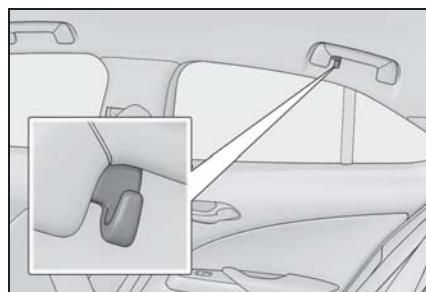


### **⚠ 注意**

- アームレストの破損を防ぐために  
過度の負荷をかけないでください。

## コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



### **⚠ 警告**

### ■ コートフックへかけてはいけないもの

コートフックにハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

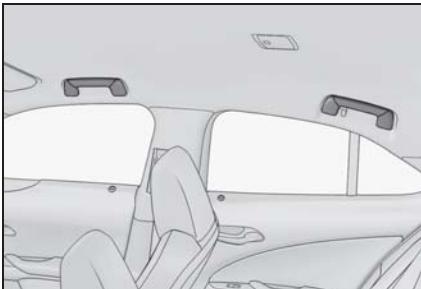
## リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用します。

## アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシスト

グリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



### ⚠ 警告

#### ■アシストグリップについて

乗降時やシートから立ち上がるときに  
使用しないでください。

### ⚠ 注意

#### ■アシストグリップの破損を防ぐため に

破損を防ぐために、アシストグリップ  
に過度の負荷をかけないでください。



## お手入れのしかた

## 6

## 6-1. お手入れのしかた

- |              |     |
|--------------|-----|
| 外装の手入れ ..... | 314 |
| 内装の手入れ ..... | 318 |

## 6-2. 簡単な点検・部品交換

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| ポンネット .....        | 321 |
| ガレージジャッキ .....     | 322 |
| ウォッシャー液の補充 .....   | 323 |
| タイヤについて .....      | 324 |
| タイヤ空気圧について .....   | 332 |
| エアコンフィルターの交換 ..... | 333 |
| 電子キーの電池交換 .....    | 335 |
| ヒューズの点検・交換 .....   | 337 |
| 電球（バルブ）の交換 .....   | 339 |

## 外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあつた適切な方法で実施してください。

### 手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなつたときは、ワックス掛けを行う  
ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

#### 知識

- セルフリストアリングコートについて  
お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。
- 新車時から5~8年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。  
なお、お湯をかけて塗装を暖めると、

復元するまでの時間が短くなる場合があります。

- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

#### ■ 自動洗車機を使うときは

- お車を洗う前に：
  - ・ ドアミラーを格納する
  - ・ パワーバックドア★を停止する
- 走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスピailerが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ■ 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

#### ■ スマートエントリー＆スタートシステムについて

- 電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
  - ・ 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する
- (電子キーの盗難に注意してください)
- ・ 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する(→P.114)

- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときには、車外のブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”が表示されることがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

### ■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
  - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
  - ・ 硬いブラシを使用しない
  - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

### ■ ブレーキキャリパーの塗装について（F SPORT 専用オレンジブレーキキャリパー装着車）

- 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

### ■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

### ■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

### ■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- 金属製の道具で霜取りをしない

### ■ メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る



#### 警告

### ■ 洗車をするときは

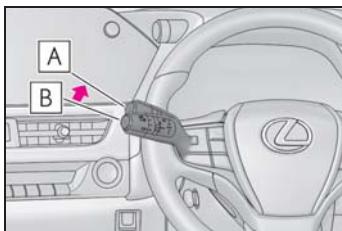
エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

## ⚠ 警告

- フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイバープレードなどを損傷するおそれがあります。



**A** OFF

**B** AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

### ■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

## ■ リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

- Lexus Safety System +
- BSM ★
- RCTA ★
- PKSB

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ⚠ 注意

### ■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - ・ 海岸地帯を走行したあと
  - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥の粪・虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。



## 注意

### ■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。  
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスかけを行わないでください。  
レンズを損傷するおそれがあります。

### ■ 自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

- ワイパースイッチを OFF にしてください。（→P.172）  
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパープレードなどを損傷するおそれがあります。

### ■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。  
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - ・ 駆動系部品
  - ・ ステアリング部品
  - ・ サスペンション部品
  - ・ ブレーキ部品

● モール、バンパーなど樹脂部品は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

● フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

● 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

## 内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

### 車内の手入れをするには

- 掃除機などではこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る  
水を浸した布を固くしぶり、表面に残った洗剤・水分をふき取る



#### ■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーをご利用になります。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

#### ■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

#### ■ スーパーUVカットガラスについて

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。



### 警告

#### ■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRSエアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P.30)  
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電(ワイヤレス充電器)★  
(→P.303)をぬらさないでください。

発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ■ 内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わず事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## 注意

### ■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

- ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

### ■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボーテーが錆びるおそれがあります。

### ■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。  
(→P.180)

### ■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 热線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、热線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

- 热線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

### ■ スーパーUVカットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

## サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

## 知識

### ■ サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

## 革部分の手入れをするには

### ■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、よごれをふき取る  
ウール用の中性洗剤を水で約5%にうすめて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

### ■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などではこりを取り除く
- 汚れがついた場合は、柔らかい布に水を含ませ固くしぼりふき取る
- 水拭きで取れない汚れは、本革シート用クリーナーを使用しふき取る



知識

### ■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

### ■ 合成皮革部分の汚れについて

長い間放置し染みついた汚れはふき取りにくくなるため、定期的にお手入れをおすすめします。



注意

#### ■ 革の傷みを避けるために

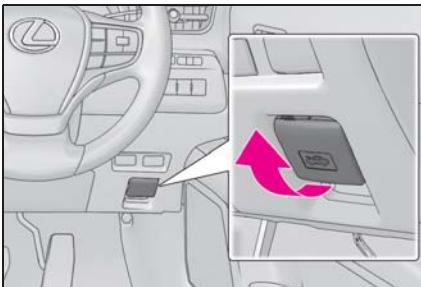
皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする  
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

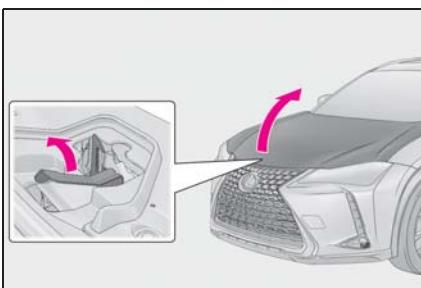
## ボンネット

### ボンネットを開けるには

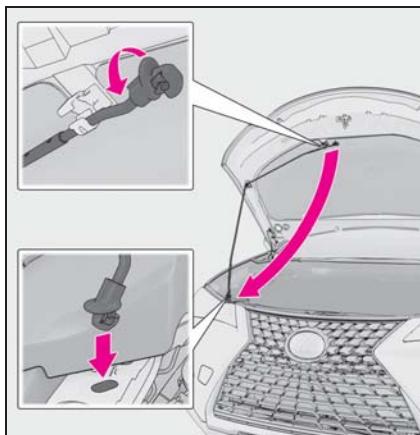
- 1 ボンネット解除レバーを引く**  
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げてボンネットを開ける**



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む**



### 警告

#### ■走行前の確認

ボンネットがしっかりとロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

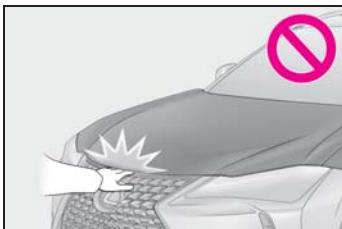
#### ■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

## ⚠ 警告

### ■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるとときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



### ■ ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

## ⚠ 注意

### ■ ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるとときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

### ■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

## ガレージジャッキ

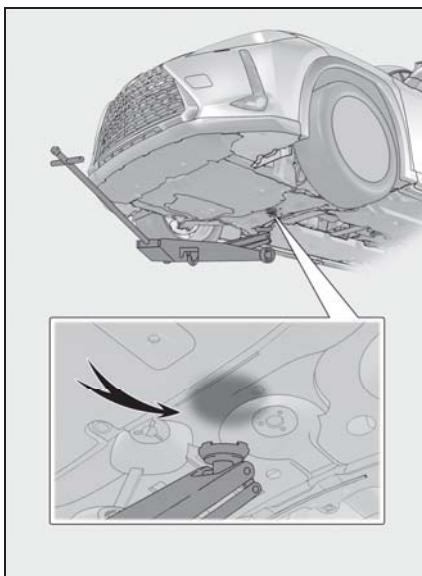
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

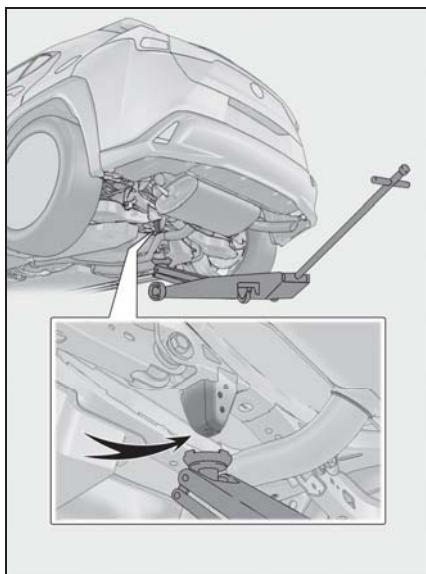
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

## ジャッキポイントの位置を確認する

### ■ フロント側



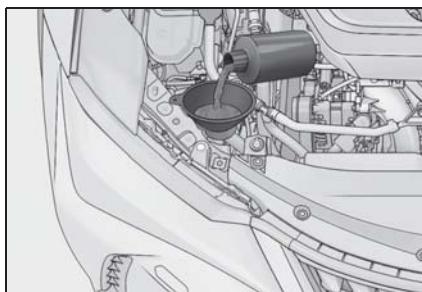
■ リヤ側



## ウォッシャー液の補充

### 補充するには

ウォッシャー液が出なかつたり、マルチインフォメーションディスプレイに“ウォッシャー液を補充してください”が表示されたら、ウォッシャー液を補充する



### ⚠ 警告

#### ■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

6

お手入れのしかた

### ⚠ 注意

#### ■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

#### ■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

## タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

## タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

### ● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

### □ 知識

#### ■ タイヤ空気圧の数値

##### ► 17インチタイヤ

前輪：250kPa (2.5kg/cm<sup>2</sup>) \*

後輪：250kPa (2.5kg/cm<sup>2</sup>) \*

##### ► 18インチタイヤ

前輪：230kPa (2.3kg/cm<sup>2</sup>) \*

後輪：230kPa (2.3kg/cm<sup>2</sup>) \*

##### ► 応急用タイヤ★

420kPa (4.2kg/cm<sup>2</sup>) \*

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

\* タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



#### ■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

#### ■ タイヤの交換について（ランフラット装着車）

お客様の車には、タイヤ交換に使用する次の工具とジャッキが搭載されていないことがあります。その場合、ランフラットタイヤ以外のタイヤに交換するときは、工具とジャッキを購入してください。工具とジャッキはレクサス販売店で購入することができます。

● ホイールナットレンチ

● ジャッキ

● ジャッキハンドル

## ⚠ 警告

### ■ 点検・交換時に警告

必ず次のことをお守りください。  
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない  
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

### ■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じことがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

## ■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## ⚠ 注意

### ■ 走行中に空気もれが起こったら（ランフラットタイヤ非装着車）

走行を続けれでください。  
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

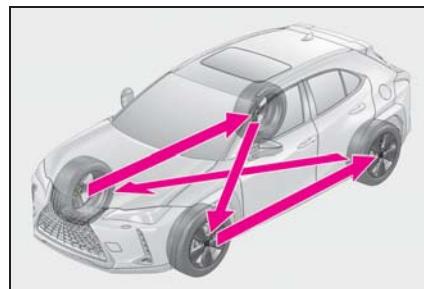
### ■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

## タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

### 知識

#### ■ タイヤローテーションを行うとき

必ずエンジンスイッチが OFF の状態で行ってください。ON のままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度 ON にするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

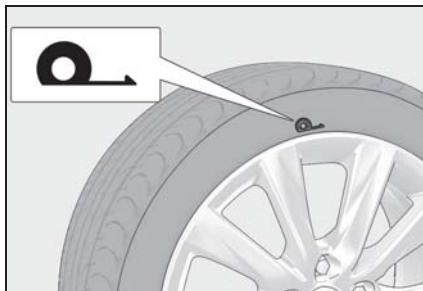
### ランフラットタイヤ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ランフラットタイヤを装着している場合は、タイヤがパンクしても 80km/h をこえない速度で、約 160km まで走行することが可能です。(ただし、気候や走行状況などによっては 80km/h までスピードを出せないこともあります)

ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に  マークが付いています。

160km 近くまで走行してしまう前に、必ずタイヤを交換してください。また、修理されたタイヤを使用しないでください。



### タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。( $\rightarrow$ P.353, 360)

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。



- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。( $\rightarrow$ P.72)

## 知識

### ■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

### ■ タイヤ空気圧表示について

- エンジンスイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで約 3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約 3 分かかります。

- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

### ■ タイヤ空気圧警報システムが正常に動かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。

- ・ 純正ホイール以外を使用したとき
- ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
- ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ・ 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
- ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
- ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID

がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

● 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

- ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

● 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

● タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

### ■ タイヤ空気圧警報システムの警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によってかわります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することができます。

## 空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.330）

知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。



注意

- タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換
- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。  
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

■ 初期化が必要なとき

- タイヤローテーションを実施したとき
- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- ID コードの登録を実施したとき  
(→P.330)

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

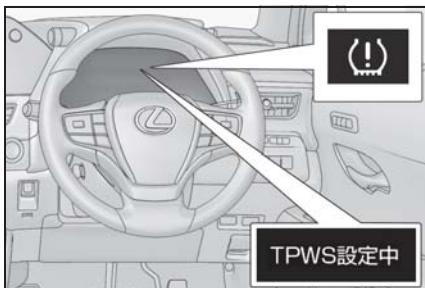
また、タイヤの位置判定を行います。

■ 初期化のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上エンジンを停止する  
車両が動いているときは、初期化できません。
- 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する  
タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。
- 3 エンジンを始動する (→P.146)
- 4 メーター操作スイッチの または を押して を選択する

- 5 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押し、 “車両設定” を選択して “OK” を押す**
- 6 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押し、 “TPWS” を選択して “OK” を押す**
- 7 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押し、 “初期化” を選択し、タイヤ空気圧警告灯が点滅を開始するまで “OK” を押し続ける**

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、タイヤ空気圧表示が “--” になり、タイヤの位置判定を開始します。



- 8 約 40km/h 以上を維持しながら 約 10 ~ 30 分走行する**

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより初期化は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

## □ 知識

### ■ 初期化するときは

- 通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。
- 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。  
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行することで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

### ■ 初期化操作について

- 初期化中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤って初期化操作をしてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

### ■ 初期化がうまくいかないとき

- 次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
  - ・ 約 40km/h 以上を維持して走行していない
  - ・ 未舗装の場所を走行した
  - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
- 1 時間以上走行しても初期化できない場

合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

- 初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも初期化できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。



### 警告

#### ■ タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。

お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

### ID コードを登録するには

- ID コード登録が必要なとき
  - 新しいバルブ／送信機を装着したとき
  - すでにID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

#### ■ ID コード登録のしかた

- 1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する（タイヤ交換作業を含む）

#### 2 エンジンを始動する（→P.146）

3 メーター操作スイッチの または を押して を選択する

4 メーター操作スイッチの または を押し、“車両設定”を選択して “OK” を押す

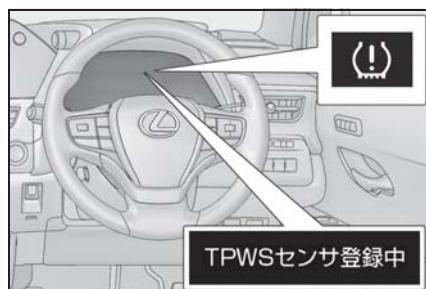
5 メーター操作スイッチの または を押し、“TPWS” を選択して “OK” を押す

6 メーター操作スイッチの または を押し、“自動 ID 登録”を選択して “OK” をタイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅を開始するまで押し続ける

センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、タイヤ空気圧表示が “--” になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。



#### 7 約 2 分間待つ

すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合
- 8 タイヤ空気圧警報システムを初期化する (→P.328)
- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合
- 8 約 40km/h 以上を維持しながら タイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する

約 40km/h 以上を維持できない場合でも 時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

- 9 タイヤ空気圧警報システムを初期化する (→P.328)

## 知識

### ■ ID コードの登録をするときは

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。すでに ID コードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。
- ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- 登録操作を行う前に、車両の近くに タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着した ホイールがないことを確認してください。
- ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に 初期化すると、初期化が無効になります。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、 直進走行をすることで登録されますが、 走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

### ■ ID コード登録の中止について

- ID コードの登録を中止するには、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。  
走行し始めた後に登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を始めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF してください。
- ID コードの登録を中止した場合、次回エンジンスイッチを ON にしたとき、 タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後点灯します。  
タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。
- しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を始めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF してください。
- ID コードの登録がうまくいかないときは
  - 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
    - ・ 走行前に約 15 分以上駐車していない
    - ・ 約 40km/h 以上を維持して走行していない
    - ・ 未舗装の場所を走行した
    - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
    - ・ タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
  - 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
  - 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
  - 登録操作時に警告灯がゆっくり 3 回点滅

しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合はレクサス販売店にご相談ください。

## タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

### □ 知識

#### ■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

##### ● 燃費の悪化

##### ● 乗り心地や操縦安定性の低下

##### ● 摩耗によるタイヤ寿命の低下

##### ● 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

#### ■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

##### ● タイヤが冷えているときに点検する

##### ● タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する

タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。

##### ● 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。

##### ● 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

## ⚠ 警告

- タイヤの性能を発揮するために  
適正なタイヤ空気圧を維持してください。  
  
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだから空氣もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

## ⚠ 注意

- タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを取り付けてください。

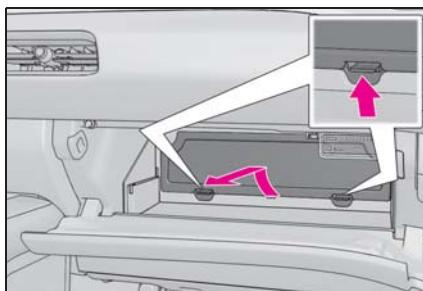
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

## エアコンフィルターの交換

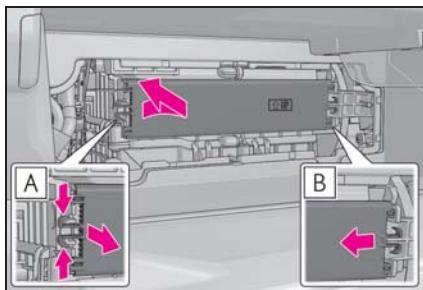
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

### 交換するには

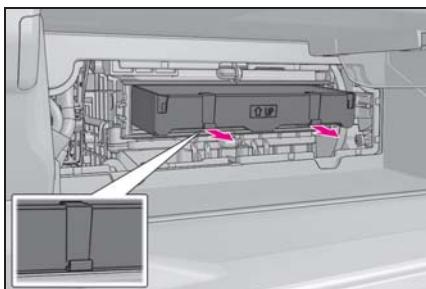
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開け、仕切り板をはずす（→P.293）
- 3 パネルを取りはずす



- 4 フィルターカバーのロックをはずし ([A])、ツメからフィルターカバーを抜き ([B])、フィルターカバーを取りはずす

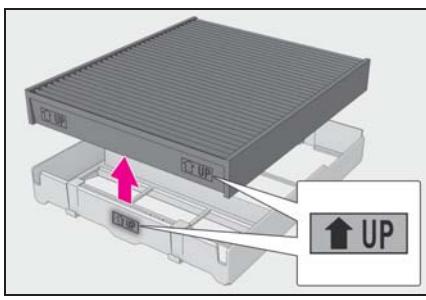


## 5 フィルターケースを取りはずす



## 6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“↑ UP”マークの矢印が上を向くように取り付けます。



### □ 知識

#### ■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km [7500km<sup>※1</sup>]ごと、ただし  
12ヶ月をこえないこと<sup>※2</sup>

<sup>※1</sup>大都市や寒冷地など、交通量や粉じん  
の多い地区

<sup>※2</sup>芳香剤などの使用により脱臭寿命が著  
しく低下する場合があります。エアコ  
ンの臭いが気になりだしたらフィル  
ターを交換してください。

#### ■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられます

で、フィルターを交換してください。

### ⚠ 注意

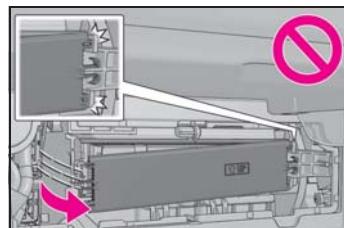
#### ■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを  
使用すると、故障の原因になること  
があります。必ずフィルターを装着  
してください。

- フィルターは、交換するタイプです。  
水洗いやエアブローによる清掃はし  
ないでください。

#### ■ フィルターカバーの破損を防ぐため に

フィルターカバーのロックをはずすとき  
に、フィルターカバーを矢印の方向  
に動かす際は、ツメに無理な力がかかる  
ないように注意してください。ツメ  
が破損するおそれがあります。



## 電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

### □ 知識

- 電子キーの電池が消耗していると次のような状態になります。
  - スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
  - 作動距離が短くなる
- カードキー★の電池交換が必要なときはカードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。
 

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032

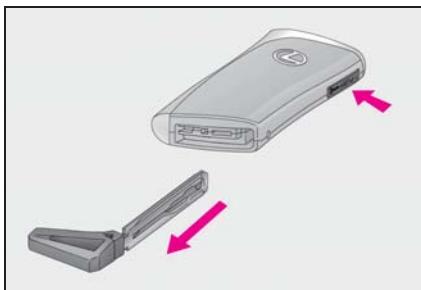
### □ 知識

#### ■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

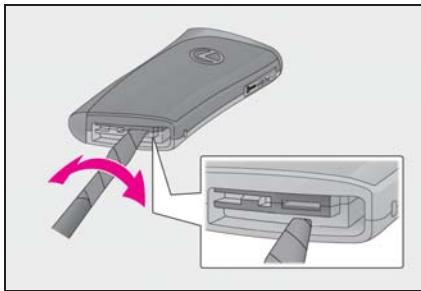
## 電池を交換するには

### 1 メカニカルキーを抜く



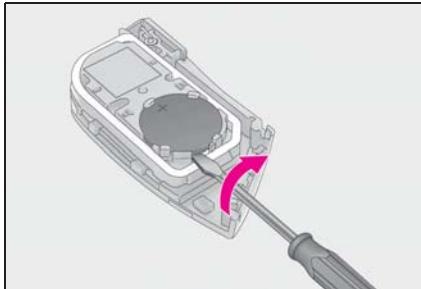
### 2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



### 3 小さいマイナスドライバーを使って消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。





## 警告

### ■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
  - 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
  - カバーがしっかりと閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
  - 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- ### ■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために
- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
  - 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
  - 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。



## 注意

### ■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

### ■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

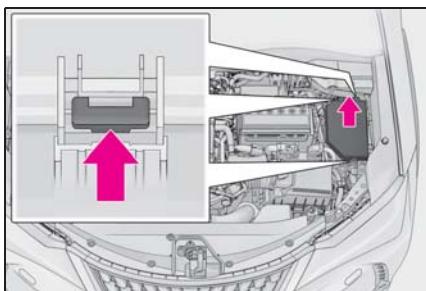
- ぬれた手で電池を交換しない  
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

## ヒューズの点検・交換

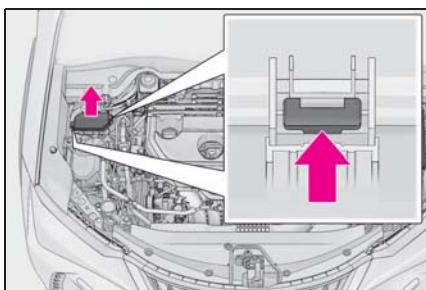
ランプがつかないときや電気系統の装置が動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

### ヒューズの点検・交換をするには

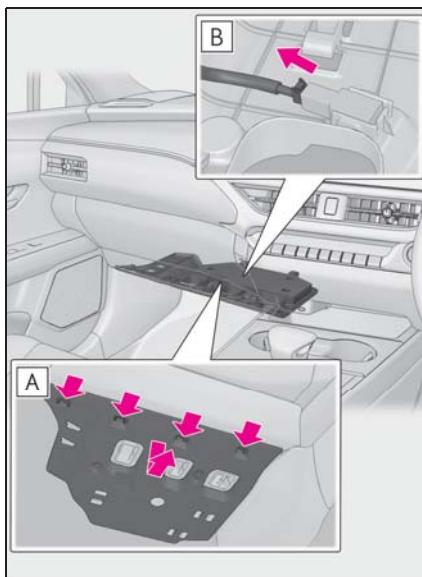
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
  - 2 ヒューズボックスを開ける
- ▶ エンジルーム (1)  
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



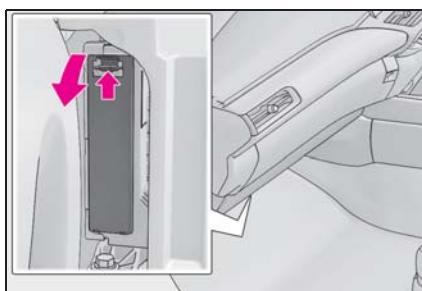
- ▶ エンジルーム (2)  
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



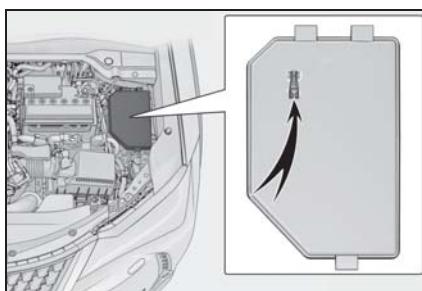
- ▶ 助手席足元  
足元のカバー **A** を取りはずし、足元照明のコネクター **B** を取りはずす



ヒューズボックスカバーを取りはずす

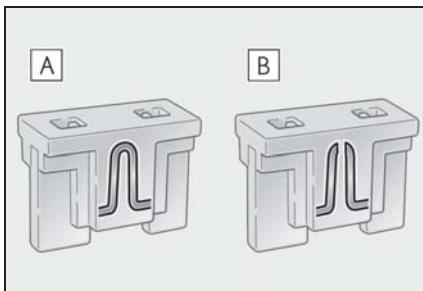


- 3 ヒューズを引き抜く**  
ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



#### 4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



**A** 正常

**B** ヒューズ切れ



##### ■ ヒューズを交換したあと

- 力バーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

##### ■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

##### ■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

#### ■ 警告

##### ■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないとい、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

#### ■ 注意

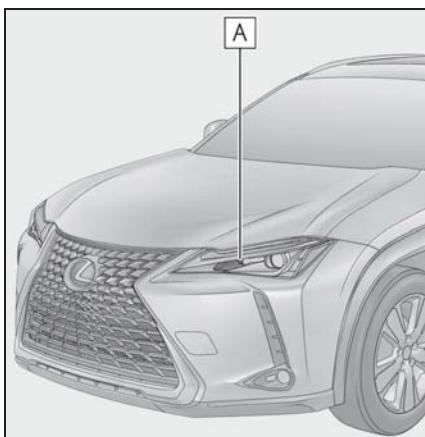
##### ■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

## 電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自分で交換できます。交換する前に、切れた電球のW(ワット)数を確認してください。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

## 電球の位置



**A** フロント方向指示灯／非常点滅灯  
(単眼ヘッドライト装着車)

### ■ レクサス販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、  
レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライト（前照灯）
- 車幅灯／ディタイムランニングランプ
- フロント方向指示灯／非常点滅灯  
(三眼ヘッドライト装着車)
- フロントフォグランプ★
- コーナリングランプ★

- サイド方向指示灯／非常点滅灯

- 尾灯

- 制動灯

- 尾灯／制動灯

- リヤ方向指示灯／非常点滅灯

- リヤフォグランプ★

- 後退灯

- ハイマウントストップランプ

- 番号灯

★：グレード、オプションなどにより、  
装備の有無があります。

### □ 知識

#### ■ LED ランプについて

単眼ヘッドライト装着車：

フロント方向指示灯／非常点滅灯以外のランプは、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

三眼ヘッドライト装着車：

すべてのランプは、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

#### ■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

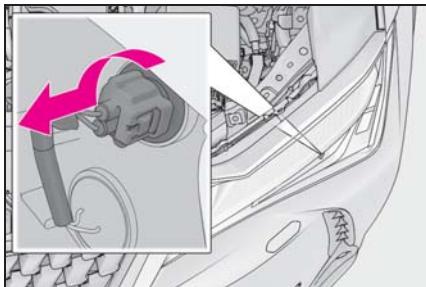
#### ■ 電球（バルブ）を交換するとき

→P.338

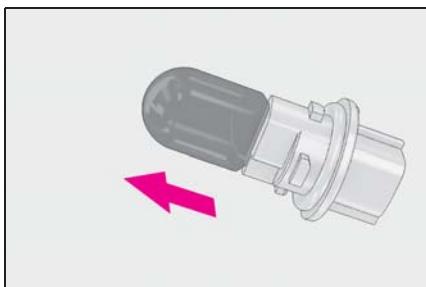
## 電球交換をするには

### ■ フロント方向指示灯／非常点滅灯 (単眼ヘッドライト装着車)

- ソケットを左にまわして取りはずす



- 電球を取りはずす



- 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の順序で取り付ける

### ⚠ 警告

#### ■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

- 電球のガラス部を素手でふれないでください。

やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

- 電球や電球を固定するための部品はしっかりと取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

#### ■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

## 7-1. まず初めに

故障したときは.....	342
非常点滅灯（ハザードランプ）.....	343
発炎筒 .....	343
車両を緊急停止するには .....	344
水没・冠水したときは .....	345

## 7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....	347
フューエルポンプシャットオフシス テム .....	351
警告灯がついたときは .....	352
警告メッセージが表示されたときは .....	360
パンクしたときは（タイヤパンク応 急修理キット装着車） .....	364
パンクしたときは（応急用タイヤ装 着車）.....	375
パンクしたときは（ランフラットタ イヤ装着車） .....	381
エンジンが始動できないときは	382
キーをなくしたときは.....	384
給油扉が開かないときは .....	384
電子キーが正常に働かないときは .....	385
バッテリーがあがつたときは ..	387
オーバーヒートしたときは .....	391
スタックしたときは.....	393

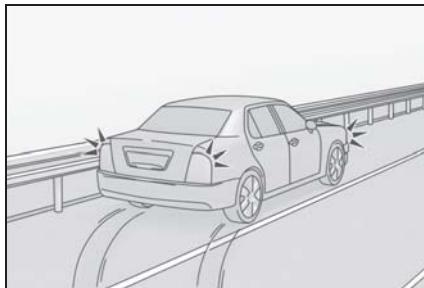
## 故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

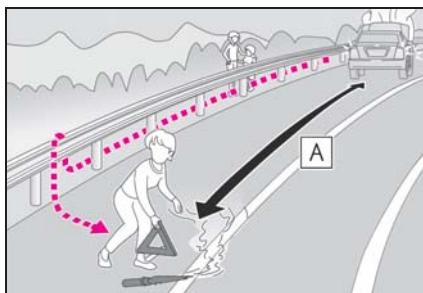
## 対処のしかた

- 非常点滅灯（→P.343）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
- 1 同乗者を避難させる
  - 2 車両の 50m 以上後方 **A** に発炎筒（→P.343）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
    - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
    - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

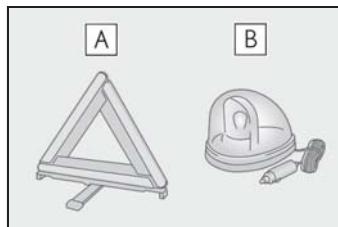


- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する

### □ 知識

#### ■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



**A** 停止表示板

**B** 停止表示灯

- 停止表示板のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

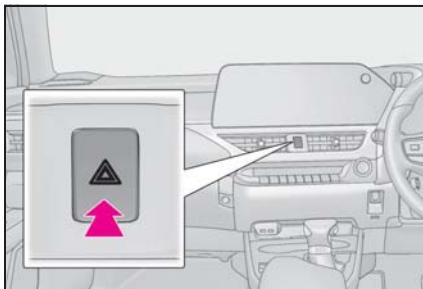
## 非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

### 点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。  
もう一度押すと消灯します。



#### □ 知識

##### ■ 非常点滅灯について

- エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。

非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。

(衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。)

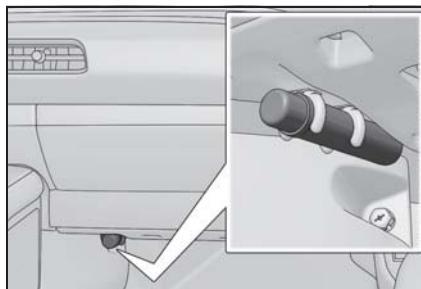
## 発炎筒

高速道路や踏切などの故障・事故時に非常信号用として使用します。(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)

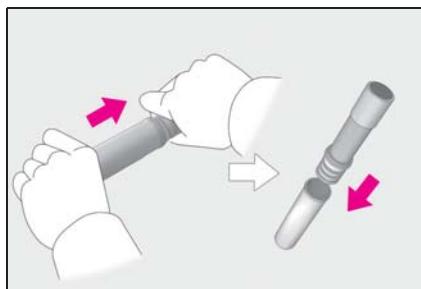
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

### 発炎筒を使うには

#### 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



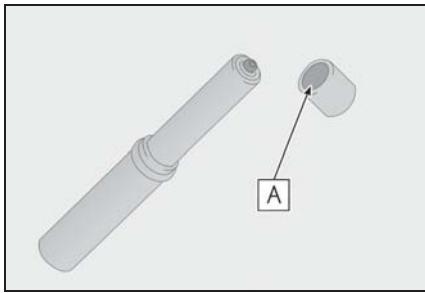
#### 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



#### 3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。  
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



## □ 知識

### ■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかつたり、炎が小さくなる場合があります。

## ⚠ 警告

### ■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

### ■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

## 車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

## 車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入る
- ▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
- ▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

## 警告

### ■走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようしてください。

## 水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されています。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。

車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待つてからドアを開けて車外に出てください。  
車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

## 知識

### ■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

### ■緊急脱出用ハンマー<sup>※</sup>の使用について

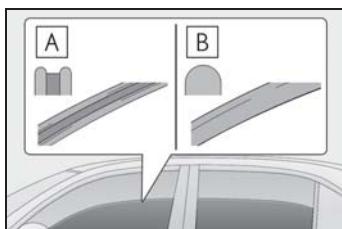
この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラス★が使用されております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー<sup>※</sup>で割ることができません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 詳しくはレクサス販売店にお問合せください。

### ■合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。



**A** 合わせガラス

**B** 強化ガラス



#### 警告

##### ■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

## けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。



### ■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

## けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障を考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

## レッカー車でけん引するとき

### ▶ 前向きにけん引するときは



(→P.156)

### ▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

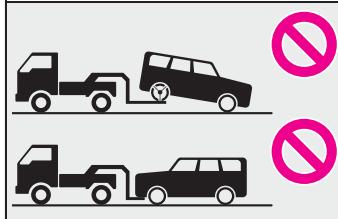


### 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ■ レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



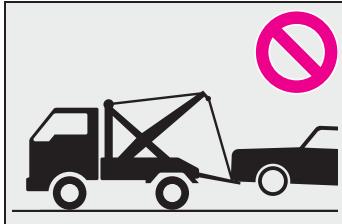
パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFFにしてください。

**⚠ 注意**

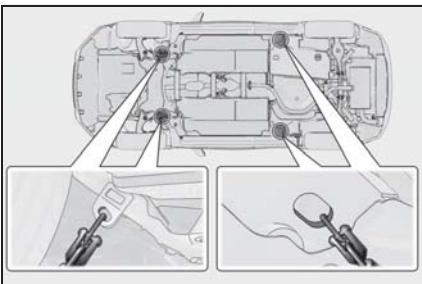
■ レッカーカーでけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカーカーではけん引しないでください。

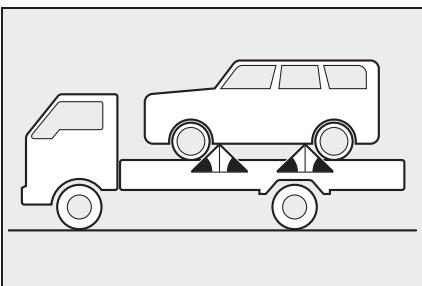


**車両運搬車を使用するとき**

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45° になるように固縛する



**⚠ 注意**

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

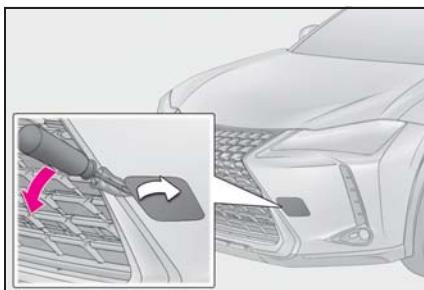
ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

**他車にけん引してもらうとき**

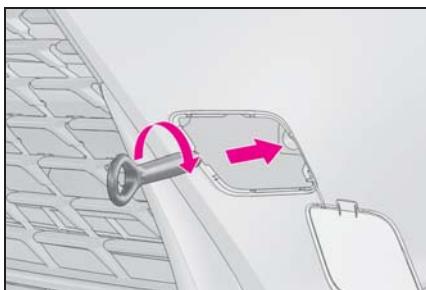
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ★、けん引フックを取り出す (→P.296, 365, 375)
- 2マイナスドライバーを使ってフタをはずす

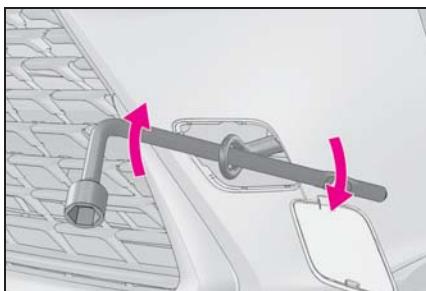
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める**



- 4 ホイールナットレンチ★や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける**

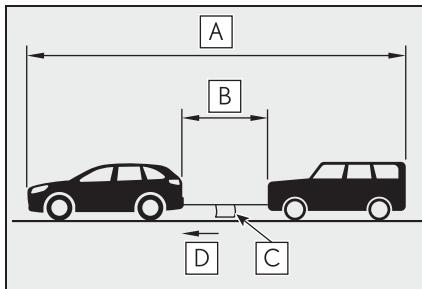


- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける**

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける  
布の大きさ：**

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



**A 25m 以内**

**B 5m 以内**

**C 白い布**

**D けん引方向**

- 7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する**

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

- 8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する**

オートモードを OFF にしてください。  
(→P.156)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.151

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## □ 知識

### ■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

### ■ 他車にけん引してもらうとき

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

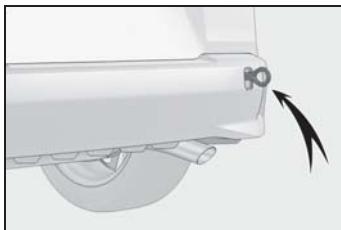
### ■ ホイールナットレンチについて

ホイールナットレンチ装着車：ラゲージルームに搭載されています。（→P.296, 375）

ホイールナットレンチ非装着車：レクサス販売店で購入することができます。

### ■ 緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったりしたとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

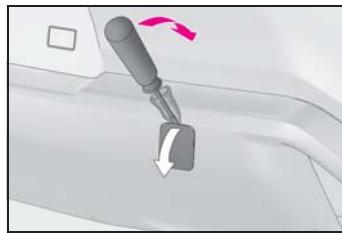


### ■ 緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ★、けん引フックを取り出す（→P.296, 365, 375）
- 2マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

4 ホイールナットレンチ★や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ■ 他車にけん引してもらうときの運転について

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

### ■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

## 注意

### ■車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
  - ・ ワイヤーロープは使用しない
  - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
  - ・ 前進方向でけん引する
  - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレー ラー）などをけん引しないでください。

### ■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

### ■Stop & Start システム装着車をけん引するときは

4輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチを ON してください。

## フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

## エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチを ACC または OFF にする
- 2 エンジンを再始動する

## 注意

### ■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

## 警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

### 警告灯・警告ブザーへの対応

#### ■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブレーキ液の不足</li> <li>●ブレーキ系統の異常</li> </ul> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>

#### ■ 充電警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>充電系統の異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

#### ■ 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>エンジンオイル圧力の異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

## ■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エンジンの異常</li> <li>● エンジン電子制御システムの異常</li> <li>● 電子制御スロットルの異常</li> <li>● トランスマッision電子制御システムの異常</li> </ul> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。</p>

## ■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>エンジン冷却水の高温異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.391）に従ってください。</p>

\* マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

## ■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合：</p> <p>タイヤ空気圧警報システムの異常</p> <p>→ レクサス販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告灯が点灯した場合：</p> <p>次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然要因</li> <li>● タイヤのパンク</li> </ul> <p>ランフラットタイヤ非装着車</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.358）に従ってください。</p> <p>ランフラットタイヤ装着車</p> <p>→ P.358</p>

## ■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電子制御ブレーキシステムの異常</li> <li>● パーキングブレーキシステムの異常</li> </ul> <p>→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SRS エアバッグシステムの異常</li> <li>●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</li> </ul>

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ABS の異常</li> <li>●ブレーキアシストの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</li> </ul>

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	

■ Stop & Start キャンセル表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	Stop & Start システムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●VSC（ピークルスタビリティコントロール）システムの異常</li> <li>●TRC（トラクションコントロール）システムの異常</li> <li>●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</li> </ul>

## ■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある            → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。</p> <p>パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。</p>

## ■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>ブレーキホールドシステムの異常            → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>

## ■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>ブザーが鳴った場合：            クリアランスソナーの異常            → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p> <p>ブザーが鳴らなかつた場合：            センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない            → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.247）</p>

## ■ RCTA OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>ブザーが鳴った場合：            RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常            → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p> <p>ブザーが鳴らなかつた場合：            レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→P.240）に汚れや付着物がある            → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.254）</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。  ブザーが鳴らなかつた場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.261, 360）

### ■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 7.1L 以下になった → 燃料を補給する

### ■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

### ■ リヤ席シートベルト非着用警告灯※<sup>1</sup>（警告ブザー※<sup>2</sup>）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※<sup>1</sup>マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。リヤ席の乗員の有無に関わらず、リヤ席シートベルト非着用の状態でエンジンスイッチを ON にした場合、一定時間点灯します。

※<sup>2</sup>リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

## ■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ブザーが鳴った場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ブレーキオーバーライドシステムの異常</li> <li>●ドライブスタートコントロールの異常</li> <li>●ドライブスタートコントロール作動時</li> <li>●PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動時</li> </ul> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイ★に表示されているメッセージの指示に従ってください。</p> <p>ブザーが鳴らなかつた場合：</p> <p>ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。</p>

\* マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ LTA 表示灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (橙色)	<p>LTA（レントレーシングアシスト）の異常</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.203）</p>

\* マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

## ■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	<p>警告ブザーが鳴った場合：</p> <p>プリクラッシュセーフティの異常</p> <p>→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告ブザーが鳴らない場合：</p> <p>プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.183, 362）</p> <p>プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。</p> <p>→ P.195</p>

## 知識

### ■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

### ■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。

- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

### ■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

### ■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.364, 375, 381

パンクしていないときは：

エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

### ► タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

### ► タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

- 1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する

- 2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行う（→P.328）

### ■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空氣もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

### ■応急用タイヤ★に交換した場合

応急用タイヤには空気圧バルブ／送信機は装備されていません。タイヤがパンクした場合、応急用タイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.327

#### 警告

- 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



## 警告

### ■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

### ■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合（ランフラットタイヤ非装着車）

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を確認・調整してください。

- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤがパンクしている場合は応急用タイヤに交換するか、タイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤの修理をしてください。

- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。

タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

### ■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合（ランフラットタイヤ装着車）

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の交通状況にあわせ、できるだけ速やかに減速し、80km/h をこえない速度で走行してください。

- ただちにタイヤ空気圧を確認・調整してください。

- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。

- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。

タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

### ■ タイヤの破裂、突然の空氣もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。



## 注意

### ■ タイヤ空気圧警報システムについて

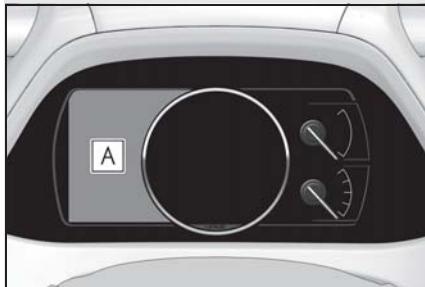
- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

**⚠ 注意**

- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→P.327）では解除できません。

**警告メッセージが表示されたときは**

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

**A マルチインフォメーションディスプレイ**

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。  
処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

## メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告ブザー※	警告内容
—	あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>走行にかかるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。</li> <li>車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。</li> </ul>
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。</li> <li>車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。</li> </ul>

\* メッセージを最初に表示したときに作動します。



### 知識

#### ■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

#### ■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

#### ■ 各部の操作に関するメッセージが表示されたときは

- アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき
- PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があ

ります。

メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

- ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→P.139）
- ドライブスタートコントロール・PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.143, 257）。画面の指示に従って対処してください。

#### ● エンジンスイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、エンジンスイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。

画面の指示に従って操作し直してください。

#### ● シフトレバーの操作に関するメッセー

### ジが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。

その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

- 各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたときは

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

- “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください”が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

- “エンジン停止のためハンドルが重くなります”が表示されたときは

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

- “バッテリー保護のため自動で電源をOffしました”が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約 5 分間その回転数を保持し、バッテリーを充電してください。

- “電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です”が表示されたときは

不要な電装品をオフにし、電力消費を控えてください。電源状態が復帰するまでしばらくお待ちください。

- “クルーズコントロール一時使用不可 取扱書を確認ください”が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法→P.183）

- “クルーズコントロール 現在使用できません”が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

- 前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.183, 352）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
  - LTA（レーントレーシングアシスト）
  - AHS（アダプティブハイビームシステム）★
  - AHB（オートマチックハイビーム）★
  - RSA（ロードサインアシスト）
  - レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
  - 先行車発進告知機能
  - ドライバー異常時対応システム
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。 (→P.183, 352)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LTA (レーントレーシングアシスト)
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)
- 先行車発進告知機能

■ 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
  - ・ “エンジン冷却水高温” (→P.391)
  - ・ “トランスマッショントラブル” (→P.150)
  - ・ “前方カメラ一時使用不可” (→P.183)
  - ・ “クルーズコントロール一時使用不可” (→P.183)
- “スマートエントリー＆スタートシステム故障”が表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
  - ・ “故障のためブレーキ力が低下”
  - ・ “充電システム故障”
  - ・ “エンジン油圧不足”



注意

■ “電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です”がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

## パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

### 警告

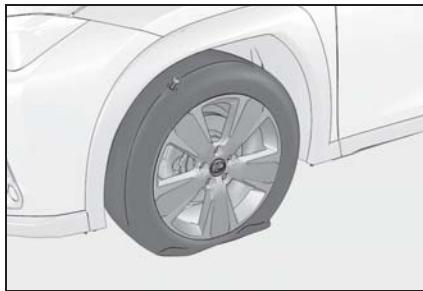
#### ■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## 応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。



- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

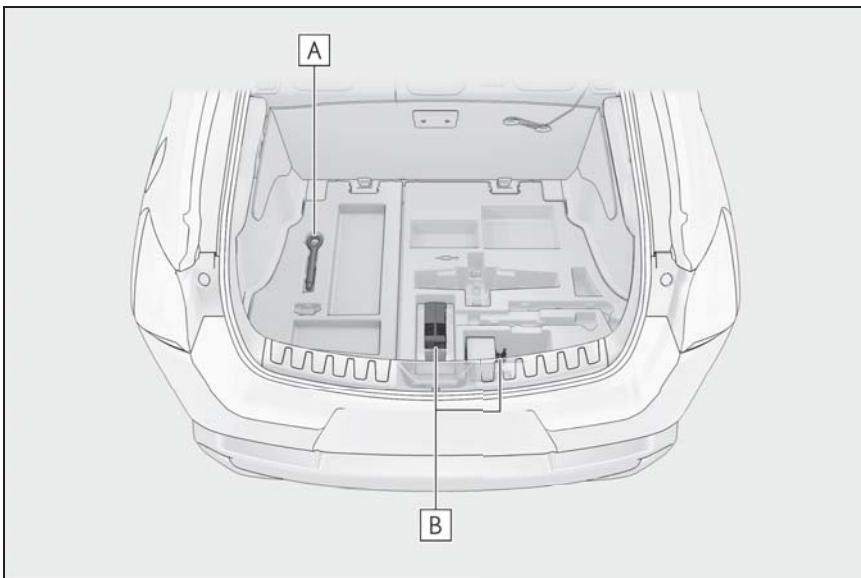
### 知識

#### ■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

## タイヤパンク応急修理キットの位置



**A** けん引フック

**B** タイヤパンク応急修理キット

## タイヤパンク応急修理キットの 内容／各部の名称

7

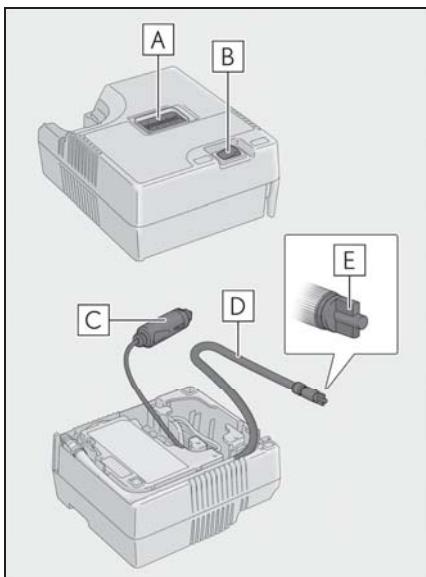
万一の場合には

### ■ ポトル



**A** 速度制限ラベル

## ■ コンプレッサー



**A** 空気圧計

**B** 電源スイッチ

**C** 電源プラグ

**D** ホース

**E** 空気逃がしキャップ

### □ 知識

## ■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

- パンク補修液がホイールやボルトに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

## ■ 応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

## ■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

### 警告

#### ■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けてください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

## ⚠ 警告

### ■ 応急修理キットについて

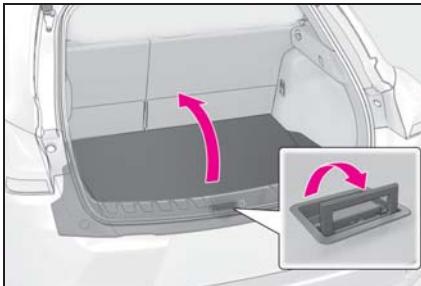
- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

### ■ パンク補修液について

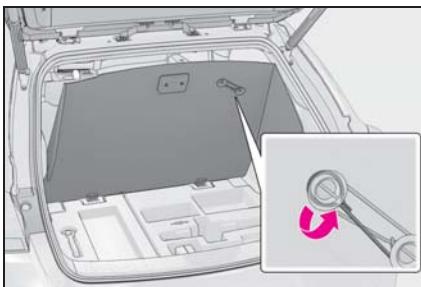
- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

## タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

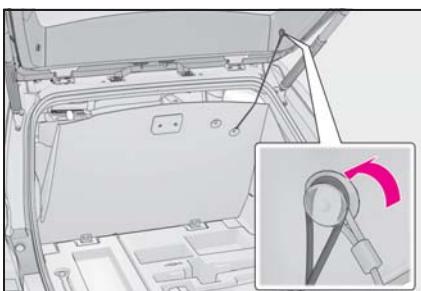
- 1 レバーを引き上げて、デッキボードを持ち上げる



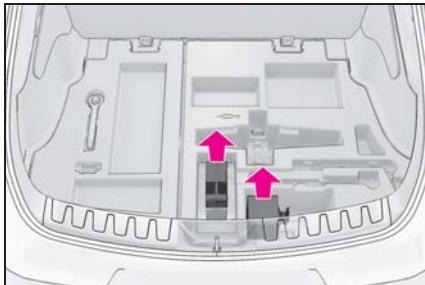
- 2 留めひもをはずす



- 3 留めひもをかける



#### 4 応急修理キットを取り出す

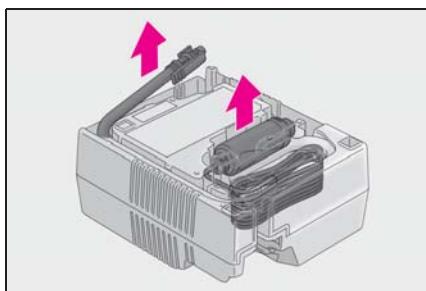


#### 応急修理するときは

- 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

- 2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



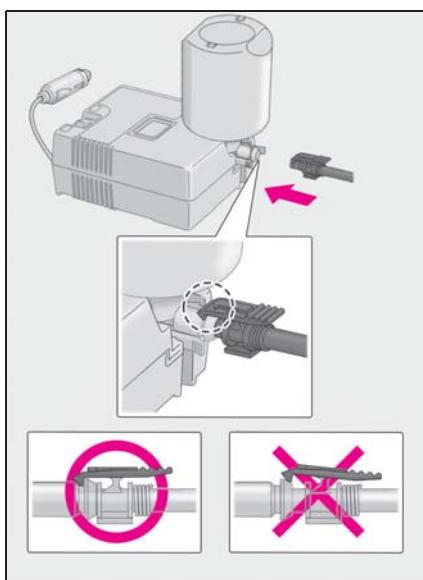
- 3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください

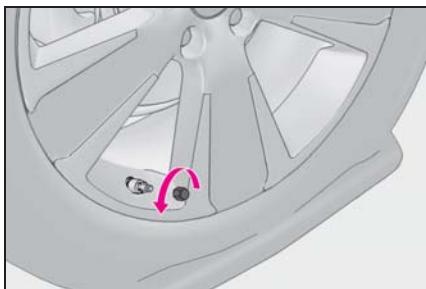
い。

- 4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかりと接続しているか確認してください。

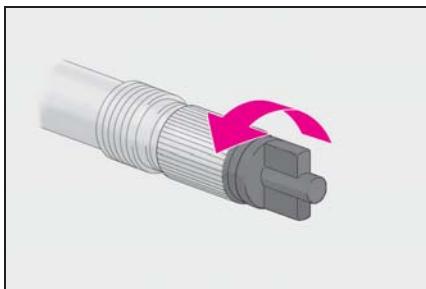


- 5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



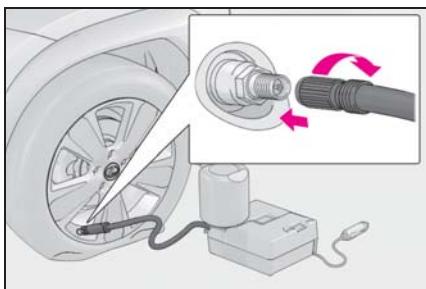
- 6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

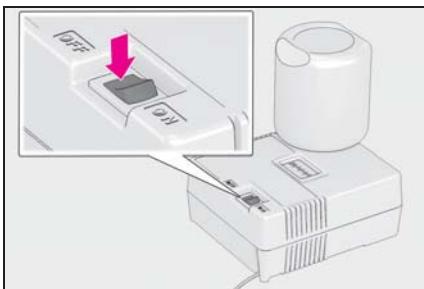


- 7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

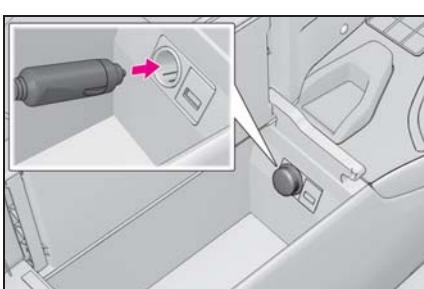


- 8 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する

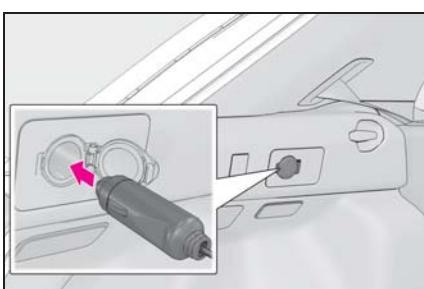


- 9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む  
(→P.301)

▶ フロント



▶ リヤ

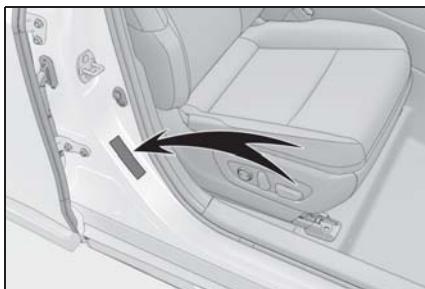


- 10** 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



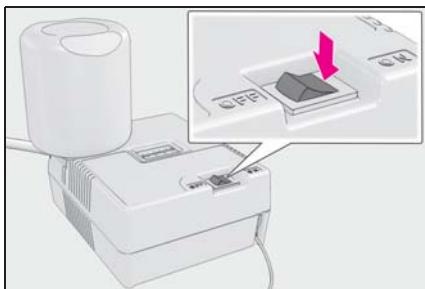
- 11** タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。( $\rightarrow$ P.324)

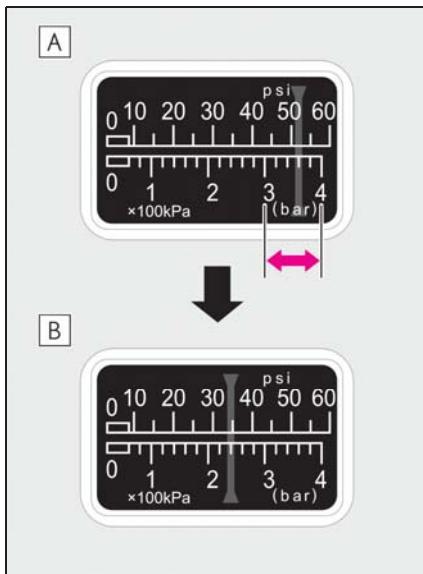


- 12** エンジンを始動する ( $\rightarrow$ P.146)

- 13** コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



- 14** 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



**A** 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm<sup>2</sup>) まで上昇し、徐々に減少します。

**B** スイッチを ON にしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ~ 20 分です (外気温により異なります)。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。  
( $\rightarrow$ P.324, 399)

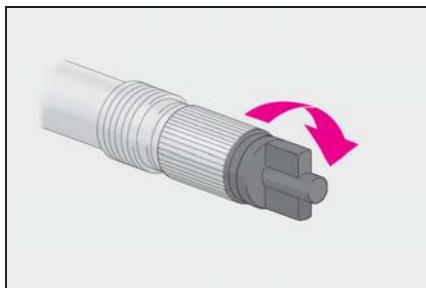
**15** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

**16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

**17** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

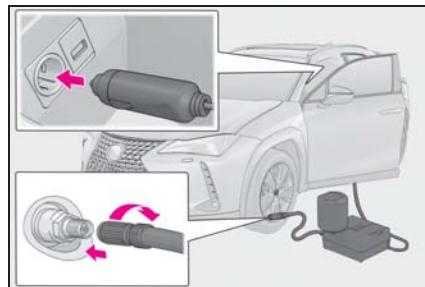


**18** いつたん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

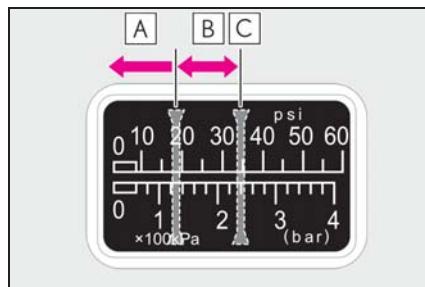
**19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

**20** 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続するホースを接続する前に、空気逃がし

キャップを取りはずしてください



**21** コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



**A** 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm<sup>2</sup>) 未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

**B** 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm<sup>2</sup>) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

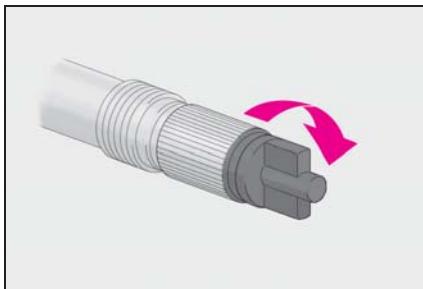
**C** 空気圧が指定空気圧 (→P.324) の場合：手順 **23** へ

**22** コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

**23** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れ

る可能性があります。



**24** ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

**25** 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、約 100km 以内、速度 80km/h 以下でレクサス販売店まで慎重に運転する

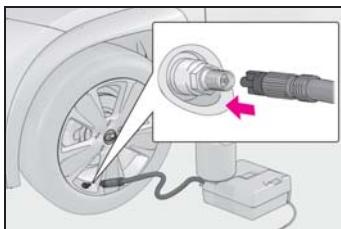
タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはレクサス販売店にご相談ください。

レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください

### □ 知識

#### ■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

**4** コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

#### ■ 応急（パンク）修理キットを使用したとき

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

### ▲ 警告

- パンクしたタイヤを応急修理するときは
  - 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
  - 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
  - タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
  - 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
  - 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
  - 作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

## 警告

- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFFにし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40分以上連續で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- **補修液を均等に広げるための運転について**  
次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。
- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

● 車がまっすぐ走行しなかつたり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

- ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
- ・ 空気圧を確認してください。  
130kPa (1.3kg/cm<sup>2</sup>) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

## 注意

### ■ 応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかかるないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

### ■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

 注意

- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

## パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。（タイヤについての詳しい説明はP.324を参照してください）



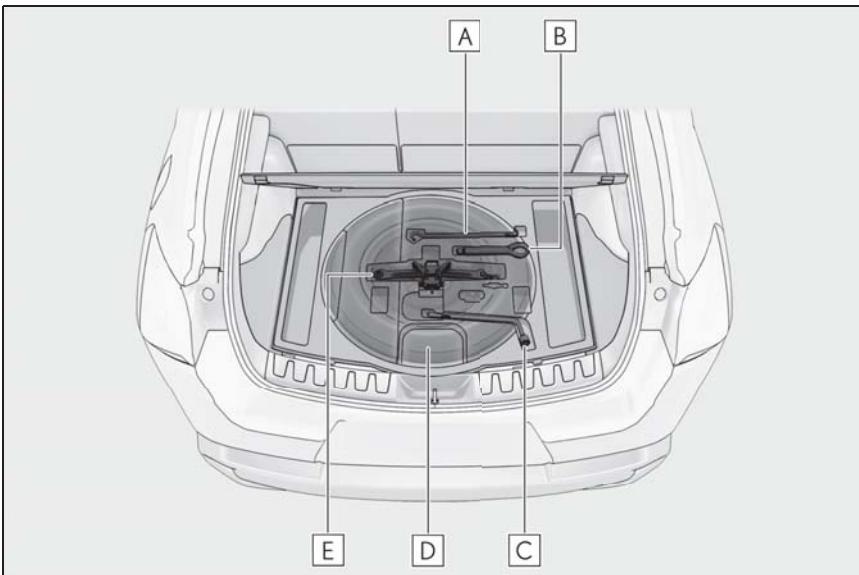
### ■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPにする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる  
(→P.343)

## 工具とジャッキの位置



**A** ジャッキハンドル

**B** けん引フック

**C** ホイールナットレンチ

**D** 応急用タイヤ

## E ジャッキ

### ⚠ 警告

#### ■ ジャッキの使用について

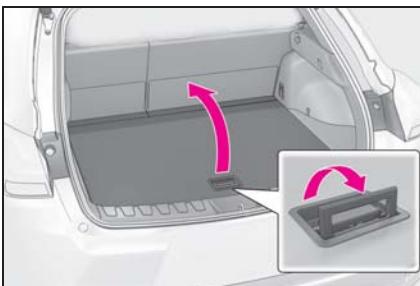
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

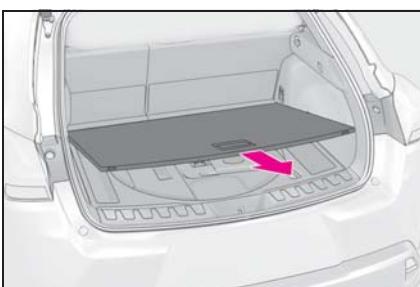
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

### ジャッキを取り出すには

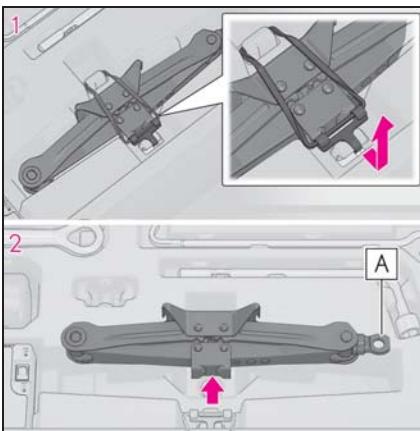
- 1 レバーを引き上げて、デッキボードを持ち上げる



- 2 デッキボードを取りはずす



- 3 ジャッキを取りはずす



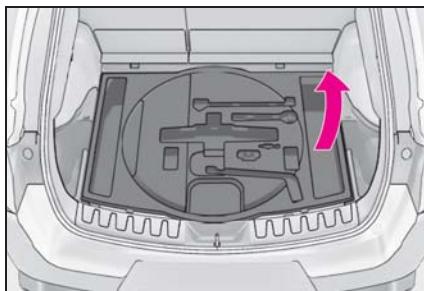
- 1 ゴムバンドをはずす

## 2 ジヤッキを取り出す

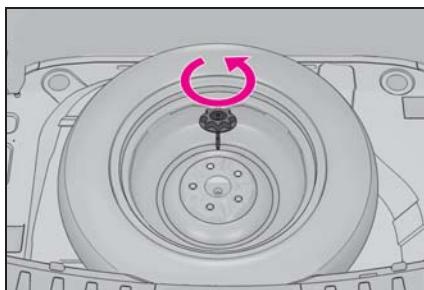
ジャッキを収納するときは、ジャッキの**A**部をまわして動かなくなるまで縮めたあと、ゴムバンドで固定する。

### 応急用タイヤを取り出すには

- 両側のサイドデッキボードを取りはずす (→P.297)
- デッキアンダーボックスを取りはずす



- 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



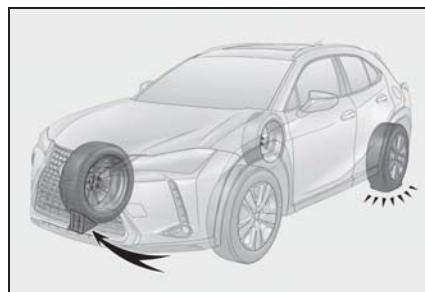
#### ⚠ 警告

##### ■ 応急用タイヤを収納するとき

ボディーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

## パンクしたタイヤを交換するには

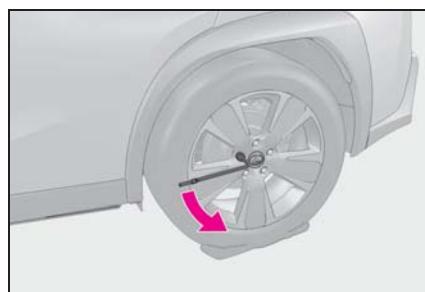
- 輪止め※をする



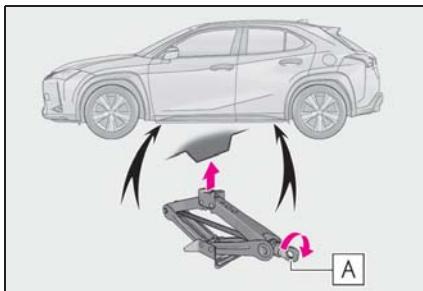
パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

\* 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

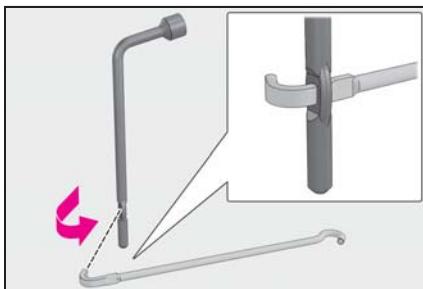
- ナットを少し（約1回転）ゆるめる



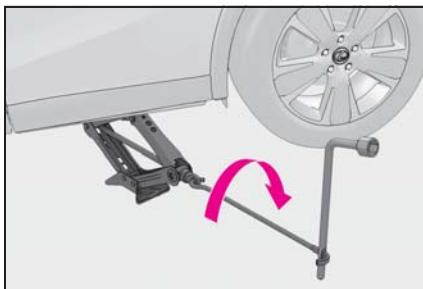
- 3 ジャッキの[A]部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりとかける



- 4 ジャッキハンドルにホイールナットレンチを取り付ける



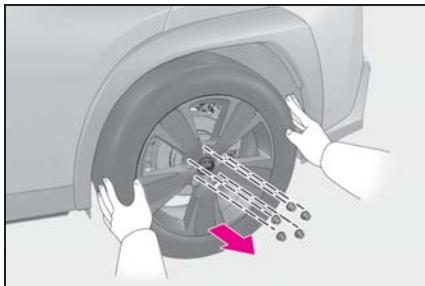
- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上に

します。



### ⚠ 警告

#### ■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください  
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

## ⚠ 警告

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ねじ部にオイルやグリースを塗らない  
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ・ホイールの交換後はすぐに 103N·m (1050kgf·cm) の力でナットを締める
- ・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

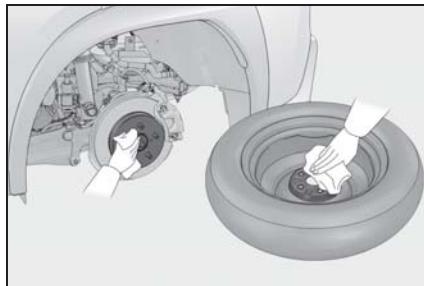
### ■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.111）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

## 応急用タイヤを取り付けるには

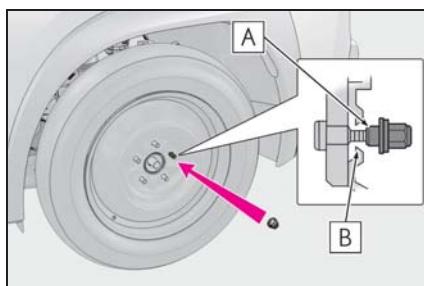
- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る  
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるお

それがあります。

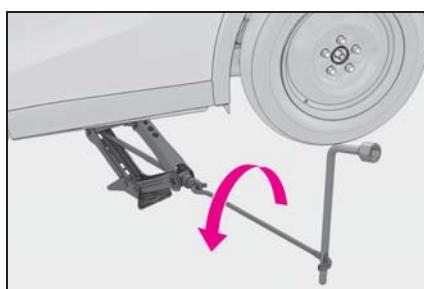


- 2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部 **A** がホイールのシート部 **B** に軽くあたるまでまわします。



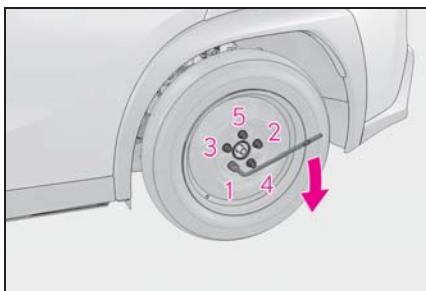
- 3 車体を下げる



- 4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかりと締め付ける

締め付けトルク：

103N・m (1050kgf・cm)



- 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

### □ 知識

#### ■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

- 空気圧を必ず点検してください。  
(→P.399)

#### ■ 応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

- 雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは
  - 1 後輪を応急用タイヤと交換する
  - 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
  - 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

### ⚠ 警告

#### ■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

#### ■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ ブレーキアシスト
- ・ VSC
- ・ TRC
- ・ NAVI・AI-AVS★
- ・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）
- ・ EPS
- ・ LTA（レーントレーシングアシスト）
- ・ バックガイドモニター★
- ・ クリアランスソナー
- ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）
- ・ ナビゲーションシステム
- ・ パノラミックビューモニター（左右確認サポート付き）★
- ・ BSM（ブラインドスポットモニター）★
- ・ オートマチックハイビーム★
- ・ アダプティブハイビームシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h以上の速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## ⚠ 警告

■ ジャッキや工具を使用したあとは  
走行前に正しい位置に格納されている  
か確認してください。正しく格納され  
ていないと、事故や急ブレーキの際、  
重大な傷害につながるおそれがあり危  
険です。

## ⚠ 注意

### ■ 応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装  
着時にくらべ車高が低くなっています。  
段差を乗りこえるときは注意してくだ  
さい。

### ■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチー ン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを  
装着しないでください。  
タイヤチェーンが車体側にあたり、走  
行に悪影響をおよぼすおそれがありま  
す。

## パンクしたときは（ランフ ラットタイヤ装着車）

ランフラットタイヤ装着車には、  
応急用タイヤが搭載されていま  
せん。ランフラットタイヤは、パン  
クした場合でもしばらくは走行可  
能です。パンクしたときは、なる  
べく速度を落とし、慎重に運転し  
てください。

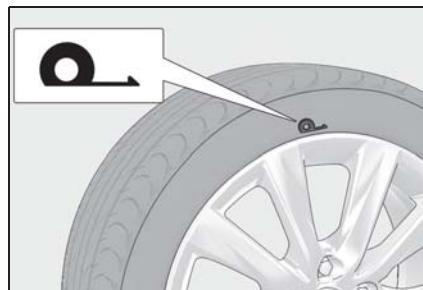
（タイヤについての詳しい説明は  
P.324 を参照してください）

## ランフラットタイヤ

ランフラットタイヤがパンクしたと  
きは、次の点に注意して走行し、最  
寄りのレクサス販売店でタイヤを交  
換してください。

- 80km/h 以下で走行する
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- 160km 以上走行しない

ランフラットタイヤには、タイヤの側壁  
に  マークが付いています。



## □ 知識

### ■ 高温時などは

160km まで走行できない場合があ  
ります。

## ■ ランフラットタイヤについて

→P.326



## 注意

## ■ タイヤを交換するときは

最寄りのレクサス販売店で交換してください。タイヤ交換の際、交換手順を誤るとタイヤ空気圧警報用のバルブと送信機が損傷するおそれがあります。

## ■ 段差を乗りこえるときは

タイヤがパンクしているときは、通常にくらべ車高が低くなっているので、注意してください。

## ■ 液体のパンク修理剤の使用禁止

お使いになると、空気圧バルブ／送信機が損傷するおそれがあります。

## ■ パンクしたタイヤの再利用禁止

パンクしたタイヤを補修して使用しないでください。

## ■ 自動洗車機の使用禁止

タイヤがパンクした状態では、車が洗車機に引っかかり、損傷するおそれがあるため自動洗車機を使用しないでください。

## エンジンが始動できないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.146）に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

## スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。  
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。  
再度、正しい手順（→P.146）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.53）

## スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.387）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

## スターーターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P.383）

システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

## スターーターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.387）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

## 緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始まらないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→P.155）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチを ACC にする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、

## キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



### ■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキー★をすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

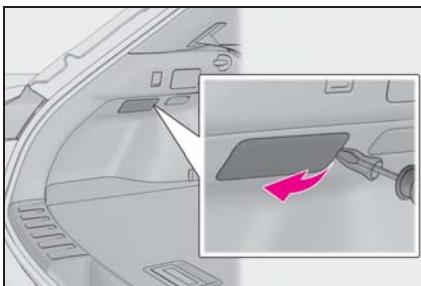
## 給油扉が開かないときは

給油口オープナースイッチを押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

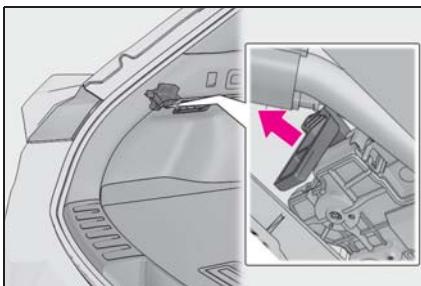
## 給油扉を開くには

### 1 ラゲージルーム内のカバーをマイナスドライバーを使って取りはずす

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



### 2 レバーを引く



## 電子キーが正常に動かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.114）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

### □ 知識

#### ■ 電子キーが正常に動かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.403）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。  
設定されている場合は解除してください。（→P.114）
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.114）



#### ■ スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

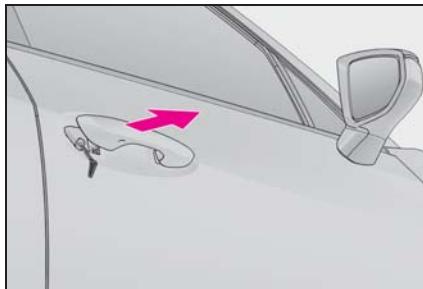
## ドアを施錠・解錠するには

### ■ ドアの解錠

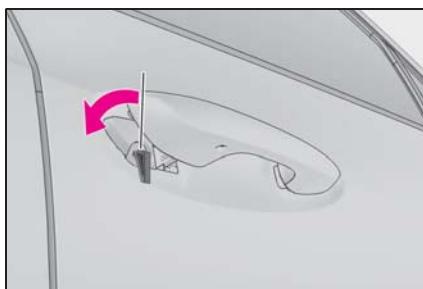
メカニカルキー（→P.91）を使って

次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

- 1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



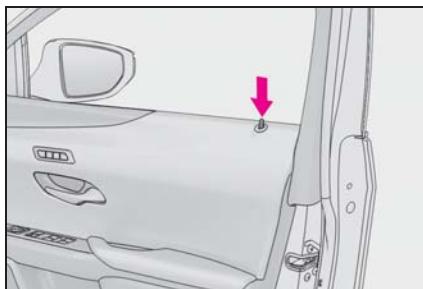
- 2 キーを回してドアを解錠する



- 3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルをもとにもどしたあと、再度ドアハンドルを引く

### ■ ドアの施錠

- 1 ドアを開けた状態でドアロックボタンを押し下げる

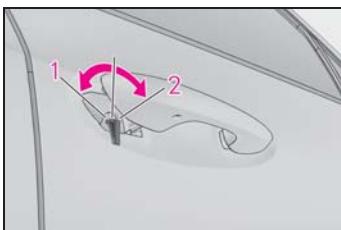


- ▶ フロント席ドア
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める
- ▶ リヤ席ドア
- 2 ドアを閉める



#### ■ キーと連動する機能について

カスタマイズの設定変更により、キーと連動してドアガラスとムーンルーフ★の開閉ができます。



- 1 ドアガラスとムーンルーフ★が開く(まわし続ける)
  - 2 ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる(まわし続ける)
- ★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



#### 警告

- メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

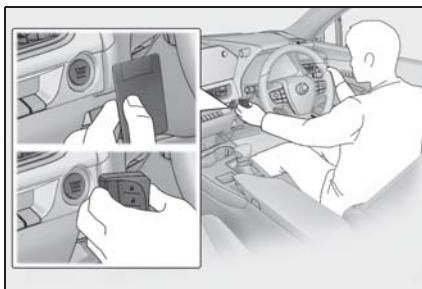
ドアガラスやムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

#### エンジンを始動するには

- 1 シフトレバーがPの状態でブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACCへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにが表示されていることを確認する。

#### 4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。



#### ■ エンジンの停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけて、エンジンスイッチを押します。

#### ■ 電子キーの電池交換

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。

す。 (→P.335)

### ■ オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。

**■ エンジンスイッチのモードの切りかえ**  
エンジン始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。  
(→P.148)

## バッテリーがあがったときは

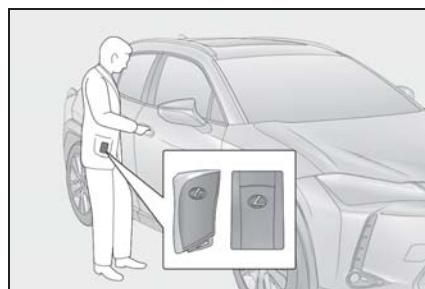
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

### エンジンを再始動するには

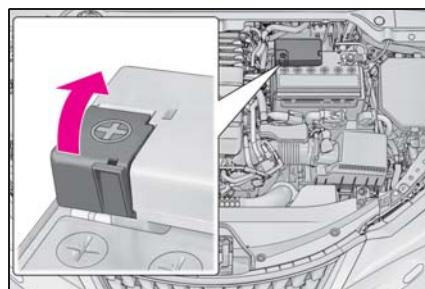
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 電子キーを携帯していることを確認する

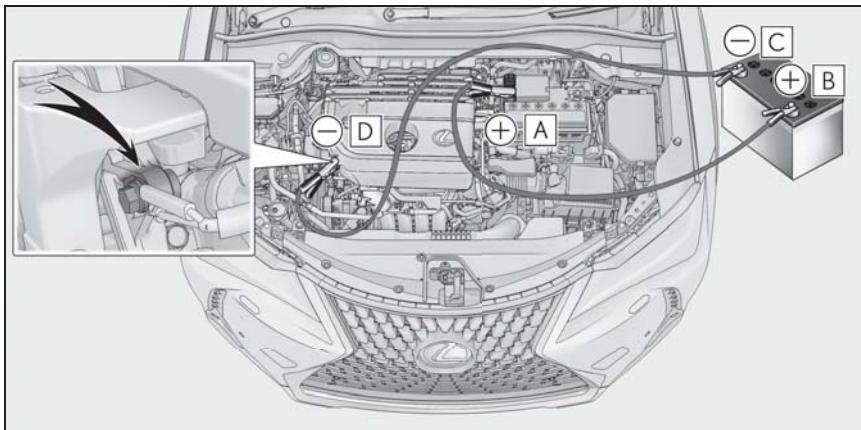
ブースターケーブル接続時、場合によつては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。 (→P.55)



- 2 ボンネットを開ける (→P.321)
- 3 バッテリーの+端子のカバーを開ける



- 4 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部[D]につなぐ。



- [A] バッテリーの+端子（自車）  
 [B] バッテリーの+端子（救援車）  
 [C] バッテリーの-端子（救援車）  
 [D] 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

- 5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車のバッテリーを充電する  
 6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんONにしてからエンジンを始動する  
 7 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではです

エンジンが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

### □ 知識

- バッテリーあがり時の始動について  
 この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやエアコン、オーディオなどの電源を切ってください。(Stop & Startシステムによるエンジン停止中を除く)
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要的電装品の電源を切ってください。

- バッテリーがあがってしまったときは  
 ● コンピューターに記憶されている情報

が消去されます。バッテリーがあがつたときはレクサス販売店で点検を受けてください。

- パワーバックドアシステム★の初期化を行ってください。（→P.107）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。

### ■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、バッテリーがあがつてエンジンが始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

### ■バッテリーあがり時や取りはずし時などは

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかつた場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチをOFFにしてから行ってください。

バッテリーがあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

- バッテリーがあがつたあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約5～60分間、Stop & Startシステムが作動しないことがあります。

### ■バッテリーを交換するときは

Stop & Start専用バッテリー（欧州規格）を使用してください。

- 交換前と同一のケースサイズ（LN3）、20時間率容量（20HR）が同等（65Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）がの同等（603A）以上のバッテリーを使用してください。
- ケースサイズが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
- 20時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であってもバッテリーがあがつて、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
- 装着されているバッテリーは、Stop & Startシステム専用品です。LN3またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のためにStop & Startシステムの作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

## ⚠ 警告

■ バッテリー端子をはずすときは必ずー端子を先にはずしてください。+端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のプラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側とー側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

### ■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

● 誤ってバッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける

また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

● 誤ってバッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

● バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う

● お子さまをバッテリーに近付けない

### ■ バッテリーを交換するときは

● 液栓がステーに近いと、バッテリー液（酸）がもれだすおそれがあります。

● バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

## ⚠ 注意

### ■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

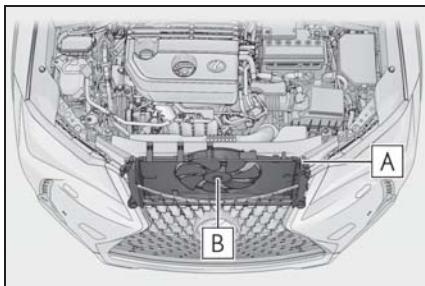
## オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.64, 67）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

## 対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：  
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してポンネットを開ける  
蒸気が出でていない場合：  
注意してポンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

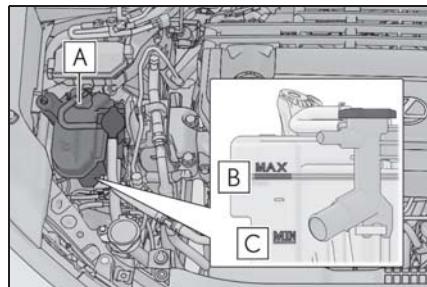


**A** ラジエーター

**B** ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“MAX”（上限）と“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する



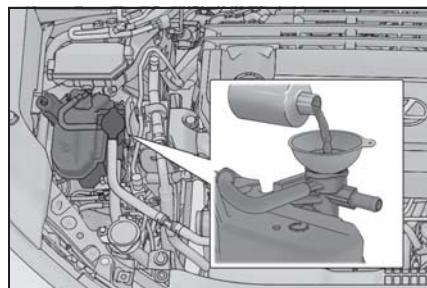
**A** リザーバータンク

**B** “MAX”（上限）

**C** “MIN”（下限）

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどか

ら冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンをONにすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンのON・OFFをくり返してください。(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：  
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する
- ファンが作動している場合：  
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける
- 8 マルチインフォメーションディスプレイの“エンジン冷却水高温安全な場所に停車して取扱書を確認してください”表示を確認する

表示が消えていない場合：  
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する

表示が消えている場合：  
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

### 注意

#### ■ 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。  
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

#### ■ 冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 异物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

### 警告

#### ■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。  
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

## スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなつたときは次の方法で脱出してください。

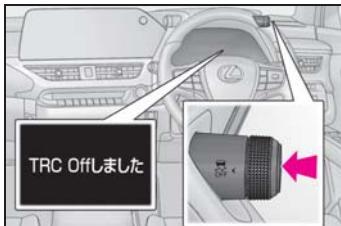
## 脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを Pに入れ、エンジンを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む



### ■ 脱出しにくいとき

OFFスイッチを押して TRC を OFF にしてください。



## ⚠ 警告

### ■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

### ■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## ⚠ 注意

### ■ トランスマッショ n やその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかつた場合、けん引による救援が必要です。



**8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） ..... **396**

**8-2. カスタマイズ機能**

ユーザーカスタマイズ機能 ..... **400**

**8-3. 初期設定**

初期設定が必要な項目 ..... **412**

## メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

### 燃料

指定燃料	容量 [L] (参考値)
・ 無鉛プレミアムガソリン※1	
・ バイオ混合ガソリン（プレミアム）※2	47

※1 無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。その場合、エンジン性能を十分に発揮できません。

※2 エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

### エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値※)	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16		
適合： 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20  弊社純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	4.3	4.6

\* エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

#### ■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、

SN/RC か、ILSAC 規格に合致した

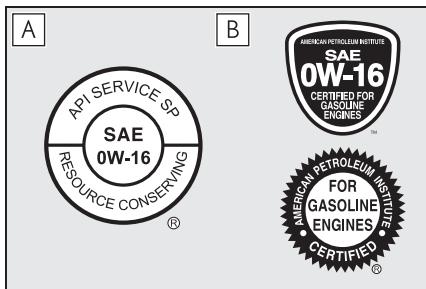
オイルをご使用ください。

0W-16 は、新車時に工場充填され

ている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックセラティフィケーション) マークが付いています。



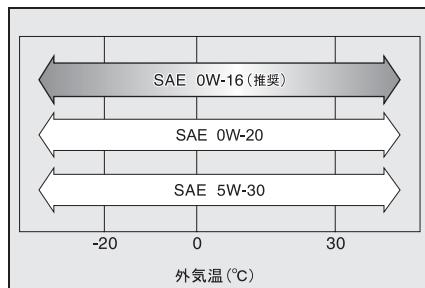
[A] API マーク

[B] ILSAC CERTIFICATION マーク

### ■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘

度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または高負荷走行に適しています。

## ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正スーパーロングライフクラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12 °C 濃度 50% - 35 °C	6.6

## トランスマッision

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正 CVT フルード FE*	8.2

\* 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

**注意****■ CVT フルードについて**

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

**ブレーキ****■ ブレーキフルード**

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

**■ ブレーキペダル※1**

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※2	101

※1 ブレーキペダルの点検に併せて、エンジン回転時に、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、P.352 を参照してください）

※2 エンジン回転時に、300 N (30.6 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

**■ パーキングブレーキ**

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、P.353 を参照してください）

**ウォッシャータンク**

容量 [L] (参考値)
4.8

## タイヤ・ホイール

### ■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm <sup>2</sup> )	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/60R17 96H	17 × 6 1/2 J	250 (2.5)	
	225/50R18 95V	18 × 7 J	230 (2.3)	
	225/50RF18 95V			
応急用タイヤ★	T145/90D16 106M	16 × 4 T	420 (4.2)	

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]	
標準タイヤ	103 (1050)
応急用タイヤ★	

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 電球（バルブ）※

電球		W (ワット) 数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯（単眼ヘッドライト装着車）	21
車内	パニティランプ	8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

## 車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
UX200	MZAA10	M20A-FKS (2.0L ガソリン)	FF（前輪駆動）

## ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、センターディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

### 設定を変更するには

#### ■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの または を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの または を押して変更する項目を選択し、“OK”を押す
- 3 メーター操作スイッチの または を押して設定したい項目を選択し、“OK”を押す

前の画面にもどつたり、設定を終了したりする場合は、 スイッチを押します。

#### ■ センターディスプレイで設定するには

- 1 メインメニューの を選択する

## 2 サブメニューの“車両カスタマイズ”を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、  
 (作動)・ (非作動)を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

### □ 知識

#### ■ センターディスプレイでカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

### ■ 警告

#### ■ カスタマイズを行うときは

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ■ 注意

#### ■ カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

## 車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかかるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

- A センターディスプレイの画面操作で設定変更可能

**[B]** マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

**[C]** レクサス販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→P.64, 67, 72)

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	○ ※2	○	—
車速表示 ※3	デジタル	アナログ	—	○	—
ドライブインフォ 1	瞬間燃費	※4	—	○	—
	リセット間平均燃費				
ドライブインフォ 2	航続可能距離	※4	—	○	—
	リセット間平均車速				
割り込み表示	あり	なし	—	○	—
テーマカラー	カラー 1	カラー 2	—	○	—
REV インジケーター ※5	あり	なし	—	○	—
REV インジケーター回転数設定 ※5	5000 r/min	2000 ~ 6800 r/min	—	○	—
REV ピーク ※5	あり	なし	—	○	—
エコドライブインジケーターランプ	あり (自動点灯)	なし	—	○	—
提案サービス	あり	あり (停車中のみ)	○	—	○
		なし			
リヤシートリマインダー	あり	なし	—	○	—

※1 機能についての詳しい説明は P.77 を参照してください

※2 設定は  の “共通設定” で変更できます

※3 F SPORT 以外

※4 瞬間燃費、リセット間平均燃費、始動後平均燃費、給油後平均燃費、リセット間平均車速、始動後平均車速、リセット間走行時間、始動後走行時間、航続可能距離、始動後走行距離、ブランクから 2 項目を選択

※5 F SPORT

## ■ ヘッドアップディスプレイ★ (→P.79)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
タコメーター切りかえ	タコメーター	エコドライブインジケーター	—	○	—
		表示なし			
目的地案内	あり	なし	—	○	—
レーン表示	あり	なし	—	○	—
運転支援システム表示	あり	なし	—	○	—
オーディオ表示	あり	なし	—	○	—
傾き調整	水平位置	反時計回り / 時計回り方向へ回転	—	○	—

\* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ ドアロック (→P.95, 385)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開閉連動アンロック）	なし	あり	○	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通  
(→P.90, 113)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）	標準	任意の音量	○	—	○
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
解錠後、ドアを開けなかつたときの自動施錠までの時間	30秒	60秒	—	—	○
		120秒	—	—	○
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

### ■ スマートエントリー＆スタートシステム (→P.113)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間※	2.0秒	非作動	—	—	○
		1.5秒	—	—	○
		2.5秒	—	—	○
連続ロック操作の有効回数	2回	無制限	—	—	○

\* 解錠されるドアの選択を「運転席のみ解錠」にしたときに設定できます。

### ■ ワイヤレスドアロック (→P.90)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	○	—	○
ドアが施錠されている状態で  を操作したときのドアロック解錠作動(パワーバックドア装着車) (→P.103)	なし	あり(全ドア解錠)	—	—	○
		あり(バックドアのみ解錠)	—	—	○

### ■ パワーバックドア★ (→P.103)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
パワーバックドア機能	あり	なし	—	○	—
ブザー音量	レベル3	レベル1	—	○	—
		レベル2	—	—	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ハンズフリー・パワーバックドアセンサー（キックセンサー）機能	あり	なし	—	○	○
エンジンスイッチがACCのときのハンズフリー・パワーバックドアセンサー（キックセンサー）作動	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ パワーイージーアクセスシステム★（→P.121）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
降車時の運転席シート前後移動量	標準	OFF	○	—	○
		少なめ			
ハンドルの作動	上下のみ	全て作動	○	—	○
		前後のみ			
		なし			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ メモリーコール機能★（→P.121）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ ドアミラー（→P.129）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		エンジンスイッチと連動			

### ■ パワーウィンドウ、ムーンルーフ★共通（→P.131, 134）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.161)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	より暗い	より明るい	○	—	○
		明るい			
		標準			
		暗い			
ワイヤー連動ヘッドライト点灯機能	あり	なし	—	—	○

### ■ ランプ (→P.161)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
デイタイムランニングランプ	あり	なし	—	—	○
おもてなし照明の制御	あり	なし	—	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開ける	エンジンスイッチを OFF にする	—	—	○

### ■ AHS (アダプティブハイビームシステム) ★ (→P.164)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
アダプティブハイビームシステム	あり	なし ※	—	—	○
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	広い	狭い	—	—	○
		普通	—	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	—	—	○
		約 40km/h から作動	—	—	○
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロー ビームの照らす範囲の調整	あり	なし	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
発進時のコーナーリングランプ点灯	あり	なし	—	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	あり	なし	—	—	○
市街地用の配光制御	あり	なし	—	—	○

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ オートマチックハイビームとして作動します。 (→P.168)

### ■ リヤワイパー (→P.176)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
バックドアを開けたときのリヤワイパー停止	なし	あり	—	—	○
ウォッシャー液を出したときのリヤワイパー作動	あり	なし	—	—	○
シフトレバーを R にしたときのリヤワイパー作動	1回作動	なし	—	—	○
		連続作動	—	—	○

### ■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.185)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ機能※	あり／なし	—	○	—
警報タイミング	早い／中間／遅い	—	○	—

※ エンジンスイッチを ON にすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

### ■ LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.195)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線維持支援機能 (センタートレース)	あり／なし	—	○	—
警報手段	ハンドルの振動／警報ブザー	—	○	—
警報感度	高／普通	—	○	—
ふらつき警報機能	あり／なし	—	○	—
ふらつき警報機能の感度	高／普通／低	—	○	—

## ■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.204)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA (ロードサインアシスト) 機能	あり／なし	—	○	—
制限速度超過告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—
制限速度超過の告知車速	2km/h / 5km/h / 10km/h	—	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ／告知表示とハンドルの振動／なし	—	○	—
その他の告知 (進入禁止告知)	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—

## ■ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→P.207)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カーブ速度抑制機能の車速抑制	強／弱／なし	—	○	—
通信利用型レーダークルーズコントロール機能★	あり／なし	—	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ 先行車発進告知機能 (→P.219)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車発進告知機能	あり／なし	—	○	—
告知タイミング	早い／普通／遅い	—	○	—

## ■ ITS Connect★ (→P.226)

機能の内容*	初期設定	変更後	A	B	C
信号情報の表示	あり	なし	—	○	—
道路環境情報の表示	あり	なし	—	○	—
緊急車両存在通知	あり	なし	—	○	—
支援タイミング	早い	遅い	—	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

\* 機能についての詳しい説明は P.232 を参照してください

## ■ Stop &amp; Start システム (→P.232)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間	普通 (Normal)	長め (Long)	—	○	—

## ■ ドライブスタートコントロール (→P.143)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし *	—	○	—

\*「なし」に変更しても、エンジンスイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

## ■ BSM (ブラインドスポットモニター) ★ (→P.239)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング (感度)	普通	早い 遅い 死角領域の車両 のみ検知	— — —	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ PKSA (パーキングサポートアラート) (→P.244)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブザー音量	レベル 2	レベル 1 レベル 3	— —	○ ○	○

## ■ クリアランスソナー (→P.245)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり	なし	—	○	○

## ■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★ (→P.253)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能	あり	なし	—	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→P.257)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB (パーキングサポートブレーキ) 機能	あり	なし	—	○	○

### ■ ドライブモードセレクトスイッチ (→P.265)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
カスタムモード時のパワートレイン制御★	Normal	Power	○	—	—
		Eco	—	—	—
カスタムモード時のシャシー制御★	Normal	Sport	○	—	—
カスタムモード時のエアコン作動★	Normal	Eco	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ エアコン (→P.279)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○

### ■ シートヒーター★／シートベンチレーター★ (→P.286)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
運転席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	-2 (涼しめ) ~ +2 (暖かめ)	○	—	○
助手席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	-2 (涼しめ) ~ +2 (暖かめ)	○	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ ステアリングヒーター★ (→P.286)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整	標準	-2 (低め) ~ +2 (高め)	○	—	○

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ イルミネーション (→P.289)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
エンジンスイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
リヤインテリアランプ、車室内足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
アウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○
アウトサイドドアハンドル照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
接近時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○
ドアを開けたときのアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○
アウトサイドドアハンドル照明の消灯時のフェードアウト	長い	短い	—	—	○

 知識

## ■ 車両カスタマイズについて

- “車速感応オートドアロック”と“シフトレバーを P 以外にしたときの全ド

ア施錠（シフト操作連動ドアロック）”を両方とも“あり”にした場合、次のように作動します。  
 ・シフトレバーを P 以外にすると全ドアが施錠されます。

- ・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
  - ・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。
- “スマートエントリー＆スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。
  - 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。
  - センターディスプレイ以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチを ON にするまでセンターディスプレイには反映されません。

## 初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

## 設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
クリアランスソナー	・ バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.248
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	・ バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.261
タイヤ空気圧警報システム	・ タイヤローテーションを実施したとき ・ タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき(指定空気圧が複数ある場合) ・ ID コードの登録を実施したとき	P.328
バックガイドモニター★	・ バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき	別冊「マルチメディア取扱説明書」
パノラミックビューモニター★	・ バッテリーの電圧が低下したとき ・ バッテリーを着脱したとき	
パワーバックドア★	・ バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時	P.107
パワーウィンドウ	・ 正常に働かないとき	P.131
ムーンルーフ★		P.135

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	414
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	416
アルファベット順さくいん	419
五十音順さくいん	421

## こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

### 施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.384）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.384）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.335）
- エンジンスイッチがONになっていますか？  
施錠するときは、エンジンスイッチをOFFにしてください。（→P.148）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？  
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.114）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかつていませんか？  
チャイルドプロテクターがかかつていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.99）

### 故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.146）
- シフトレバーはPになっていますか？（→P.150）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.113）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？  
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.386）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？  
ウィンドウロックスイッチが押さ

れていると、運転席以外のパワー ウィンドウは操作できなくなります。（→P.133）



### エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 ACC または ON（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.148）



### 警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.416）をご確認ください。



### 警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.352、360 をご確認ください。

## トラブルが発生した



### タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車  
車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.364）
- 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.375）

- ランフラットタイヤ装着車  
なるべく速度を落として慎重に運転し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。（→P.381）



### 立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.393）

# 車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

## 車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.54
ドアを開閉したとき	シフトレバーがP以外になっている	P.360
	窓・ムーンルーフ★が開いている（エンジン停止中のみ）	P.132, 135
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.54
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.88
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.113
	電子キーを車内に置き忘れている	P.360

※ ドアを解錠する、またはエンジンスイッチをACCまたはONにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.98
	パーキングブレーキが解除されていない	P.157
	シートベルトを着用していない※	P.356
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.153
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひつかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.140
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P.212
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.185
車線から逸脱しそうになつたとき	LTA（レントレーシングアシスト）を使用している	P.198

状況	原因	詳細	状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.205	対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき		
はみ出し通行禁止の道路で追い越しかけたとき			左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.245	赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.221	緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近邊を走行しているとき	ITS Connect ★が作動した	P.228
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P.254	一時停止の交差点に停止せず進入しそうになったとき		
			見通しの悪いカーブの先などで先行車両が停止または低速で走行しているとき		
			見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるとき		

\* 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

# アルファベット順さくいん

<b>A/C</b>	
(エアコン) .....	279
<b>ABS</b>	
(アンチロックブレーキシステム) .....	267
<b>ACA</b>	
(アクティブコーナリングアシスト) .....	268
<b>AHS</b>	
(アダプティブハイビームシステム) .....	164
<b>AI-AVS</b>	
(アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブルサスペンションシステム) .....	268
<b>AI-SHIFT</b>	
(アーティフィカルインテリジェンスシフト) .....	150
<b>ASC</b>	
(アクティブサウンドコントロール) .....	160
<b>AVS</b>	
(アダプティブバリアブルサスペンションシステム) .....	268
<b>BSM</b>	
(ブラインドスポットモニター) .....	239
<b>EDR</b>	
(イベントデータレコーダー) .....	7
<b>EPS</b>	
(エレクトリックパワーステアリング) .....	268
<b>FF</b>	
(フロントエンジンフロントドライブ) .....	399
<b>HUD</b>	
(ヘッドアップディスプレイ) .....	79
<b>ILSAC CERTIFICATION</b>	
(イルサックサーティフィケーション) .....	397
<b>ISOFIX</b>	
(アイソフィックス／イソフィックス) .....	39
<b>LED</b>	
(ライトエミッティングダイオード) .....	339
<b>Lexus Safety System +</b>	
AHB (オートマチックハイビーム) .....	168
AHS (アダプティブハイビームシステム) .....	164
LTA (レントレーシングアシスト) .....	195
PCS (プリクラッシュセーフティ) .....	185
RSA (ロードサインアシスト) .....	204
先行車発進告知機能 .....	219
ドライバー異常時対応システム .....	221
レーダークルーズコントロール (全車速追従付き) .....	207
<b>LTA</b>	
(レントレーシングアシスト) .....	195
<b>PCS</b>	
(プリクラッシュセーフティ) .....	185
<b>PKSA</b> .....	<b>244</b>
RCTA (リヤクロストラフィックアラート) .....	244
クリアランスソナー .....	244
<b>PKSB</b> .....	<b>257</b>
警告メッセージ .....	261
操作 .....	258
<b>RCTA</b>	
(リヤクロストラフィックアラート) .....	253
警告メッセージ .....	254
<b>REV インジケーター</b> .....	<b>69</b>
<b>REV ピーク</b> .....	<b>69</b>
<b>SCB</b>	
(セカンダリーコリジョンブレーキ) .....	

..... 267

**SRS**

(サプリメンタルレストレイントシ  
ステム) ..... 30

**S-VSC**

(ステアリングアシスティッドピーク  
ルスタビリティコントロール) 267

**TRC**

(トラクションコントロール) .. 268

**VSC**

(ピクルスタビリティコントロー  
ル) ..... 267

# 五十音順さくいん

## あ

アースポイント (バッテリーあがりの処置) .....	387
アームレスト .....	310
RSA (ロードサインアシスト) .....	204
ITS Connect .....	226
通信利用型レーダークルーズコントロール .....	214
アイドリングストップ .....	232
Stop & Start システム .....	232
Stop & Start 表示灯 .....	232
アウターミラー (ドアミラー)	
BSM (ブラインドスポットモニター) .....	239
RCTA (リヤクロストラフィックアラート) .....	253
運転席ポジションメモリー .....	121
格納のしかた .....	130
操作 .....	129
ミラーヒーター .....	280
リバース運動機能 .....	130
アウトサイドドアハンドル照明 .....	289
アクセサリーソケット .....	301
アクティブコーナリングアシスト (ACA) .....	268
アクティブサウンドコントロール (ASC) .....	160
足元照明 .....	289
アダプティブハイビームシステム .....	164
アラーム	
オートアラーム .....	54
音さくいん .....	416
警告ブザー .....	352
アンチロックブレーキシステム (ABS) .....	267
アンテナ (スマートエントリー&スタートシステム) .....	113

## い

イージークローザー (バックドア) .....	105
イグニッションスイッチ (エンジンスイッチ) .....	146
自動電源 OFF 機能 .....	148
車両を緊急停止するには .....	344
モード切りかえ .....	148
位置交換 (タイヤローテーション) .....	325
イベントデータレコーダー (EDR) .....	7
イモビライザーシステム .....	53
イルミネーテッドエントリーシステム .....	289
インジケーター (表示灯) .....	62
エコドライブインジケーター .....	75, 83
表示灯 .....	62
インストルメントパネル照度調整スイッチ .....	66, 71
インテリアランプ .....	289
インナーミラー .....	128

## う

ワインカー (方向指示灯) .....	154
電球 (バルブ) の交換 .....	339, 340
方向指示レバー .....	154
ワット数 .....	399
ウインドウ	
ウインドシールドデアイサー .....	283
ウォッシャー .....	172, 176
パワーウィンドウ .....	131
リヤウインドウテフオッガー .....	280
ウインドウロックスイッチ .....	133
ウインドシールドデアイサー .....	283
ウォッシャー .....	172, 176
液の補充 .....	323
スイッチ .....	172, 176
タンク容量 .....	398
冬の前の準備・点検 .....	273

動けなくなつたときは（スタック）	393
雨滴感知式ワイパー	172
運転	138
雨の日の運転	138
運転を補助する装置	267
寒冷時の運転	273
正しい運転姿勢	25
手順	138
運転支援機能情報表示	76
運転席シートベルト非着用警告灯	356
運転席シートポジションメモリー	121

**え**

エアコン	279
「ナノイー」	283
曇り取り（フロントガラス）	280
フィルターの清掃	333
フロント席集中送風モード（S-FLOW）	285
エアコン・デフォッガー	280
エアバッグ	30
SRS エアバッグ警告灯	354
改造・廃棄	35
警告ブザー	354
作動条件	31
正しい姿勢	25
配置	30
エコドライブインジケーター	75, 83
エコドライブインジケーターランプ	75
エコドライブ表示	75
ECO ランプ	62
S-FLOW	
フロント席集中送風モード	285
エレクトリックパワーステアリング（EPS）	
機能	268
エンジン	
エンジンイモビライザーシステム	53

エンジンが始動できない	382
エンジンスイッチ（イグニッション）	146
エンジンの始動方法	146
オーバーヒート	391
タコメーター	64, 67
ボンネット	321
エンジンイモビライザーシステム	53
エンジンオイル	396
警告灯	353
冬の前の準備・点検	273
メンテナンスデータ	396
容量	396

エンジン回転計（タコメーター）	64, 67
エンジンスイッチ（イグニッションスイッチ）	146
エンジンのかけ方	146
自動電源 OFF 機能	148
車両を緊急停止するには	344
モードの切り替え	148
エンジンフード（ボンネット）	321
開け方	321
警告音	98
エンジルーム	
エンジルームから蒸気が出ている	391

**お**

オイル（エンジンオイル）	396
応急用タイヤ	375
空気圧	399
交換方法	375
オーディオシステム連携表示	76
オートアラーム	54
オートエアコン	279
オートドアロック・アンロック機能	99
オートマチックハイビーム	168
オーバーヒート	391
オープナー	
給油扉	179

バックドア	101
ボネット	321
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）	303
お子さまを乗せるとき	38
ウインドウロックスイッチ	133
お子さまの安全のために	38
シートベルトの着用	28
ステアリングヒーター／シートヒーターに関する警告	286
チャイルドシート	39
チャイルドシートの取り付け	39
チャイルドプロテクター	99
発炎筒の取り扱いに関する警告	344
バックドアに関する警告	100
バッテリーに関する警告	390
パワーウィンドウに関する警告	132
ムーンルーフに関する警告	135
ODO TRIP スイッチ	66, 71
オドメーター／トリップメーターディスプレイ	66, 71
ODO TRIP スイッチ	66, 71
表示項目	66, 71

**か**

カーテンシールドエアバッグ	30
カードキー	88
カーペット	318
洗净	318
フロアマットの取り付け方	24
外気温度表示	64, 67
外装の電球（バルブ）	339
交換要領	339
ワット数	399
買い物フック	295
カスタマイズ機能	400
型式	399
カップホルダー	294

カメラ	
前方カメラ	180
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）	280
ガレージジャッキ	322
冠水路走行	142
寒冷時の運転	273

**き**

キー	88
エンジンが始動できない	382
カードキー	88
キーナンバープレート	88
キーの構成	88
キーレスエントリー	90, 113
キーをなくした	90, 91
正常に動かない	385
施錠・解錠ができない	385
電子キー	88
電池が切れた	335, 385
メカニカルキー	91
ワイヤレスリモコン	90
キーレスエントリー	
スマートエントリー＆スタートシステム	113
ワイヤレスドアロック	90
きしみやひつかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）	140
給油	
給油扉が開けられない	384
給油のしかた	178
メンテナンスデータ	396
緊急時シートベルト固定機構	28
緊急始動機能	383
緊急時の対処	
エンジンが始動できない	382
オーバーヒートした	391
キーの電池が切れた	335, 385

キーをなくした	90, 91
警告灯がついた	352
警告メッセージが表示された	360
けん引	347
故障したときは	342
車両を緊急停止する	344
水没・冠水したときは	345
スタッツした	393
電子キーが正常に働かない	385
発炎筒	343
バッテリーがあがつた	387
パンクした	364, 375, 381
緊急ブレーキシグナル	268

## &lt;

空気圧（タイヤ）	399
タイヤ空気圧警報システム	326
メンテナンスデータ	399
区間距離計（トリップメーター）	66, 71
曇り取り	
フロントガラス	280
ミラーヒーター	280
リヤウインドウデフォッガー	280
クラクション（ホーン）	127
クリアランスソナー	245
警告メッセージ	247
操作	246
クリアランプ（車幅灯）	
スイッチ	161
電球（バルブ）の交換	339
クリップ	
フロアマット	24
クルーズコントロール	
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）	207
グローブボックス	293
グローブボックスランプ	293

## け

警音器（ホーン）	127
計器類（メーター）	64, 67
警告灯	352
RCTA OFF 表示灯	355
ABS & ブレーキアシスト	354
SRS エアバッグ	354
LTA 表示灯	357
エンジン	353
クリアランスソナー OFF 表示灯	355
高水温	353
シートベルト非着用	356
Stop & Start キャンセル表示灯	354
スリップ表示灯	354
タイヤ空気圧	353
燃料残量	356
パーキングブレーキ表示灯	355
パワーステアリング	354
PKSB OFF 表示灯	356
PCS	357
ブレーキ	352
ブレーキホールド作動表示灯	355
ペダル誤操作	357
油圧	353
警告ブザー	
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	355
ABS & ブレーキアシスト	354
SRS エアバッグ	354
LTA（レントレーシングアシスト）	357
エンジン	353
クリアランスソナー	355
高水温	353
シートベルト非着用	356
シフトダウン制限	153
接近警報（レーダークルーズコントロール）	212

手放し運転警告 (LTA) .....	203
パワーステアリング .....	354
半ドア .....	96, 113
半ドア走行 .....	98
PKSB (パーキングサポートブレーキ) .....	356
プリクラッシュセーフティ .....	357
プリクラッシュブレーキ .....	185
ブレーキ .....	352
ブレーキホールド .....	355
ペダル誤操作 .....	357
ポンネット開 .....	98
窓開 .....	132
ムーンルーフ開 .....	135
油圧 .....	353
リバース .....	150
警告メッセージ .....	360
化粧ミラー (バニティミラー) .....	301
けん引	
けん引のしかた .....	347
フック .....	348

**こ**

交換	
キーの電池 .....	335
タイヤ .....	375
電球 (バルブ) .....	339
ヒューズ .....	337
工具 (ツール) .....	296, 365, 375
航続可能距離 .....	74, 84
後退速度の抑制制御 (ドライブスタート コントロール) .....	143
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換 .....	339
コーナーリングランプ .....	163
電球 (バルブ) の交換 .....	339
子供専用シート	
取り付け方 .....	40

小物入れ .....	292
コンソールボックス .....	293
コンライト (自動点灯・消灯装置) .....	161

**さ**

サイドエアバッグ .....	30
サイド方向指示灯 .....	154
電球 (バルブ) の交換 .....	339
方向指示レバー .....	154
サイドミラー (ドアミラー) .....	129
BSM (ブラインドスポットモニター) .....	239
RCTA (リヤクロストラフィックアラート) .....	253
運転ポジションメモリー .....	121
格納のしかた .....	130
操作 .....	129
ミラーヒーター .....	280
リバース連動機能 .....	130
サスペンションコントロール (PCS) .....	186
サンシェード	
ルーフ .....	134
サンバイザー .....	301

**し**

シート .....	118, 119
運転ポジションメモリー .....	121
正しい運転姿勢 .....	25
チャイルドシート .....	39
調整 .....	118, 119
手入れ .....	318
パワーアクセスシステム .....	121
ヘッドレスト .....	124
メモリーコール機能 .....	122
シートヒーター .....	286
シートベルト .....	27
お子さまの着用 .....	27, 28

緊急時シートベルト固定機構 .....	28
高さ調節 .....	29
正しく着用するには.....	28
着け方、はずし方 .....	28
手入れ .....	318
妊娠中の方の着用 .....	27
非着用警告灯 .....	356
シートベルト非着用警告灯 .....	356
シートベルトプリテンショナー .....	29
機能 .....	29
プリテンショナー警告灯 .....	354
シートベンチレーター .....	286
シートポジションメモリー .....	121
G モニター .....	76
室内灯（インテリアランプ） .....	289
始動後走行距離 .....	74
始動のしかた .....	146
シフトポジション .....	150
シフトレバー .....	150
シフトポジションの切りかえ .....	150
シフトレンジの切りかえ .....	152, 153
シフトロックシステム（解除ボタン） .....	151
操作 .....	150
リバース警告ブザー .....	150
シフトレバーがシフトできないときは .....	151
シフトロックシステム .....	151
ジャッキ	
ガレージジャッキ .....	322
車載ジャッキ .....	296, 365, 375
ジャッキハンドル .....	296, 365, 375
車幅灯	
電球（バルブ）の交換 .....	339
ランプスイッチ .....	161
車両型式 .....	399
車両仕様（スペック） .....	396
車両データの記録 .....	7
車両を緊急停止するには .....	344
充電用 USB 端子 .....	302
瞬間燃費 .....	74, 84
仕様（車両仕様） .....	399
衝撃感知ドアロック解除システム .....	96
初期化	
タイヤ空気圧警報システム .....	328
パワーウィンドウ .....	131
ムーンルーフ .....	135
初期設定 .....	412
助手席シートベルト非着用警告灯 .....	356
侵入センサー（オートアラーム） .....	55
<b>す</b>	
水温計 .....	64, 67
スイッチ	
BSM .....	241
LTA .....	200
PCS OFF .....	188
PKSB .....	258
RCTA .....	254
TRC OFF .....	268
VSC OFF .....	269
アダプティブハイビームシステム .....	164
イグニッション .....	146
インストルメントパネル照度調整 .....	66, 71
ウインドウロック .....	133
ウインドシールドデアイサー .....	282
ウォッシャー .....	172, 176
運転席ポジションメモリー .....	121
ASC スイッチ .....	160
エンジンスイッチ .....	146
オートマチックハイビーム .....	168
ODO TRIP .....	66, 71
クリアランスソナー .....	246
シート調整 .....	118, 119
シートヒーター .....	286, 288
シートベンチレーター .....	286, 288
シートポジションメモリー .....	121

車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）	208	メーター操作スイッチ	73
侵入センサー OFF	55	Stop & Start システム	
ステアリングヒーター	286, 288	警告灯	354
Stop & Start キャンセル	238	システム情報表示	75
タイヤ空気圧警報リセット	328	Stop & Start システム情報表示	75
ドアミラー	129	ストップランプ（制動灯）	
ドアロック	98	緊急ブレーキシグナル	268
ドライブモードセレクト	265	電球（バルブ）の交換	339
パーキングブレーキ	155	スノータイヤ（冬用タイヤ）	273
ハザードランプ	343	スピードメーター	64, 67
パドルシフト	152, 153	スペアタイヤ（応急用タイヤ）	375
パワーウィンドウ	131	空気圧	324, 399
ハンドルの位置調整	127	交換方法	375
非常点滅灯（ハザードランプ）	343	スペック（車両仕様）	396
VSC OFF	268	スマートエントリー＆スタートシステム	
フォグラランプ	170	アンテナの位置	113
ブレーキホールドスイッチ	158	エンジンの始動	146
ヘッドアップディスプレイ	80	カスタマイズ設定	400
方向指示レバー	154	緊急始動機能	383
ホーン（警音器）	127	警告ブザー	113
ムーンルーフ	134	警告メッセージ	113
メーター操作	73	作動範囲	113
ランプ	161	節電機能	114
リセット（タイヤ空気圧警報システム）	328, 330	電波がおよぼす影響について	117
リヤウインドウデフォッガー	280	ドアの解錠・施錠	95, 101
レーダークルーズコントロール	207	バックドアの施錠・解錠	95
ワイパー	172, 176	スマールランプ（車幅灯）	161
スタック	393	電球（バルブ）の交換	339
ステアリングアシstedビーグルスター		ランプスイッチ	161
ビリティコントロール（S-VSC）	267	スリップ表示灯	268
ステアリングヒーター	286		
ステアリングホイール（ハンドル）	127		
位置調整	127		
運転席ポジションメモリー	121		
ステアリングヒーター	286		
パワーイージーアクセスシステム	121		

## せ

清掃	314, 318
アルミホイール	315
外装	314
シートベルト	318
内装	318

レーダー .....	180	応急用タイヤ .....	375
<b>制動灯</b>		空気圧 .....	332, 399
緊急ブレーキシグナル .....	268	空気圧警告灯 .....	353
電球（バルブ）の交換 .....	339	交換 .....	375
<b>セカンダリーコリジョンブレーキ</b>		チーン .....	273
（SCB） .....	267	点検 .....	324
積算距離計（オドメーター） .....	66, 71	パンクしたときは .....	364, 375, 381
セキュリティインジケーター ....	53, 54	パンク応急修理キット .....	364
接近警報（レーダークルーズコントロール） .....	212	冬用タイヤ .....	273
先行車発進告知機能 .....	219	ホイールサイズ .....	399
<b>センサー</b>		ランフラットタイヤ .....	381
LTA .....	195	ローテーション（位置交換） .....	325
インナーミラー .....	128	<b>タイヤが空まわりする（スタックした）</b>	393
雨滴感知センサー .....	174	<b>タイヤ空気圧</b>	
侵入センサー .....	55	警告灯 .....	353
レーダーセンサー .....	240	<b>タイヤ空気圧警報システム</b>	
洗車 .....	314	ID コードの登録・選択 .....	330
前照灯（ヘッドライト） .....	161	機能について .....	326
電球（バルブ）の交換 .....	339	空気圧バルブ／送信機について .....	327
ランプスイッチ .....	161	空気圧表示画面 .....	326
<b>そ</b>		警告灯 .....	353
走行時間 .....	74	初期化 .....	328
走行情報表示 .....	74	<b>タイヤチーン</b> .....	273
走行モード（ドライブモード） .....	265	<b>タコメーター</b> .....	64, 67
送信機（タイヤ空気圧警報システム） .....	326	REV インジケーター .....	69
速度計（スピードメーター） .....	64, 67	REV ピーク .....	69
<b>た</b>		<b>ち</b>	
ターンシグナルランプ（方向指示灯） .....	154	チーン（タイヤチーン） .....	273
電球（バルブ）の交換 .....	339, 340	チャイルドシート .....	39
方向指示レバー .....	154	ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け ..50	
ワット数 .....	399	シートベルトでの固定 .....	48
タイヤ .....	324	選択方法 .....	39
		チャイルドプロテクター .....	99
		駐車ブレーキ（パーキングブレーキ） .....	155
		警告灯 .....	355

警告メッセージ .....	156
操作 .....	155
冬季の注意 .....	273
未解除走行時警告ブザー .....	157

## つ

通信利用型レーダークルーズコントロー ル .....	214
ツール（工具） .....	296, 365, 375

## て

提案サービス機能 .....	78
ディスプレイ	
ヘッドアップディスプレイ .....	79
マルチインフォメーションディスプレイ	72
デイタイムランニングランプ .....	162
手入れ .....	314, 318
アルミホイール .....	315
外装 .....	314
シートベルト .....	318
内装 .....	318
レーダー .....	180
テールランプ（尾灯） .....	161
電球（バルブ）の交換 .....	339
ランプスイッチ .....	161
デツキアンダートレイ .....	296
デツキフック（荷物固定用フック） .....	295
デツキボード .....	297
デフォッガー（リヤウインドウデフォッ ガ） .....	280
電球（バルブ）	
交換要領（外装バルブ） .....	339
ワット数 .....	399
点検基準値（メンテナンスデータ） .....	396
電子キー .....	88
作動範囲 .....	113
正常に働かないとき .....	385

節電機能 .....	114
電池が切れた .....	385
電池交換 .....	335
電池交換（キー） .....	335

## と

ドア .....	95
オートドアロック・アンロック機能 .....	99
衝撃感知ドアロック解除システム .....	96
スマートエントリー＆スタートシステム .....	113
チャイルドプロテクター .....	99
ドアガラス .....	131
ドアロックスイッチ .....	98
ドアロックボタン .....	98
バックドア .....	100
ワイヤレスリモコン .....	95
ドアミラー	
BSM（ブラインドスポットモニター） .....	239
RCTA（リヤクロストラフィックアラート） .....	253
格納のしかた .....	130
操作 .....	129
ミラーヒーター .....	280
リバース連動機能 .....	130
盗難防止装置	
エンジンイモビライザーシステム .....	53
オートアラーム .....	54
時計 .....	64, 67
トップテザーアンカレッジ .....	51
トノカバー .....	298
ドライバー異常時対応システム .....	221
ドライビングポジションメモリー	
ポジションメモリー .....	121
メモリーコール機能 .....	122
ドライブスタートコントロール	
急発進の抑制制御 .....	143
後退速度の抑制制御 .....	143

ドライブモードセレクトスイッチ	265
トラクションコントロール (TRC)	268
トランスマッision	150
シフトダウン制限警告ブザー	153
操作	150
パドルシフトスイッチ	152, 153
メンテナンスデータ	397
トリップメーター	66, 71

## な

## 内装

収納装備	292
手入れ	318
ナビゲーションシステム連携表示	76, 79

## に

ニーエアバッグ	30
荷物	
積むときの注意	144
デッキフック	295
荷室内装備	295

## ぬ

ぬかるみにはまつた (スタッカ)	393
------------------	-----

## ね

燃費	
瞬間燃費	74, 84
平均燃費	74, 84
燃料	396
給油	178
種類	396
燃料計	64, 67
燃料残量警告灯	356
フューエルポンプシャットオフシステム	
	351

容量	396
燃料計	64, 67

## は

パーキングサポートブレーキ (後方接近車両)	264
パーキングサポートブレーキ (静止物)	262
パーキングブレーキ	155
警告灯	355
警告メッセージ	156
操作	155
冬季の注意	155
未解除走行時警告ブザー	157
パーソナルランプ	289
排気ガス	36
ハイビーム (ヘッドランプ)	161
アダプティブハイビームシステム	164
オートマチックハイビーム	168
電球 (バルブ) の交換	339
ランプスイッチ	161
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	339
ハザードランプ (非常点滅灯)	
スイッチ	343
電球 (バルブ) の交換	339
挟み込み防止機能	
パワーウィンドウ	131
パワーバックドア	107
フロントシート	118
ムーンルーフ	134
発炎筒	343
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	339
バックドア	100
イージークローザー	105
バックドアハンドル	102

## バッテリー

警告灯 .....	352
バッテリーがあがつた .....	387
バッテリーを交換するとき .....	389
バッテリーがあがつた .....	387
パドルシフトスイッチ .....	152, 153
バニティ（化粧用）ミラー .....	301
バニティミラーランプ 装備について .....	301
バルブ（電球） 交換要領（外装のバルブ） .....	339
ワット数 .....	399
パワーイージーアクセスシステム ...	121
パワーウィンドウ .....	131
ウインドウロックスイッチ .....	133
閉めることができないときは .....	131
初期化 .....	131
操作 .....	131
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 .....	132
挟み込み防止機能 .....	131
巻き込み防止 .....	131
パワーステアリング .....	268
警告灯 .....	354
パンクした .....	381
応急用タイヤ装着車 .....	375
タイヤ空気圧警告灯 .....	353
タイヤパンク応急修理キット装着車 .....	364
番号灯（ライセンスプレートランプ） .....	161
電球（バルブ）の交換 .....	339
ランプスイッチ .....	161
ハンズフリーパワーバックドア .....	104
ハンドル（ステアリングホイール） 位置調整 .....	127
運転席ポジションメモリー .....	121
ステアリングヒーター .....	286
パワーイージーアクセスシステム .....	121
メーター操作スイッチ .....	73

## ひ

ピークルスタビリティコントロール (VSC) .....	267
PKSB	
後方接近車両 .....	264
静止物 .....	262
ヒーター	
エアコン・デフォッガー .....	279
シートヒーター .....	286
ステアリングヒーター .....	286
ミラーヒーター .....	280
非常点滅灯（ハザードランプ）	
スイッチ .....	343
電球（バルブ）の交換 .....	339
ワット数 .....	399
尾灯（テールランプ） .....	161
電球（バルブ）の交換 .....	339
ランプスイッチ .....	161
ヒューズ .....	337
表示灯 .....	62
日よけ（サンバイザー） .....	301
ヒルスタートアシストコントロール	268
ふ	
ブースターケーブルのつなぎ方 .....	387
フォグラランプ	
スイッチ .....	161
電球（バルブ）の交換 .....	339
ブザー	
シフトダウン制限 .....	153
接近警報（レーダークルーズコントロール） .....	212
手放し運転警告（LTA） .....	203
パークリングブレーキ未解除走行時警告	157
半ドア .....	96, 113
半ドア走行 .....	98
窓開警告 .....	132

ムーンルーフ開警告	135
リバース警告	150
<b>フック</b>	
買い物フック	295
けん引フック	348
コートフック	310
デッキフック	295
フロアマット固定フック	24
フューエルポンプシャットオフシステム	351
フューエルメーター	64, 67
フューエルリッド（給油口）	
給油扉が開かない	384
給油のしかた	178
冬の前の準備（寒冷時の運転）	273
冬用タイヤ	273
ブラインドスポットモニター（BSM）	239
<b>プリクラッシュセーフティ（PCS）</b>	
PCS OFF スイッチ	188
機能	185
PCS 警告灯	357
<b>ブレーキ</b>	
緊急ブレーキシグナル	268
警告灯	352
パーキングブレーキ	155
ブレーキホールド	158
メンテナンスデータ	398
ブレーキアシスト	267
機能	267
ブレーキ付近からキー音が聞こえる	140
ブレーキフルード	398
ブレーキホールド	158
フロアマット	24
<b>フロントシート</b>	
運転席ポジションメモリー	121
シートヒーター	286
シートベンチレーター	286
シートポジションメモリー	121
正しい運転姿勢	25
調整	118
手入れ	318
パワーアイージーアクセスシステム	121
ヘッドラスト	124
メモリーコール機能	122
<b>フロントフォグラント</b>	
スイッチ	170
電球（バルブ）の交換	339
フロント方向指示灯	154
電球（バルブ）の交換	339, 340
方向指示レバー	154
ワット数	399
<b>へ</b>	
平均車速	74, 84
平均燃費	74, 84
ヘッドアップディスプレイ	79
運転支援システム表示	82
エコドライブインジケーター	83
スイッチ	80
設定	81
走行状況表示	79
ナビゲーションシステム連携	79
割り込み表示	82
ヘッドラント	161
クリーナー	172
電球（バルブ）の交換	339
ランプスイッチ	161
ヘッドラスト	124
ベンチレーター（シートベンチレーター）	286
<b>ほ</b>	
ホイール	

交換（タイヤ）	375
メンテナンスデータ	399
ホイールナットレンチ	365, 375
方向指示灯	154
電球（バルブ）の交換	339, 340
方向指示レバー	154
ワット数	399
ホーン（警音器）	127
保証	8
ボトルホルダー	294
ボンネット	321
開け方	321
警告メッセージ	98

**ま**

マルチインフォメーションディスプレイ	72
運転支援機能情報	76
エコドライブインジケーター	75
オーディオシステム連携	76
警告メッセージ	360
G モニター	76
Stop & Start システム情報	75
設定	77
走行情報表示	74
タイヤ空気圧	326
提案サービス機能	78
ドライブインフォメーション	74
ナビゲーションシステム連携	76
メーター操作スイッチ	73
メニューアイコン	73
割り込み表示	72

**み**

ミラー	
アウターミラー	129
インナーミラー	128

ドアミラー	129
バニティミラー	301
ミラーヒーター	280

**む****ムーンループ**

初期化	134
操作	134
ドアロック連動ムーンループ開閉機能	134
挟み込み防止機能	134

**め****メーター**

計器類	64, 67
警告灯	352
警告メッセージ	360
照度調整	66, 71
設定	77
時計	64, 67
表示・配置の切り替え	71
表示灯	62
マルチインフォメーションディスプレイ	72
メーター操作スイッチ	73
メーターリング	71
メカニカルキー	91
メニューアイコン	73
メモリーコール機能	122
メンテナンスデータ	396

**ψ**

ユーザーカスタマイズ機能	400
雪道ですべって動けない（スタックした）	393
油脂類	396

## ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）	161
電球（バルブ）の交換	339
ランプスイッチ	161
ラゲージフック	295
ラジエーター	
オーバーヒート	391
メンテナンスデータ	397
ランプ	
アダプティブハイビームシステム	164
インテリアランプ	289
オートマチックハイビーム	168
コーナリングランプ	163
室内灯	289
電球（バルブ）の交換	339
非常点滅灯（ハザードランプ）	343
フロントフォグランプ	170
ヘッドライト（前照灯）	161
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ワインカー）	154
リヤフォグランプ	170
ワット数	399
ランフラットタイヤ	326, 381

## り

リバース運動機能	130
リヤアームレスト	310
リヤウインドウデフォッガースイッチ	
	280
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	253
リヤシート	119
リヤ席シートベルト非着用警告灯	356
リヤフォグランプ	
スイッチ	170
電球（バルブ）の交換	339

リヤ方向指示灯	154
電球（バルブ）の交換	339
方向指示レバー	154
リング（メーター）	71

## る

ルームミラー（インナーミラー）	128
-----------------	-----

## れ

冷却水	397
冬の前の準備	273
メンテナンスデータ	397
冷却装置（ラジエーター）	397
オーバーヒート	391
メンテナンスデータ	397
レーダークルーズコントロール（全車速追従付き）	207
警告メッセージ	217
接近警報	212
レーダー	180
レントレーシングアシスト（LTA）	
警告メッセージ	203
操作	200
レクサスクライメイトコンシェルジュ	
	278

## レバー

シフト	150
方向指示	154
ボンネット解除	321
ロック（ドア）	95

## ろ

ロードサインアシスト（RSA）	204
ロック	
ウインドウロック	133
スマートエントリー＆スタートシステム	

.....	113
チャイルドプロテクター	99
ドア	95
バックドア	100
ワイヤレスリモコン	90

## わ

### ワイパー & ウオッシャー

ウォッシャー液の補充	323
フロント	172
フロントワイパー・アイサー	283
リヤ	176
ワイパー停止位置の切りかえ	175
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）	303
ワイヤレスリモコン	90
作動の合図	96
操作	90
電池の交換	335
半ドア警告ブザー	96
ワックス	314
ワット数	399

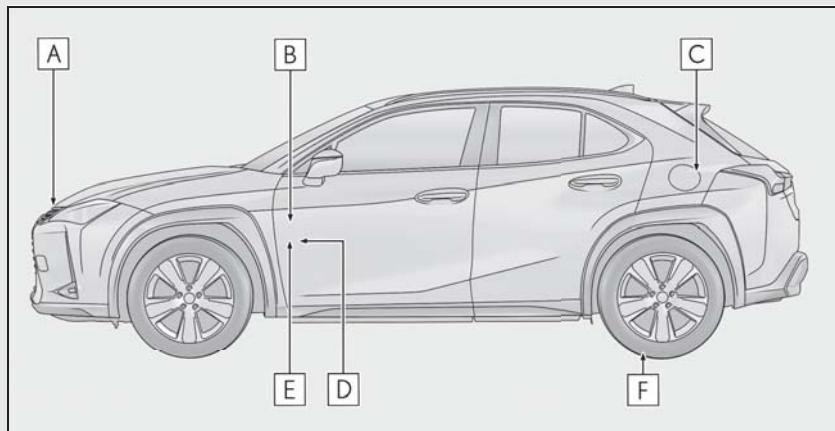
---

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・パノラミックビューモニター
- ・バックガイドモニター
- ・ナビゲーションシステム
- ・音声対話サービス
- ・ハンズフリー
- ・G-Link
- ・ETC2.0 システム

## ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.321)
- B** パワーバックドアスイッチ★ (→P.103)
- C** 給油口 (→P.179)
- D** ボンネット解除レバー (→P.321)
- E** 給油口オープナースイッチ (→P.179)
- F** タイヤ空気圧 (→P.399)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃料の容量 (参考値)	47L
燃料の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）※1</li> <li>・ バイオ混合ガソリン（プレミアム）※2</li> </ul> <p>※1 無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。 P.396 その場合、エンジン性能を十分に発揮できません。</p> <p>※2 エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。</p>
タイヤが冷えているときの空気圧	P.399
エンジンオイル容量 (参考値)	P.396
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル P.396

「個人情報保護方針」については、<https://lexus.jp>にて掲載しております。

アリ-1



M76589  
01999-76589  
CI-2022年6月23日  
2022年6月30日初版

UX200